

リファレンスガイド

PANTONE Digital Color

株式会社ミマキエンジニアリング
https://japan.mimaki.com/

D204016-10

目次

ご注意 6
この説明書について 7
本文中の表記について 7
マークについて 7
本書および関連説明書の入手方法 7
用語について 7
ソフトウェア構成 8
RasterLink8に関連するマニュアル 9

第 1 章 基本的な操作

1.1 RasterLink8の起動 14
1.1.1 デスクトップ上のショートカットから起動する場合 14
1.1.2 スタートメニューから起動したい場合 14
1.2 印刷用データの読み込み 15
1.2.1 ファイルメニューから読み込む 15
1.2.2 ホットフォルダーから読み込む 16
1.2.3 プリンタードライバーから送信する 17
1.2.4 ジョブ一覧へドラッグ&ドロップする 17
1.2.5 登録できるジョブ数の上限について 18
1.3 ジョブの操作 19
1.3.1 ジョブの操作 - 機能 19
1.3.2 ジョブの操作 - 画面構成 19
1.3.3 ジョブの操作 - 操作 25
1.4 ログの表示 27
1.4.1 ログの表示 - 機能 27
1.4.2 ログの表示 - 画面構成 27
1.4.3 ログの表示 - 操作 28
1.5 RasterLink8の終了 29

第 2 章 メニュー

2.1 ファイル(開く・リストア・終了) 32

2.2 機能 33
2.2.1 機能アイコン一覧 34
2.2.2 プロパティ 36
2.2.3 印刷グループ 45
2.2.4 面付け 52
2.2.5 印刷条件 58
2.2.6 クリップ設定 79
2.2.7 通常印刷 82
2.2.8 分割印刷 109
2.2.9 ステップ&リピート印刷 122
2.2.10 実行 129
2.2.11 版作成 136
2.2.12 合成 142
2.2.13 レイヤー設定 155
2.2.14 色置換設定 161
2.2.15 お気に入り設定 178
2.2.16 複製 185
2.2.17 バックアップ 187
2.2.18 削除 190
2.2.19 治具配置印刷 192
2.2.20 リジッドメディア配置印刷 207
2.3 ツール 212
2.3.1 RGBカラーチャート 212
2.3.2 CMYKカラーチャート 212
2.3.3 特色カラーチャート 221
2.3.4 Labカラーチャート 228
2.3.5 カラーコレクション 229
2.3.6 エミュレーション 238
2.3.7 キャリブレーション 238
2.3.8 プロファイルマネージャー 238
2.3.9 MimakiRemoteAccess 238
2.4 環境設定 239
2.4.1 自動実行 239
2.4.2 オプション 244
2.4.3 プリンタ管理 259
2.4.4 作業フォルダ設定 263
2.5 About 265
2.5.1 バージョン情報 265

第 3 章 高度な操作

3.1 高度な操作の紹介 268
3.2 操作の詳細 269
3.2.1 プリント＆カット 269
3.2.2 Twinロール印刷 279
3.2.3 多層印刷 286
3.2.4 点字印刷 288

第 4 章 便利な機能

4.1 ジョブ名検索 290
4.1.1 ジョブ名の検索機能を表示する 290
4.1.2 ジョブを検索する 291
4.1.3 バーコードリーダーで検索する 292
4.2 FAQページリンク 294
4.2.1 プリンターのFAQページを表示する 294
4.3 環境バックアップ・リストア 296

第 5 章 こんなときには

5.1 エラーメッセージの対処方法 304
5.2 インストールPCについて 312
5.2.1 ツールを使用する際、インターネットに接続できない 312
5.2.2 RasterLink8の画面表示で不具合が発生する 312
5.2.3 RasterLink8が起動しない 312
5.3 デザインソフトでの注意事項 313
5.3.1 Adobe Illustratorについて 313
5.4 Macintoshについて 324
5.4.1 ホットフォルダーを使用する際の注意事項 324
5.4.2 デザインソフトから印刷する場合の読込速度改善方法 324
5.5 その他 325
5.5.1 グラデーションオブジェクトを含む画像のRIP速度改善方法. 325
5.5.2 クリア、プライマー搭載プリンターで印刷がスジ状になる場合の改善方法 326
5.5.3 合成はできるが出力できない 326
5.5.4 蛍光インクで滲みが発生する場合の改善方法 326

第 6 章 付録

6.1 お使いのプリンターで設定できる印刷条件は？ 328
6.2 お使いのカットデバイスで設定できる条件は？ 331
6.3 機能アイコンを選択できない場合の条件早見表 332
6.4 特殊条件 338
6.5 デバイスプロファイルの種類について..... 339
6.5.1 汎用プロファイル 339
6.5.2 デバイスプロファイルのバージョン 339
6.5.3 v3プロファイルのメディア名の種類について..... 340

ご注意

- 本書の一部、または全部を無断で記載したり、複写したりすることは固くお断りします。
- 本書の内容に関しまして、将来予告無しに変更することがあります。
- 本ソフトウェアの改良変更などにより、仕様面において本書の記載事項が一部異なる場合があります。
- 本書に記載している株式会社ミマキエンジニアリング製ソフトウェアを他のディスクにコピーしたり（バックアップを目的とする場合を除く）、実行したりする以外の目的でメモリにロードすることを固く禁じます。
- 株式会社ミマキエンジニアリングの保証規定に定めるものを除き、本製品の使用または使用不能から生ずるいかなる損害（逸失利益、間接損害、特別損害またはその他の金銭的損害を含み、これらに限定しない）に関して一切の責任を負わないものとします。また、株式会社ミマキエンジニアリングに損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。一例として、本製品を使用してのメディア（ワーク）などの損失、メディアを使用して作成された物によって生じた、間接的な損失などの責任負担もしないものとします。

RasterLinkは株式会社ミマキエンジニアリングの日本ならびにその他の国における商標、または登録商標です。

Adobe、Adobeロゴ、Acrobat、Illustrator、Photoshop、およびPostScriptは、Adobe Inc.の米国ならびにその他の国における商標、または登録商標です。

Apple、Macintosh、macOSは、Apple Inc.の登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows 8.1、Windows 10、Windows 11は、Microsoft Corporationの米国ならびにその他の国での登録商標、または商標です。

OptiScoutはEuro-Systems社の日本ならびにその他の国における商標、または登録商標です。

PANTONE® Colors displayed in the software application or in the user documentation may not match PANTONE-identified standards. Consult current PANTONE Color Publications for accurate color.
PANTONE® and other Pantone trademarks are trademarks or registered trademarks of Pantone LLC in the United States and/or other countries. Pantone LLC, 2023
PANTONE® Color support provided by the PANTONE-Licensed Harlequin RIP.

Pantone is the copyright owner of color data and/or software which are licensed to MIMAKI ENGINEERING CO., LTD. to distribute for use only in combination with RasterLink8.
PANTONE Color Data and/or Software shall not be copied onto another disk or into memory unless as part of the execution of RasterLink8.

その他、本書に記載されている会社名、および商品名は、各社の商標または登録商標です。

この説明書について

本書はRasterLink8の機能について説明をします。

本文中の表記について

- 画面に表示されるボタンや項目は、[完了]、[フルカラー]のように[ ]で囲っています。

マークについて

内容		
重要!	重要	「重要」マークは、RasterLink8をお使いいただく上で、知っておいていただきたい内容が書かれています。
	ヒント	「ヒント」マークは、知っておくと便利なことが書かれています。
	参照情報	関連する内容の参照ページを示しています。文字をクリックすると該当ページが表示されます。

本書および関連説明書の入手方法

本書および関連する説明書の最新版は、以下の方法で提供しています。

- 弊社公式サイト（https://japan.mimaki.com/download/software.html）

用語について

名称	説明
印刷用データ または 画像データ	Adobe Illustratorなどのデザインソフトで作成されたデータのことを言います。
ジョブ	RasterLink8で読み込んで作成された操作対象を言います。
幅（スキャン）	プリンターのヘッドが動く方向を言います。
送り（フィード）	プリンターの奥行き方向を言います。
リストア	元の状態に戻す、修復（復元・復旧）のことを言います。

ソフトウェア構成

以下のソフトウェアによって構成されています。

	RasterLink8 各種画像データを読み込んで作成されたジョブに対して多彩な編集を行い、プリンターを作動させるソフトウェアです。
	**プロファイルマネージャー** RasterLink8で使用するデバイスプロファイルおよび入力プロファイルを管理するソフトウェアです（詳しくは、別冊「プロファイルマネージャー　リファレンスガイド」をご覧ください）。
	**ライセンスツール** RasterLink8を使用するためには、ライセンス認証が必要です。 ライセンスツールはライセンス認証を行うためのツールです（詳しくは、別冊「RasterLink8インストールガイド」をご覧ください）。
	RasterLinkTools プリント＆カット用データや特色用データを作成するためのAdobe Illustratorプラグインソフトウェアです（詳しくは、別冊「RasterLinkToolsガイド」をご覧ください）。
	**環境バックアップ** RasterLink8の設定ファイルを1つのファイルにバックアップし、他の環境にリストアするツールです(詳しくは、☞「環境バックアップ・リストア」（P. 296）をご覧ください)。
	**キャリブレーションツール** RasterLink8にてキャリブレーションを行うツールです（詳しくは、別冊「キャリブレーションツールガイド」をご覧ください）。
	エミュレーションツール RasterLink8にてエミュレーションを行うツールです。（詳しくは別冊「エミュレーションツールガイド」をご覧ください。）
	**JobCreator** テンプレートを使用してRasterLink8にジョブを読み込むツールです（詳しくは、別冊「JobCreatorガイド」をご覧ください）。
	OptiScoutSettingTool Euro-Systems社のOptiScout(カット機制御ソフト)と連携するツールです（詳しくは、別冊「OptiScout連係ガイド」をご覧ください）。
	**CuttingLink** RasterLink8でIDカットデータを用いたカットを行う際に使用するツールです（詳しくは、☞「プリント＆カット」（P. 269）および別冊「IDカットガイド」をご覧ください）。
	カメラアプリ Flat機のテーブルに置いた印刷部材の位置をカメラを使って検出し、位置を合わせて印刷するアプリケーションです。（詳しくは、別冊「カメラアプリ リファレンスガイド」をご覧ください。）
	ジョブ管理Webシステム RasterLink8を直接操作することなく、ジョブの作成、実行指示ができるWebアプリケーションです。（詳しくは別冊「ジョブ管理Webシステム　リファレンスガイド」をご覧ください。）

	**JigLink** プリンターに設置する治具の情報をバーコードで管理するツールです（詳しくは、別冊「治具バーコード機能ガイド」をご覧ください）。
	**PICT** クラウド型プリンターステータスモニタリングツールです。 RasterLink8の画面からアクセスすることができます。☞ P. 21
	**Mimaki Remote Access（MRA）** プリンター/カットデバイスの情報取得やパネル設定をリモートで操作できるツールです。 RasterLink8の画面から起動することができます。☞ 「MimakiRemoteAccess」（P. 238）

RasterLink8に関連するマニュアル

ミマキ公式サイトより、RasterLink8に関する以下のマニュアルを提供しています。

● RasterLink8のマニュアルダウンロードページに掲載しているもの

https://japan.mimaki.com/product/software/rip/raster-link8/download-manual.html

マニュアル名称	概要
リファレンスガイド	本書
インストールガイド	RasterLink8のインストールおよびセットアップ方法についての説明
ネットワーク接続ガイド	RasterLink8が提供するプリンタードライバーおよびホットフォルダーを、ネットワーク経由で使用する方法についての説明
プロファイルマネージャーリファレンスガイド	プロファイル管理ツール「プロファイルマネージャー」についての説明
RasterLinkToolsガイド	RasterLink向けデータの作成補助を行うAdobe Illustratorプラグインについての説明
差込印刷ガイド	RasterLink8の差込印刷機能についての説明
治具バーコード機能ガイド	プリンターに設置する治具の情報をバーコードで管理するツール「JigLink」と、それを用いてRasterLink8の治具印刷機能にて盤面情報を切り替える方法についての説明
キャリブレーションツールガイド	RasterLink8にてカラーキャリブレーションを行う方法についての説明
IDカットガイド(FineCut使用版)	カッティングPluginソフト「FineCut」にて作成されたIDカット情報が付加されたカットデータの印刷およびカット方法についての説明
OptiScout連係ガイド	Euro-Systems社のOptiScout（カット機制御ソフト）と連携する方法についての説明
JobCreatorガイド	RasterLink8でJobCreatorを使用してテンプレートからジョブを読み込む方法についての説明
カメラアプリ リファレンスガイド	カメラアプリを使った印刷位置合わせの方法について説明

マニュアル名称	概要
ジョブ管理Webシステム リファレンスガイド	ジョブ管理Webシステムの使い方についての説明

● 各プリンターのマニュアルダウンロードページに掲載しているもの

マニュアル名称	概要	機種
ホワイト・クリア印刷ガイド	UJV100Plusのホワイトおよびクリアインクの印刷方法についての説明	• UJV100Plus
クリアインク印刷ガイド	UV機にて提供されているクリアインクを用いた表現方法（マット調、クリア調、厚盛印刷）の設定方法についての説明	• UJV100 • UCJV300/330 • JFX200EX, JFX600 • UJF-7151plus/plusII • UJF-3042MKII/6042MKII • UJF-3042MKIIe/6042MkIIe
2.5DTextureMakerガイド	インク層を重ねることで凹凸を付ける技術（2.5D Texture Maker）のデータ作成および印刷方法についての説明	• JFX200EX, JFX600 • UJF7151plusII, UJF200-3042/6042 • UCJV330
多層印刷ガイド	1回の印刷で画像を重ねて印刷する技術（多層印刷）を用いた表現方法の実現手段についての説明	• UCJV300/330
IDカットガイド	RasterLink8でIDカットを付加した際の印刷およびカット方法についての説明	• プリント＆カット機
メタリックカラー印刷ガイド	シルバーインクを用いた印刷のデータ作成と設定方法についての説明	• CJV150/300/300 Plus • UJF-7151plus/plusII
治具バーコード機能ガイド	プリンターに設置する治具の情報をバーコードで管理するツール「JigLink」と、それを用いてRasterLink8の治具印刷機能にて盤面情報を切り替える方法についての説明	• UJF-7151plusII/plusIIe • UJF-3042MkIIe/6042MkIIe • UJF200-3042/6042
カラーグロス調印刷ガイド	カラーインクのみでグロス調印刷を行う方法についての説明	• UJF-7151plusII/plusIIe
点字印刷ガイド	準拠モードで点字を印刷するためのデータ作成方法と印刷方法についての説明	• JFX200-1213EX/2513EX • UJF-7151plusII • UJF-3042MKII/6042MKII • UJF-3042MKIIe/6042MkIIe

マニュアル名称	概要	機種
高速点字印刷ガイド	高速モード、標準モードで点字を印刷するためのデータ作成方法と印刷方法についての説明	• JFX200-1213EX/2513EX • UJF-7151plusII • UJF-3042MKII/6042MKII • UJF-3042MKIIe/6042MkIIe
Simple Create UJV300DTF-75 印刷ガイド	印刷設定テンプレートを使用してSimple CreateからUJV300DTF-75に出力する手順についての説明	• UJV300DTF-75

第 1 章　基本的な操作



この章では...

RasterLink8の基本的な操作を説明します。

RasterLink8の起動 14
- デスクトップ上のショートカットから起動する場合 14
- スタートメニューから起動したい場合 14

印刷用データの読み込み 15
- ファイルメニューから読み込む 15
- ホットフォルダーから読み込む 16
- プリンタードライバーから送信する 17
- ジョブ一覧へドラッグ＆ドロップする 17
- 登録できるジョブ数の上限について 18

ジョブの操作 19
- ジョブの操作 - 機能 19
- ジョブの操作 - 画面構成 19
- ジョブの操作 - 操作 25

ログの表示 27
- ログの表示 - 機能 27
- ログの表示 - 画面構成 27
- ログの表示 - 操作 28

RasterLink8の終了 29

1.1 RasterLink8の起動

デスクトップにあるショートカットまたはスタートメニューから、RasterLink8を起動してください。

● RasterLink8を使用するユーザーアカウントについて

1. RasterLink8はWindowsの管理者アカウントまたは標準ユーザーアカウントのどちらでもお使いいただけます。ただし、標準ユーザーアカウントには以下の機能に制限があります。
   - プリンター登録
   - ホットフォルダー、プリンタードライバーの作成、破損時の復旧
   - RasterLink8、Mimakiドライバーのインストール
   - プログラムアップデート

   上記の機能を使用する場合は、管理者アカウントにログインしてお使いください。
2. 管理者アカウントと標準ユーザーアカウントを切り替える際は、ログオフまたは再起動して切り替えてください。Windowsの「ユーザー切替え」で切り替えた場合、RasterLink8は正しく動作しません。

1.1.1 デスクトップ上のショートカットから起動する場合

1 **デスクトップ上の「RasterLink8」アイコン[]をダブルクリックします。**

- ユーザーアカウント制御画面が表示されます。

2 **[はい]をクリックします。**

重要! ユーザーアカウント制御

- ショートカットアイコンに盾のマークが表示されている場合、RasterLink8の起動時にユーザーアカウント制御ダイアログが表示されます。[はい]をクリックしてください。



1.1.2 スタートメニューから起動したい場合

[スタート]メニューから [Mimaki RasterLink8] - [Mimaki RasterLink8]を選択します。ユーザーアカウント制御画面が表示されるので［はい］をクリックします。

1.2 印刷用データの読み込み

印刷用データの読み込み方法は、以下の4種類です。

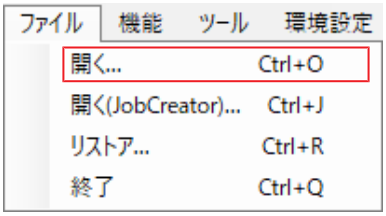
- [ファイル]メニューから読み込む
- ホットフォルダーから読み込む
- プリンタードライバーから送信する
- ジョブ一覧へドラッグ＆ドロップする

読み込んだ印刷用データから、ジョブが作成されます。

重要！
- RasterLink8に登録済されたすべてのプリンターで管理できるジョブの総数には上限値が設定されています。初期値は200個で、最大値は1000個です。詳しくは「登録できるジョブ数の上限について」（P. 18）をご覧ください。
- PICTを登録してお使いの場合、RasterLink8に読み込んだファイル名をプリンタダッシュボード画面に表示することができます。
ただし、ファイル名の長さが拡張子を含めて255バイトを超える場合、超過した文字列は表示されません。

1.2.1 ファイルメニューから読み込む

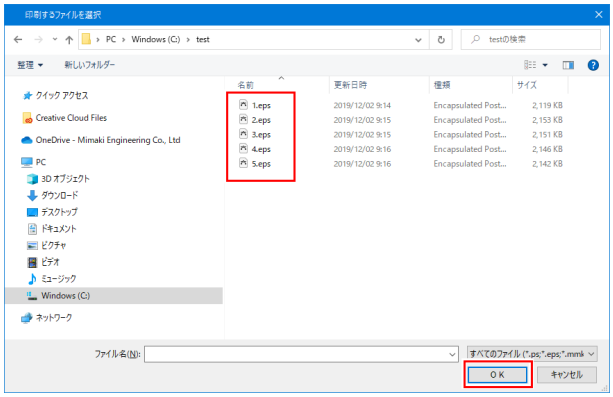
1 **[ファイル] - [開く]を選択します。**



- Ctrl+Oを押すことでも表示できます。

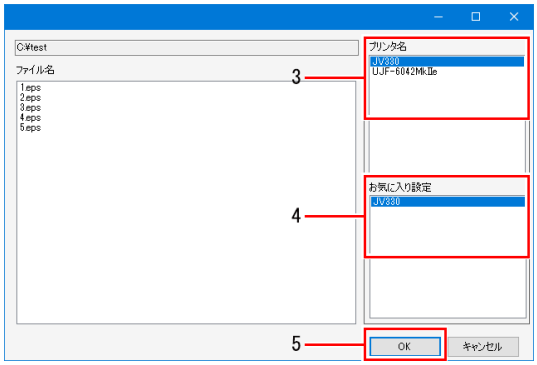
- [印刷するファイルを選択]ダイアログが表示されます。

2 **印刷用データを選択し、[OK]をクリックします。**



- 複数の印刷用データを選択することができます。
印刷用データへのショートカットファイルを選択することはできません。
- プリンターとお気に入り設定の選択画面が表示されます。

3 [プリンタ名]から、使用するプリンターを選択します。



4 [お気に入り設定]から、適用させるお気に入りを選択します。

- RasterLink8では、各種設定をお気に入りとして保存することができます。また、新しく読み込む印刷用データに、保存した設定を適用させることができます。
- 読み込み時に選択したお気に入りは、次回の読み込み時に自動的に選択されます。

5 [OK]をクリックします。

- 印刷用データが読み込まれ、新しいジョブが作成されます。

1.2.2 ホットフォルダーから読み込む

1 ホットフォルダーに印刷用データをコピーします。

- ジョブが作成されます。
- 作成されたジョブには、自動的にお気に入りの設定が適用されます。

- ホットフォルダーを作成すると、自動的に共有設定されます。
- ホットフォルダーの作成方法については☞ P. 184を参照してください。
- ネットワーク経由でホットフォルダーを使用する場合は、別冊「RasterLink8　ネットワーク接続ガイド」をご覧ください。

1.2.3 プリンタードライバーから送信する

1 印刷用データを作成したソフトウェアで印刷を実行します。

- ジョブが作成されます。
- 作成されたジョブには、自動的にお気に入りの設定が適用されます。

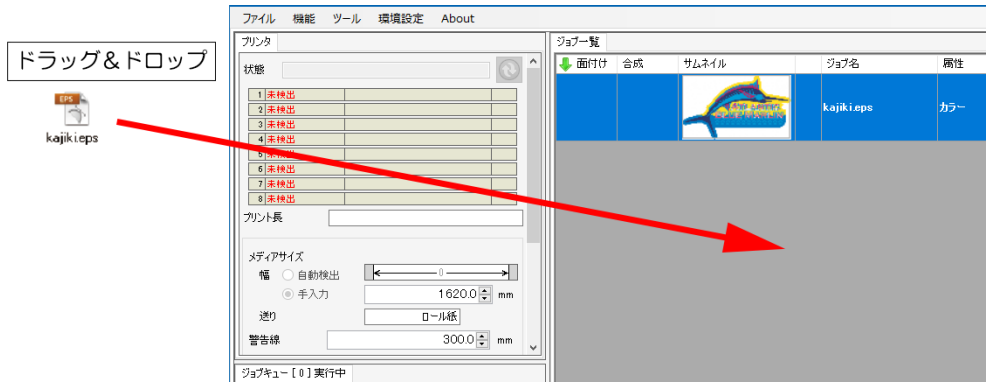
- プリンタードライバーを作成すると、自動的に共有設定されます。
- プリンタードライバーの作成方法については☞ P. 184を参照してください。
- ネットワーク経由でプリンタードライバーを使用する場合は、別冊「RasterLink8　ネットワーク接続ガイド」をご覧ください。

重要! プリンタードライバーから印刷用データを読み込んだ後、ジョブ一覧に表示されない場合は、以下の対応をしてください。

- RasterLink8に複数のプリンターを登録しているとき、現在表示中のプリンターと、印刷用データを読み込んだプリンターが異なることがあります。
  [プリンタ]タブを切り替えてください。
- RasterLink8に登録されているジョブの最大値を超えている可能性があります。
  ☞「ログの表示」（P. 27）をご確認ください。
  詳しくは☞「登録できるジョブ数の上限について」（P. 18）をご覧ください。

1.2.4 ジョブ一覧へドラッグ＆ドロップする

1 [ジョブ一覧]タブに、印刷用データをドラッグ＆ドロップします。



- [印刷するファイルを選択]ダイアログが表示されます。

2 [プリンタ名]から、使用するプリンターを選択します。

3 [お気に入り設定]から、適用させるお気に入りを選択します。

4 [OK]をクリックします。

- 印刷用データが読み込まれ、新しいジョブが作成されます。

1.2.5 登録できるジョブ数の上限について

ジョブ一覧に登録できるジョブ数の上限値は、[オプション] - [ジョブ制御] - [登録ジョブ数]（☞「オプション - 操作」（P. 245））で設定した値となります（初期値は200個、最大で1000個です）。
この数は登録しているすべてのプリンターのジョブの数を合わせたものとなります。
上限を超えるジョブを読み込もうとした場合、読み込み方法によって以降の操作が異なります。

(1)[ファイル]メニューから読み込む

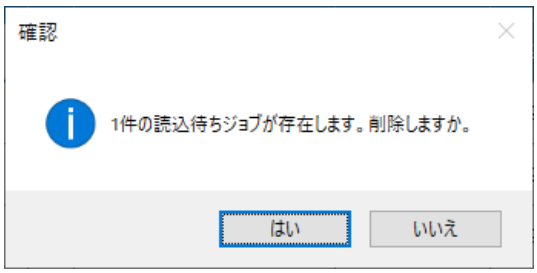
(2)ジョブ一覧へドラッグ＆ドロップする

(3)ホットフォルダーから読み込む

(4)プリンタードライバーから送信する

- 方法(1)(2)の場合
  以下のメッセージが表示され、追加で登録しようとしたジョブはキャンセルされます。
  メッセージ：「ジョブの最大登録数[***]を超えました。これ以上ジョブを登録できません。不要なジョブを削除してください。」詳しくは☞「エラーメッセージの対処方法」（P. 304）をご覧ください。
- 方法(3)(4)の場合
  以下のメッセージが表示され、追加で登録しようとしたジョブは読み込み待機状態になります。
  メッセージ：「登録できるジョブの上限に達しました。これ以上ジョブを登録できません。不要なジョブを削除してください。○○件のジョブが待機しています。」

ジョブを削除し、登録されているジョブの総数が上限未満になると、待機状態になった順にRasterLink8に追加されます。読み込み待機状態のジョブが残っている場合、RasterLink8の終了およびホットフォルダーを削除する際に以下の確認ダイアログが表示されます。



- カットを含むジョブは、通常のジョブとカット属性のジョブの合成ジョブとなるため、ジョブ数が2個になります。

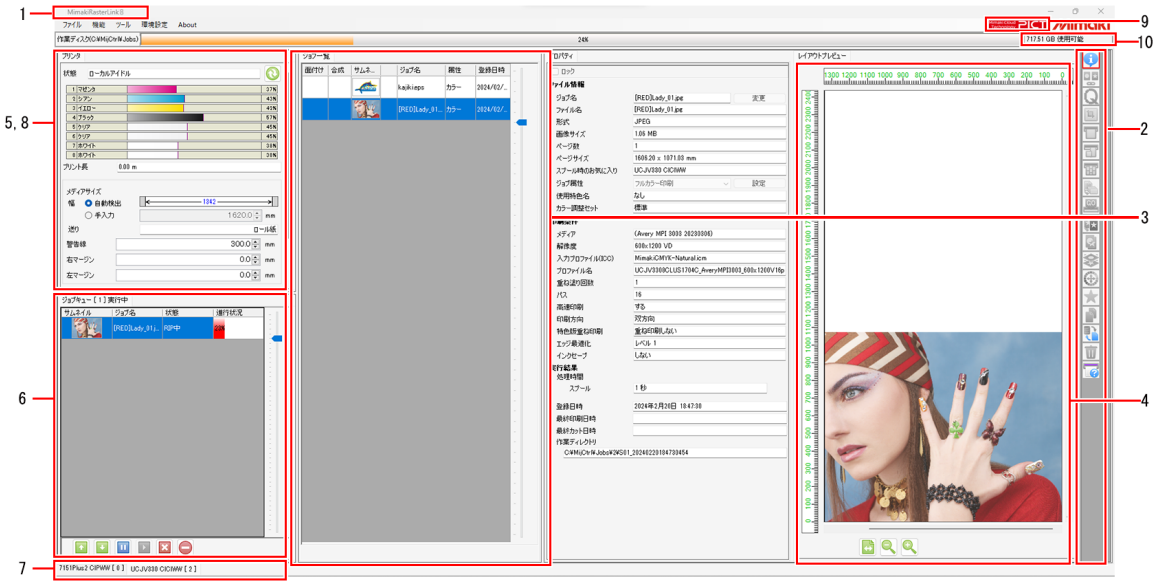
1.3 ジョブの操作

1.3.1 ジョブの操作 - 機能

RasterLink8では、各種画像データを読み込んで作成されたジョブに対して様々な編集を行うことができます。

1.3.2 ジョブの操作 - 画面構成

● 画面の説明



1.タイトルバー

RasterLink8のバージョンと、起動しているユーザー権限が表示されます。

2.機能アイコン

アイコンをクリックすると、各種機能の設定画面に切り替わります。使用できない機能のアイコンはグレーで表示されます。アイコンが画面表示に収まりきらない場合は、スクロールバーが表示されます。

重要！
- 使用するプリンターによって、表示されるアイコンが異なります。
- ジョブによって、選択できるアイコンが異なります。
- アイコンの大きさを変更したり、不要なアイコンを非表示にすることができます。詳しくは ☞「機能アイコンを設定する」（P. 261）をご覧ください。

3.[ジョブ一覧]タブ

ジョブの一覧が表示されます。以下の機能を選択している場合に表示されます。

[プロパティ]、[面付け]、[合成]、[版作成]、[実行]、[複製]、[バックアップ]、[削除]

4.[レイアウトプレビュー]

[ジョブ一覧]で選択されているジョブのレイアウト状態が表示されます。
[オプション]画面の[表示]タブにて表示の有無を切り替えることができます。☞ P. 252

5.[プリンタ]タブ

接続中のプリンターの情報が表示されます。以下の機能を選択している場合に表示されます。

[プロパティ]、[面付け]、[合成]、[版作成]、[実行]、[複製]、[バックアップ]、[削除]

重要！ • 使用するプリンターによって表示される内容が異なります。

6.[ジョブキュー]タブ

- 画像データ読み込み時の処理、RIP、印刷の状況が表示されます。以下の機能を選択している場合に表示されます。
  [プロパティ]、[面付け]、[合成]、[版作成]、[実行]、[複製]、[バックアップ]、[削除]

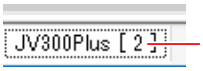


• 自動実行を開始すると、[ジョブキュー]タブに[自動実行中]と表示されます☞ P. 243。

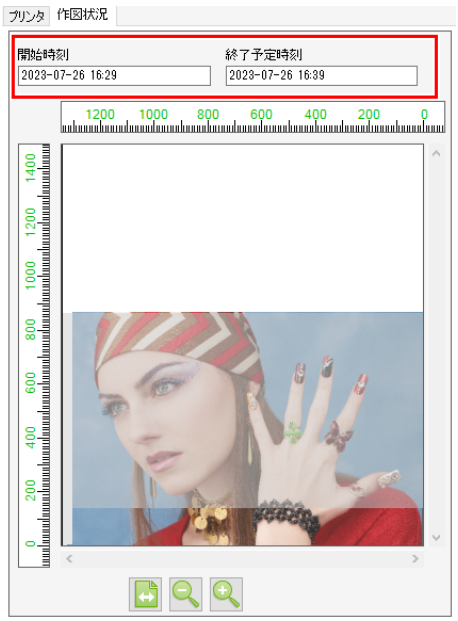
- 処理順の変更や、ジョブの一時停止、再開、中止などを行うことができます。詳しくは☞「[ジョブキュー]タブ」（P. 131）をご覧ください。

7.プリンター切り替えタブ

[プリンタ管理]で登録したプリンターごとに、画面を切り替えます。プリンター名の横には、そのプリンター用に作成されたジョブの総数が表示されます。



8.[作図状況]タブ

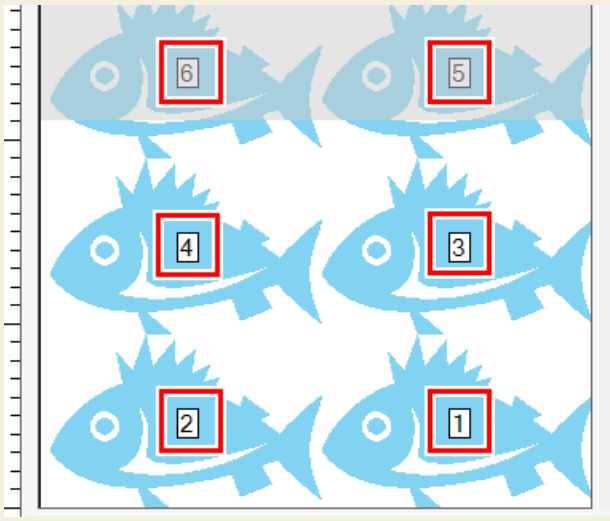


対応機種にてジョブの印刷中にこのタブを開くと、印刷開始時刻と印刷終了予定時刻が表示されます。

- 本画面は、[環境設定] - [オプション] - [表示] - [作図状況を表示する]チェックボックスをオンにすることで表示されます。☞「表示を設定する」（P. 252）

- 対応機種
  JV300, JV150, CJV300, CJV150, UCJV300, JV300 Plus, CJV300 Plus, JV100, TS100, JV330, CJV330, TS330, UCJV330, TxF150, TxF300, TxF330, CJV200, JV200, TS330-DS, Tx330, Tx330-Hybrid, UJV300DTF, UJV100, UJV100Plus, TS200, UJV200, UJ330H, SIJ-320UV, TS55, UJV55

- 通常印刷画面でコピー部数を設定している場合、[作図状況]タブのプレビュー画面にコピー番号が表示されます。
- 印刷が途中で終了した際は、コピー画像がどの位置まで印刷されたかを[作図状況]タブのプレビュー画面で確認できます。



重要！
- プリント＆カットジョブおよび引き戻しプリントが設定してある場合、作図状況は表示されません。

9.[PICT]ボタン

「クラウド型プリンターステータスモニタリングツール PICT」にアクセスします。

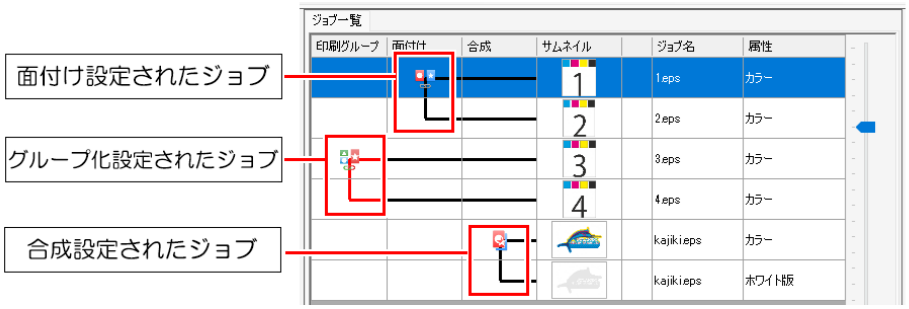
PICTについては、以下のWebサイトをご覧ください。
https://japan.mimaki.com/product/software/remote/pict/

10.[作業ディスク使用量表示]

作業フォルダーが保存されているドライブのディスク使用量が表示されます。
[オプション]画面の[表示]タブにて表示の有無を切り替えることができます。☞ P. 252

● [ジョブ一覧]ウィンドウ

- 各列の説明



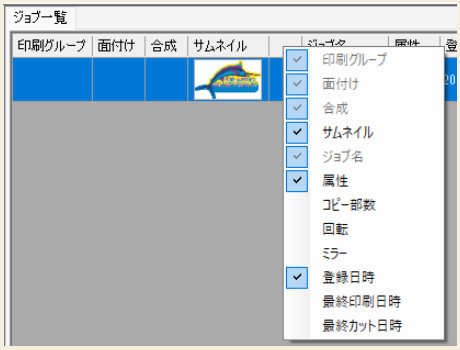
列名	概要	ソート *1
[印刷グループ]	グループ化設定されたジョブ同士が線で結ばれます☞ 「印刷グループ」（P. 45）。	

列名	概要	ソート *1
[面付け]	面付け設定されたジョブ同士が線で結ばれます☞「面付け - 機能」（P. 52）。	✔*2
[合成]	合成設定されたジョブ同士が線で結ばれます☞「合成」（P. 142）。	
[サムネイル]	ジョブのサムネイルが表示されます。	
（ロックアイコン）	ジョブがロックされている場合、それを示すアイコンが表示されます。☞「プロパティ」（P. 36）	
[ジョブ名]	ジョブの名前が表示されます。ジョブのプロパティにて変更できます☞「プロパティ - 機能」（P. 36）。	✔
[属性]	ジョブの属性を表示します。各種設定により属性が変更されます。 • カラー：一般的な画像から作成されたジョブ • カット：カットデータを含む画像から作成されたジョブ • （インク色）版：単色置換（☞「フルカラーのジョブを単色で印刷する」（P. 39））を指定した、もしくは版生成（☞「版作成」（P. 136））で作成したジョブ その他の属性については各設定にて説明します。	
[コピー部数]	通常印刷画面で設定したコピー部数が表示されます。	
[回転]	通常印刷画面で設定した回転設定が表示されます。	
[ミラー]	通常印刷画面と合成画面で設定したミラー設定の結果が表示されます。	
登録日時	ジョブが登録された日時が表示されます。	✔
最終印刷日時	最後に印刷された日時が表示されます。	✔
最終カット日時	最後にカットした日時が表示されます。	✔

*1. 該当のタイトル行をクリックすると、グループ化(合成/面付け)されたジョブ単位でソートされます。グループ化されたジョブの場合、先頭のジョブの情報を元にソートされます。

*2. ジョブ名を元にソートされます（ジョブ名をクリックしたときと同じ動作です）。

- RIP済みデータがある場合、太文字で表示されます。
- [ジョブ一覧]タブのスライダーを上下させると、リストの間隔を調整することができます。
- [ジョブ一覧]タブの列項目を右クリックすると、表示/非表示を切り替えるポップアップメニューが表示されます。チェックを入れた項目が表示されます。

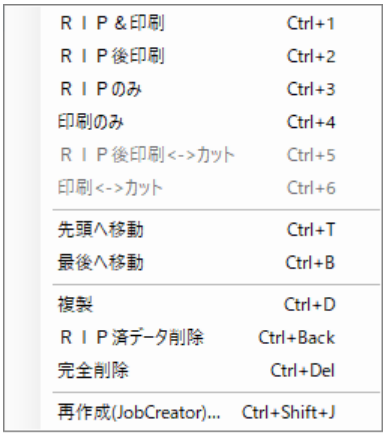


- ジョブの背景色の説明

色		状態
	（白）	待機中
	（緑）	実行済み • プリント＆カットジョブで印刷のみを実行すると、プリントジョブのみ色が変わります。 • プリント＆カットジョブでカットのみを実行すると、カットジョブのみ色が変わります。
	（クリーム色）	印刷は実施しているが、RIP済みデータなし • [RIP＆印刷]を実行し、実行が完了した状態 • [印刷後にRIP済みデータを削除する]のチェックボックスをオンにして[RIP後印刷]または[印刷のみ]を実行し、実行が完了した状態
	（ピンク）	中断
	（マゼンタ）	エラー
	（青）	実行中

- ポップアップメニュー（右クリック）の説明

ジョブを選択してから右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。



[RIP＆印刷] [RIP後印刷] [RIPのみ] [印刷のみ] [RIP後印刷<−>カット] [印刷<−>カット] [カットのみ]	選択したジョブを実行します☞「実行」（P. 129）。
[先頭へ移動]	選択したジョブを[ジョブ一覧]の先頭に移動します。
[最後へ移動]	選択したジョブを[ジョブ一覧]の最後へ移動します。
[複製]	選択したジョブを複製します☞「複製」（P. 185）。
[RIP済みデータ削除]	選択したジョブのRIP済みデータを削除します☞「削除」（P. 190）。
[完全削除]	選択したジョブを削除します☞「削除」（P. 190）。
[再作成(JobCreator)...]	選択したジョブをJobCreatorのテンプレートに読み込み、テンプレートを使用してジョブを再作成します。JobCreatorについては、別冊「JobCreatorガイド」をご覧ください。



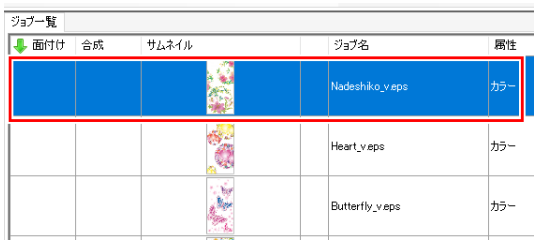
- [ジョブ一覧]のジョブをダブルクリックすると通常印刷画面に移動します。☞「通常印刷 - 画面構成」（P. 83）

1.3.3 ジョブの操作 - 操作

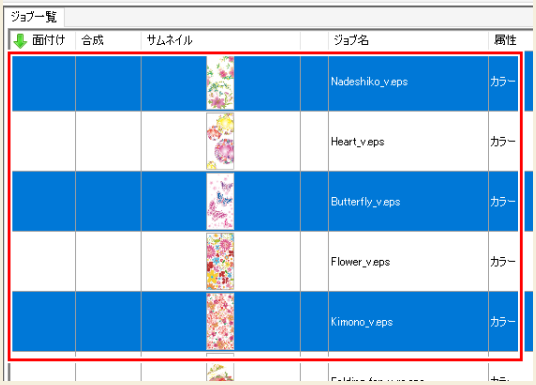
画像を1つ印刷する場合、以下のような手順で行います。

1 [ジョブ一覧]のジョブをクリックします。

- ジョブが選択されます。



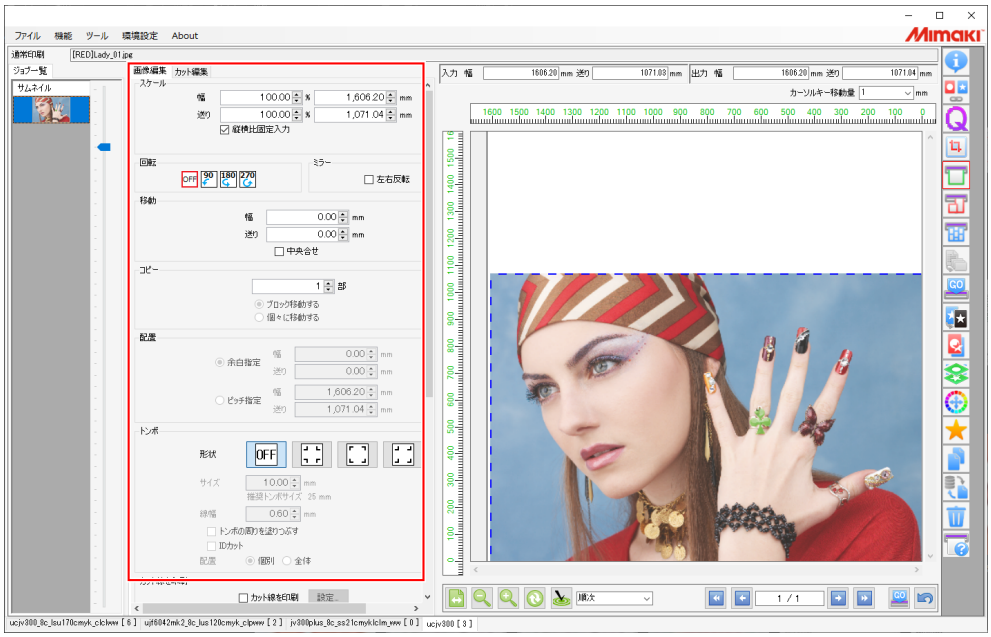
- ジョブを1つ選択して、[Shift]キーを押しながら別のジョブを選択すると、連続する複数のジョブを選択することができます。
- [Ctrl]キーを押しながらジョブを選択すると、複数のジョブを飛び飛びに選択することができます。



2 [機能]メニューまたは機能アイコンから、目的の機能を選択します。

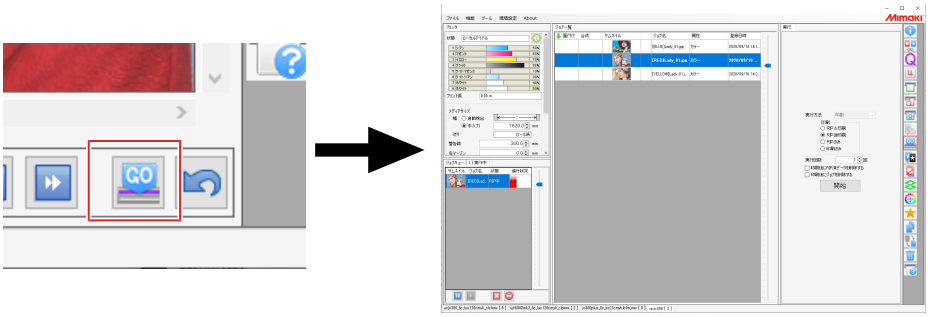
- 各種の機能の画面に切り替わります☞ 「画面の説明」（P. 19）。

3 ジョブに対して、各種の設定を行います。



4 画面右下の[実行]をクリックします。

- [実行]画面☞「実行 - 画面構成」（P. 130）に切り替わり、自動で実行されます。



- [実行]をクリックしたときの実行方法を[オプション] - [ジョブ制御]で設定できます。詳しくはジョブ実行設定（☞ P. 251）をご覧ください。

1.4 ログの表示

ジョブの進捗状況が表示されます。

1.4.1 ログの表示 - 機能

ジョブの処理状況、エラー、警告等のログ情報は、RasterLink8の[ログ表示]画面に表示されます。

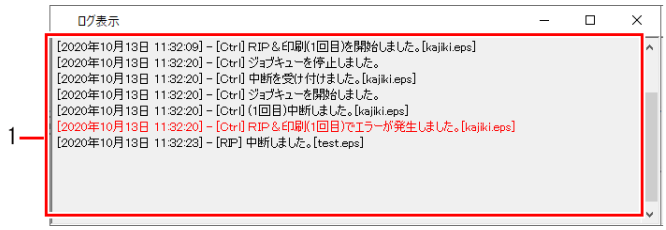
[ログ表示]画面を閉じた場合、Windowsの通知機能によって表示されます。

重要! Windowsの通知機能について

- RasterLink8の[ログ表示]画面を閉じると、Windowsの通知機能に表示が切り替わりますが、通知機能をオフにしている場合、情報は表示されません。表示が必要な場合は通知機能をオンにしてください。
- Windowsの通知機能ではエラーと警告のみが表示され、ジョブの処理状況は表示されません。

1.4.2 ログの表示 - 画面構成

● [ログ表示]画面

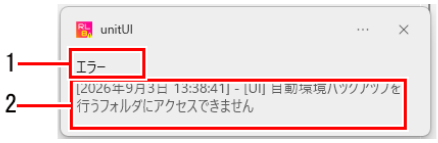


1	メッセージ表示欄	メッセージが表示されます。

- メッセージは種類別に異なる色で表示されます。
  赤色：エラー
  青色：警告
  黒色：通常

● エラー、警告表示画面

RasterLink8でエラーや警告が発生した際、PCのタスクトレイ（PC画面右下）に吹き出しメッセージが表示されます。

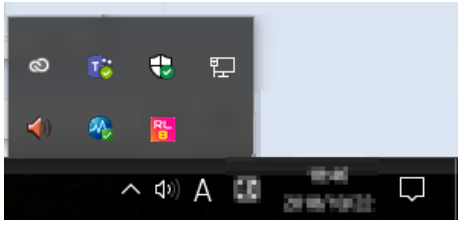


1	メッセージの種類	[警告]または[エラー]のどちらかが表示されます。
2	メッセージ表示欄	警告やエラーが表示されます。

1.4.3 ログの表示 - 操作

● [ログ表示]画面を表示する

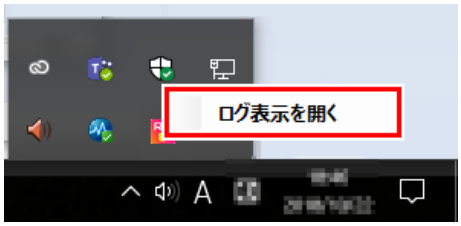
1 **Windows画面右下のタスクトレイを開きます。**



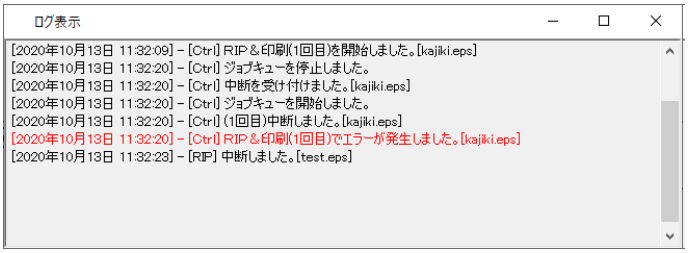
・ タスクトレイに常駐しているプログラムのアイコン一覧が表示されます。

2 **RasterLink8のアイコンを左クリックします。**

・ または右クリックして[ログ表示を開く]をクリックします。



・ [ログ表示]画面が表示され、メッセージ内容が表示されます。



・ [ログ表示]画面を閉じると、Windowsの通知機能に切り替わります。

1.5 RasterLink8の終了

RasterLink8の終了方法は以下の通りです。

- [ファイル] - [終了]を選択する
- 画面右上の×をクリックする
- キーボードショートカット:[Ctrl]キーを押しながら[Q]キーを押す

重要!
- ジョブに対する各種の設定は、RasterLink8の終了時に自動的に保存されます。
- RasterLink8を起動すると、前回終了した状態に戻ります。

第 2 章 メニュー



この章では...

RasterLink8のメニュー項目について説明します。

ファイル(開く・リストア・終了).....32
機能 33
機能アイコン一覧 34
プロパティ 36
印刷グループ..... 45
面付け 52
印刷条件..... 58
クリップ設定..... 79
通常印刷..... 82
分割印刷..... 109
ステップ&リピート印刷..... 122
実行 129
版作成 136
合成..... 142
レイヤー設定..... 155
色置換設定 161
お気に入り設定..... 178
複製..... 185
バックアップ..... 187
削除..... 190
治具配置印刷 192
リジッドメディア配置印刷.....207
ツール.....212
RGBカラーチャート 212
CMYKカラーチャート 212
特色カラーチャート.....221
Labカラーチャート.....228
カラーコレクション.....229
エミュレーション 238
キャリブレーション.....238
プロファイルマネージャー.....238
MimakiRemoteAccess 238
環境設定 239
自動実行.....239
オプション 244
プリンタ管理 259
作業フォルダ設定 263
About 265
バージョン情報.....265

2.1 ファイル(開く・リストア・終了)

メイン画面上部にある[ファイル]メニューでは以下の操作を行うことができます。



● 開く

印刷用データを選択し、読み込みます。詳しくは☞「印刷用データの読み込み」（P. 15）をご覧ください。

● 開く(JobCreator)

JobCreatorでテンプレートを使用して印刷用データを読み込みます。詳しくは、別冊「JobCreatorガイド」をご覧ください。

● リストア

ジョブのバックアップファイルを、再びジョブとして読み込みます。詳しくは☞「バックアップ」（P. 187）をご覧ください。

● 終了

RasterLink8を終了させます。

2.2 機能

[機能]メニューは、「機能アイコン」☞「機能アイコン一覧」（P. 34）をメニューとして表示するものです。

- 「機能アイコン設定」で、[機能]メニューを非表示にできます。詳しくは☞「機能アイコンを設定する」（P. 261）をご覧ください。
- [機能]メニューでは、[機能アイコン設定]の手順6で非表示にした機能も表示されます。



2.2.1 機能アイコン一覧

アイコン	機能	説明	ショートカットキー	詳細
	プロパティ	ジョブやプリンターの情報の表示、ジョブの属性の変更を行います。	Alt+I	☞ P. 36
	印刷グループ	複数のジョブを1つにまとめます。グループ化したジョブは並列にRIP処理することができます。	Alt+W	☞ P. 45
	面付け	複数のジョブを1つにまとめます。	Alt+A	☞ P. 52
	印刷条件	印刷の条件を設定します。	Alt+Q	☞ P. 58
	クリップ設定	ジョブの一部を切り取ります。	Alt+C	☞ P. 79
	通常印刷	ジョブのサイズ、位置、コピー数など基本的な設定をして印刷します。	Alt+G	☞ P. 82
	分割印刷	大きなジョブを分割して印刷します。 フラットベッドプリンターの場合、初期設定では表示されていません。*1	Alt+T	☞ P. 109
	ステップ&リピート印刷	画像データを隙間なく並べて印刷します。 フラットベッドプリンターの場合、初期設定では表示されていません。*1	Alt+S	☞ P. 122
	差込編集	データベースから情報を抽出し、１つずつ内容の違うジョブを印刷します。詳しくは、別冊「RasterLink8　差込印刷ガイド」をご覧ください。	Alt+V	-
	実行	選択したジョブの印刷、カットをします。 また、印刷時の使用インク量の推定が行えます。	Alt+X	☞ P. 129
	版作成	選択したジョブから、特色インク専用のジョブを作成します。 特色インクを装着しているプリンターの場合、この機能が表示されます。	Alt+P	☞ P. 136
	合成	複数のジョブを重ね合わせます。	Alt+M	☞ P. 142
	レイヤー設定	カラーと特色インクを重ねて印刷するジョブの詳細設定を行います。 特色インクを装着しているプリンターの場合、この機能が表示されます。	Alt+L	☞ P. 155
	色置換設定	ジョブの色を別の色に置き換えます。	Alt+R	☞ P. 161

アイコン	機能	説明	ショートカットキー	詳細
	お気に入り設定	各機能の設定をお気に入りとして保存し、管理します。	Alt+E	☞ P. 178
	複製	選択したジョブを複製します。	Alt+U	☞ P. 185
	バックアップ	ジョブのバックアップファイルを作成します。 バックアップしたジョブをファイルから復元します。	Alt+B	☞ P. 187
	削除	ジョブを削除します。	Alt+D	☞ P. 190
	Printer FAQ	弊社公式サイトのプリンターのサポートページが開きます。	Alt+F	☞ P. 294
	治具配置印刷	治具にジョブを配置して印刷します。 フラットベッドプリンターの場合、この機能が表示されます。	Alt+J	☞ P. 192
	Kebab印刷	Kebabシステムを用いた印刷を行います。 Kebabシステムがプリンターに装着されている場合に表示させます。 Kebab印刷については、各Kebabシステムの取扱説明書をご覧ください。	-	-
	リジットメディア配置印刷	ハイブリット機にリジットメディアを配置して印刷します。	Alt+H	☞ P. 207

*1. プリンタ管理の☞「機能アイコンを設定する」（P. 261）にて、非表示になっているアイコンを表示できます。

重要！
- プリンター、インクセットによっては表示されない機能があります。詳しくは各機能の説明をご覧ください。
- ジョブの設定によっては選択できない（グレーアウト）状態になります。選択できない条件については、☞「機能アイコンを選択できない場合の条件早見表」（P. 332）をご覧ください。

2.2.2 プロパティ

ジョブやプリンターの情報の表示、ジョブの属性の変更を行います。

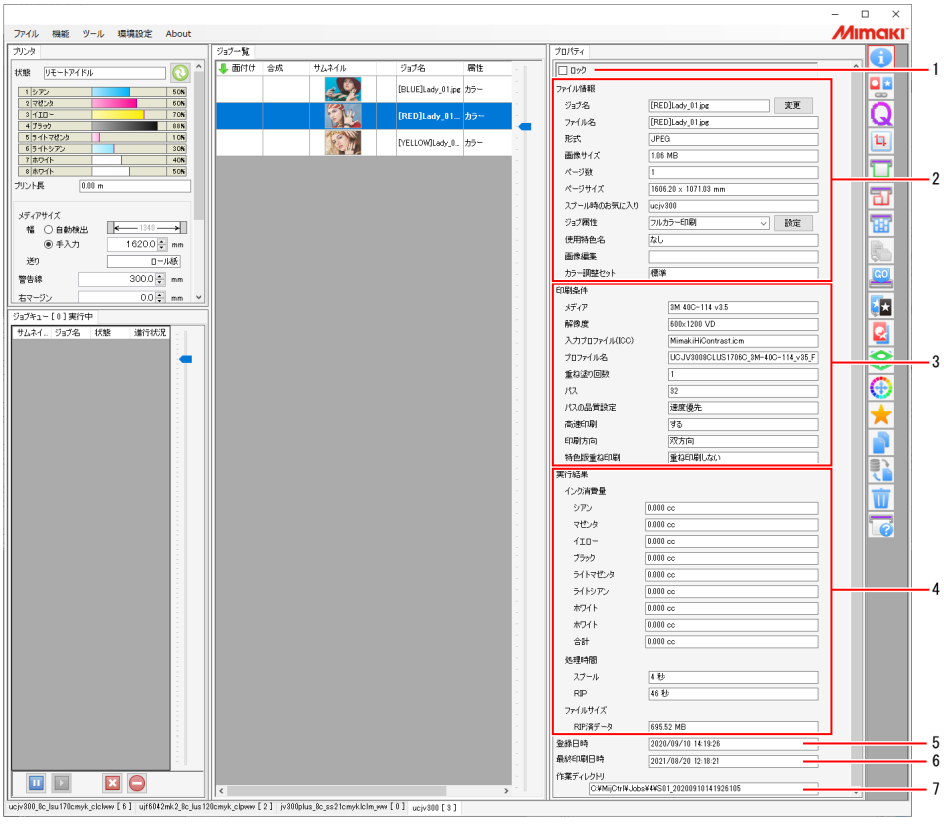
プロパティ - 機能

[プロパティ]では、以下の操作を行うことができます。

- ジョブ名を変更する
- フルカラーのジョブを単色のジョブに変更する
- 特色版ジョブの設定を変更する
- UVモードの設定を変更する
- ジョブの情報を確認する
- 2.5D Texture Makerの設定を変更する

プロパティ - 画面構成

● [プロパティ]画面



1. [ロック]

オンにすると、選択したジョブの設定を変更したり削除したりすることができなくなります。
以下のように、[ジョブ一覧]に鍵マークが表示されます。



重要！
- オンにすると、[バックアップ]、[実行]以外はできなくなります。
- 合成、面付けされているジョブのうち、1つでもオンにすると、合成、面付けされたすべてのジョブのロックがオンになります。

2. [ファイル情報]

選択しているジョブおよび元画像データの情報が表示されます。

[ジョブ名] ：ジョブの名称が表示されます。初期のジョブ名は元画像データのファイル名と同一です。任意のジョブ名に変更することができます☞「ジョブ名を変更する」（P. 38）。

[ファイル名] ：元画像データのファイル名が表示されます。

[形式] ：元画像データの形式が表示されます。

[画像サイズ] ：元画像データのファイルサイズが表示されます。

[ページ数] ：ジョブのページ数が表示されます。

[ページサイズ] ：1ページの大きさが表示されます。

[スプール時のお気に入り] ：ジョブを読み込んだときに適用したお気に入りが表示されます。

[ジョブ属性] ：印刷方法によって以下の属性が表示されます。設定を変更することもできます。

- [フルカラー印刷]
  画像データの色で印刷するジョブです。
- [単色印刷]
  画像データがCMYKカラーモードの場合に設定できます。CMYKのいずれかを指定のインク色に割り当てて印刷するジョブです。
  ☞「フルカラーのジョブを単色で印刷する」（P. 39）
- [特色版]
  「版作成」機能で作成したジョブです。他の属性には変更できません。
  ☞「版作成」（P. 136）
- [カットのみ]
  カットデータのジョブです。他の属性には変更できません。
  ☞「プリント＆カット」（P. 269）
- [2.5D Texture Maker]
  2.5DTexture Maker用のジョブです。
  詳細は、各プリンターの「2.5D Texture Makerガイド」をご覧ください。

[使用特色名] ：ジョブで印刷する特色インク（ホワイト、クリアなど）が表示されます。

[画像編集] ：ジョブに対して行った設定（コピーなど）が表示されます。

[カラー調整セット] ：ジョブで使用しているカラー調整セットが表示されます。

3. [印刷条件]

「印刷条件」☞「印刷条件」（P. 58）で設定した、以下の条件が表示されます。

- [メディア]
- [プロファイル名]
- [高速印刷]
- 各ヒーターの設定
- [解像度]
- 重ね塗り回数
- [印刷方向]
- [インクセーブ]
- [入力プロファイル（ICC）]
- [パス]
- [特色版重ね印刷]
- [エッジ最適化]

4. [実行結果]

RIPおよび印刷を行った後の各種結果が表示されます。

[インク消費量] ：印刷で消費されるインク量が計算され、インクごとに表示されます。計算は以下のタイミングで行われます。

- [インク消費量推定]（☞「実行」（P. 129））を行った場合

  推定値が計算され、[インク消費量(推定)]と表示されます。

- RIPまたは印刷を行った場合

  RIPを行ったデータを元に計算されます。推定値に比べて、より印刷結果に近い値となります。

重要！ RIPまたは印刷時のインク消費量表示は、以下の場合にのみ表示されます。

- [オプション]画面 - [ジョブ制御] - [インク消費量を算出する]チェックボックスがオンになっている
- RIPまたは印刷時に、電源が入っているプリンターに接続されている

[処理時間] ：各処理（スプール、RIP、印刷）にかかった時間が表示されます。
印刷時間に関しては[オプション] - [表示] - [印刷完了時刻の精度向上]の設定により表示される内容が変わります。☞ P. 254

[ファイルサイズ] ：RIP済みデータのサイズが表示されます。

5. [登録日時]

ジョブを登録した日時が表示されます。

6. [最終印刷日時]

最後に印刷を実行した日時が表示されます。

7. [作業ディレクトリ]

ジョブの情報を保存している作業フォルダー名が表示されます。

プロパティ - 操作

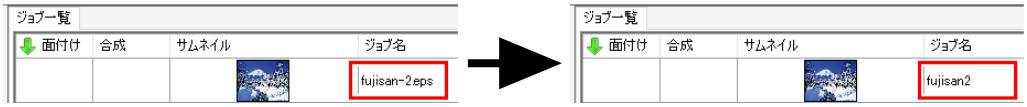
● ジョブ名を変更する

ジョブ名を変更することができます。同じ画像を複数読み込んだ場合や、ジョブを複製するときなどは、見分けを付けるためにジョブ名を変更してください。

1 [プロパティ]タブの[ジョブ名]に適当な名称を入力して、[変更]をクリックします。



- ジョブ名が変更されます。
- 合わせて[ジョブ一覧]の[ジョブ名]も変更されます。



● フルカラーのジョブを単色で印刷する

特色インク(ホワイト、クリアなど)で印刷する場合などに使用します。

重要！
- 元画像がCMYKカラーモードの場合に設定できます。
- ベクター画像、ラスター画像のどちらに対してもこの操作を行うことができます。
- [差込編集]を設定しているジョブの[ジョブ属性]は変更できません。

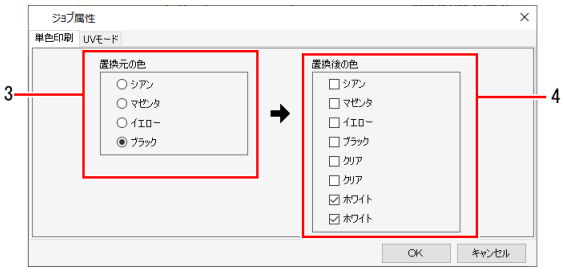
1 [プロパティ]タブの[ジョブ属性]が[フルカラー印刷]のジョブを選択します。

2 [ジョブ属性]リストから[単色印刷]を選択します。

- [ジョブ属性]ダイアログが表示されます。

3 [置換元の色]から元画像の中で置き換える色を選択します。

4 [置換後の色]から使用するインク色を選択します。

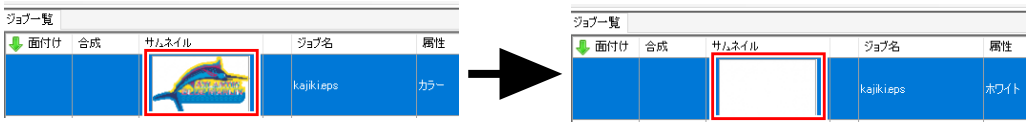


- 同一のインク色が複数ある場合、そのインク色を複数選択することができます。

重要！
- フルカラー画像の場合、[置換元の色]として設定した色以外の情報は破棄され、印刷されません。
- 印刷されるインク濃度は[置換元の色]の濃度が適用されます。
- UVプリンターの場合、置換後の色によりUVモードの設定が変わることがあります。[UVモード]タブを再度確認してください。

5 [OK]をクリックします。

- [プロパティ]タブの[ジョブ属性]が[単色印刷]に変更されます。
- [ジョブ一覧]タブの[サムネイル]および[属性]が設定した条件に合わせて変更されます。



● 版作成で作成した特色版ジョブの設定を変更する

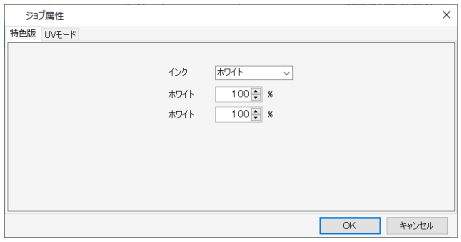
[ジョブ属性]が[特色版]の場合、特色インクのインク色およびインク濃度を変更することができます。

1 [プロパティ]タブの[ジョブ属性]が[特色版]のジョブを選択します。

2 [プロパティ]タブの[ジョブ属性]の[設定]をクリックします。

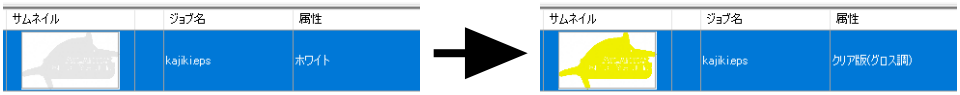
- [ジョブ属性]ダイアログが表示されます。

3 [インク]およびそのインクの濃度を設定します。



4 [OK]をクリックします。

- インクを変更した場合、[ジョブ一覧]の[サムネイル]および[属性]が変更されます。



● UVの設定を変更する

UVプリンターの場合、UVの設定をすることができます。

1 [ファイル情報]の[ジョブ属性]の[設定]をクリックします。

- [ジョブ属性]ダイアログが表示されます。

2 印刷時のUVモード（印刷方法）を設定します。

- 機種およびジョブ属性によって、設定できる内容が異なります。
☞「UVモードの設定について」（P. 41）

3 [OK]をクリックします。

- UVの設定が適用されます。

● UVモードの設定について

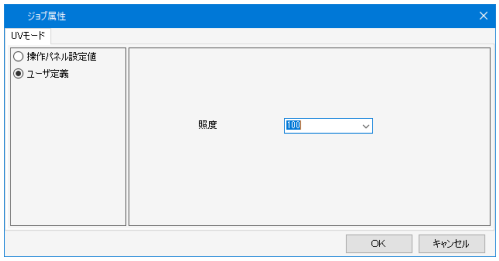
UVプリンターとジョブ属性の組み合わせにより、UVモードは以下のようになります。

以下の機種ではUVモードの設定はありません。
- SIJ-320UV, UJV55-320

・[ジョブ属性]がカラー、ホワイトの場合

以下の機種ではカラーのUVモードは設定できません。
- JFX600

対象機種：UJV100, UCJV300, UCJV330, UJV100 Plus, UJV200, UJ330H



[操作パネル設定] ： 本体のUV設定値を適用して印刷します。

[ユーザー設定] ： この画面で設定したUV照度で印刷します。

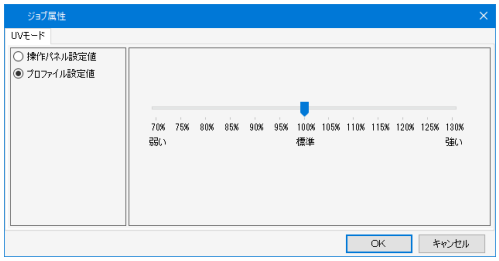
対象機種：UJFシリーズ（UJF-7151 plusII, UJF-7151 plusII e LH100を除く）



印刷時のUV照度と、追加照射する場合の回数と照度を設定します。

UJF-7151plusII, UJF-7151 plusII e LH100の場合
- [ジョブ属性]が"カラー"の場合、グロス調印刷が行えます。
  詳しくは、別冊「カラーグロス調印刷ガイド」をご覧ください。

対象機種：JFX200EX, JFX200-2513, JFX500



[操作パネル設定] ： 本体のUV設定値を適用して印刷します。

[ユーザー設定] ： この画面で設定したUV照度で印刷します。

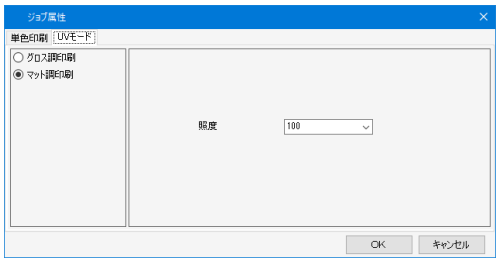
・[ジョブ属性]がクリアの場合

クリアインクを使用すると、以下の効果が得られる印刷が行えます。

- [グロス調印刷]
  表面が滑らかな、グロス調になる照射設定で印刷できます。
- [マット調印刷]
  表面のデコボコ感が残り、マット調になる照度設定で印刷できます。
- [厚盛印刷]
  クリアインクを複数回重ねて印刷することで、立体感がある印刷ができます。

各機種でのクリアインクの印刷方法の詳細については、別冊「クリアインク印刷ガイド」をご覧ください。

対象機種：UJV100, UCJV300, UCJV330, UJV100 Plus, UJV200, UJ330H



[グロス調印刷] ： 設定項目はありません。
[マット調印刷] ： 照度を設定できます。

対象機種：UJFシリーズ、JFXシリーズ（JFX600を除く）

[操作パネル設定値]



UVの照度はプリンターのパネル設定値となります。
クリア版の重ねる回数を設定することができます。

[厚盛り印刷]



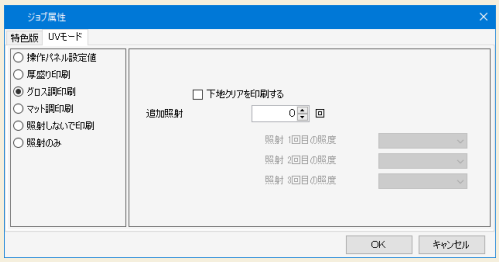
[照度] ： 印刷時の照度を設定します。
[印刷] ： 重ねて印刷する回数を設定します。
[追加照射] ： 厚盛り印刷の場合、印刷時の照射だけでは、硬化しないため、追加で照射を行う必要があります。照射回数とその際の照度を設定してください。

[グロス調印刷]



[追加照射] ： クリアインク印刷後に完全にインクを硬化させるために、追加で照射します。照射回数とその際の照度を設定することができます。

- JFX200EXの場合



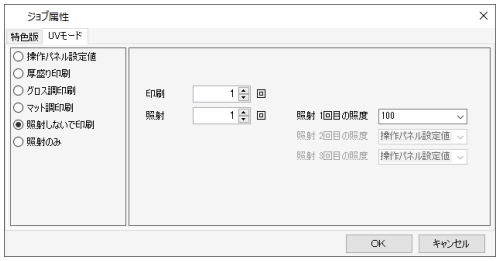
[下地クリアを印刷する]：カラーの上にマット調のクリアを印刷します。
詳細は別冊「JFX200　クリアインク印刷ガイド」をご覧ください。

[マット調印刷]



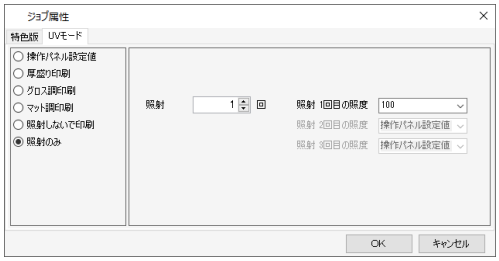
[照度] ： 印刷時の照度を設定します。
[追加照射] ： 追加で照射が必要な場合に設定します。照射回数と照射の照度を設定します。

[照射しないで印刷]



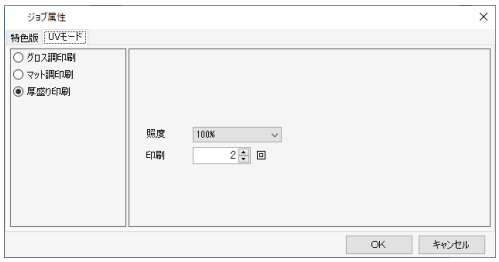
照射せずにクリアインクを印刷します。
重ねて印刷する回数を設定することができます。
[印刷] ： 重ねて印刷する回数を設定します。
[照射] ： 印刷後の照射回数と照射の照度を設定します。

[照射のみ]



照射のみ行います。
硬化が不完全だった場合に、追加で照射してください。
[照射] ： 照射回数と照射の照度を設定します。

対象機種：JFX600



[グロス調印刷]、[マット調印刷]の設定項目はありません。

[厚盛印刷]

[照度]　：　印刷時の照度を設定します。

[印刷]　：　重ねて印刷する回数を設定します。

・[ジョブ属性]がプライマーの場合

以下の機種ではプライマーのUVモードは設定できません。

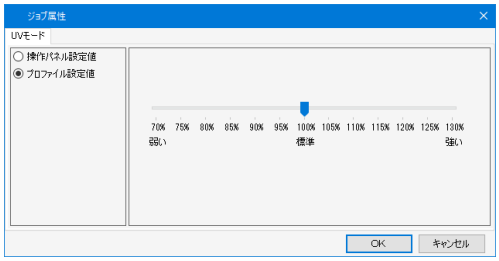
- JFX600

対象機種：UJFシリーズ



[ジョブ属性]がクリアの場合と同じ設定が行えます。

対象機種：JFX200-2513, JFX200EX, JFX500



[ジョブ属性]がカラーの場合と同じ設定が行えます。

● 2.5D Texture Makerの設定を変更する

2.5D Texture Makerの設定を行います。
詳しくは、各プリンターの「2.5D Texture Makerガイド」をご覧ください。

2.2.3 印刷グループ

印刷グループ - 機能

印刷グループは、複数のジョブを1つにまとめて印刷する機能です。

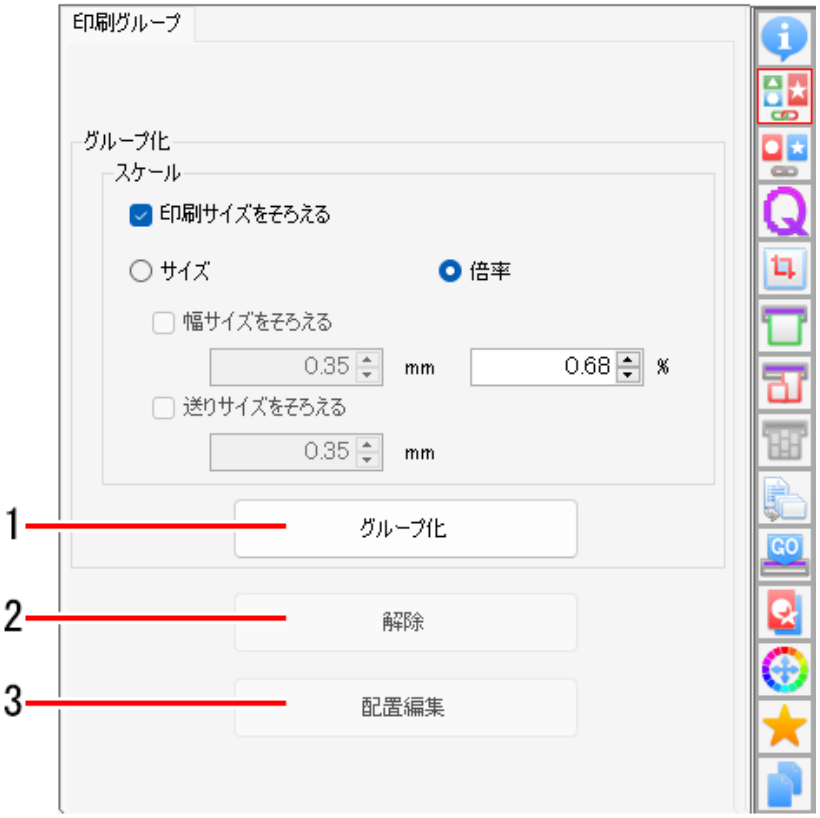
まとめたジョブを「グループ」と呼び、グループ単位に複製して印刷できます。

印刷グループには以下の特長があります。

- 分割印刷ジョブの余白に他のジョブを配置して印刷
- 入力した画像順とは異なる印刷順の指定
- グループ単位の複製に余白を設定

印刷グループ - 画面構成

● **[印刷グループ]画面**



1.[印刷サイズをそろえる]

チェックボックスをオンにすると、グループ化する画像全体にスケール設定することができます。
幅と送りのサイズ指定または、倍率を設定できます。

2.[グループ化]

クリックすると、[ジョブ一覧]タブで選択している複数のジョブがグループ化されます。
ジョブの設定によってはグループ化できない場合があります。

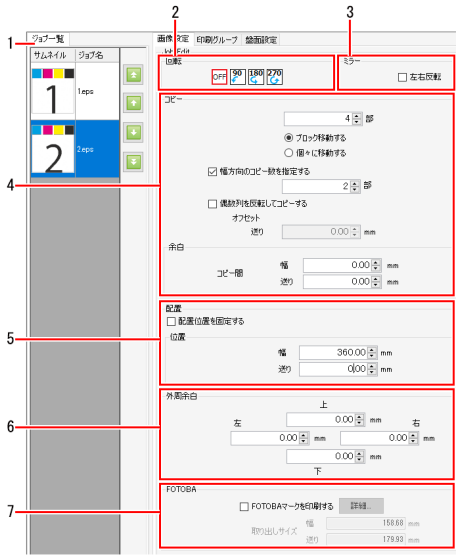
3.[解除]

クリックすると、[ジョブ一覧]タブで選択しているジョブのグループ化が解除されます。

4.[配置編集]

クリックすると、[ジョブ一覧]タブで選択しているグループ化ジョブの編集画面が表示されます。

● [画像設定]タブ



1.[ジョブ一覧]

グループ化ジョブの印刷順を表示します。

↑↓を操作し、ジョブの印刷順を変更できます。

2.[回転]

ジョブを回転させます。

3. [ミラー]

ジョブを左右反転させます。

4. [コピー]

ジョブをコピーして、配置します。

- 幅方向の配置数を指定できます。
- コピーした画像の偶数列を反転して配置できます。
- コピー間の余白を指定できます。

5. [配置]

- 配置位置を固定することができます。

6. [外周余白]

- 画像の周りに余白を指定できます。

7. [FOTOBA]

チェックボックスをオンにすると、ジョブにFOTOBAシリーズ（高速フィニッシングカッターマシン）で使用するカットマークをつけて印刷されます。

● [印刷グループ]タブ



1.[コピー]

グループ化したジョブをコピーして配置します。

- コピー間の余白を指定できます。

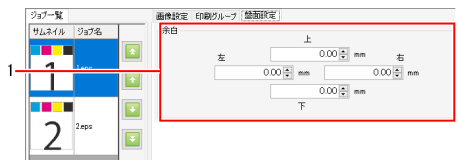
2.[配置]

- 配置位置を固定することできます。
- メディアの中央に配置できます。

3. [外周余白]

- 画像の周りに余白を指定できます。

● [盤面設定]タブ

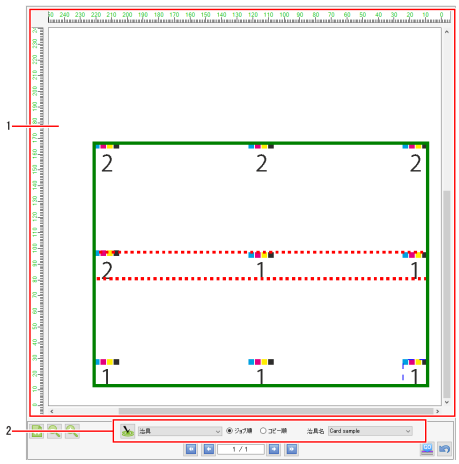


1.[余白]

レイアウトプレビューに表示する印刷エリアのサイズを調整できます。

- 余白のサイズ分レイアウトプレビューの表示エリアが狭くなります。

● レイアウトプレビュー



1.プレビュー

レイアウトイメージを表示します。

2.再配置

- 配置アルゴリズムを指定し、ジョブをレイアウトできます。
- ジョブ順／コピー順を指定し、ジョブをレイアウトできます。
- 治具名を選択し、配置アルゴリズムに治具を指定すると、選択した治具の位置にジョブをレイアウトできます。

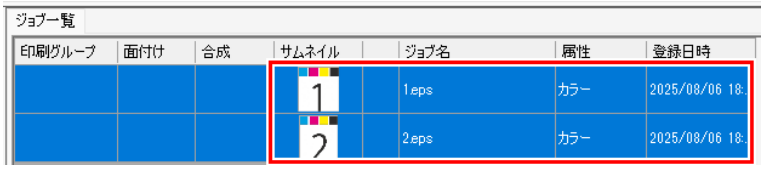
重要! UJ330Hで治具名を選択してレイアウトする場合の注意事項

- UJ330Hで治具名を選択してレイアウトすると、メディア右/下標準余白（マージン設定されている場合はマージン適用後の余白）の分だけ自動でオフセットして印刷します。

印刷グループ - 操作

● ジョブをグループ化する

1 複数のジョブを選択します。



- 複数のジョブの選択方法については、☞「ジョブの操作 - 操作」（P. 25）をご覧ください。

2 [機能]メニューまたは機能アイコンから、[印刷グループ]（  ）をクリックします。

3 [グループ化]をクリックします。



- 手順1で選択した複数のジョブがグループ化されます。
- [ジョブ一覧]タブの[印刷グループ]に線が表示されます。



● グループ化を解除する

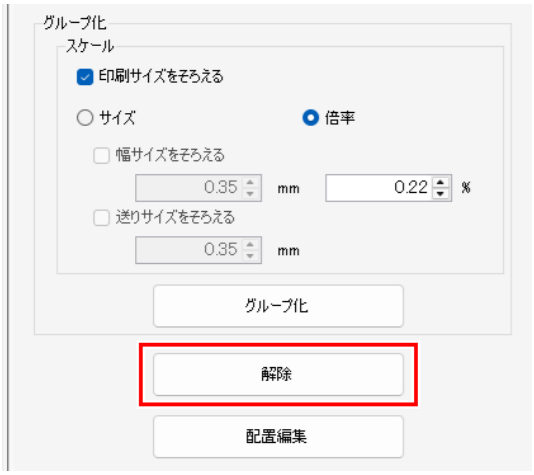
1 **[ジョブ一覧]画面でグループ化を解除するジョブを選択します。**

- すべてのジョブのグループ化を解除する場合は、すべてのジョブを選択してください。



2 **[機能]メニューまたは機能アイコンから、[印刷グループ]（ ）をクリックします。**

3 **[解除]をクリックします。**



- 選択したジョブのグループ化が解除されます。

● グループ化を編集する

1 [ジョブ一覧]画面でグループ化しているジョブを選択します。



2 [配置編集]をクリックします。



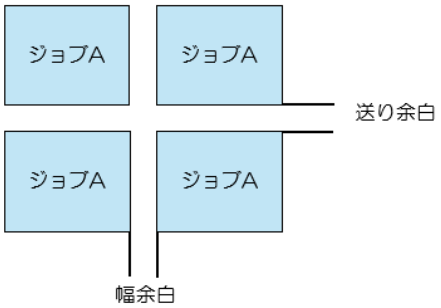
- 配置編集画面が表示されます。

3 画像設定とグループ化の条件を設定します。

グループ化ジョブの設定例

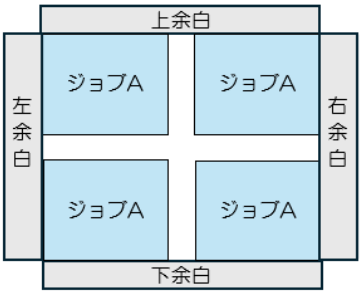
コピー間　余白

例）コピー数4個



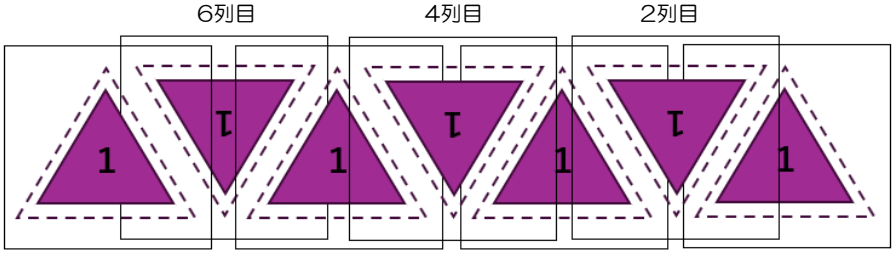
外周余白

例）コピー数4個



偶数列反転　コピー

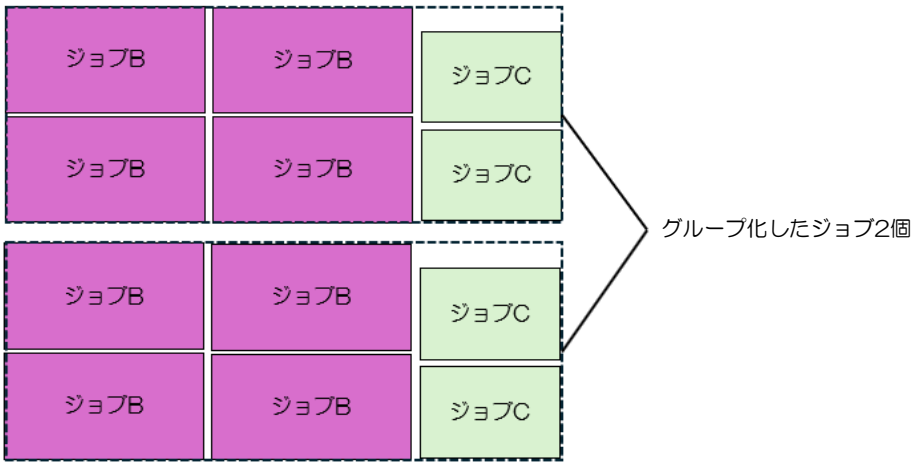
例）コピー数7個



重要！ • 幅方向余白にマイナス値を手動で設定して印刷領域、カット領域が重ならないように配置してください。

グループ化ジョブ　コピー

例）グループ化ジョブ（ジョブB：コピー4個　ジョブC：コピー2個）　コピー2個



2.2.4 面付け

複数のジョブを1つにまとめます。

面付け - 機能

RasterLink8では複数のジョブをまとめて印刷することを、面付け印刷と呼びます。

[面付け]では、以下の操作を行うことができます。

- 複数のジョブをまとめて印刷できるようにする
- メディアの中央に配置する
- 面付けを解除する

● 条件

最大面付けジョブ数

最大で100個のジョブを面付けすることができます。

編集条件

以下の設定がされているジョブは面付けすることができません。

- [分割印刷]
- [ステップ&リピート印刷]

また、すでに面付けされているジョブ群に対して、他のジョブを面付けすることはできません。この場合、一度面付けを解除してから、もう一度面付けしてください。

合成ジョブの面付け

以下の条件を満たしている場合、複数の合成ジョブを面付けすることができます。

- 特色版重ね印刷をしている場合、面付けするすべてのジョブで特色とカラーの印刷順が同じであるとき
- フラットベッドプリンターの場合、面付けするすべてのジョブで印刷移動回数が同じであるとき

プリント&カットジョブの面付け

複数のプリント&カットジョブを面付けすることができます。ただし、プリント&カットとカラーのみ、またはカットのみのジョブを組み合わせて面付けすることはできません。

印刷に関する設定

以下の設定が異なるジョブは面付けすることができません。

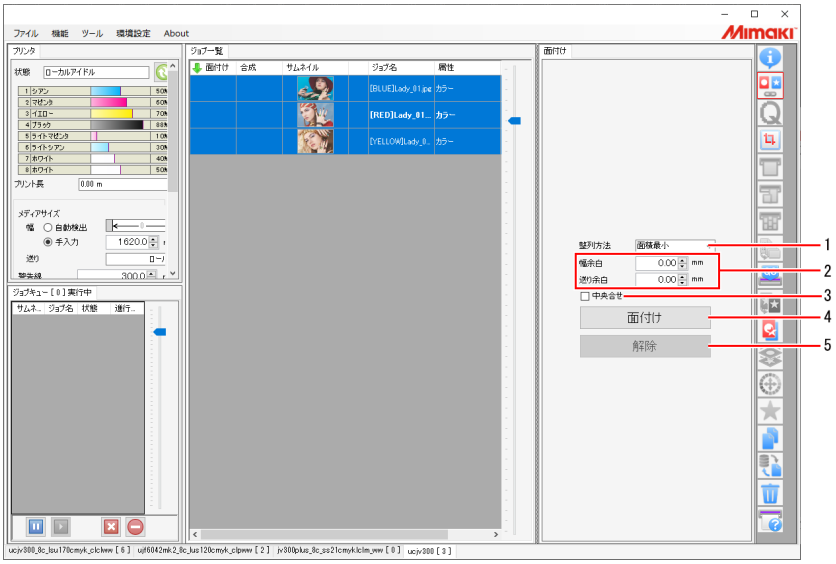
- [解像度]
- [UVモード]（UVプリンターの場合）

その他の印刷に関する以下の設定が異なる場合には、面付けすることができます。
ただし、以下の設定はすべて先頭のジョブと同一の設定になります。

- [パス]
- 重ね塗り回数
- [ハーフトーン]
- [終端余白フィード]
- [高速印刷]
- [印刷後カット]
- [ヒータOFF]
- 印刷前後余白
- [ヒータスタンバイ]
- 距離補正
- [デバイス調整]
- ファンの設定
- [スキャン毎の乾燥時間]

面付け - 画面構成

● [面付け]画面



1. [整列方法]

[面付け]をクリックしたときのジョブ群の整列方法を設定します。
各ジョブを任意の位置に配置したいときは、面付けを設定した後、「通常印刷」☞「通常印刷」（P. 82）で配置を変更してください。

[順次]	：メディアの送り方向にジョブを配置します。
[面積最小]	：メディアを有効に使用するようにジョブを配置します。 最適化のためにジョブが自動的に回転して配置される場合があります。
[回転しない]	：面積最小と同様の配置方法で配置しますが、ジョブは回転しません。
[面積最小（回転維持）]	：印刷条件画面で設定した回転を維持したまま、メディアの送り方向にジョブを配置します。

2. [幅余白]、[送り余白]

ジョブ間の余白を設定します。[面付け]をクリックしたときに適用されます。
面付け後は「通常印刷」☞「通常印刷」（P. 82）でも余白を変更することができます。

3. [中央合せ]

チェックボックスをオンにすると、面付けしたジョブ全体がメディアの中央に配置されます。
[面付け]をクリックしたときに適用されます。
面付け後は「通常印刷」☞「通常印刷」（P. 82）でも配置を変更することができます。

4. [面付け]

クリックすると、[ジョブ一覧]タブで選択している複数のジョブが面付けされます。
ジョブの設定によっては、面付けすることができない場合があります☞「面付け - 機能」（P. 52）。

5. [解除]

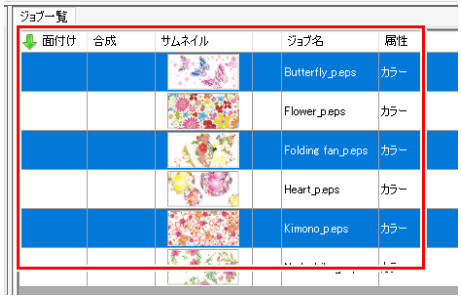
クリックすると、[ジョブ一覧]タブで選択しているジョブの面付けが解除されます。

面付け - 操作

● 複数のジョブをまとめて印刷できるようにする

1 複数のジョブを選択します。

- 複数のジョブの選択方法については、☞「ジョブの操作 - 操作」（P. 25）をご覧ください。

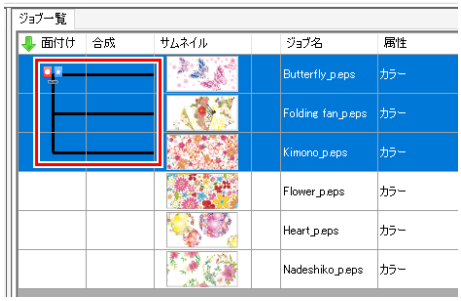


2 [機能]メニューまたは機能アイコンから、[面付け]（）をクリックします。

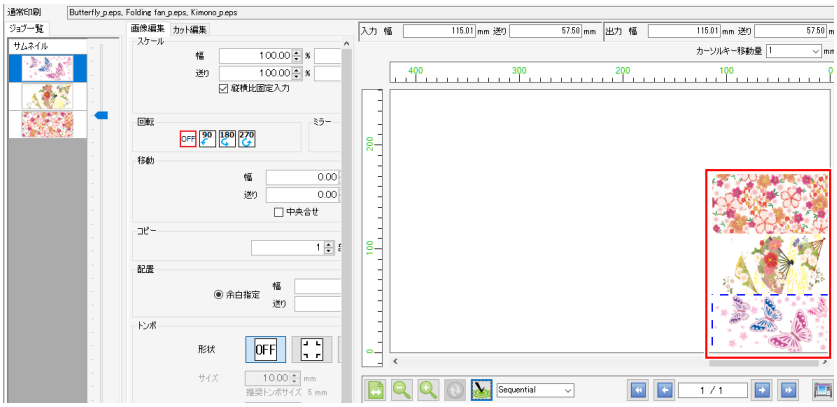
3 整列方法、余白、中央合わせチェックボックスのオンオフを設定し、[面付け]をクリックします。



- 手順1で選択した複数のジョブが面付けされます。
- [ジョブ一覧]タブの[面付け]に線が表示されます。



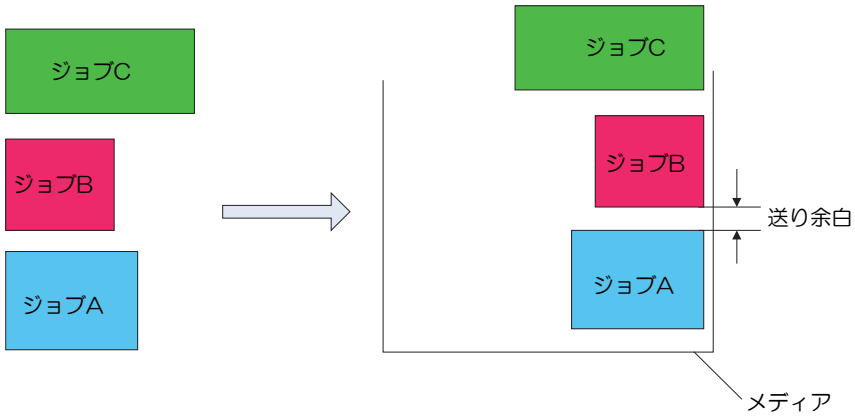
4 [ ]アイコンをクリックすると、面付け済みの状態でプレビューが表示されます。



[面付け]をクリックすると、指定した整列方法に沿って選択した複数のジョブが自動的に整列されます。整列方法は、以下のタイプがあります。

- [順次]

  ジョブがメディアの送り方向に順次配置されます。長さを最小にするため、ジョブが自動的に回転して配置される場合があります。
  送り余白を設定することができます。



- 単純にジョブを連続的に印刷することでも順次、複数のジョブを印刷することは可能ですが、この場合、ジョブとジョブの間にプリンターが一定量の余白を入れてしまいます。
  面付けの順次印刷ではジョブとジョブの間の送り余白を正確に設定することができます。
- [通常印刷]でコピー数を設定したジョブを面付けすることもできます。
  [通常印刷]による余白の設定は、[面付け]による余白の設定で上書きされます。

- [面積最小]

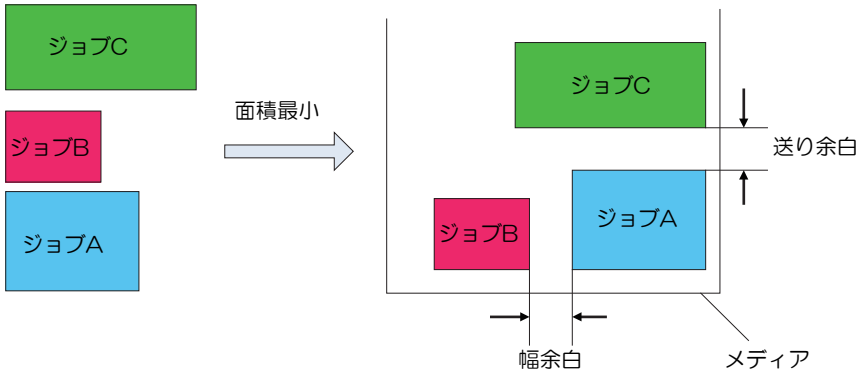
  印刷面積が最小になるように配置されます。ジョブが自動的に回転して配置される場合があります。

- [回転しない]

  印刷面積が最小になるように配置されます。ジョブの配置順が自動的に変更されます。ジョブは自動的に回転しません。[通常印刷]画面での[回転]の設定はOFFになります。

- [面積最小（回転維持）]

  [印刷条件]画面で設定した[回転]の設定を維持しながら、印刷面積が最小になるようにジョブが配置されます。



● メディアの中央に配置する

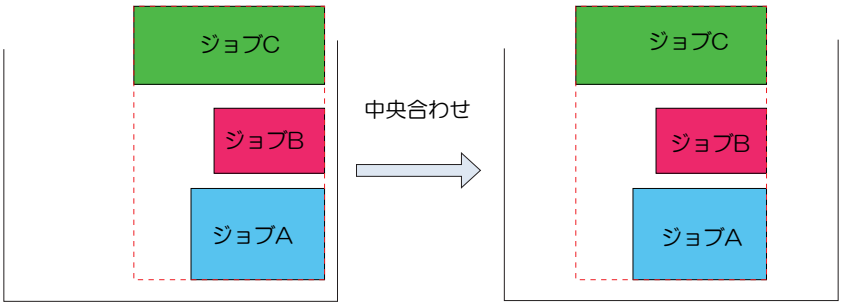
1 **[中央合せ]チェックボックスをオンにします。**

2 **[面付]をクリックします。**

- 面付けしたジョブがメディア幅の中央に配置されます。

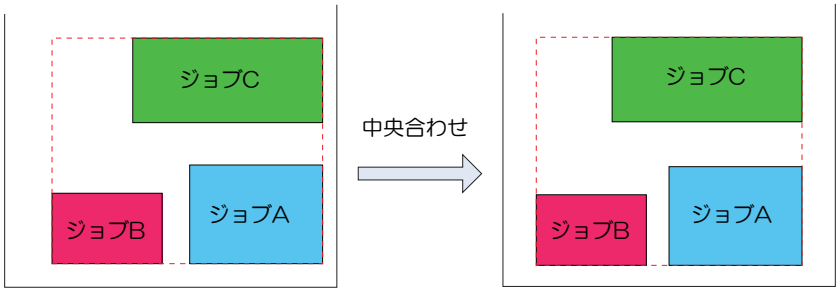
- 整列方法が[順次]のとき

  すべてのジョブを囲む境界矩形（左図の点線の部分）がメディア幅の中心になるように配置されます。



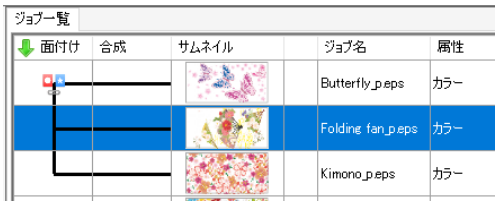
- 整列方法が[面積最小]のとき

  面付けしたジョブ全体の中心がメディア幅の中央になるように配置されます。



● 面付けを解除する

1 [ジョブ一覧]画面で面付けを解除するジョブを選択します。すべてのジョブの面付けを解除する場合は、すべてのジョブを選択してください。

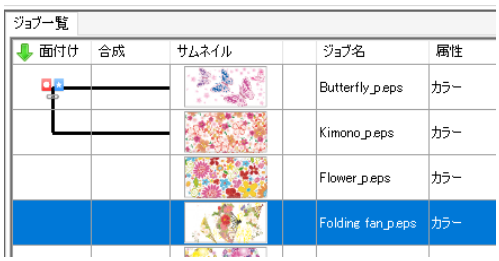


2 [機能]メニューまたは機能アイコンから、[面付け]（ ）をクリックします。

3 [解除]をクリックします。

- 選択したジョブの面付けが解除されます。





2.2.5 印刷条件

印刷の条件を設定します。

印刷条件 - 機能

[印刷条件]では、以下の操作を行うことができます。

- デバイスプロファイルを選択する
- 出力設定を選択する
- カラーパターンを印刷する*1
- 使用するヘッドユニットを選択する*1
- ホワイトを高濃度で印刷する*1
- プライマー、ホワイトの濃度を設定する*1
- マゼンタを蛍光ピンクに置き換える
- イエローを蛍光イエローに置き換える
- キャリブレーションを設定する
- LamiFit（ラミフィット）モードで印刷する
- カラーマッチングを行う
- インク量を調整する
- 詳細なカラー調整をする
- 小さい文字をくっきりさせる*1
- インクをセーブして印刷する*1
- 画像データのオーバープリント設定を有効にする
- 曲線を滑らかにレンダリングする
- パターンオブジェクトをTiling Type:2（歪みなし）でレンダリングする

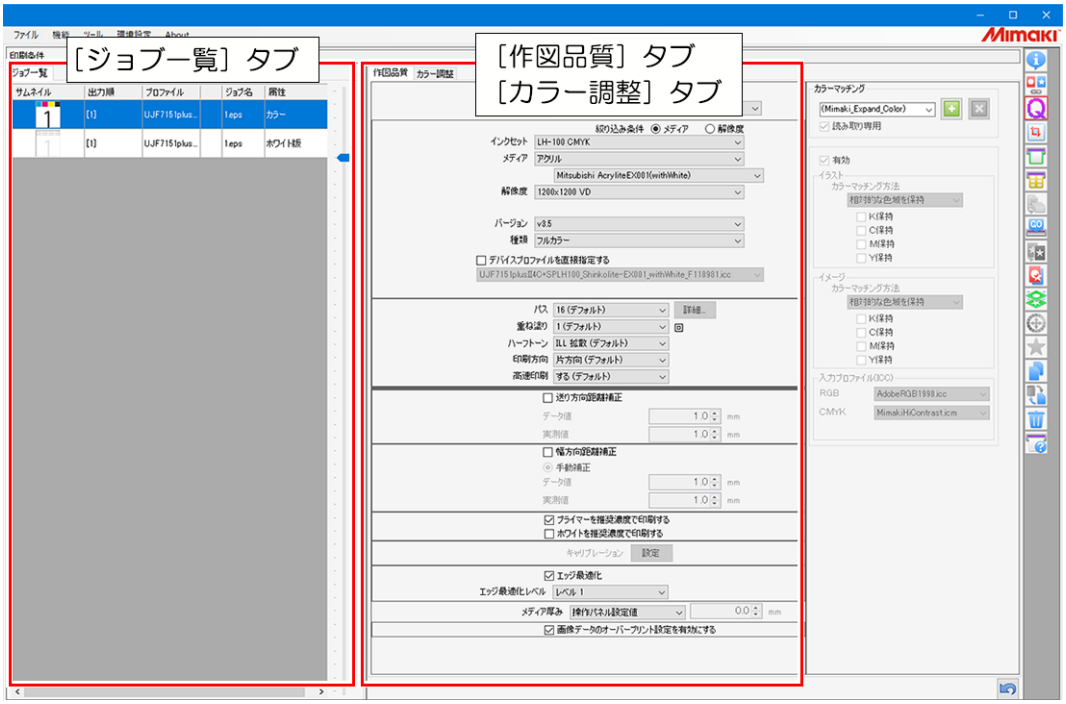
*1. 操作できる機種が限定されます。

● 条件

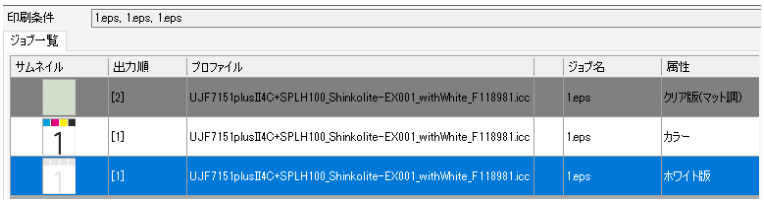
[印刷条件]は、機種、インクセット、ジョブによって表示される項目や、設定できる項目が異なります。詳しくは、☞「印刷条件 - 操作」（P. 63）をご覧ください。

印刷条件 - 画面構成

● [印刷条件]画面



● [ジョブ一覧]タブ



面付け、合成されたジョブの一覧が表示されます。

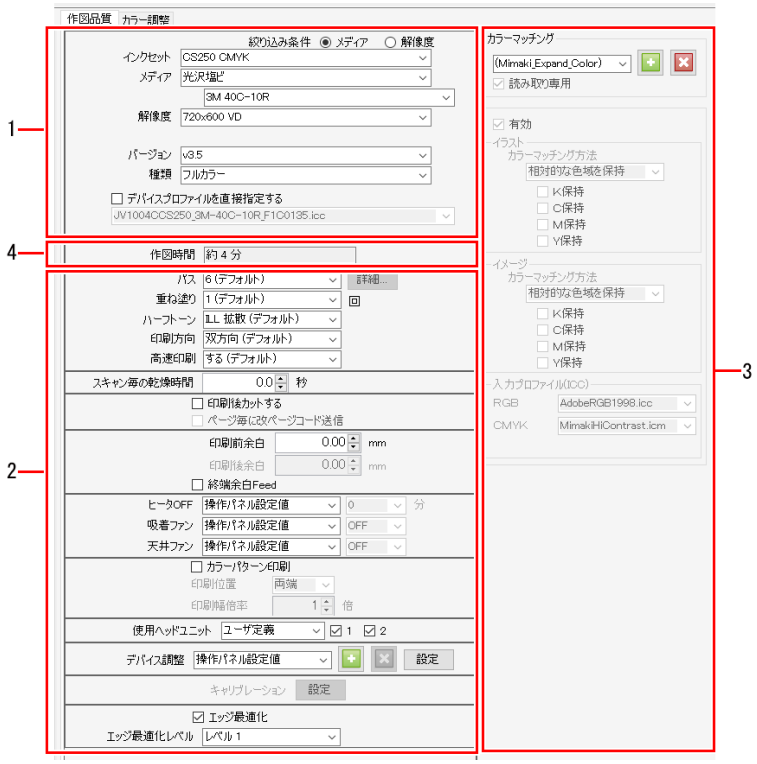
選択されたジョブ毎に設定を行います。

重要！

- フラットベッドプリンターの場合、[ジョブ一覧]タブの[出力順]に表示されている数値が同じジョブは、同時に印刷されます。
  同時に印刷されるジョブは、[作図品質]タブで以下の設定を同じにしてください。
  ・[解像度]
  ・[パス]
  ・[重ね塗り]
  ・[高速印刷]
  機種によっては、上記以外にも同じ設定にしなければならない項目があります。

- 複数のジョブを選択した状態で各項目を設定した場合、選択されたジョブはすべて同じ設定になります。
- 以下の条件の場合に限り、複数のジョブを選択することができます。
  ・[作図品質]タブが表示されている場合
  → [出力順]が同じジョブ
  ・[カラー調整]タブが表示されている場合
  → 同じプロファイルを選択しているジョブ
  同時に選択できないジョブは、リストの背景色がグレーになります。

● [作図品質]タブ



- お使いのプリンターによっては表示されない設定があります。
  詳しくは、☞「お使いのプリンターで設定できる印刷条件は？」（P. 328）をご覧ください。

1.デバイスプロファイルの選択

最良の画質が得られるように、印刷条件やインク量を調整するためのデータを格納したファイルをデバイスプロファイルと言います。デバイスプロファイルはプリンター、インクセット、メディア、解像度毎に１つ存在します。

- デバイスプロファイルは以下の方法で入手できます。
  - 弊社公式サイトからダウンロードする
  - プロファイルマネージャーにてダウンロードする

  詳しくは、別冊「RasterLink8　インストールガイド」をご覧ください。
- 「MimakiProfileMaster3」（別売）を使用することでデバイスプロファイルを作成できます。

重要！
- RasterLinkPro5以前で対応していたV1プロファイルおよびV2プロファイル（共に拡張子は"cot"）のデバイスプロファイルは、RasterLink8では使用できません。

2.出力設定

デバイスプロファイルに設定されている値が表示されます。

3.[カラーマッチング]

入力された色に対して出力される色を合わせます。

4.作図時間予測

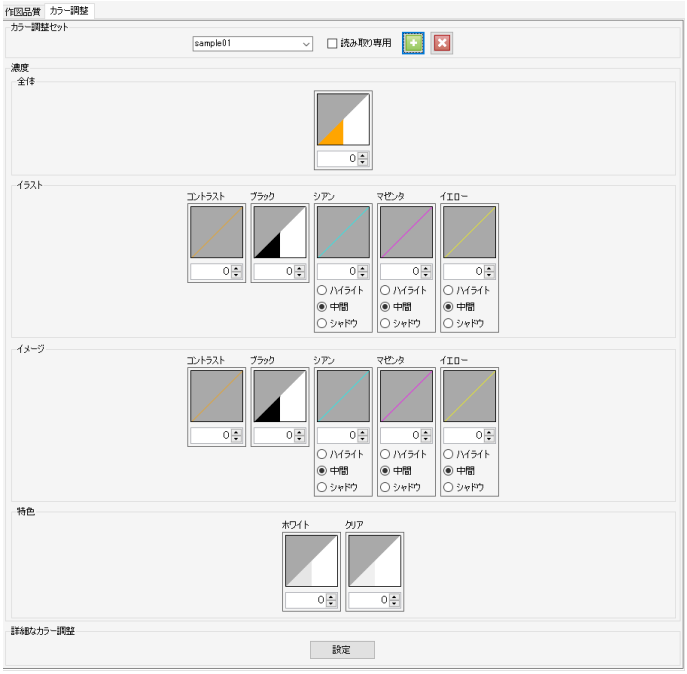
- 表示している条件で印刷した場合の予測時間が表示されます。



重要！
- 以下の場合には、作図時間は表示されません。
  - プリント＆カットジョブ
  - 準拠点字ジョブ
- 複数回に分けて重ね印刷をする場合は、選択したジョブの版の予測時間が表示されます。
- 表示中の条件で、かつロジカルシークをオフに設定している場合の作図時間の予測が表示されます。
  ロジカルシークをオンに設定している場合、実際の印刷時間と表示されている作図時間が大きくずれることがあります。
- 以下の時間は含まれません。
  - RIP時間
  - 印刷中のクリーニングの時間

● [カラー調整]タブ

カラーマッチングした後のインク量を調整します。



印刷条件 - 操作

● デバイスプロファイルを選択する



1 **[作図品質]タブのデバイスプロファイルにある[絞り込み条件]から、[メディア]または[解像度]のいずれかを選択します。**

- [メディア]を選択すると、デバイスプロファイルを以下の順に絞り込むことができます。
  インクセット⇒メディアの種類⇒メディア名⇒解像度
- [解像度]を選択すると、デバイスプロファイルを以下の順に絞り込むことができます。
  インクセット⇒解像度⇒メディアの種類⇒メディア名

2 **[インクセット]リストから、使用しているインクセットを選択します。**

3 **[メディア]リストの上段から[メディアの種類]、下段から[メディア名]をそれぞれ選択します。**

- [メディアの種類]はデバイスプロファイルに登録されている情報を元に分類しています。しかし、この情報がないデバイスプロファイルもあるため、そのようなデバイスプロファイルの[メディアの種類]には[その他]が表示されます。
- [メディアの種類]で[全て]を選択すると、[メディア名]ですべてのメディアを選択できます。
- メディア名に[下地クリア][下地プライマー][高速プライマー][LD1][LD2][LD3]が表示される条件は特殊条件です。ご使用方法は☞「特殊条件」（P. 338）をご覧ください。

4 **[解像度]リストから、出力解像度を選択します。**

- 解像度が高い場合、画質は向上しますが、印刷速度は下がります。解像度が低い場合、印刷速度は上がりますが、画質は低下します。用途に合わせて選択してください。
- [バージョン]には、選択されたデバイスプロファイルのバージョンが表示されます。
- [種類]には、選択されたデバイスプロファイルの種類が表示されます。

- 印刷の画質やスピードは、☞「出力設定を選択する」（P. 64）によっても変化します。
- [デバイスプロファイルを直接指定する]チェックボックスをオンにすると、絞り込みを行わずに、ファイル名称からデバイスプロファイルを選択できます。

● 出力設定を選択する

- このマニュアルでは1回のスキャンで印刷できる最大の送り幅を1バンドと言います。
- デバイスプロファイルに設定されている値には[(デフォルト)]と表示されます。



1 [作図品質]タブの[出力設定]にある[パス]リストから、パス数（1バンドの分割数）を選択します。

- パス数が大きいほど画質は向上しますが、印刷速度は下がります。
- [詳細]をクリックすると、以下の[パスの品質設定]ダイアログが表示されます。
  スライダーを右に動かすと画質は向上しますが、印刷速度は下がります。
  [OK]をクリックすると設定が適用されます。



2 [重ね塗り]で、1パスを描くときのスキャン数を設定します。

- スキャン数を増やすほど、濃度が濃くなります。

3 [ハーフトーン]リストから、印刷の階調表現を選択します。

4 [印刷方向]リストから、以下を選択します。

- [片方向] :プリントヘッドが右から左に移動するときだけ印刷します。
  [双方向]に比べて画質は向上しますが、印刷速度は下がります。
- [双方向] :プリントヘッドが左右どちらに移動するときも印刷します。
  [片方向]に比べて画質は低下しますが、印刷速度は上がります。

重要! • 機種によっては、[双方向]を選択できない場合があります。

5 [高速印刷]リストから、高速印刷[する]または[しない]を選択します。

- [する]を選択すると画質は低下しますが、印刷速度は上がります。

重要! • 機種と解像度の組み合わせによっては、高速印刷を選択できない場合があります。

● 出力設定項目の説明

- **[スキャン毎の乾燥時間]**
  ヘッドが1スキャンする度に停止する時間を設定します。
  インクの乾燥状態を目安に設定してください。
- **[印刷後乾燥待ち時間]**
  印刷が終了した後、次のファイルの印刷を開始するまでの時間（インク乾燥時間）を設定します。
- **[印刷後カットする]**
  印刷終了後、メディアをカットしてロールから切り離します。

重要! • プリント＆カットジョブの場合、[印刷後カットする]を選択してもプリント後にメディアはロールから切り離されません。

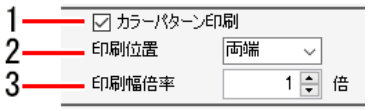
- **[印刷前余白]、[印刷後余白]**
  印刷開始前、印刷終了後の余白を設定します。

重要! • 印刷時にここで設定した余白の他に、プリンターで自動的に付ける余白が付加されます。

- **[終端余白Feed]**
  画像の終端（元画像の上部）に空白があった場合、その空白部分のメディアをフィードするかどうかを設定します。
- **[ヒーターOFF]**
  印刷完了後のヒーターオフの状態を指定します。
- **[吸着ファン]**
  メディアの吸着力を設定します。メディアがプリンターに張り付きやすい場合は吸着を弱めに設定してください。
- **[天井ファン]**
  天井ファン（トップブロワー）の状態を指定します。
- **[プリントピンチローラー圧]**
  プリント時のピンチローラー圧を指定します。
- **[デバイス調整]画面**
  - ポストヒーター／ファンヒーター／プリヒーター／プリントヒーター
    各種ヒーターの設定を行います。
    [プリンタに適用する]をクリックすると、すべての温度設定がプリンターに送信されます。
    プリント前に温度設定を行うことで、プリント直前のヒーター温度調整時間を短くすることができます。
    ポストヒータ1とポストヒータ2がある場合、ポストヒータ1をポストヒータ2より高い温度に設定することはできません。ポストヒータ1の設定温度がポストヒータ2の設定温度より高い場合は、ポストヒータ2の設定温度に統一されます。
  - [メディア送り速度]
    デフォルトのメディア送り速度で正確な送りができない場合に、メディア送り速度の値を設定します。
  - [送り補正]
    ロールメディアを手前に送り出しながら印刷した時、印刷した画像に縞が入る場合はメディアの送り量を補正します。

● カラーパターンを印刷する（Roll to Rollプリンターの場合）

ノズル抜けを確認するためにカラーパターンの印刷を行います。



1 [カラーパターン印刷]チェックボックスをオンにします。

2 [印刷位置]リストから、カラーパターンを印刷する位置を選択します。

- [左端] ：メディアの左端にカラーパターンを印刷します。
- [右端] ：印刷原点からカラーパターンを印刷します。
- [両端] ：印刷原点側とメディアの右端と左端の両方にカラーパターンを印刷します。

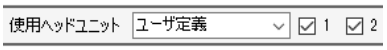
3 [印刷幅倍率]で、左端に印刷されるカラーパターンの印刷幅を設定します。

- 1～5倍の間で設定してください。
- カラーパターンの1ノズル分の印刷幅は、1.8mmです。

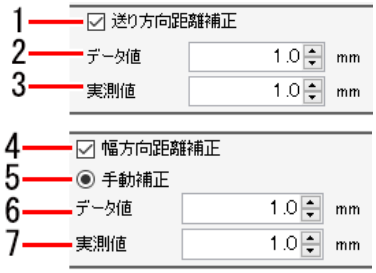
重要！ • RIPおよび印刷実行後に表示されるインク消費量には、カラーパターンを印刷するために必要なインクの消費量は含まれません。

● 印刷時に使用するヘッドユニットを選択する

1 [使用ヘッドユニット]リストで、印刷時に使用するヘッドユニットを選択します。



● 送り、幅方向の距離を補正する（フラットベッドプリンター、ハイブリッドプリンター：リジッド）



1 [送り方向距離補正]チェックボックスをオンにします。

2 [データ値]に印刷するデータの送り方向の距離を入力します。

3 [実測値]に距離補正前の送り方向の距離（実測値）を入力します。

- 送り方向の印刷サイズ、移動値、コピー余白が補正されます。

4 [幅方向距離補正]チェックボックスをオンにします。

5 [手動補正]を選択します。

6 [データ値]に印刷するデータの幅方向の距離を入力します。

7 [実測値]に距離補正前の幅方向の距離（実測値）を入力します。

- 幅方向の印刷サイズ、移動値、コピー余白が補正されます。

- 以下の機種の場合は、[自動補正]を選択することができます。
  - JFX600
  - JFX200EX
  - JFX200-2515

  [自動補正]を選択すると、プリンター側で持っている補正値を使用して印刷します。
- ハイブリッドタイプのプリンターをお使いの場合、ロール素材に印刷する際は距離補正値を設定しても期待した効果が得られないため、リジッド（ボード）素材に印刷する際に使用してください。

● ホワイトを高濃度で印刷する

ホワイトインクのインク量、インクリミットを変更し、印刷するホワイトインクの濃度を上げます。

- この操作は、[カラー調整]でインク量、インクリミットを設定しても実際に印刷されるホワイトインクの濃さが足りないときに有効です。

1 [ホワイトを高濃度で印刷する]チェックボックスをオンにします。



● 特色インクを推奨濃度で印刷する

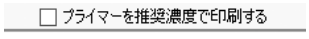
特色インクを使用している環境でこの設定をオンにすると、推奨濃度に沿ったインク濃度で出力されます。

例：推奨濃度が70%の場合、版生成したジョブは以下の濃度で印刷されます。

- 100%で版生成：100%×70%＝70%
- 50%で版生成：50%×70%＝35%

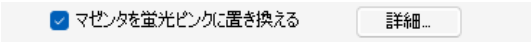
重要！ • 本機能をオンにして印刷することを推奨します（初期設定はオンです）。

1 使用する特色インクに応じて、[プライマーを推奨濃度で印刷する]、[ホワイトを推奨濃度で印刷する]、[クリアを推奨濃度で印刷する]のいずれかのチェックボックスをオン（またはオフ）にします。

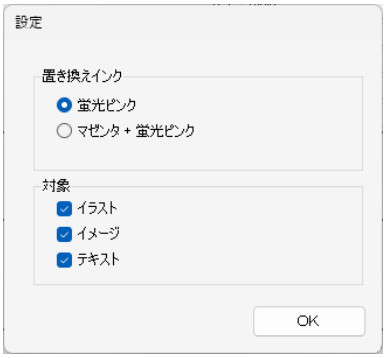


● マゼンタを蛍光ピンクに置き換える

1 [マゼンタを蛍光ピンクに置き換える]チェックボックスをオンにし、[詳細]をクリックします。



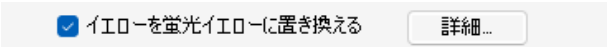
2 置き換えインクと対象を選択します。



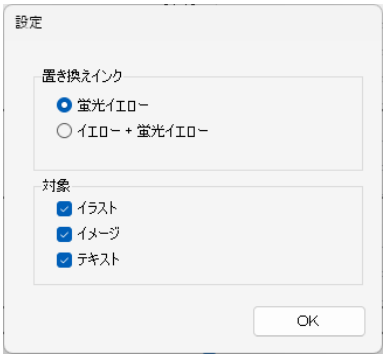
置き換えインク	説明
[蛍光ピンク]	マゼンタインク使って出力するピクセル部→蛍光ピンクインクで印刷
[マゼンタ＋蛍光ピンク]	マゼンタインク使って出力するピクセル部→マゼンタインクと蛍光ピンクインクで印刷
対象	説明
[イラスト]	選択すると、画像データのイラスト部を置き換えます。
[イメージ]	選択すると、画像データのイメージ部を置き換えます。
[テキスト]bv	選択すると、画像データのテキスト（フォント）部を置き換えます。

● イエローを蛍光イエローを置き換える

1 [イエローを蛍光イエローに置き換える]チェックボックスをオンにし、[詳細]をクリックします。



2 置き換えインクと対象を選択します。



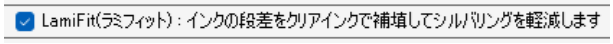
置き換えインク	説明
[蛍光イエロー]	＝イエローインク使って出力するピクセル部→蛍光イエローインクで印刷
[イエロー＋蛍光イエロー]	＝イエローインク使って出力するピクセル部→イエローインクと蛍光イエローインクで印刷
対象	説明
[イラスト]	選択すると、画像データのイラスト部を置き換えます。

置き換えインク	説明
[イメージ]	選択すると、画像データのイメージ部を置き換えます。
[テキスト]	選択すると、画像データのテキスト（フォント）部を置き換えます。

● LamiFit（ラミフィット）モードで印刷する

インクの段差をクリアインクで補填し、ラミネート時のシルバリングを軽減します。

1 チェックボックスをオンにします。



- カラー画像の隙間にクリアを出力して印刷します。

● キャリブレーションを設定する

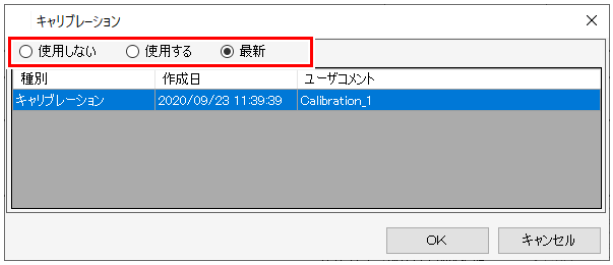
重要! キャリブレーションの設定は、キャリブレーションデータが設定されているデバイスプロファイルが選択されたときに有効になります。
キャリブレーションデータは以下の2つの方法で設定できます。

- RasterLink8の[キャリブレーション]機能を使用する。
- 弊社プロファイル作成ソフトウェア「MimakiProfileMaster3」(別売)を使用する。

1 デバイスプロファイル内の[キャリブレーション]にある[設定]をクリックします。

- ダイアログが表示されます。

2 以下の項目を選択します。

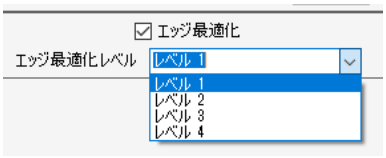


- [使用しない] ： キャリブレーション、またはイコライゼーションのデータは使用せずにカラーマッチングします。
- [使用する] ： 下のリストから選択したキャリブレーション、またはイコライゼーションのデータを使用します。
- [最新] ： 作成日が最も新しいキャリブレーション、またはイコライゼーションのデータを使用します。常に最新のデータが選択されるので日々情報を追加している場合でも、その都度データを選択し直す必要がありません。

● 小さい文字をくっきりさせる

1 [エッジ最適化]チェックボックスをオンにし、[エッジ最適化レベル]（1～4）を選択します。

- レベルが高いほど、くっきりと印刷されます。



- [エッジ最適化]は小さな文字を印刷する際に有効です。
- イメージやイラストも適用されます。

重要! [エッジ最適化]は特色インク(ホワイト、クリア)を除くカラーインクに対して有効です。

以下の設定をしたジョブでは[エッジ最適化]を使用できません。

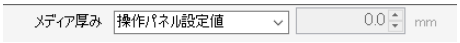
- [ステップ&リピート印刷]
- [分割印刷]
- FineCutでトンボを付加したジョブ

● メディアの厚みを設定する

厚みを設定すると、印刷時にプリンターのテーブル高さが自動で調整されます。

1 [メディア厚み]で、[操作パネル設定値]または[ユーザー定義]を選択します。

- [ユーザー定義]を選択すると、メディアの厚みを指定できます。



- [画像データのオーバープリント設定を有効にする]
  画像データのオーバープリント設定を有効にして印刷するかどうかを指定します。
- [曲線を滑らかにレンダリングする]
  画像データの曲線を滑らかにしてレンダリングします。
- [パターンオブジェクトをTiling Type:2（歪みなし）でレンダリングする]
  パターンオブジェクトをデザインソフトのプレビューの見た目通りにレンダリングします。
  ☞「パターンオブジェクトがずれて印刷される」（P. 321）

● インク量を削減して印刷する

同一のデバイスプロファイルをそのまま使用した場合に比べて、インク消費量が削減されます。



重要! 以下のプロファイルを選択している場合、インクセーブは設定できません。

- デバイスプロファイルのバージョンがv3.4以下
- エミュレーションプロファイル
- 2.5D Texture Makerや、下地クリア等の特殊用途プロファイル

重要! 以下の設定が行われている場合、インクセーブの設定はできますが、その設定が行われている箇所はインクセーブはされません。

- 版生成されたジョブ全体
- 単色置換されたジョブ全体
- カラーマッチングの設定で、[有効]をオフにしたジョブ全体
- カラーマッチングの設定で、CMYK保持を指定したオブジェクト
- [色置換]で色置換設定を行った色

1 [インクセーブ]チェックボックスをオンにします。

2 [レベル]を設定します。

数値が大きくなるほど削減量が大きくなりますが、色味、画質への影響が大きくなります。
レベルによって、色調に以下のような傾向があります。

- レベル1
  できる限り元のインクの混合構成を変えずにインク消費量が削減されるため、全体の色調が同等に保持されます。
- レベル2～5
  CMYが混合した部分をBlackインクに置き替えます。
  レベルが大きくなるほど、再現する色域をより狭くすることでインク消費量が削減されます。

● カラーマッチングを行う

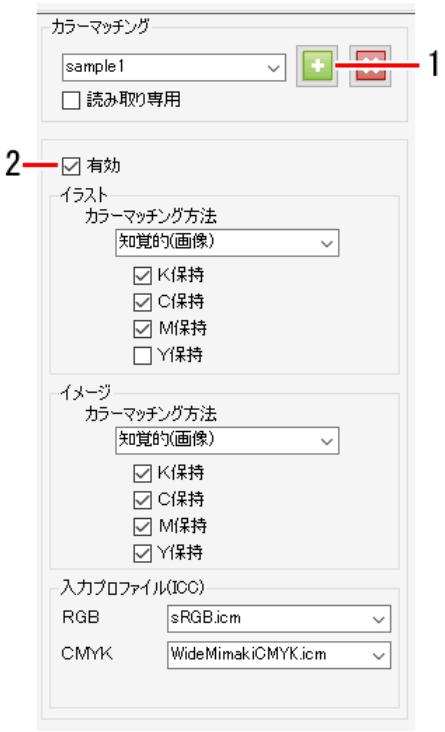
RasterLink8ではデータの色に対して、実際に印刷される色を合わせる事をカラーマッチングと言います。

ICCプロファイルと独自のデータを元に、色を合わせることができます。

- RasterLink8ではベクターデータをイラスト、ラスターデータをイメージと言います。

重要!

- RasterLink8では、ベクターデータとラスターデータのそれぞれに異なるカラーマッチングを設定することできます。
  ただし、Adobe Illustratorを使ってベクターデータに、ぼかし、透明など効果を使用した場合、オブジェクトの一部がラスターデータに変換されます。このようなオブジェクトにカラーマッチングが適用されると、同じオブジェクト内で色の調子に差がでます。これを防ぐため、ぼかし、透明などの効果を使用したオブジェクトに対しては、ベクターデータとラスターデータのカラーマッチングの設定を同じにしてください。



1 **[カラーマッチング]に、任意の名前を入力して[ ]アイコンをクリックします。**

- 設定が新規に作成されます。

2 **[有効]チェックボックスをオンにして、各種設定を行います。**

- 設定は[イラスト]と[イメージ]に分かれています。
- [イラスト]の設定は、ベクターデータに適用されます。
- [イメージ]の設定は、ラスターデータに適用されます。

[カラーマッチング方法]

[知覚的（画像）]	：写真に適しています。ジョブ全体の明るさが、入力画像に近くなるようにカラーマッチングします。
[彩度（グラフィック）]	：イラスト画像に適しています。ジョブ全体が濃くなるようにカラーマッチングします。

[相対的な色域を保持] ： 入力プロファイルとデバイスプロファイルで同じ色域内にある色はできるだけ近い色になるようにカラーマッチングします。

重要！
- [相対的な色域を保持]では、入力プロファイルで表現できる色でも、デバイスプロファイルの色域外になってしまう色は、デバイスプロファイルで表現できる色域内の色に丸められます。このため、高彩度部につぶれが発生します。

[絶対的な色域を保持] ： [相対的な色域を保持]とカラーマッチング方法は同じです。メディア色を含め、入力プロファイルの色に近づくように補正します。
結果として元画像データの白の部分にも色が印刷されることがあります。

[グレーバランス] ： 元画像データがCMYKカラーモードの場合に有効です。
CMYKのトーン調整を行い、ICCプロファイルを使用したカラーマッチングの演算は行いません。アプリケーション側でカラーマッチング処理を行う場合に設定してください。

[相対的（黒点補正）] ： [相対的な色域を保持]とカラーマッチング方法は同じです。黒点補正を行い、シャドウ部の階調を改善します。

[K保持]、[C保持]、[M保持]、[Y保持]

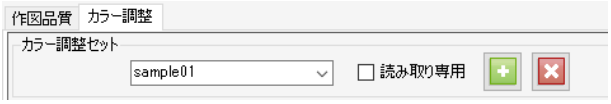
- 元画像データがCMYKカラーモードの場合に有効です。ICCプロファイルを使用したカラーマッチングを行うと、元画像データの色がC、M、Y、Kいずれか単色で設定されていた場合でも、混色で印刷されてしまいます。各チェックボックスをオンにすると、C、M、Y、Kそれぞれ単色が設定されている場合に、混色させずに、印刷できます。

[入力プロファイル（ICC）]

- 入力側のプロファイルを設定します。ターゲットのプロファイルがある場合、プロファイルマネージャーを使ってインストールできます。
- 元画像データにプロファイルが埋め込まれていた場合、[埋め込みプロファイル]チェックボックスが表示されます。チェックボックスをオンにすると、埋め込みプロファイルを入力プロファイルとして優先的に使用します。

● インク量を調整する

[カラー調整]タブでカラーマッチング処理後のインク量を調整します。



1 [カラー調整]タブで[カラー調整セット]に、任意の名前を入力して[ ]アイコンをクリックします。

重要!

- [カラー調整]はデバイスプロファイルに依存しています。
  [カラー調整セット]を登録しても、異なるデバイスプロファイルを選択している場合は、登録した[カラー調整セット]は表示されません。
  [カラー調整セット]の名前が同じ場合でも、デバイスプロファイルが異なれば、違う調整ファイルとして扱われます。名前の付け方に注意してください。
- [標準]を選択している場合、[カラー調整]は編集できません。
- 作成できるカラー調整セットの個数は、RasterLink8に登録されたプリンターの設定すべて合わせて300個までとなります。

2 濃度の設定を行います。

- CMYKのインク量だけでなく、ホワイト、シルバーインクなどの特色インクの量も調整できます。

[全体]

- デバイスプロファイルに設定されているインクリミットの値を、各インク同じ比率で変更します。全体的にインクが濃い、または薄い場合に有効です。インクリミットがここで設定した値をかけた値に変更されます。+1~50%の設定ではインクが増えますが、最終的なインクリミットは100%を超えることはできません。

  例）デバイスプロファイルでシアンのインクリミットが70%と設定されている場合

[全体]の値	シアンのインクリミット
-50%	35%：（70%×（100-50）%=35%）
-10%	63%：（70%×（100-10）%=63%）
+40%	98%：（70%×（100+40）%=98%）
+50%	100%：（70%×（100+50）%=105%） • 計算上では105%ですが、100%を超えることはできないため、最終的なインクリミットは100%になります。

[イラスト]

- ベクターデータに適用されるインク濃度を設定します。
- 設定方法は以下の通りです。

[コントラスト] -50%~+50%の間で、コントラストを変更します。	-50%~-1% 色が変化しない方向になります。 +1%~+50% 色が大きく変化する方向になります。メリハリがつきますが、高濃度部では階調がつぶれ気味になります。

[ブラック] -50%~+50%の間で、ブラックインクとシアン、マゼンタ、イエローのインク量を変更します。より詳細な設定を行うには、K-CMY調整を行ってください。	-50%~-1% ブラックインクのインクリミットを比率分下げます。 0% 詳細設定のK-CMY調整が有効になります。（0%以外の場合、K-CMY調整の設定は無効となります。） +1%~+50% ブラックインクの量を増やし、シアン、マゼンタ、イエローのインク量を減らします。
[シアン] [マゼンタ] [イエロー] -50%~+50%の間で、シアン、マゼンタ、イエローの各インク量を変更します。色相を調整するときに有効です。中間部分のインク量を変更しますが、インクリミットは変えません。	[ハイライト] 明るい部分を中心にインク量を変更します。 [中間] 50%部分を中心にインク量を変更します。 [シャドウ] 濃い部分を中心にインク量を変更します。

[イメージ]

- ラスターデータに適用されるインク濃度を設定します。
- 設定方法は[イラスト]の場合と同じです。

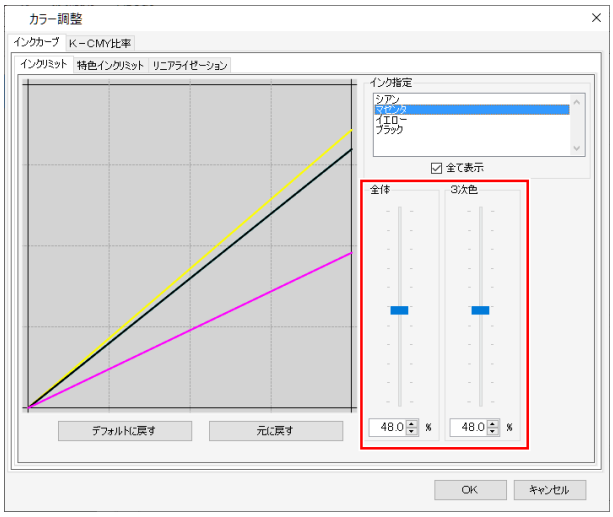
[特色]

- 特色に適用されるインク濃度を設定します。
  -50%~+50%の間で、特色のインク量を変更します。インクリミットは変えません。特色の濃度調整はv3.3以降のプロファイルを使用している場合に有効になります。

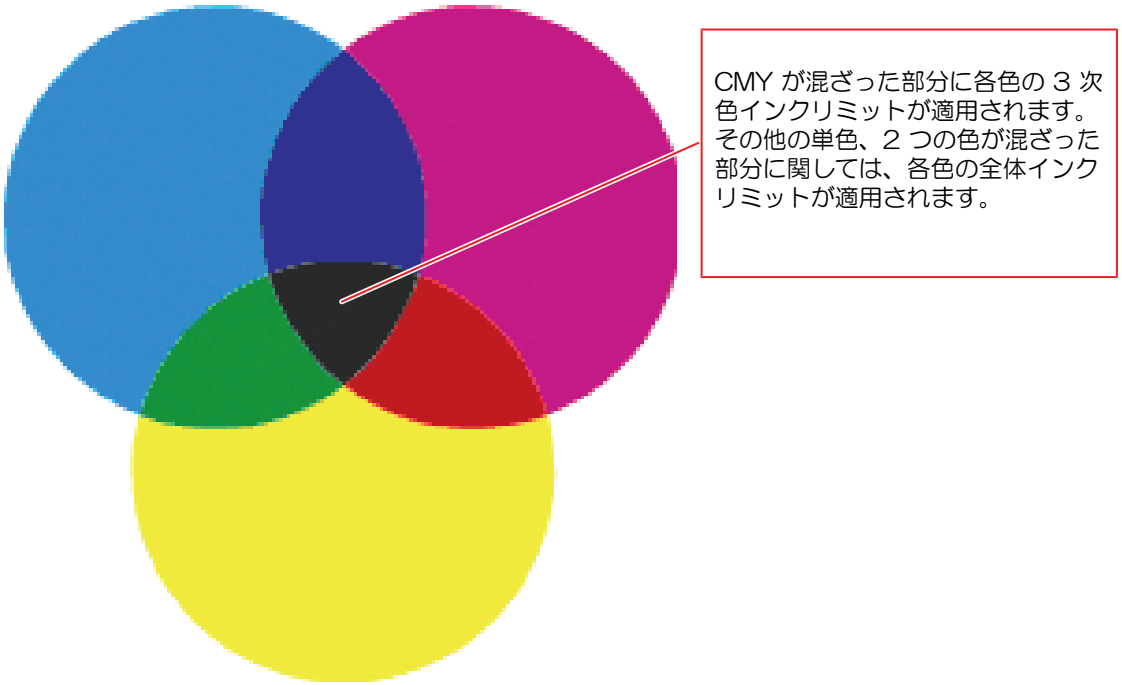
● 詳細なカラー調整をする

[設定]をクリックすると、インクリミット、リニアライゼーション、特色インクリミット、K-CMY比率調整の詳細な設定を行うことができます。

- [インクリミット]

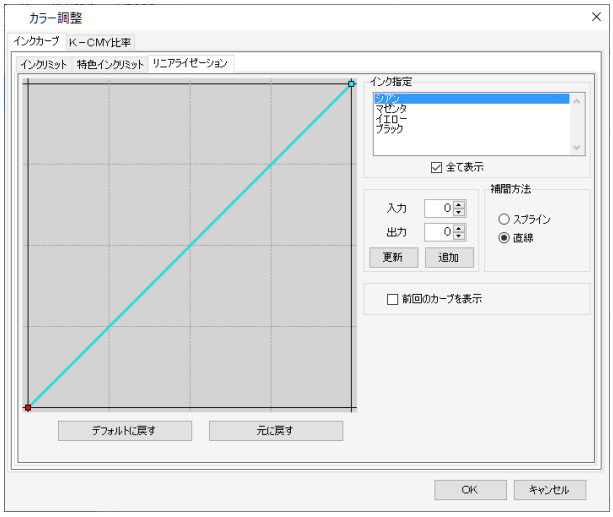


プロセスカラーインク（シアン、マゼンタ、イエロー、ブラックなど）の各インクリミットをスライダーで調整します。[全体]は各色のインクリミットの設定です。[3次色]は3色以上のインクが混ざったときに使われるインクリミットです。全体のインクリミットが3次色インクリミットの上限になります。
3色以上のインクが混ざった部分で、インクがにじむときは、本設定でインクを抑えることができます。



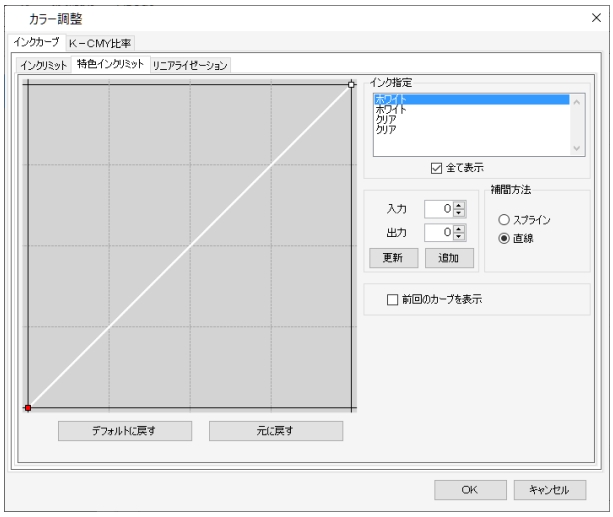
C0,M0,Y0　それぞれシアン全体、マゼンタ全体、イエロー全体のリミットを使用
C1,M1,Y1　それぞれシアン3次元、マゼンタ3次元、イエロー3次元のリミットを使用

- [リニアライゼーション]



プロセスカラーインク（シアン、マゼンタ、イエロー、ブラックなど）の中間調濃度をカーブ編集します。
各インクが滑らかなグラデーションとして印刷されるよう階調を整えます。
ここでも、最高濃度（インクリミット）を変更できますが、インクリミット調整が困難になるため、最高濃度の変更はしないでください。

- [特色インクリミット]

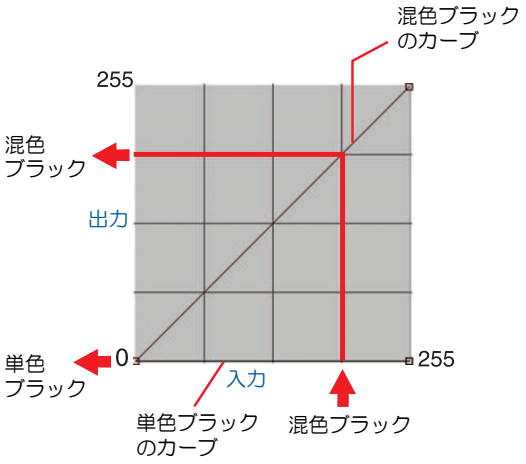


ホワイト、クリア、シルバーなど特色インクの濃度を調整します。
初期設定では、[入力]で設定した濃度が、そのまま使用される設定ですが、グラデーションなどで、中間調の濃度変化が乏しい場合などに、この画面でカーブ調整を行ってください。

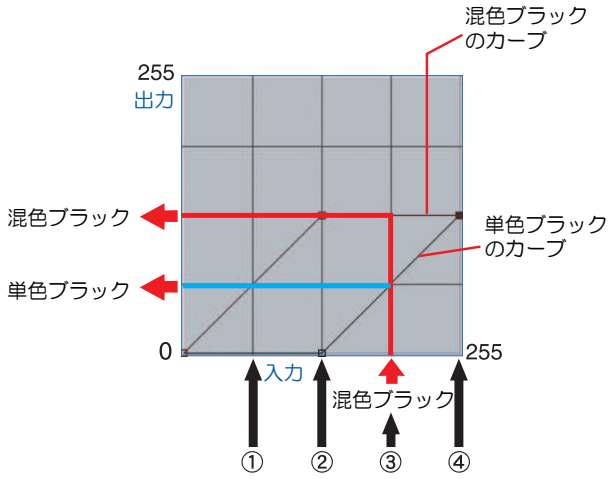
- [K-CMY比率調整]
  ブラックとシアン、マゼンタ、イエローの使用比率をカーブ編集します。イラスト、イメージそれぞれの変更が可能です。入力データがRGBモードの場合、シャドウ部でインクがあふれ気味のとき、本調整でシアン、マゼンタ、イエローを減らし、ブラックを増やすと、シャドウ部の色目をあまり変えずに、インク量を減らすことができます。

重要！
- [カラー調整]タブの[濃度]でブラックに0%以外を設定している場合、この設定を行うことはできません。

調整なし



調整あり

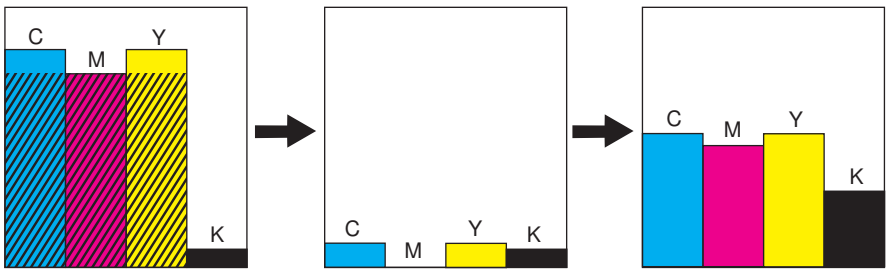


調整したカーブの値

	入力色				混色ブラック		単色ブラック		出力色				説明
	A			B									
	C	M	Y	K	入力	出力	入力	出力	C	M	Y	K	
(1)	64	85	64	5	64	64	64	0	64	85	64	5	変わらない
(2)	128	150	160	5	128	128	128	0	128	150	160	5	変わらない
(3)	200	192	200	5	192	128	192	64	136	128	136	69	CMYの一部がKに変わる
(4)	255	255	255	5	255	128	255	128	128	128	128	133	CMYの一部がKに変わる

(3)の計算

C 200-192+128=136
M 192-192+128=128
Y 200-192+128=136
K 5+64=69



斜線部がCMY
の混色ブラック

CMYから混色ブラッ
クの入力を取り除く

・CMYに混合ブラッ ク
の出力を加える。
・Kに単色ブラックの
出力を加える。

2.2.6 クリップ設定

ジョブの一部を切り取ります。

クリップ設定 - 機能

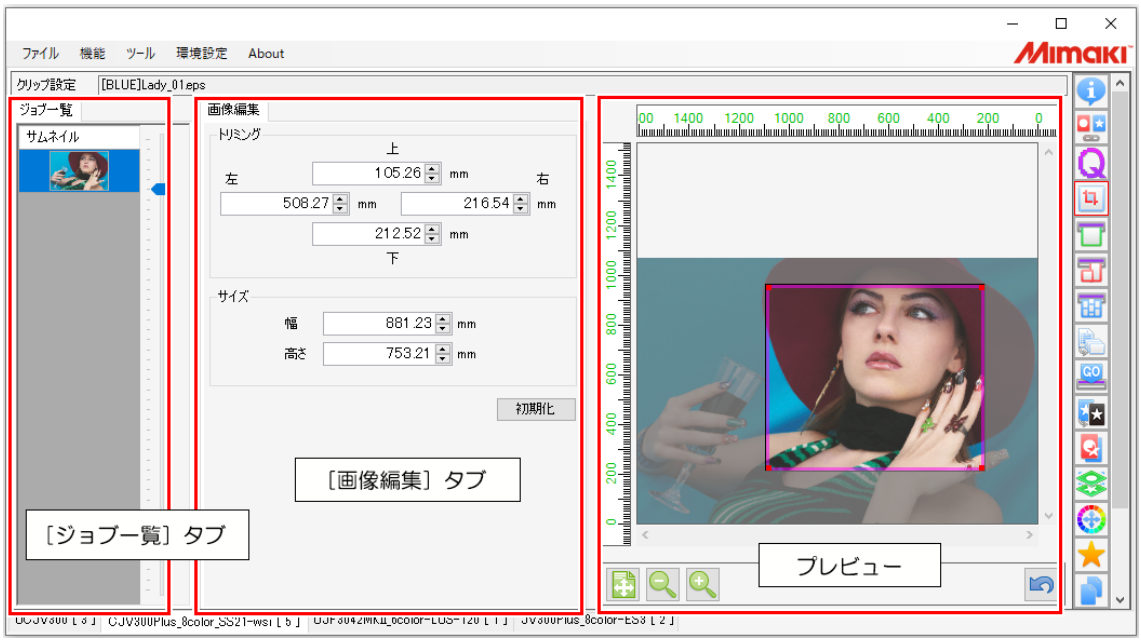
[クリップ設定]では、以下の操作を行うことができます。

- ジョブを切り取る

重要! • [差込編集]を有効にしているジョブの場合、[クリップ設定]は使用できません。

クリップ設定 - 画面構成

● [クリップ設定]画面



● [ジョブ一覧]タブ

[プロパティ]機能で複数のジョブを選択した場合、[ジョブ一覧]タブには、選択した複数のジョブが表示されます。
[クリップ設定]を行う場合には、[ジョブ一覧]タブからジョブを1つ選択してください。

重要! • [クリップ設定]では、複数のジョブを一括して操作することはできません。

● [画像編集]タブ



1.[トリミング]

ジョブを切り取る範囲を設定します。

2.[サイズ]

ジョブを切り取るサイズを設定します。

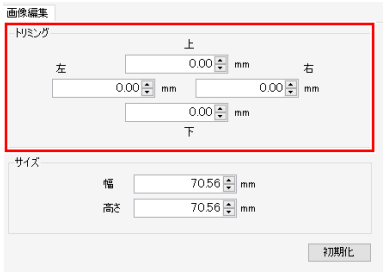
クリップ設定 - 操作

● ジョブを切り取る

- [通常印刷]機能などでジョブを拡大、縮小すると、[クリップ設定]で切り取られた範囲が拡大、縮小されます。
- [トリミング]と[サイズ]は、元画像のサイズを基準として設定してください。

切り取る範囲を設定する

1 [画像編集]タブの[トリミング]に、切り取り位置を設定します。



[上] ： ジョブの上端からの距離

[左] ： ジョブの左端からの距離

[右] ： ジョブの右端からの距離

[下] ： ジョブの下端からの距離

切り取りサイズを設定する

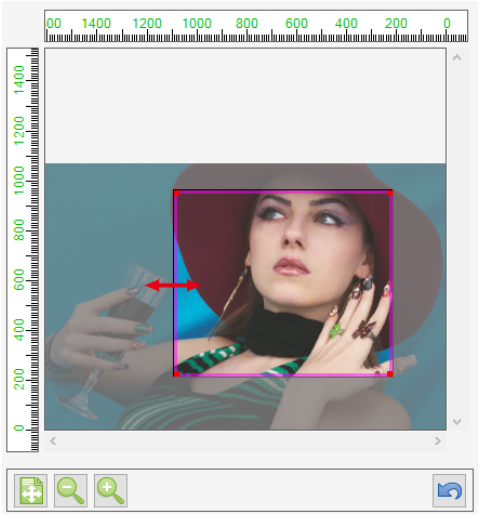
1 [画像編集]タブの[サイズ]に、[幅]と[高さ]を設定します。



- 原点位置を基準に、設定したサイズでジョブが切り取られます。

マウスを使って切り取り線を設定する

1 プレビューのピンクの線をドラッグ＆ドロップします。



設定を初期化する

1 [画像編集]タブの[初期化]をクリックします。

複数ページにまたがるジョブについて

- サムネイルおよびプレビューは、複数ページジョブの1ページ目の画像が表示されます。
- [トリミング]および[サイズ]の設定は、複数ページジョブの全ページに適用されます。ページ毎に設定を変更することはできません。

2.2.7 通常印刷

ジョブのサイズ、位置、コピー数など基本的な設定をして印刷します。

通常印刷 - 機能

[通常印刷]では、以下の操作を行うことができます。

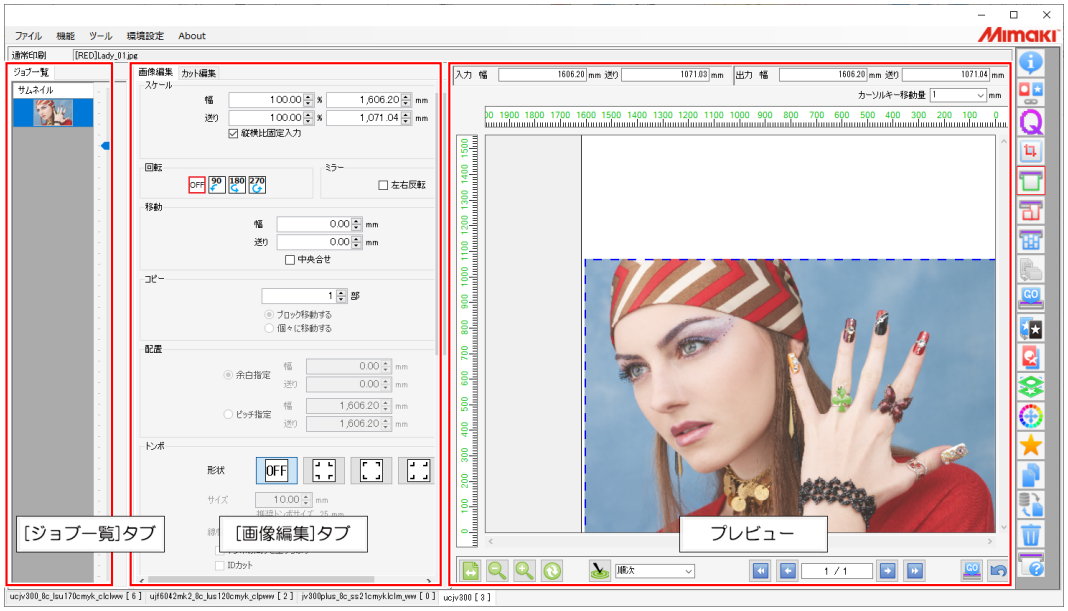
- ジョブを拡大、縮小する
- ジョブを回転させる
- ジョブを左右に反転させる
- 傾きを補正する
- ジョブを移動させる
- ジョブをコピーする
- ジョブ間の余白を設定する
- 印刷ページを設定する
- 作図領域を設定する
- トンボを設定する
- カット線を印刷する
- FOTOBAマークを設定する
- XYスリッターを設定する
- 情報ラベルを設定する
- 印刷を実行する



- プリント＆カット機およびカッティングデバイスが紐づけられている場合、カット条件の設定が行えます。
  詳しくは☞「プリント＆カット」（P. 269）をご覧ください。

通常印刷 - 画面構成

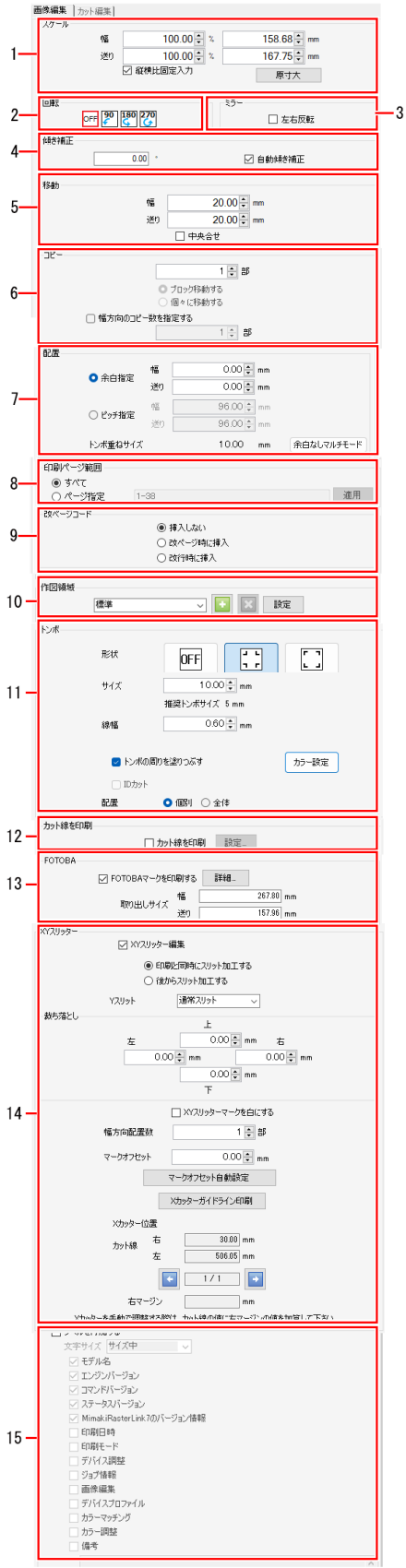
● [通常印刷]画面



● [ジョブ一覧]タブ

面付けされているジョブが表示されます。
選択したジョブは、[画像編集]タブで各種設定をすることができます。

● [画像編集]タブ



1.[スケール]

ジョブを拡大縮小します。

2.[回転]

ジョブを回転させます。

3.[ミラー]

ジョブを左右反転させます。

4.[傾き補正]

-45度から+45度の範囲でジョブを傾けます。

5.[移動]

各ジョブの原点位置を設定します。[トリミング位置ロック]のチェックボックスをオンにすると、トリミングの原点がロックされて表示されます。

6.[コピー]

ジョブをコピーして、配置します。

7.[配置]

面付けされたジョブ、およびコピーしたジョブの配置を指定します。

8.[印刷ページ範囲]（複数ページジョブの場合）

複数ページジョブ(*)内の印刷するページを設定します。

9.[改ページコード]（複数ページジョブの場合）

改ページコードを出力する方法を設定します。

10.[作図領域]（フラットベッドプリンターの場合）

印刷するメディアのサイズに合わせて有効作図領域を設定します。

11.[トンボ]

トンボを設定します。

12.[カット線を印刷]

チェックボックスをオンにすると、ジョブの周辺にカット線が印刷されます。

13.[FOTOBA]

チェックボックスをオンにすると、ジョブにFOTOBAシリーズ（高速フィニッシングカッターマシン）で使用するカットマークをつけて印刷されます。

14.[XYスリッター]

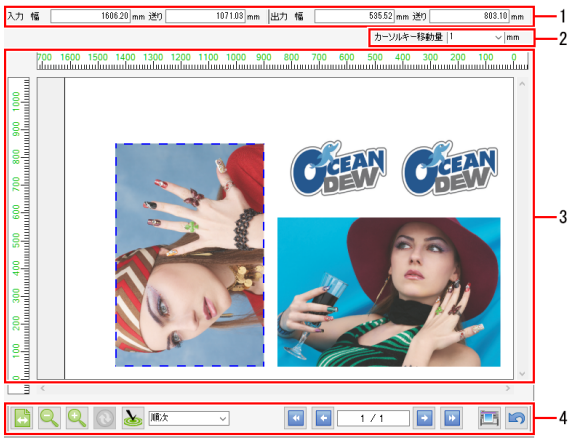
チェックボックスをオンにすると、スリット加工用のマークやガイドラインが印刷されます。☞「XYスリッターを設定する」（P. 102）

15.[印刷情報ラベル]

印刷したい情報を選択します。

(*)PDFやTIFFのマルチページのように、１ファイル内に複数の画像があるものを複数ページジョブと呼称します。

● プレビュー



1. [入力]、[出力]

   選択しているジョブの元データのサイズが[入力]に表示されます。
   また、出力時のサイズが[出力]に表示されます。

2. [カーソルキー移動量]

   プレビューでクリックして選択したジョブを、キーボードのカーソルキーを使って移動させることができます。
   ここでは、カーソルキーを1回押したときにジョブが移動する量を指定できます。

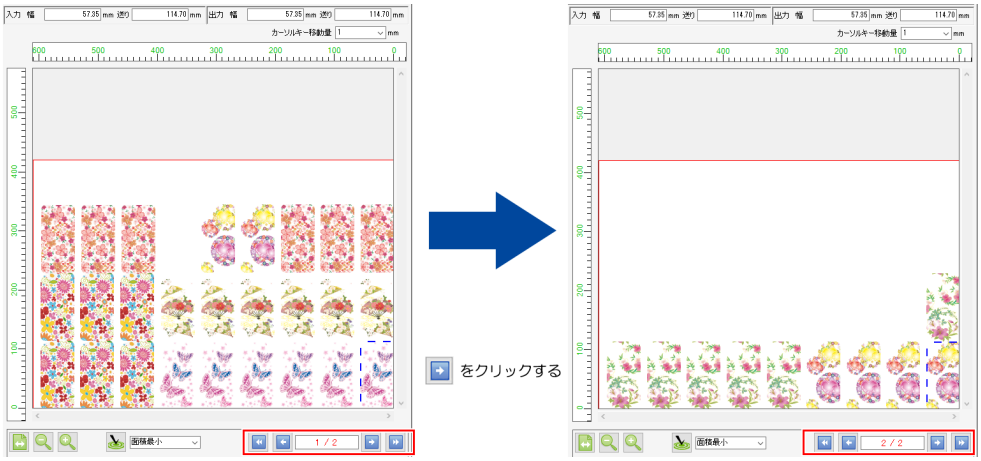
3. 配置プレビュー

   ジョブが印刷されたときの配置を表示します。
   配置プレビュー内の白い部分が有効作図範囲（メディア内）、グレーの部分が有効作図範囲外です。
   配置プレビューのジョブをマウスで1つずつ選択して以下のことができます（同時に複数のジョブを選択することはできません）。

   - [画像編集]の各項目について設定を変更する
   - ドラッグして移動させる
   - カーソルキーで移動させる

   フラットベッドプリンターの場合

   - 複数のジョブを面付けやコピーしているとき、盤面に収まりきらず、複数回印刷する必要があることがあります。
     このときは、[]アイコンをクリックして新しい盤面を作成し、配置してください。
   - 盤面が複数になった場合、画面下の盤面数の表示が赤色になります。[]アイコンをクリックして、プレビューを盤面ごとに切り替えることができます。



4. 各種アイコン

メディア幅で表示

配置プレビューの幅を、メディア幅で表示します。

ズームアウト

配置プレビューを縮小表示します。

ズームイン

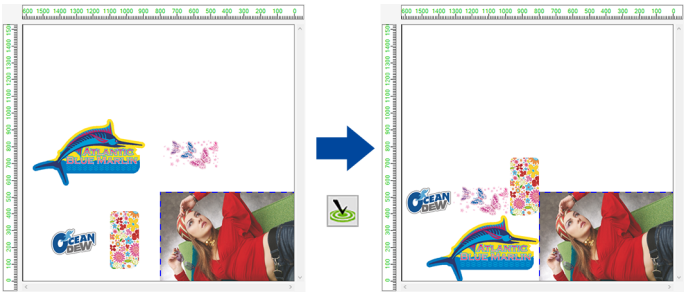
配置プレビューを拡大表示します。

メディア幅の更新

Roll to Roll プリンターの場合に表示されます。
プリンターからメディア幅の情報を取得し、配置プレビューの有効作図領域の表示を更新します。

最適化

整列方法☞ P. 53を選択し、[]アイコンをクリックすると、選択した整列方法でジョブを配置させることができます。画像編集で設定した余白設定が適用されます。
フラットベッドプリンターで、1つの盤面に複数のジョブが収まりきらない場合には、自動的に新しい盤面を作成し、収まりきらないジョブを配置します。



実行

RIP/印刷を行います。

実行される処理は、[オプション] - [ジョブ制御]画面（☞ P. 244）で設定できます。

元に戻す

[通常印刷]画面を開いたときの設定に戻します。

通常印刷 - 操作

● ジョブを拡大、縮小する

1 **[画像編集]タブの[スケール]で、印刷するジョブの[幅]と[送り]を設定します。**

- [幅]と[送り]は倍率（%）またはサイズで設定することができます。
- [縦横比固定入力]チェックボックスをオンにすると、元画像の縦横比を固定したまま、ジョブを拡大、縮小させることができます。

● ジョブを回転させる

1 **[画像編集]タブの[回転]の項目を選択します。**

- 反時計回りに回転させる角度を設定することができます。
- 以下のいずれかの角度を選択してください。

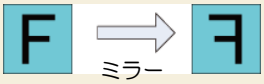


● ジョブを左右に反転させる

1 **[画像編集]タブの[ミラー]にある[左右反転]チェックボックスをオンにします。**

ミラーと回転を組み合わせた場合、ジョブは左右に反転してから回転します。

- 回転0°のとき



- 回転90°のとき



● 傾きを補正する

傾き補正（手入力）

テーブルに対して、傾いた状態で配置された素材や、傾いたメディアに印刷するときに使用します。

重要! • [差込編集]と組み合わせて使用することはできません。

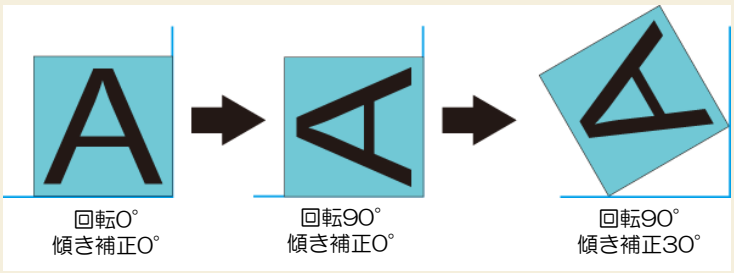
1 [画像編集]タブの[傾き補正]で、ジョブの角度を設定します。

- -45°～45°で設定できます。
- [回転]と組み合わせて設定できます。

- [傾き補正]をかけた場合、傾けた後のジョブの右および下の位置は、傾ける前と同じになります。

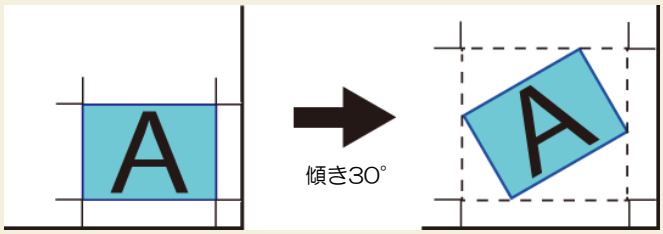


- [回転]および[傾き補正]の角度は反時計回りとなります。



- 面付けした場合、ジョブごとに傾き角度を設定することができます。
- コピー数が2以上の場合、または複数ページジョブの場合、すべてのジョブが同じ角度で傾きます。

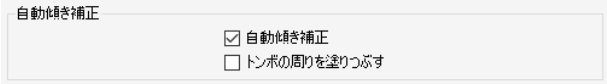
重要! • [トンボ]で設定するトンボは傾けることができません。
トンボはジョブの傾いた後の画像矩形に対して付けられます。



- [印刷情報ラベル]で設定する情報は、傾けることができません。
- 「クリップ設定」☞「クリップ設定」（P. 79）を設定した場合、クリップした後のジョブが傾きます。
- [通常印刷]で[傾き補正]を設定した後、[分割印刷]や[ステップ＆リピート印刷]を設定する場合、[傾き補正]の値は無効になります。

重要! • ジョブを傾けると、輪郭や直線部分に若干のジャギー（ギザギザ）が発生します。
特に元画像がラスターデータの場合、解像度が低いとジャギーが顕著に発生します。
元画像がラスターデータの場合は、印刷解像度に近い解像度でデータを作成してください。

自動傾き補正（UJV100Plus）



- **[自動傾き補正]**

  [合成]機能にて、引き戻し印刷の設定を有効にすると設定が可能になります。☞ P. 152

  チェックをオンにすると、最初に印刷される画像に検出用のトンボが印刷され、メディアの引き戻し後にそのトンボが読み込まれることにより、自動的に傾きが補正されて次の印刷が行われます。

- **[トンボの周りを塗りつぶす]**

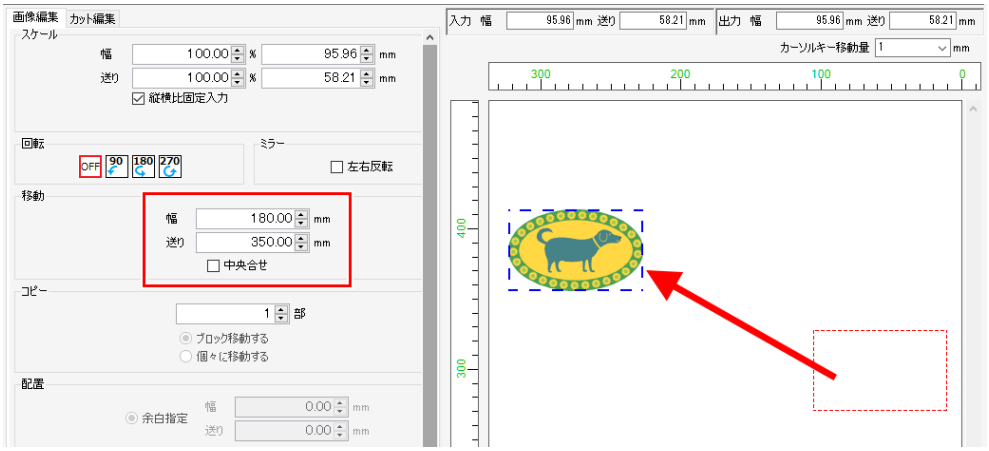
  トンボの周りを赤色で塗りつぶすことができます。地の色が白以外のメディアで、トンボが正常に認識されない場合に使用すると、トンボが認識できることがあります。

● ジョブを移動させる

ジョブをドラッグして移動させる

1 プレビューで、移動させるジョブを選択します。

2 ドラッグして、任意の位置にジョブを移動させます。



- ジョブの原点位置が、[幅]と[送り]に表示されます。

ジョブの原点位置を設定する

1 [画像編集]タブの[移動]で、[幅]と[送り]を設定します。

- ジョブの原点位置がここで設定した[幅]と[送り]のサイズだけ移動します。

ジョブをメディアの中央に配置する

1 [画像編集]タブの[移動]で、[中央合せ]チェックボックスをオンにします。

- コピーまたは面付けしている場合は☞「メディアの中央に配置する」（P. 56）のように、全体領域がメディアの中央に配置されます。

トリミングの原点位置にジョブを移動させる（フラットベッドプリンターの場合）

1 [画像編集]タブの[移動]で、[トリミング位置ロック]チェックボックスをオンにします。

- トリミングの原点がロックされて表示されます。

重要! 以下の場合は[トリミング位置ロック]機能は使用できません。

- 面付けジョブ
- 複数ページジョブ
- 中央合わせがオンになっている
- コピーが2部以上になっている
- トンボを印刷する
- カット線を印刷する
- 治具配置印刷をする
- 分割印刷をする
- ステップ＆リピート印刷をする
- Kebab印刷をする

● ジョブをコピーする

ジョブをコピーする

1 **[画像編集]タブの[コピー]で、コピーする部数を選択します。**

- ジョブがコピーされて、自動的に配置されます。

コピーした画像の移動方法を以下より指定できます。
- ブロック移動する：コピーした画像全体をまとめて移動できます。
- 個々に移動する ：コピーした画像を個々に移動できます。

- [ブロック移動する]を選択した場合に[幅方向のコピー数を指定する]を選択すると、指定した数で折り返して配置されます。

コピーしたすべてのジョブを移動させる

1 **[画像編集]タブの[コピー]で、コピーしたい部数を選択します。**

2 **[ブロック移動する]を選択します。**

3 **[画像編集]タブの[移動]で[幅]と[送り]を設定します。またはプレビュー上のドラッグ操作で移動させることができます。**

- コピーされたジョブのすべてが、ここで設定された[幅]と[送り]のサイズだけ移動します。

重要!
- 面付けジョブでは移動方法の選択は表示されず、移動方法は[個々に移動する]になります。
  ジョブを個別に選択して、コピーしたり、移動させたりしてください。
- 複数ページジョブのコピー数は全ページ共通です。
  ページごとに異なるコピー数は指定できません。
- [差込編集]を設定しているジョブはコピーできません。
- 1度に印刷できる印刷物の最大数は、全層含めて4000個です。
  例：
  - 単層のジョブで40個のコピーを100個面付けした場合、4000個の印刷が可能です。
  - 2層の合成ジョブで20個のコピーを100個面付けした場合、2000個の印刷が可能です。

コピーしたジョブを個別に移動させる

1 **[画像編集]タブの[コピー]で、コピーする部数を選択します。**

2 **プレビューで、移動させるジョブを選択します。**

3 **[個々に移動する]を選択します。**

4 **[画像編集]タブの[移動]で[幅]と[送り]を設定します。またはプレビュー上のドラッグ操作で移動させることができます。**

- 選択したジョブのみ、ここで設定された[幅]と[送り]のサイズだけ移動します。

複数ページジョブの移動方法もここで指定します。
- [ブロック移動する]：ページ全体を移動します。
- [個々に移動する]：選択したページのみ移動します

● ジョブ間の余白を設定する

配置には[余白指定]と[ピッチ指定]があります。

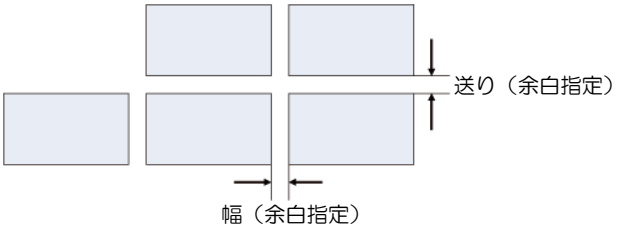
ジョブ間の余白を設定する

1 [画像編集]タブの[配置]で、[余白指定]を選択します。

2 [幅]と[送り]に必要な数値を入力します。

3 プレビューの最適化方法を選択してから、[ ]アイコンをクリックします。

- 設定した余白でジョブが再配置されます。結果はプレビューで確認してください。
- [面付け]機能で設定した余白は、手順3によって上書きされます。



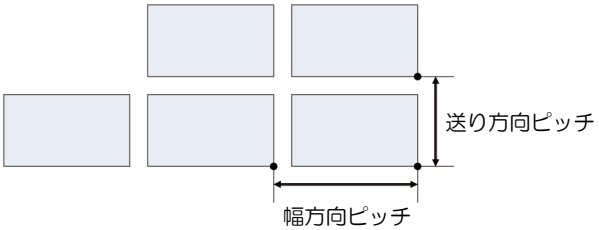
ジョブの原点から次のジョブの原点までの距離を設定する

1 [画像編集]タブの[配置]で、[ピッチ指定]を選択します。

2 [幅]と[送り]に必要な数値を入力します。

3 プレビューの最適化方法を選択してから、[ ]アイコンをクリックします。

- 設定した余白でジョブが再配置されます。結果はプレビューで確認してください。



重要! 以下の場合は[ピッチ指定]が表示されません。

- 面付けされているとき
- 複数ページジョブのとき

複数のページを幅方向に並べて配置する

1 [画像編集]タブの[コピー]で、[個々に移動する]を選択します。

2 [配置]にて必要な余白を指定します。

3 []アイコンをクリックします。

- 設定した余白で複数のページが再配置されます。結果はプレビューで確認してください。



- ブロック移動の場合は縦方向に並べて配置されます。

● 印刷ページを設定する

印刷ページを設定する



- 複数ページジョブのとき、[印刷範囲]の項目が表示されます。

1 [画像編集]タブの[印刷ページ範囲]で、以下のいずれかの設定をします。

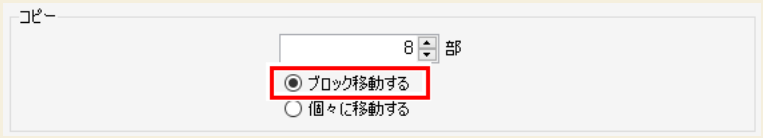
[すべて] : 複数ページジョブのすべてのページを印刷します。
[ページ指定] : 設定したページを印刷します。

設定例）

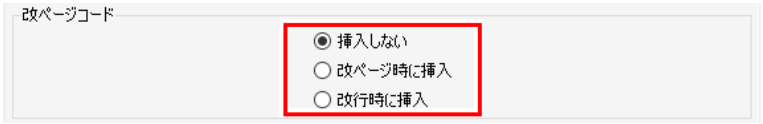
2から5ページまで印刷する場合	:	[2-5]
2,4,6ページだけ印刷する場合	:	[2,4,6]
2から5ページおよび8,11ページを印刷する場合	:	[2-5,8,11]

● 改ページコードを設定する

- [改ページコード]の項目は、以下の場合に表示されます。
  - ジョブが複数ページジョブであること
  - フラットベッドプリンター以外のプリンターであること
- [画像編集]タブの [コピー]で、[ブロック移動する]が選択されている場合に設定が可能です。

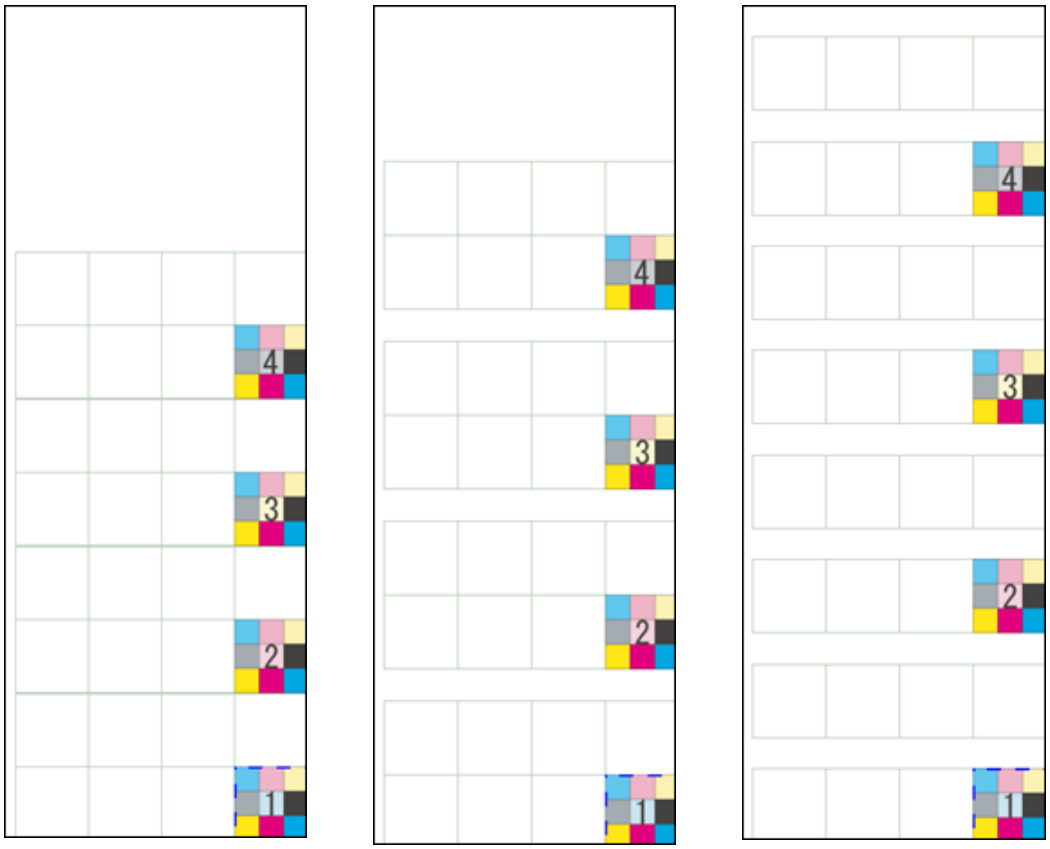


1 [画像編集]タブの[改ページコード]で、以下のいずれかの項目を選択します。



[挿入しない] ： 一番最後に改ページコードを出力します。
[改ページ時に挿入] ： ページ単位に改ページコードを出力します。
[改行時に挿入] ： 行単位に改ページコードを出力します。

・4ページのジョブを8個コピーした場合のレイアウトイメージ



挿入しない　　改ページ時に挿入　　改行時に挿入

[印刷条件]画面の[印刷後カット]をオンにした場合、改ページコードの単位でメディアが裁断されます。

● 作図領域を設定する（フラットベッドプリンターの場合）



- 有効作図領域を登録すると、画像を配置する際の目安になります。また、メディアの外に印刷してしまうのを防ぎます。

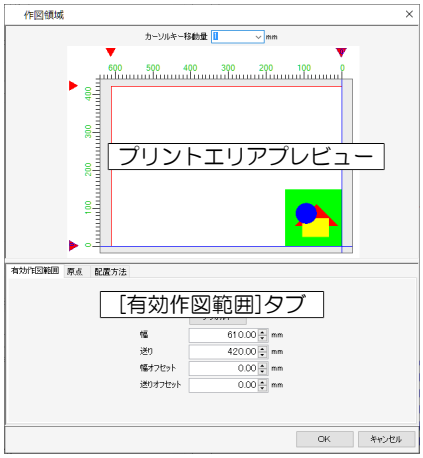
1 **[画像編集]タブの[作図領域]で、テキスト入力枠内に新しく設定する作図領域のテンプレートの名称を入力します。**

2 **[ ]アイコンをクリックします。**

- 新しいテンプレートが登録されます。

3 **[設定]をクリックします。**

- [作図領域]ダイアログが表示されます。



- プリントエリアプレビュー
  [有効作図範囲]タブで設定した有効作図範囲が赤い矩形で表示されます。
- [有効作図範囲]タブ

4 **以下の項目を設定します。**

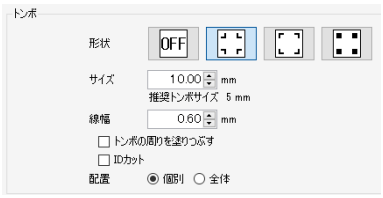
- [デフォルト] ： 有効作図範囲を最大に設定し、原点の位置をプリンターの初期原点の位置に設定します。
- [幅] ： 有効作図範囲の幅を入力します。
- [送り] ： 有効作図範囲の送りを入力します。
- [幅オフセット] ： プリンター原点から幅方向への移動距離を入力します。
- [送りオフセット] ： プリンター原点から送り方向への移動距離を入力します。

● トンボを設定する

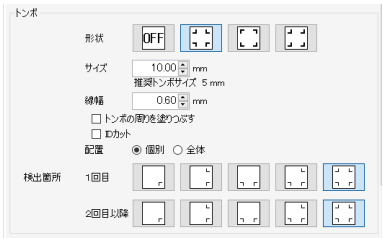
重要！ • 複数ページジョブにトンボをつけることはできません。

1 **[画像編集]タブの[トンボ]で、ジョブに付けるトンボを設定します。**
トンボはカット位置を検出するために使用されます。プリンターおよびカッティングプロッターの設定に合わせて、形状を設定してください。

JV300 Plusの場合



CJV300 Plusの場合



• **[形状]**

以下の形状を選択することができます。トンボを付けない場合は、[OFF]を選択してください。



タイプ1　タイプ2　ゼロマージントンボ　セイホウケイトンボ

ゼロマージントンボについて

重要！ • 本機能は以下のプリンターで使用できます。
CJV300, CV150, UCJV300, CJV300 Plus, CJV330, UCJV330

ゼロマージントンボを使用すると、タイプ1やタイプ2に比べてプリント＆カットで使用するメディアを削減できます。ゼロマージントンボは以下の方法で設定できます。

1 **通常印刷画面で、以下の条件に設定します。**

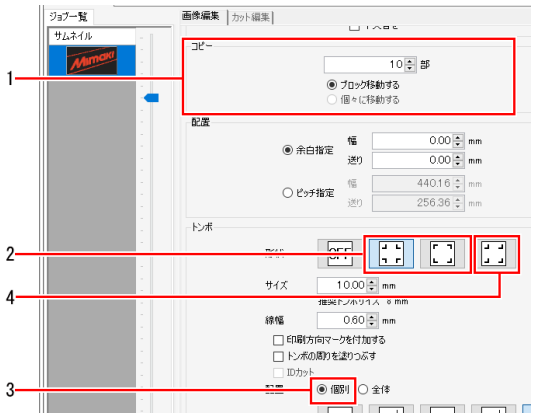
(1) コピーを複数部設定

(2) コピーの移動方法で[ブロック移動する]を選択

2 **トンボの形状で[ ]（タイプ1）、または[ ]（タイプ2）を選択します。**

3 **トンボの配置で[個別]を選択します。[ ]（ゼロマージントンボ）が選択できるようになります。**

4 **トンボの形状で[ ]（ゼロマージントンボ）を選択します。**

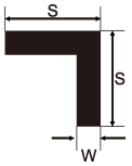


セイホウケイトンボについて

プリント&カット機では使用できません。

- **[サイズ]、[線幅]**

トンボの大きさを変更することができます。[推奨トンボサイズ]として、弊社のプリンターおよびカッティングプロッターで検出する場合の推奨値が表示されますので、これ以上の値を入力してください。



S：トンボサイズ

W：トンボ幅

- [推奨トンボサイズ]はジョブの大きさによって変化します。

- **印刷方向マークを付加する**

トンボ印刷時に▼マークを付加します。前後の判別が難しいジョブの場合、このマークを付けておくと印刷済みメディアを正しい向きでプリンタにセットできます。



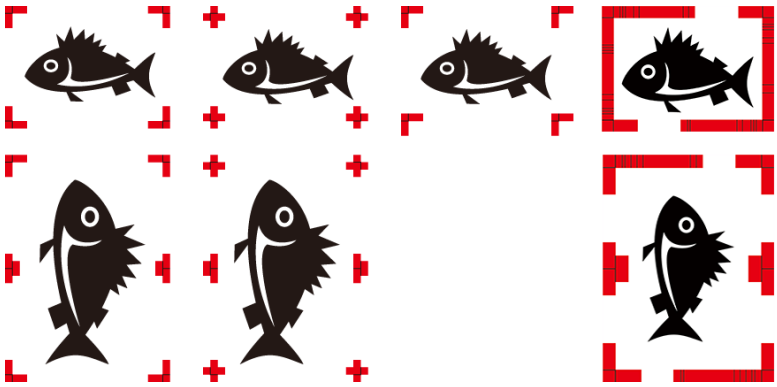
重要！
- 本機能は以下のプリンターで使用できます。
  CJV300, CV150, UCJV300, CJV300 Plus, CJV330, UCJV330

重要！ 以下の場合は印刷方向マーク機能を使用できません。
- [トンボ]の[形状]でゼロマージントンボを選択している場合
- [トンボ]の[形状]で中間トンボを選択している場合
- トンボ間の距離が20mm未満の場合
- IDカット機能が有効な場合
- 面付したジョブの場合

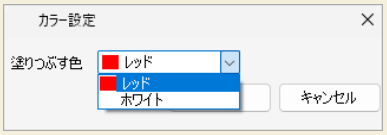
重要！
- 印刷方向マーク機能のお気に入りへの登録はできません。
- 回転を行った場合、回転に合わせて印刷方向マークの位置が移動します。
- トンボサイズやスケールの変更を行っても印刷方向マークのサイズは変更されません。

- **[トンボの周りを塗りつぶす]**

トンボの周りを赤色で塗りつぶすことができます。地の色が白以外のメディアで、トンボが正常に認識されない場合に使用すると、トンボが認識できることがあります。IDカットの場合も有効です。



- ホワイトインク搭載機種をお使いの場合、[カラー設定]画面で[塗りつぶす色]を”ホワイト”に設定することができます。
  赤色で塗りつぶしてもトンボを認識できない場合は、ホワイトインクを指定してください。
  IDカットの場合も適用されます。



- **[配置]**

トンボをジョブごとに付けるか、複数のジョブを配置した全体に付けるかを選択することができます。

[個別] ： ジョブごとにトンボを付けます。カットする際、ジョブごとにトンボを検出するので、読み込み時間がかかりますが、印刷とカットのずれは少なくなります。

プリント＆カットジョブでは、[個別]を選択し、トンボを印刷する設定にした場合、トンボの検出箇所を設定する画面が表示されます。



- 読み取るトンボの数が多いほど、カット位置精度は高くなりますが、時間がかかります。
- トンボの検出箇所は1回目と2回目以降で変えることができます。

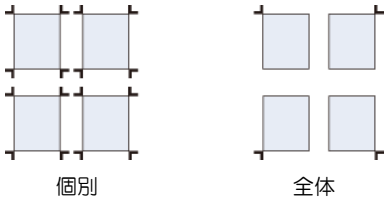
重要! トンボの配置で[個別]を選択した場合、以下の機能を使用することができなくなります。

- [分割印刷]
- [ステップ＆リピート印刷]

重要! トンボの配置で[個別]を選択し、以下のように配置すると、カット後にトンボ検出エラーが発生しますのでご注意ください。

- コピーを複数部設定し、最終行のジョブ数が、1行目のジョブ数より少ないとき

[全体] ： 複数のジョブを配置した全体に対してトンボを付けます。カットする際、検出するトンボ数が少ないため、[個別]と比べて、時間は短くなりますが、印刷とカットのずれが大きくなります。



重要! トンボの配置で[全体]を選択した場合、以下の機能を使用することができなくなります。

- [分割印刷]
- [ステップ＆リピート印刷]
- [クリップ設定]

重要! RasterLink8で付加したトンボは、プリント&カット機またはIDカットの場合を除き弊社カッティングプロッターのトンボ検出機能が使用できません。

- プリント後に弊社カッティングプロッターでカットするときは、FineCutでトンボを付けてください。

・ **[中間トンボ]**

重要! ・ 本機能は以下のプリンターで使用できます。
CJV300, CV150, UCJV300, CJV300 Plus, CJV330, UCJV330

[配置]で[全体]を選択したとき、中間トンボを付けることができます。

中間トンボを付けることによって、より高い精度で長尺のカットを行うことができます。

[分割方向] ： 中間トンボの分割方向を設定します。
[分割数] ： 中間トンボの分割数を設定します。（2～10の範囲で分割数を設定できます。）

重要! 中間トンボを設定する場合、以下の点に注意してください。
- トンボ間が50mm以上になるように分割数を設定してください。
- トンボサイズ以上のオフセットを設定してください。

・ **[オフセット]**

トンボとジョブのオフセットを設定することができます。

● カット線を印刷する

1 **[画像編集]タブの[カット線を印刷]で、[カット線を印刷]チェックボックスをオンにします。**

2 **[設定]をクリックします。**

- [カット線の設定]ダイアログが表示されます。

3 **以下の項目を設定します。**



[線幅] ： 0.3Point～30Point（0.1Point単位）で設定してください。
[線分カラー] ： 線分の色を設定してください。
[間隔カラー] ： 線分と線分の間の色を設定してください。
[破線] ： チェックボックスをオンにすると、線分が破線に切り替わります。
破線形状 ： 破線の線分と間隔を設定してください。

- [カット線を印刷]チェックボックスをオンにすると、出力サイズにはカット線を含めたサイズが表示されます。

重要! 以下の場合にはカット線を印刷することができません。
- [ステップ&リピート印刷]を設定しているとき
- [トンボ]の[形状]で[OFF]以外を指定しているとき
- FineCutからRasterLink出力したトンボ付きのジョブのとき

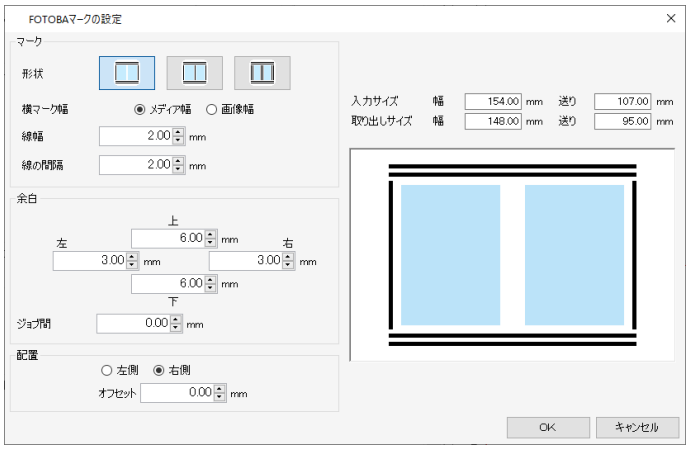
● FOTOBAマークを設定する

1 **[画像編集]タブの[FOTOBA]で、[FOTOBAマークを印刷する]チェックボックスをオンにします。**

2 **[詳細]をクリックします。**

- [FOTOBAマークの設定]ダイアログが表示されます。

3 **以下の項目を設定します。**



[形状] ： ジョブ間のマークを設定します。ジョブ間に縦のマークを印刷しない場合は[]、ジョブ間に縦のマークを印刷する場合は[]、縦のマークを二重線にする場合は[]を選択してください。

[横マーク幅] ： スキャン方向のマークの幅を選択してください。

[線幅] ： 1.0mm～3.0mmで設定してください。

[線の間隔] ： 二重線の間隔を1.0mm～3.0mmで設定してください。

[余白] ： ジョブとマークの間の余白を設定してください。

[ジョブ間] ： [形状]でジョブ間に縦のマークを印刷しない[]を選択した場合は、ジョブ間の余白を設定することができます。1.0mm～1000.0mmで設定してください。

[配置] ： ジョブの配置位置を選択してください。

[オフセット] ： [右側]選択時は右端からマークまでの距離、[左側]選択時は左端からマークまでの距離を設定することができます。

重要! 以下の場合、FOTOBAマークを付けることはできません。

- プリント&カットジョブ
- [Twinロール印刷]するジョブ
- [ステップ&リピート印刷]するジョブ
- 特色版ジョブ
- [通常印刷]画面において、以下のどれかの設定がされているジョブ
  （トンボの形状で[OFF]以外が選択されている、[トリミング位置ロック]がオンになっている、または[カット線を印刷]がオンになっている場合）
- [分割印刷]画面において、[コーナーマークを印刷]や、[カット線を印刷]がオンになっているジョブ
- 自動実行時

- [取り出しサイズ]には、FOTOBAシリーズでカットした後のサイズ(計算したサイズ)が表示されます。
- コピー、面付け、タイリング機能と組み合わせで使用できます。

● XYスリッターを設定する

重要! • 本機能は以下のプリンターで使用できます。
JV330, CJV330, UCJV330

XYスリッターを使用すると、インラインでスリット加工することができます。[XYスリッター編集]チェックボックスをオンにして各項目を設定すると、Xスリット用のマークやガイドラインが印刷されます。

プリンターとRasterLink8の操作を含む運用方法については「330シリーズ　取扱説明書」の「XYスリッターを使ってみる」をご覧ください。

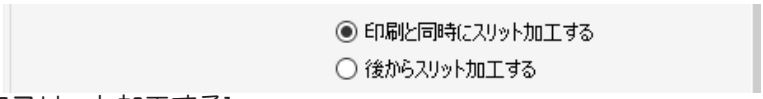
1 [画像編集]タブの[コピー]で、コピーする部数を選択します。

- 差込印刷ジョブをスリット加工する場合は、コピーする必要はありません。

2 [画像編集]タブの[XYスリッター編集]チェックボックスをオンにします。



3 スリット加工の方法を選択します。



[印刷と同時にスリット加工する]

- プリンターで印刷し、フィニッシャーでそのままスリット加工する場合に選択します。
- マークはメディア右端に印刷されます。
- マークを印刷するため、印刷可能領域の幅が30mm小さくなります。

[後からスリット加工する]

- プリンターで印刷し、後からスリット加工する場合に選択します。
- マークはメディア右端/左端に印刷されます。
- マークを印刷するため、印刷可能領域の幅が60mm小さくなります。

- マークは以下の5種類あり、間隔は設定に応じて自動で決まります。(サイズは変更できません)

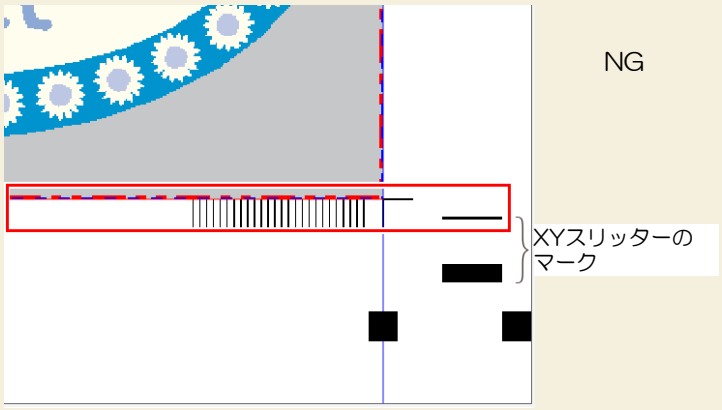
———	マーク1	幅: 30 mm	送り: 1.5 mm
▬▬	マーク2	幅: 30 mm	送り: 6 mm
■	マーク3	幅: 10 mm	送り: 10 mm
———	マーク4	幅: 20 mm	送り: 1 .5mm
▬▬	マーク5	幅: 20 mm	送り: 6 mm

以下の機能と組み合わせて使用することはできません。

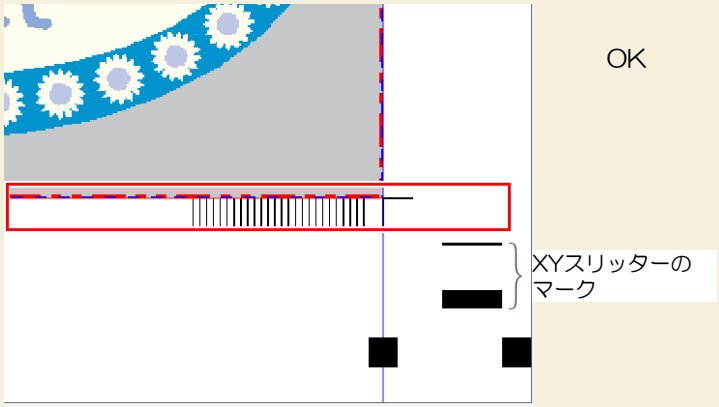
- 品質画面のオートカット
- カット編集のオートカット
- 配置最適化
- コピーのブロック移動
- トンボの周りを塗りつぶす
- FOTOBA
- カット線
- 中央配置
- カラーパターン
- 左右マージン
- ステップ＆リピートジョブ
- 外枠カット
- プリント＆カットジョブ
  ・[後からスリット加工する]を選択している場合のみ使用できます。
  ・IDカットも指定可能です。ただし、FineCutからのプリント＆カットジョブは併用できません。
- トンボ
  ・[後からスリット加工する]を選択している場合のみ使用できます。
  ・[XYスリッター編集]チェックボックスをオンにしてる場合、ゼロマージントンボは使用できません。
  ・個別トンボは、コピー部数が1部の場合のみ使用できます。コピー部数が2部以上の場合は、全体トンボのみ使用できます。
- 引き戻し印刷（UCJV330）

重要! IDカットとXYスリッターを組み合わせて使用するときは、IDとXYスリッターのマークが同じラインに重ならないようにしてください。
上下の裁ち落し設定によっては、同じラインにマークが印刷され、IDカットのトンボ検出時に検出エラーが発生します。マークが重ならないようにご注意ください。

- 例1）同じラインにマークが印刷される場合

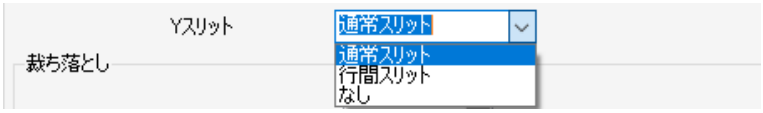


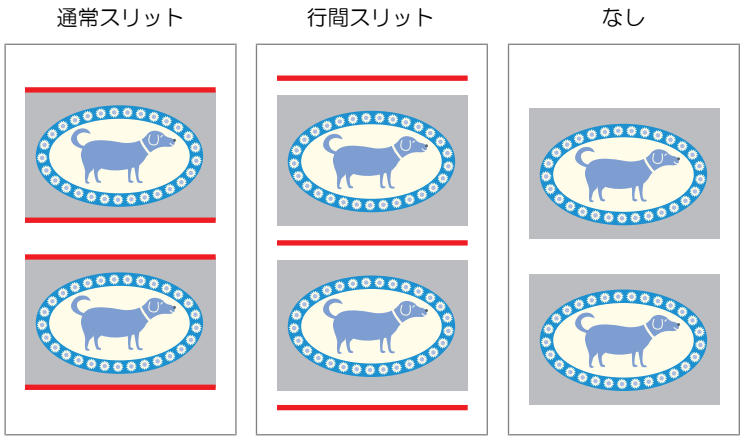
- 例2）同じラインにマークが印刷されない場合



4 [Yスリット]でY方向のスリット方法を選択します。

- 以下の3種類のスリット方法があります。
  [通常スリット]、[行間スリット]、[なし]



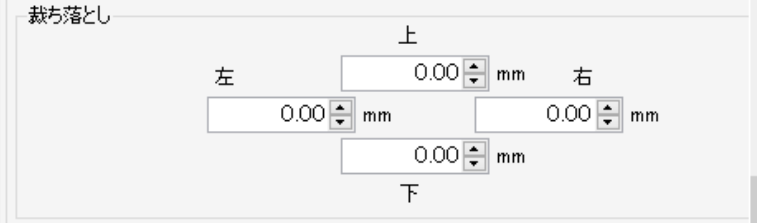


Y方向: 赤線部分がスリット加工されます

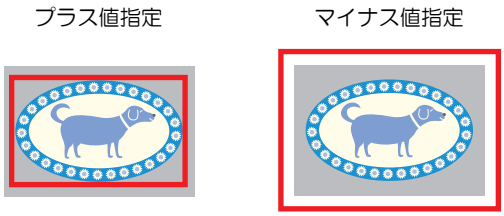
項目	[通常スリット]	[行間スリット]	[なし]
Yスリット位置	画像の上辺、下辺	余白(送り)/2*1	なし
サイズ	送り：297mm以上 幅：210mm以上	送り：297mm以上 幅：210mm以上	送り：297mm以上 幅：210mm以上
余白(送り)	62mm以上	0mm以上	0mm以上

*1： 余白10mmの場合、画像上辺/下辺に5mmの余白を残してスリット加工されます。全画像データが同じサイズでスリット加工されます。

5 [裁ち落とし]で余白を設定します。



プラス値指定　：指定したサイズ分、画像データの内側がスリット加工されます。（フチなし）
マイナス値指定　：指定したサイズ分、画像データの外側がスリット加工されます。（余白を付加）

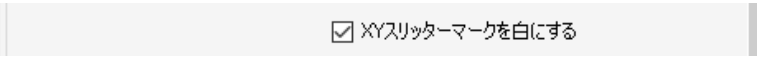


X/Y方向: 赤線部分がスリット加工されます

項目	[通常スリット]	[行間スリット]	[なし]
[裁ち落とし]	上下左右	左右	左右

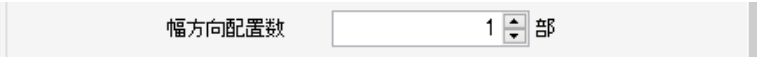
6 マークおよびXカッターガイドラインをホワイトインクで印刷する場合、[XYスリッターマークを白にする]のチェックボックスをオンにします。

- プリンターにホワイトインクがセットされている場合に表示されます。
- 透明メディアをスリット加工する場合に使用します。

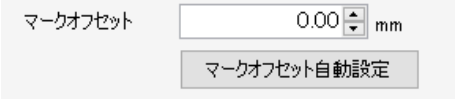


7 [幅方向配置数]でメディアの幅方向に配置する画像データの数を設定します。

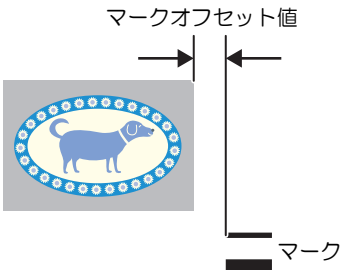
- 最大2部です。(2部指定した場合、Xカッターは4個必要です)



8 [マークオフセット]でマークと画像の間の幅方向余白を設定します。



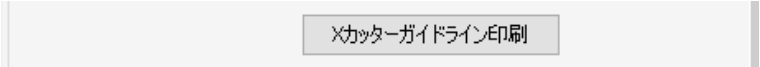
- [マークオフセット自動設定]をクリックするとオフセットが自動で設定され、画像データがメディアの中央に配置されます。



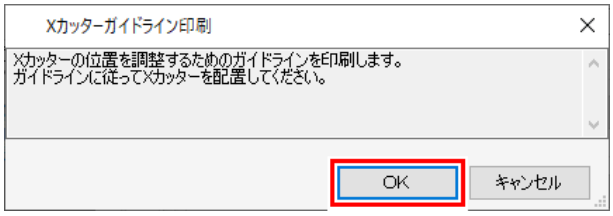
重要! 幅方向配置数とマークオフセットに関する注意事項

- [後からスリット加工する]を選択している状態で[マークオフセット自動設定]を使用すると、メディアの左端にマークが付加されます。
  その状態で[幅方向配置数]の部数を増やすとマークがメディアからはみ出してしまうため、そのままでは配置数を増やすことはできません。
  配置数を増やしたい場合は、[マークオフセット]に0を入力してから[幅方向配置数]の部数を増やしてください。

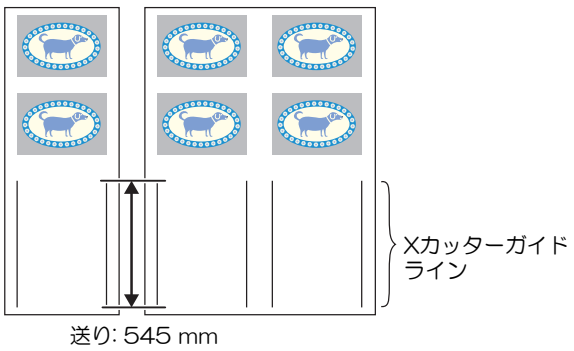
9 Xカッターをセットするためのガイドラインを印刷する場合、[Xカッターガイドライン印刷]をクリックします。



- [XYカッターガイドライン印刷]ダイアログが表示されます。
- [OK]をクリックするとXカッターガイドラインが印刷されます。

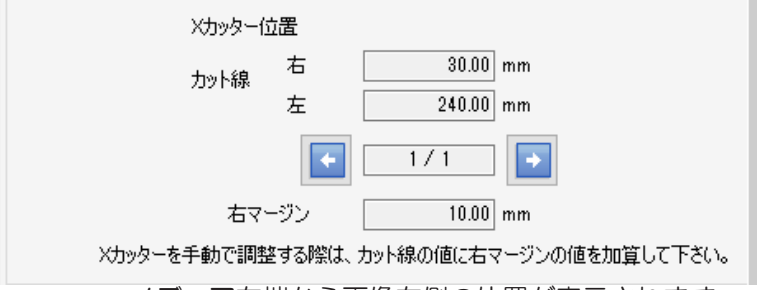


- 幅方向配置数が1部の場合：Xガイドラインが2本印刷されます。
- 幅方向配置数が2部の場合：Xガイドラインが4本印刷されます。
- ガイドラインの送り方向サイズは、545mmです



- 本体の操作パネルに従って、印刷されたXカッターガイドラインの位置にXカッターの刃をセットします。

10 [Xカッター位置]を確認します。



[カット線] [右] :メディア右端から画像右側の位置が表示されます。
[左] :メディア右端から画像左側の位置が表示されます。
[右マージン] :プリンターに設定した右マージンのサイズが表示されます。
 :幅方向配置数が2部の場合、左右ボタンで列を選択し、Xカッター位置を確認できます。

- Xカッター位置を計算するときは、画面に表示するXカッター位置に右マージンのサイズを加算してください。

XYスリッター編集は以下の機能またはジョブと組合わせて使用することができます。
- [通常印刷]画面でコピーを複数部設定し、かつ[個々に移動する]を選択しているジョブ
- 合成ジョブ
- 差込印刷ジョブ
- [クリップ設定]画面でクリップしたジョブ
- 配置の余白指定をしているジョブ
- 移動を設定しているジョブ（[中央合せ]はオフにします）
- 印刷情報ラベルを付加したジョブ

● 情報ラベルを設定する

1 [画像編集]タブの[印刷情報ラベル]で、[ラベルを付加する]チェックボックスをオンにします。

2 付加したい情報のチェックボックスをオンにします。

- [印刷日時]チェックボックスをオンにした場合、[実行]で[印刷のみ]を選択してもRIPが実行されます。

● 印刷を実行する

1 プレビューの[]アイコンをクリックします。

- RIP/印刷が開始されます。

- 実行される処理は、[オプション] - [ジョブ制御]画面（☞ P. 244）で設定できます。

2.2.8 分割印刷

大きなジョブを分割して印刷します。

分割印刷 - 機能



- RasterLink8では看板などの施工対象物をワーク、ワークを分割したものをタイルと言います。

[分割印刷]では以下の操作を行うことができます。

- 分割印刷用のジョブを拡大、縮小させる
- 分割印刷用のジョブを回転させる
- 分割印刷用のジョブを左右に反転させる
- ワークとして出力される範囲を設定する
- ワークをタイルに分割する
- 重ね代を設定する
- タイル番号を印刷する
- カット線を印刷する
- タイルの印刷順を設定する
- 偶数列のタイルを反転させる
- 任意の場所にタイルを配置する
- 特定のタイルを移動する



- 最大で100個のタイルに分割することができます。

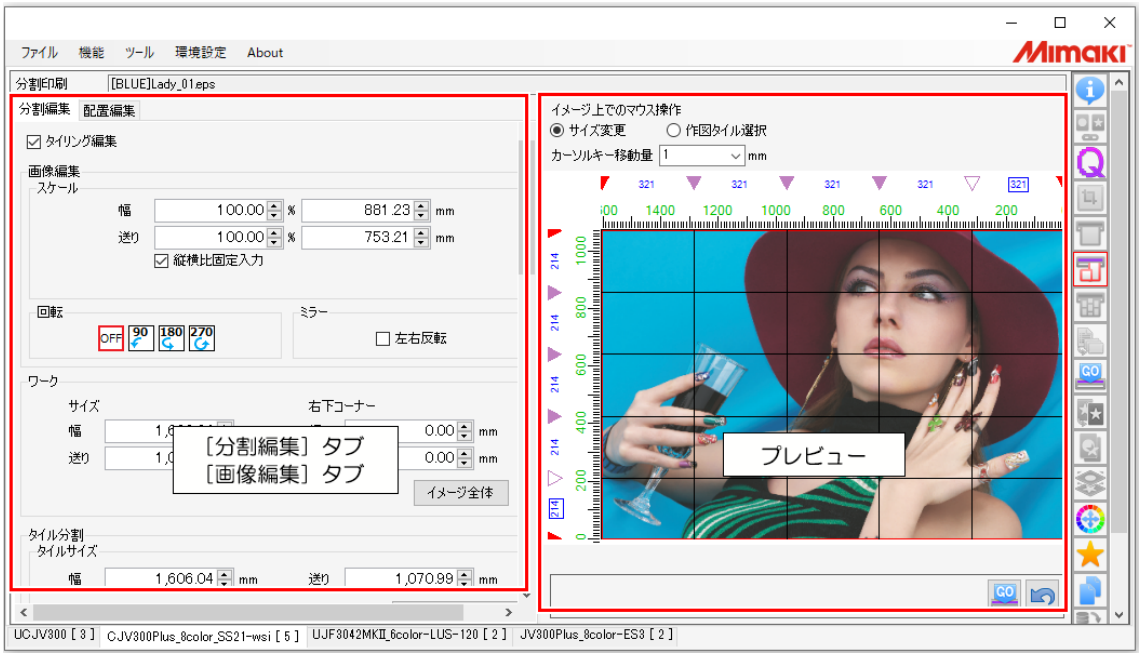
● 条件

以下の設定が行われているジョブは[分割印刷]を設定することができません。

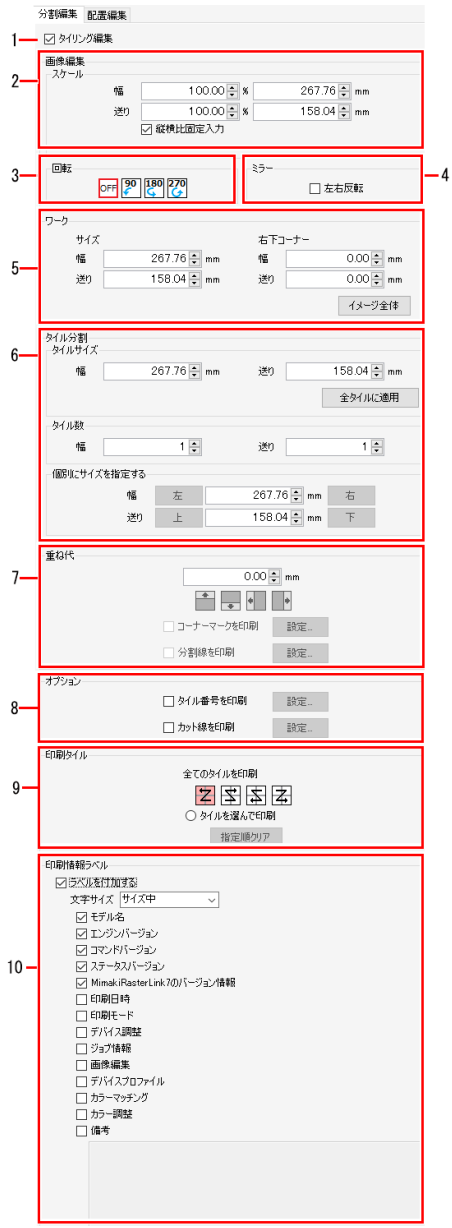
- [面付け]
- [ステップ＆リピート印刷]
- [合成]
- [プリント＆カット]
- [通常印刷]でトンボを設定しているとき
- [通常印刷]などでコピー数を2以上に設定しているとき
- 複数ページジョブ
- [差込編集]
- [エッジ最適化]
- [トリミング位置ロック]がオンの場合

分割印刷 - 画面構成

● [分割印刷]画面



● [分割編集]タブ



1.[タイリング編集]

[分割印刷]を設定する/しないを選択します。

2.[スケール]

ジョブを拡大、縮小させます。

3.[回転]

ジョブを回転させます。

4.[ミラー]

ジョブを左右反転させます。

5.[ワーク]

ワークとして出力する範囲を設定します。

6.[タイル分割]

ワークをタイルに分割します。

7.[重ね代]

タイルが隣り合う部分に重ね代を設定します。

8.[オプション]

タイルに印刷する番号や外枠の線を設定します。

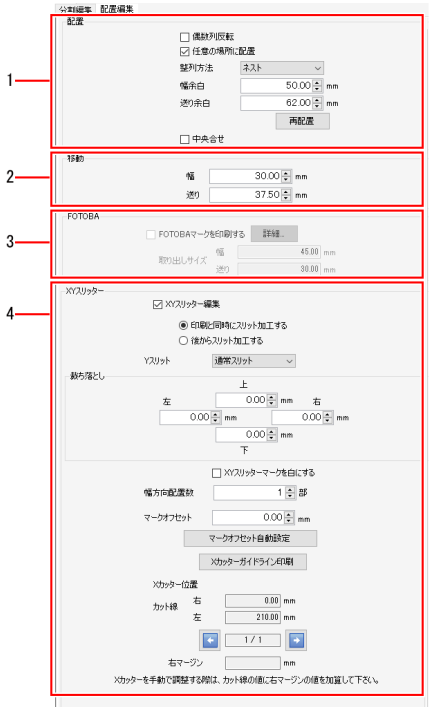
9.[印刷タイル]

印刷するタイルの選択や、タイルの印刷順を設定します。

10.[印刷情報ラベル]

印刷したい情報を選択します。

● [配置編集]タブ



1.[配置]

タイルを印刷する際の配置方法を設定します。

2.[移動]

特定のタイルの配置を調整します。

3. [FOTOBA]

チェックボックスをオンにすると、ジョブにFOTOBAシリーズ（高速フィニッシングカッターマシン）で使用するカットマークをつけて印刷されます。設定方法は☞「FOTOBAマークを設定する」（P. 101）をご覧ください。

4. [XYスリッター]

チェックボックスをオンにすると、XYスリッター用のマークやガイドラインが印刷されます。設置方法については、☞「XYスリッターを設定する」（P. 102）をご覧ください。

分割印刷 - 操作

● 分割印刷の設定を開始する

1 [分割編集]タブの[タイリング編集]チェックボックスをオンにします。

- [分割印刷]メニューの各種設定ができるようになります。

● 分割印刷用のジョブを拡大、縮小させる

1 [スケール]にある[有効]チェックボックスをオンにします。

2 印刷するジョブの[幅]と[送り]を設定します。

- [幅]と[送り]は倍率（%）またはサイズで設定できます。
- [縦横比固定入力]チェックボックスがオンの場合、元画像の縦横比を固定したままジョブを拡大、縮小させることができます。

● 分割印刷用のジョブを回転させる

1 [回転]から反時計回りに回転させる角度を選択します。

● 分割印刷用のジョブを左右に反転させる

1 [ミラー]にある[左右反転]チェックボックスをオンにします。

● ワークとして出力される範囲を設定する

1 [ワーク]にある[サイズ]の[幅]と[送り]を設定します。

2 [右下コーナー]の[幅]と[送り]を設定します。

- ワークの右下の基準点が変更されます。
- ワークとして出力される範囲が、プレビュー上に赤い線で表示されます。



- [イメージ全体]をクリックすると、設定がリセットされます。

● ワークをタイルに分割する

タイルサイズを設定して分割する

1 [タイル分割]にある[タイルサイズ]の[幅]と[送り]を設定します。

2 [全タイルに適用]をクリックします。

- ワークは右下の原点を基準に分割されます。

タイル数を設定して分割する

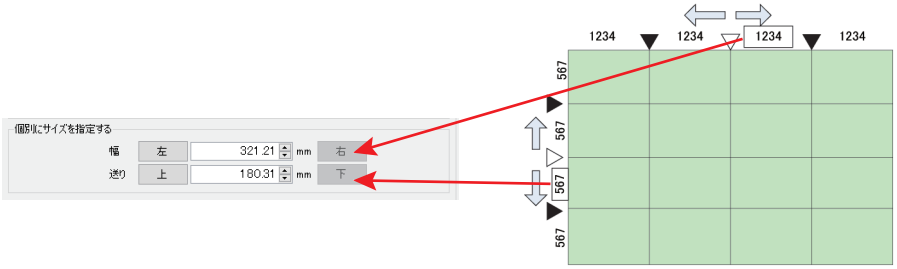
1 **[タイル分割]にある[タイル数]の[幅]に数値を設定します。**

2 **[タイル数]の[送り]に数値を設定します。**

- ワークは同じサイズのタイルで均等に分割されます。

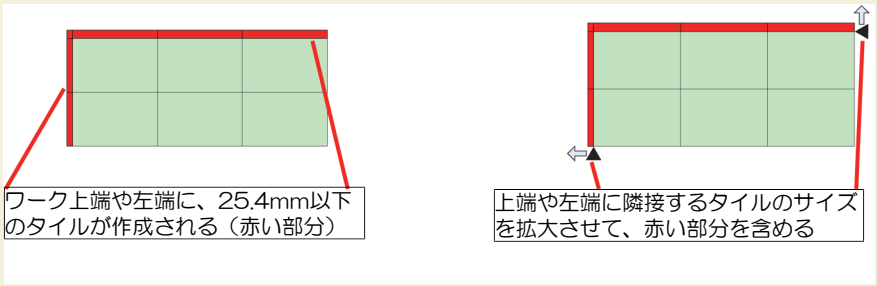
・タイルのサイズを個別に設定したい場合

[右][左][上][下]ボタンを使って対象のタイルを選択し、サイズを指定します。
選択されたタイルは、以下のようにサイズが四角で囲まれてプレビュー表示されます。
▼マークをクリックすると選択状態(▽)になり、カーソルキーで微調整することができます。



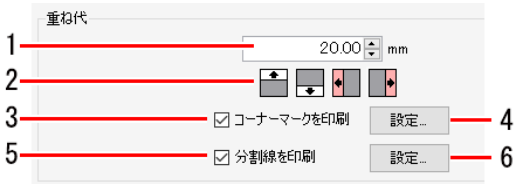
重要!

- 1つのタイルの大きさは、25.4mm四方より大きくしてください。
  ワークの上端や左端に、25.4mm以下のタイルが作られてしまうことがあります。
  このとき、[個別にサイズを指定する]で上端や左端に隣接するタイルのサイズを拡大させてください。
- 25.4mm以下のタイルがあると、印刷実行時や画面切り替え時に警告メッセージが表示され、処理が中断されます。



● 重ね代を設定する

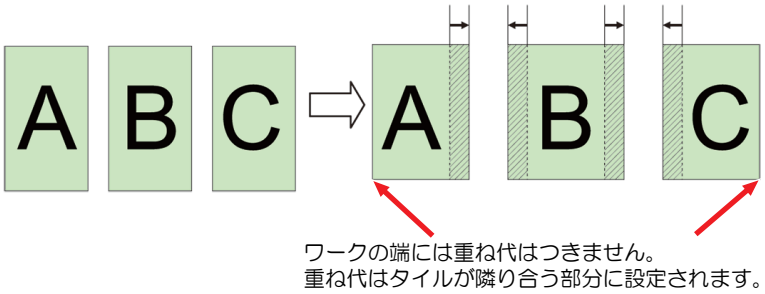
看板に施工する際、画像を分割したものをそのまま貼り合わせると隙間ができてしまうことがあります。
これを防ぐため、タイルが隣り合う部分に重ね代を設定することができます。



1 **[重ね代]にある数値入力枠（図中1）に、重ね代の長さを入力します。**

2 **重ね位置選択アイコン（図中2、上下左右の4つのアイコン）をクリックします。**

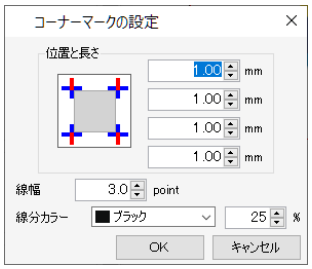
- アイコンをクリックすると、色が変わります。
- 下の図は、ワークを幅方向で3つに分割した例です。重ね位置選択アイコンの「左」と「右」をクリックした場合、重ね代は以下のように設定されます（斜線部が重ね代）。



3 **タイルを張り合わせる際の目印となるマークを印刷したいときは、[コーナーマークを印刷]チェックボックス（図中3）をオンにします。**

4 **[設定ボタン]（図中4）をクリックすると、[コーナーマークの設定]ダイアログが表示されます。**

[コーナーマークの設定]ダイアログ



[位置と長さ] ： ＋マークの線の長さ（0～100mm）を設定します（編集中は、ダイアログの＋マークのうち、長さを変更させる箇所が赤く表示されます）。

[線幅] ： ＋マークの、線の幅（0.3～30pt）を設定します。0.1pt単位で設定できます。

[カラー] ： ＋マークの色と濃度を設定します。

- [OK]をクリックすると、設定が適用されます。

5 **タイル本体と重ね代の境界に線を印刷したいときは、[分割線を印刷]チェックボックス（図中5）をオンにします。**

6 [設定]（図中6）をクリックすると、[分割線の設定]ダイアログが表示されます。

[分割線の設定]ダイアログ



[線幅] ： 線の幅を設定します。0.1pt単位で設定できます。

[線分カラー] ： 線の色を設定します。

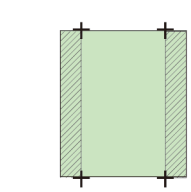
[間隔カラー] ： 線分と線分の間の色を設定します。

[破線] ： チェックボックスをオンにすると、破線に変更されます。線分と間隔を1mm単位で設定できます。

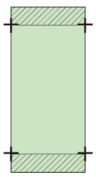
- [OK]をクリックすると、設定が適用されます。

コーナーマークおよび分割線は、重ね代の上に印刷されます。

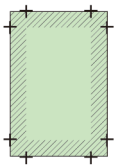
コーナーマーク



重ね代が左右に付いた場合

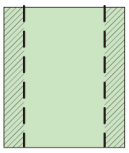


重ね代が上下に付いた場合

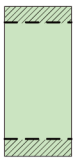


重ね代が四方に付いた場合

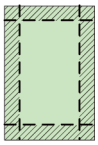
分割線



重ね代が左右に付いた場合



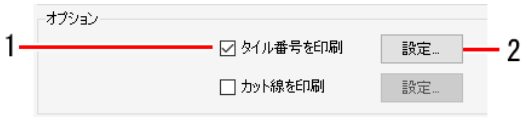
重ね代が上下に付いた場合



重ね代が四方に付いた場合

● タイル番号を印刷する

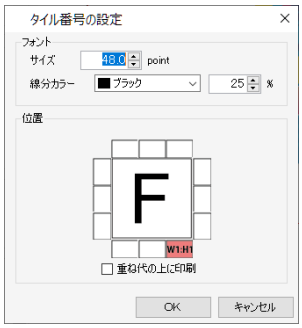
設定を有効にすると、印刷したタイルがどの位置の画像かわかるようにタイル番号が印刷されます。



1 **[オプション]にある[タイル番号を印刷]チェックボックスをオンにします。**

2 **[設定]をクリックすると、[タイル番号の設定]ダイアログが表示されます。**

[タイル番号の設定]ダイアログ



[サイズ] ： 印刷されるタイル番号のフォントサイズを設定します。（10～120Point）

[線分カラー] ： 印刷されるタイル番号の色を設定します。

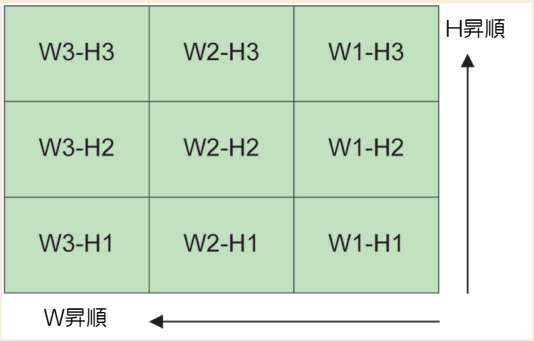
[位置] ： タイル番号を印刷する位置を設定します。

[重ね代の上に印刷] ： チェックボックスをオンにすると、重ね代の上にタイル番号が印刷されます。

- [OK]をクリックすると、設定が適用されます。

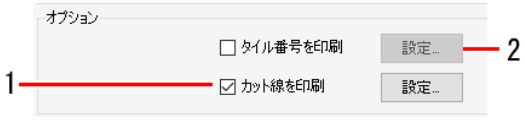


- タイル番号はスキャン方向をW、送り方向をHとし、右下端（印刷原点）のタイルは（1,1）として表示されます。



● カット線を印刷する

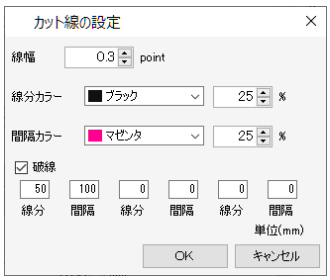
設定を有効にすると、タイルの外周にカット線を印刷します。タイルに空白部がある場合などに、カットする目安としてお使いいただけます。



1 **[オプション]にある[カット線を印刷]チェックボックスをオンにします。**

2 **[設定ボタン]をクリックすると、[カット線の設定]ダイアログが表示されます。**

[カット線の設定]ダイアログ



[線幅] ： 線の幅を設定します。0.1pt単位で設定できます。

[線分カラー] ： 線の色を設定します。

[間隔カラー] ： 線分と線分の間の色を設定します。

[破線] ： チェックボックスをオンにすると、破線に変更されます。線分と間隔を1mm単位で設定できます。

- [OK]をクリックすると、設定が適用されます。

- カット線は重ね代を含むタイルの外周に印刷されます。

● タイルの印刷順を設定する

<u>全部のタイルを印刷する</u>

1 **[印刷タイル]にある[全てのタイルを印刷]の[]アイコンをクリックします。**

例）ワークを9つのタイルに分割した場合

アイコン				
印刷順	9 8 7 6 5 4 3 2 1	7 8 9 4 5 6 1 2 3	3 2 1 6 5 4 9 8 7	1 2 3 4 5 6 7 8 9

特定のタイルを印刷する

1 **[印刷タイル]にある[タイルを選んで印刷]を選択します。**

- プレビューの各タイルに、印刷順を示す番号が表示されます。

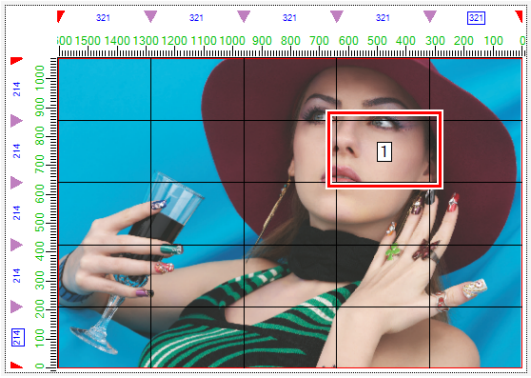


2 **[指定順クリア]をクリックします。**

- プレビューの番号が消えます。

3 **プレビューで、印刷したいタイルをクリックします。**

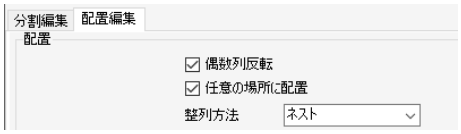
- クリックしたタイルに印刷順を示す番号が表示されます。
- クリックした順に、印刷順が決まります。
- [指定順クリア]をクリックすると設定した印刷順がリセットされます。



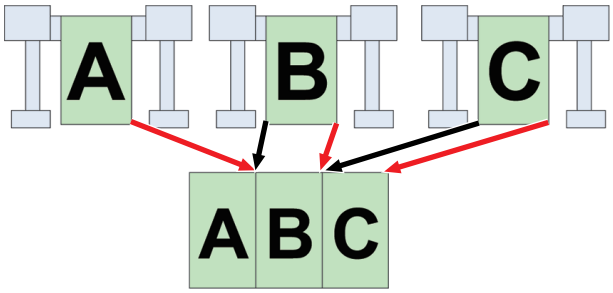
● 偶数列のタイルを反転させる

プリンターの左右でヒーター温度にムラができると、微妙な色の違いが生じることがあります。
そのため、タイルを張り合わせる際に隣り合うタイルの境界部分が目立って見えることがあります。
このような場合、偶数列のタイルを反転させて印刷してください。

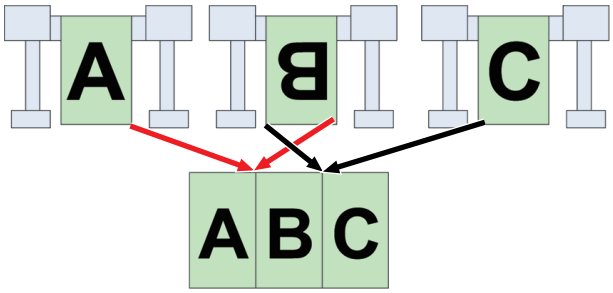
1 [配置編集]タブの[配置]にある[偶数列反転]チェックボックスをオンにします。



- 偶数列反転オフ：全タイル同じ方向で印刷されます。

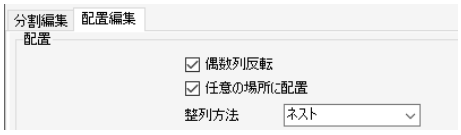


- 偶数列反転オン：偶数列（ここではBのタイル）が180°回転して印刷されます。



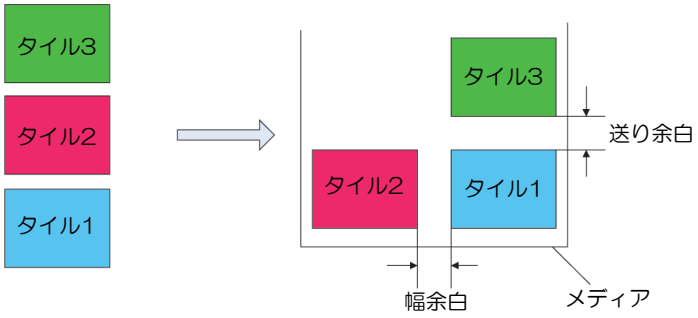
● 任意の場所に配置する

1 [配置編集]タブの[配置]にある[任意の場所に配置]チェックボックスをオンにします。

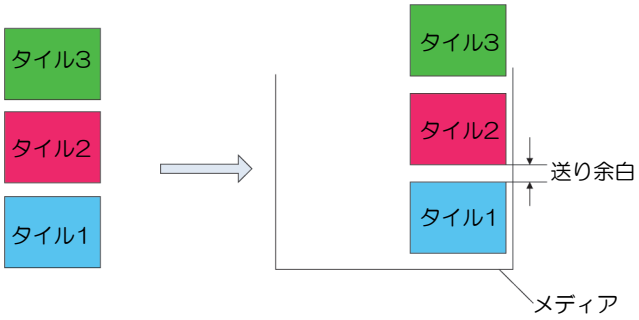


2 [整列方法]を選択します。

- [ネスト]：タイルを幅方向に並べて配置します。



- [順次]：タイルを送り方向に並べて配置します。



3 [幅余白]、[送り余白]を設定します。

4 [再配置]をクリックします。

- [中央合せ]チェックボックスをオンにすると、タイル全体がメディアの中央に配置されます。
- プレビュー上でタイルをドラッグすることで任意の場所に配置することもできます。

● 特定のタイルを移動する

1 プレビューで、移動させたいタイルを選択します。

2 [配置編集]タブの[移動]にある[幅]と[送り]に数値を入力します。

- タイルが移動します。



● 印刷を実行する

1 プレビューの[]アイコンをクリックします。

- 前回、使用した[実行]と同じ設定でRIP、印刷が開始されます。
設定については☞「実行」（P. 129）をご覧ください。

2.2.9 ステップ&リピート印刷

画像データを隙間なく並べて印刷します。

ステップ&リピート印刷 - 機能

[ステップ&リピート印刷] では、以下の操作を行うことができます。

- ステップ&リピート印刷用のジョブを拡大、縮小させる
- ステップ&リピート印刷用のジョブを回転させる
- ステップ&リピート印刷用のジョブを左右に反転させる
- ジョブ全体を移動させる
- ジョブの並び方および印刷するサイズを設定する
- シールコピーを設定する（Roll to Roll プリンターの場合）

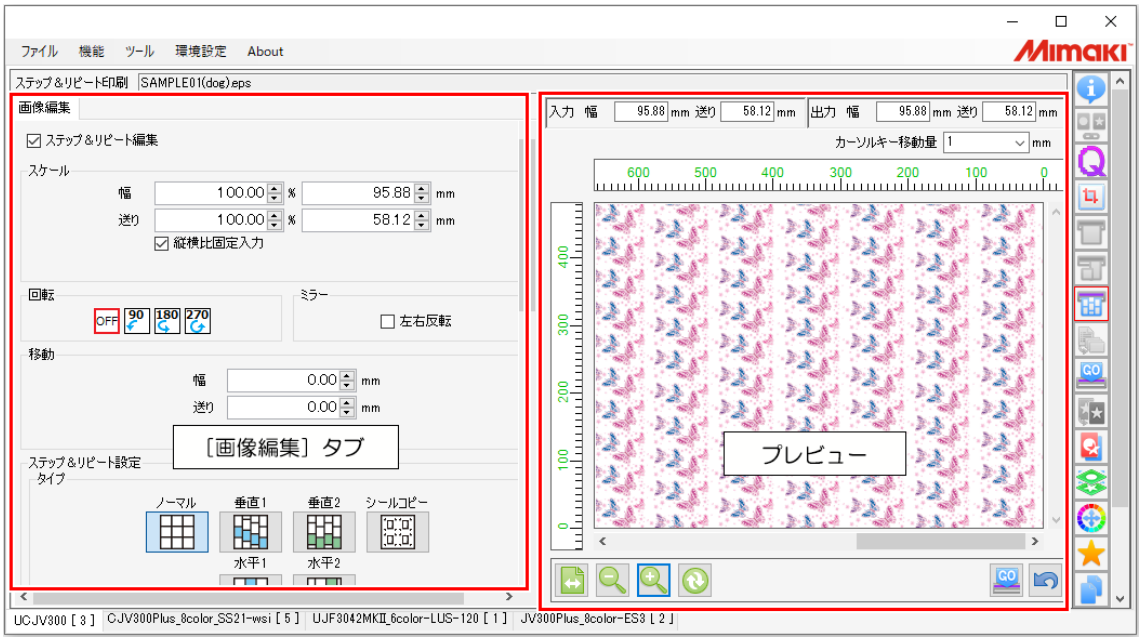
● 条件

以下の設定が行われているジョブは [ステップ&リピート印刷] を設定することができません。

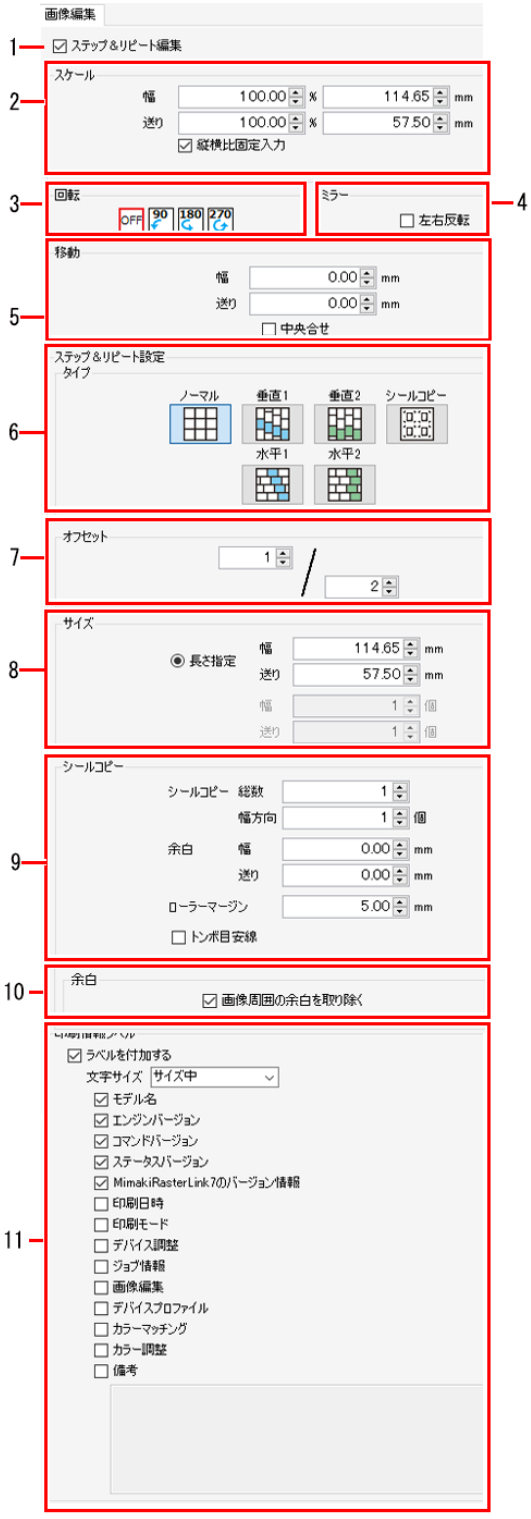
- [面付け]
- [分割印刷]
- [プリント&カット]
- 複数ページジョブの場合
- [通常印刷]などでコピー数を2以上に設定している場合
- [通常印刷]でトンボを設定している場合
- [版作成]で作成した特色版ジョブを含む合成ジョブの場合
- [単色印刷]で[置換後の色]を特色インクに設定したジョブを含む合成ジョブの場合
- [差込編集]
- [エッジ最適化]
- [トリミング位置ロック]がオンの場合

ステップ&リピート印刷 - 画面構成

● [ステップ&リピート印刷]画面



● [画像編集]タブ



1.[ステップ&リピート編集]

ステップ&リピート印刷する/しないを選択します。

2.[スケール]

ジョブを拡大、縮小させます。

3.[回転]

ジョブを回転させます。

4.[ミラー]

ジョブを左右反転させます。

5.[移動]

[ステップ&リピート印刷]で配置したジョブ全体を移動させます。

6.[タイプ]

ジョブの並び方を設定します。

7.[オフセット]

ジョブの並び方を調整します。

8.[サイズ]

印刷するサイズを設定します。

9.[シールコピー]（Roll to Rollプリンターの場合）

シールコピーを設定します。

10.[余白]

画像周囲の余白を取り除くか選択します。

11.[印刷情報ラベル]

印刷したい情報を選択します。

ステップ&リピート印刷 - 操作

● ステップ&リピート印刷の設定を開始する

1 [画像編集]タブの[ステップ&リピート編集]チェックボックスをオンにします。

- [ステップ&リピート印刷]画面の各種設定ができるようになります。

● ステップ&リピート印刷用のジョブを拡大、縮小させる

1 [画像編集]タブの[スケール]にある[有効]チェックボックスをオンにします。

2 印刷するジョブの[幅]と[送り]を設定します。

- [縦横比固定入力]チェックボックスがオンの場合、元画像の縦横比を固定したままジョブを拡大、縮小させることができます。

● ステップ&リピート印刷用のジョブを回転させる

1 [分割編集]タブの[回転]から反時計回りに回転させる角度を選択します。

● ステップ&リピート印刷用のジョブを左右に反転させる

1 [画像編集]タブの[ミラー]にある[左右反転]チェックボックスをオンにします。

● ジョブ全体を移動させる

原点位置を設定する

1 [画像編集]タブの[移動]で、[幅]と[送り]を入力します。

- ジョブ全体の原点位置が、ここで設定した[幅]と[送り]の分だけ変更されます。

幅方向の中央に配置する

1 [画像編集]タブの[移動]で、[中央合せ]チェックボックスをオンにします。

- ジョブ全体がメディアの幅方向の中央に配置されます。

● ジョブの並び方を設定する

1 [画像編集]タブの[タイプ]にあるアイコンを選択します。

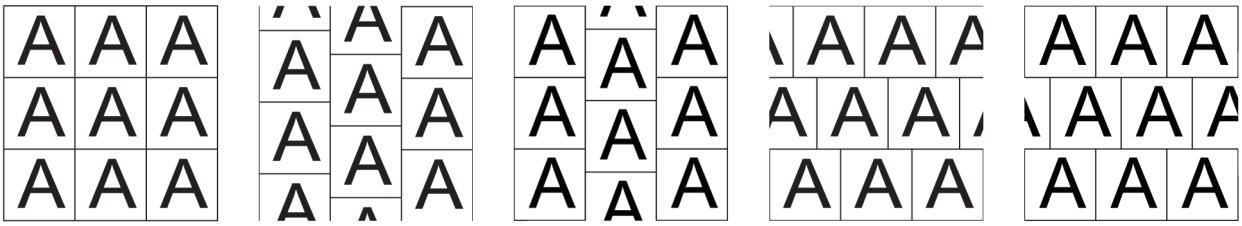
[タイプ]アイコン

	[ノーマル]	：	行列をそろえて並べます。
	[垂直1]	：	垂直方向にずらして並べます。 1列ごとにオフセット分のずれ量が加算されます。
	[垂直2]	：	垂直方向にずらして並べます。 偶数列のみオフセット分ずれます。
	[水平1]	：	水平方向にずらして並べます。 1行ごとにオフセット分のずれ量が加算されます。
	[水平2]	：	水平方向にずらして並べます。 偶数列のみオフセット分ずれます。
	[シールコピー]	：	「シールコピーを設定する（Roll to Roll プリンターの場合）」☞ P. 128をご覧ください。

2 [オフセット]に任意の数値を設定します。

- 行または列のずらす量を分数で設定します。
- 左の入力枠は分子、右の入力枠は分母を表します。

例）オフセットを1/3に設定した場合



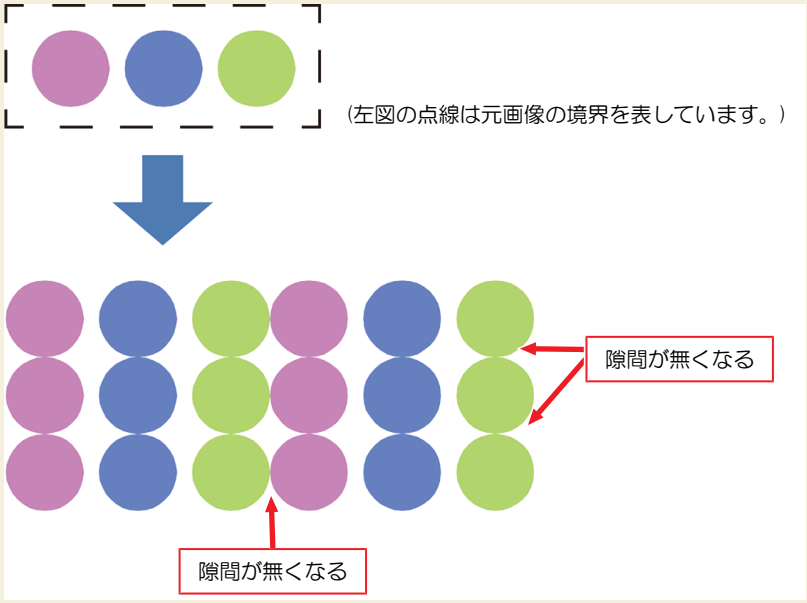
3 [サイズ]で印刷するサイズを設定します。

- 長さで指定する場合
  [長さ指定]に、[幅]と[送り]（最大950,000mm）を設定してください。
- 個数で指定する場合
  [個数指定]に、[幅]（列数）と[送り]（行数）を設定してください。
  送り個数の最大値は、950,000mm / スケールを掛けた画像の送りサイズになります。

重要！ 元画像の周囲にある余白について

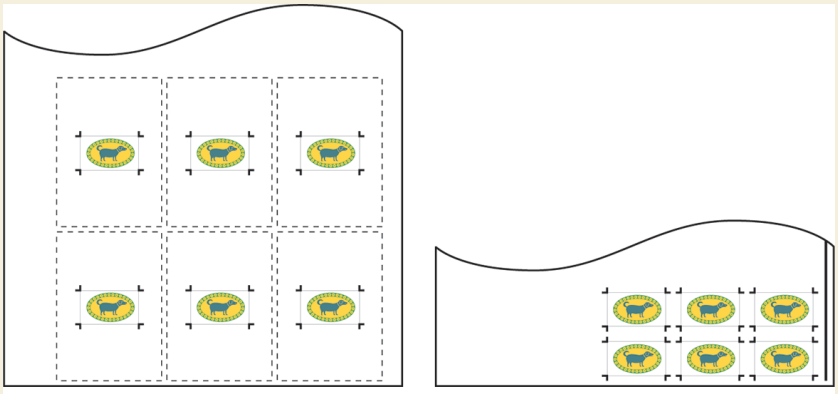
- ジョブを並べる際、元画像の周囲にある余白は削除されます。
- 元画像を作成する際に、あえて周囲に空白を設定した場合でも、空白は削除されます。

例）[ノーマル]アイコンを選択し、[個数指定]で幅を2、送りを3に設定した場合



重要！ プレビューと実際の印刷結果の違い

- プレビューは、実際の印刷結果とは異なります。
- プレビューには余白が削除されないまま表示されます。



● シールコピーを設定する（Roll to Rollプリンターの場合）

カット用のジョブを並べて配置するときに、コピーして使用します。

1 [画像編集]タブの[タイプ]にある[ ]アイコンをクリックします。

2 [シールコピー]で各項目を設定します。

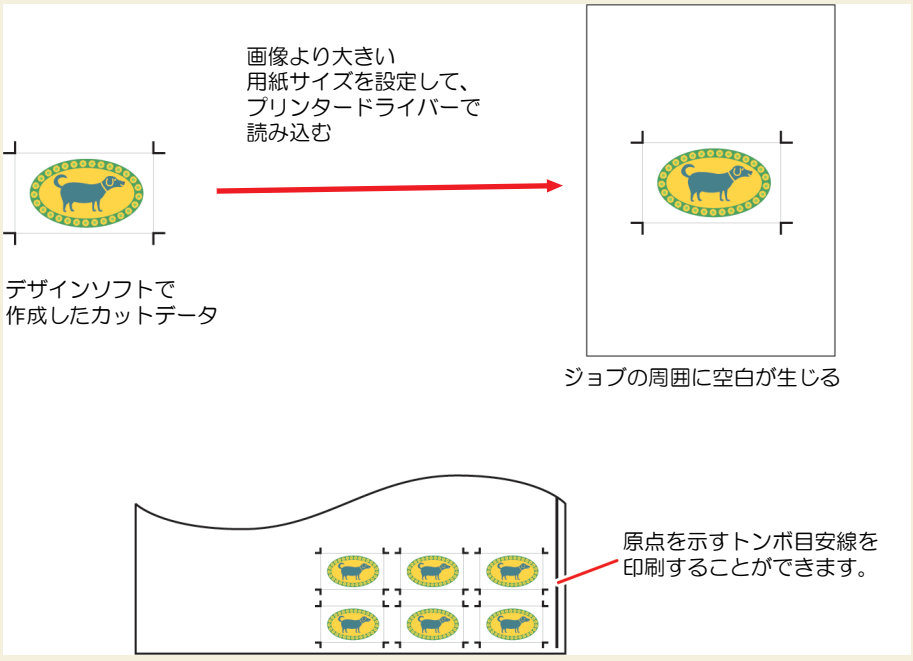
[総数] ： ジョブの個数を設定します。
[幅方向] ： 幅方向に並べる個数を設定します。
[余白] ： ジョブとジョブの間の間隔を設定します。
[ローラーマージン] ： 用紙右端の余白を設定します。

重要！
- [余白]、[ローラーマージン]の値については、使用するカッティングプロッターの取扱説明書をご覧ください。

[トンボ目安線] ： カッティングプロッターでカットするときに原点となる線を印刷します。

- プリンタードライバーを使用してRasterLink8に印刷用データを読み込むと、ジョブの周囲に空白が生じる場合があります。特に、プリンタードライバーの設定でジョブよりも大きい印刷用紙を設定すると、周囲に空白が生じやすくなります。
- ジョブの周囲に空白がある状態で、[シールコピー]の[余白]を設定すると、ジョブの周囲の空白が削除され、設定された余白がジョブとジョブの間に入ります。
- カッティングプロッターでジョブをカットする場合、左右どちらのトンボを先に読むか設定する必要があります。トンボの目安線を使用すれば、先に読むトンボを設定することができます。

プリンタードライバーで画像を出力すると



● 印刷を実行する

1 プレビューの[ ]アイコンをクリックします。

- 前回、使用した[実行]と同じ設定でRIP、印刷が開始されます。
設定については☞ 「実行」（P. 129）をご覧ください。

2.2.10 実行

選択したジョブの印刷、カットをします。

重要! 1台のPCにRasterLink8とRasterLink6Plusをインストールし、それぞれのRasterLinkで同一のプリンターをEthernet接続で登録している場合

- ジョブの印刷中は別のRasterLinkで印刷を実行しないでください。後から印刷を実行したジョブの印刷ができなくなります。

実行 - 機能

[実行]では、以下の操作を行うことができます。

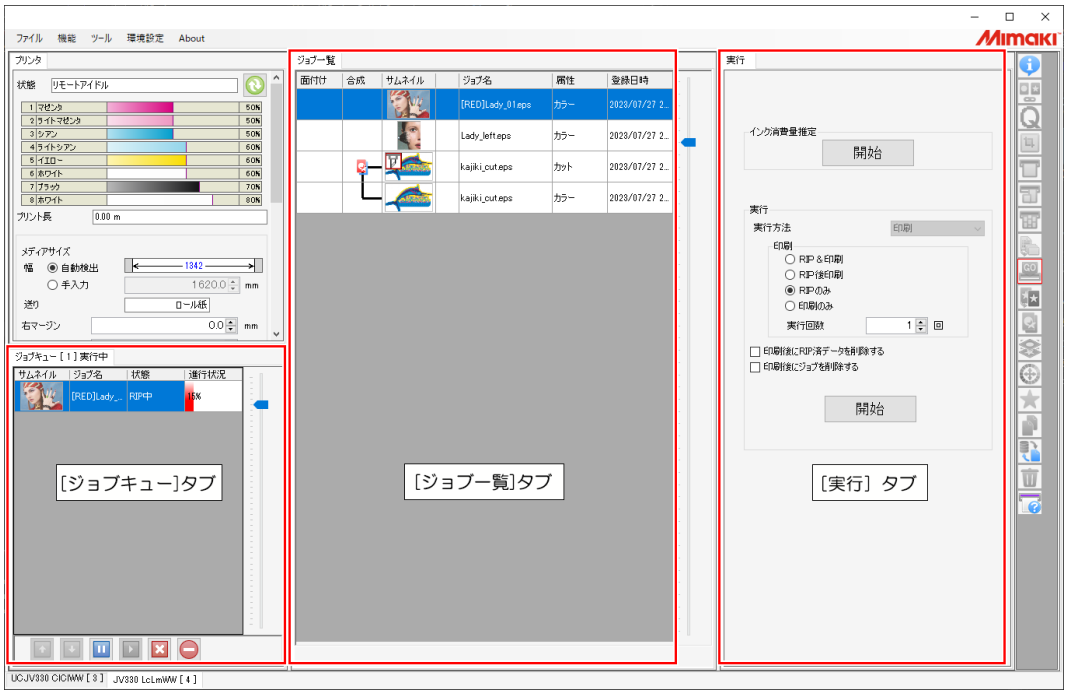
- RIPや印刷を実行する
- 印刷やカットを実行する
- インク消費量を推定する

● 条件

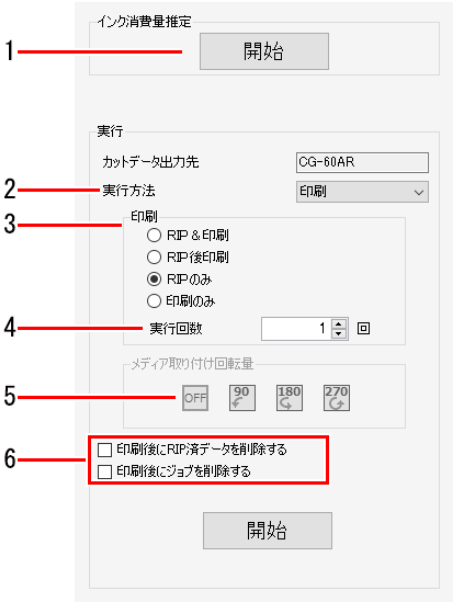
以下の場合、[RIP＆印刷]を設定していても、自動的に[RIP後印刷]を行います。

- [面付け]を設定したジョブ
- [合成]を設定したジョブ
- [ステップ&リピート印刷]を設定したジョブ
- [通常印刷]でコピーを複数部設定し、移動方法に[個々に移動する]を選択しているとき
- [分割印刷]で[任意の場所に配置]がオンになっているとき
- プリント＆カット用のプリントジョブ
- [差込編集]を設定したジョブ
- クリアインクの印刷回数が2回以上になっているとき
- グロス調印刷用のジョブで[下地クリアを印刷する]が有効になっているとき
- [FOTOBAマークを印刷する]設定になっているとき

実行 - 画面構成



● [実行]タブ



1.[インク消費量推定]

RIP/印刷前に、選択したジョブがどのくらいインクを使用するのか推定値を算出します。☞「インク消費量を推定する」（P. 134）

2.[実行方法]

実行方法（印刷とカット、印刷のみ、カットのみ）を選択します。

- 印刷用ジョブの場合は[印刷]が選択されます。変更することはできません。

3.[印刷]

RIPと印刷の方法を選択します。☞「RIPや印刷を実行する」（P. 132）

4.[実行回数]

出力回数を設定します。

5.[メディア取り付け回転量]

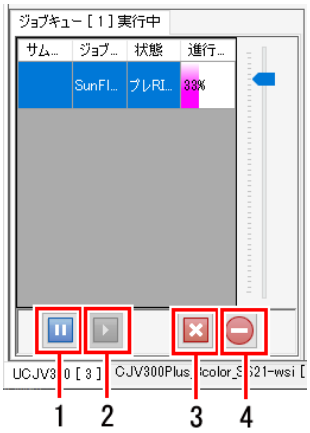
- カッティングデバイスが紐づけされている場合にのみ表示されます。
- [実行方法]で、"カット"が選択されている場合にのみ設定可能です。

プリント後、カッティングデバイスにメディアを取り付ける際、印刷時と異なる回転位置で取り付けたい場合に設定します。
例えば、プリンターとカッティングデバイスの有効幅が異なっており、メディアを回転しなければ取り付けることができない場合などに使用します。

6.実行オプション

実行後の削除処理を設定します。☞「実行 - 操作」（P. 132）

● [ジョブキュー]タブ



1.一時停止アイコン

実行中の処理を一時停止します。

2.再開アイコン

一時停止したジョブの処理を再開します。

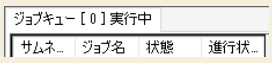
3.中止アイコン

選択したジョブの処理を中止します。

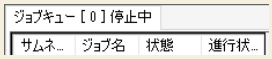
4.すべて中止アイコン

すべてのジョブの処理を中止します。

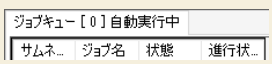
- [ジョブキュー]タブには、以下の状態が表示されます。



[実行中]　：ジョブの読み込み、RIP、印刷が可能な状態です。



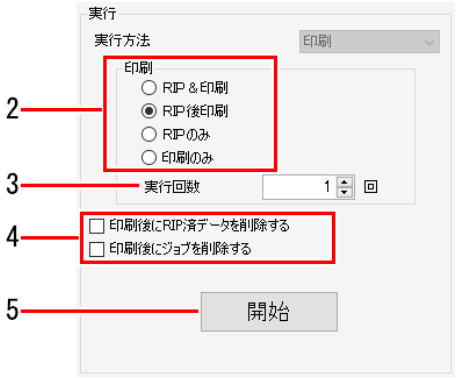
[停止中]　：ジョブの読み込み、RIP、印刷を行わない状態です。



[自動実行中]：自動実行☞「自動実行」（P. 239）を行っている状態です。

実行 - 操作

● RIPや印刷を実行する



1 **[ジョブ一覧]タブでジョブを選択します。**

2 **[実行]タブの[印刷]にある項目を選択します。**

- [RIP＆印刷]：RIPと印刷を同時に実行します。

- 機種やその他の条件によっては、[RIP＆印刷]を選択した場合でも、自動的に[RIP後印刷]が実行されることがあります。（☞「条件」（P. 129））
- 元画像データが複雑な場合には、プリンターの印刷速度に、RIP処理が追い付かず、印刷が一時停止する場合があります。このようなときには[RIP後印刷]を選択してください。
- [RIP＆印刷]を選択した場合、RIP済みデータは作成されません。

- [RIP後印刷]：RIPが完了してから印刷を実行します。
  RIP済みデータが作成されます。
- [RIPのみ]：RIPのみ行います。印刷は行いません。
  RIP済みデータが作成されます。
- [印刷のみ]：印刷のみ行います。

- RIP済みデータが作成されていない状態で、[印刷のみ]を選択した場合、自動的に[RIP後印刷]が実行されます。
- [ジョブ一覧]タブでジョブの上にマウスを重ねると、そのジョブの様々な状態が表示されます。
  また、[ジョブ一覧]タブのジョブ名が太文字になっている場合はRIP済みデータが作成されています。

3 **[実行回数]に、RIPや印刷を実行する回数を入力します。**

- [RIP＆印刷]を選択した場合、RIP済みデータは作成されません。設定した回数だけRIPと印刷を繰り返し実行します。

4 **実行オプションで印刷後のデータに関する削除処理を設定します。**

- [印刷後にRIP済みデータを削除する]:オンにすると、実行方法が[RIP後印刷]もしくは[印刷のみ]の場合、印刷後にRIP済みデータが削除されます。
- [印刷後にジョブを削除する]:オンにすると、実行方法が[RIP＆印刷]、[RIP後印刷]、[印刷のみ]の場合、印刷後にジョブが削除されます。

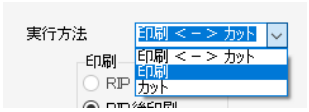
5 [開始]をクリックします。

- [印刷]で指定した処理が開始されます。

● 印刷やカットを実行する（プリント＆カット機、IDカットジョブの場合）

1 [ジョブ一覧]タブでジョブを選択します。

2 [実行方法]リストから、項目を選択します。



- [印刷<－>カット]：印刷とカットを実行します。
- [印刷]：印刷だけ行います。
- [カット]：カットだけ行います。

3 [印刷]にある項目を選択します。

- 項目の内容は、☞「RIPや印刷を実行する」（P. 132）と同様です。

4 [実行回数]に、印刷やカットを実行する回数を入力します。

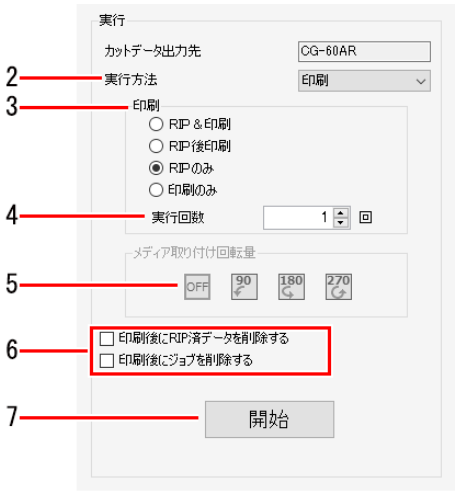
5 印刷後のデータに関する削除処理を設定します。

- 項目の内容は、☞「RIPや印刷を実行する」（P. 132）と同様です。

6 [開始]をクリックします。

- 印刷やカットが開始されます。

● 印刷やカットを実行する（カットデバイスを紐づけている場合）



1 [ジョブ一覧]タブでジョブを選択します。

2 [実行方法]リストから、実行方法を選択します。

重要! カットデバイスを紐づけている場合
- プリントデータをプリンターに出力する場合は[印刷]を選択してください。
- カットデバイスにカットデータを出力する場合は[カット]を選択してください。

3 [印刷]にある項目を選択します。

- 項目の内容は 「RIPや印刷を実行する」（P. 132）と同様です。

4 印刷やカットを実行する回数を[実行回数]に入力します。

重要!
- 印刷後にカットデバイスでカットをする場合、印刷時とカット時の実行回数は必ず同じ回数にしてください。

5 [実行方法]で[カット]を選択した場合、[メディア取り付け回転量]を選択します。「[実行]タブ」（P. 130）

6 印刷後のデータに関する削除処理を設定します。

- 項目の内容は、「RIPや印刷を実行する」（P. 132）と同様です。

7 [開始]をクリックします。

- 印刷もしくはカットが開始されます。

● インク消費量を推定する

RIP/印刷前に選択したジョブがどのくらいインクを使用するのかを算出します。

重要!
- 本機能は、RasterLink8と電源が入っているプリンターとを接続した状態でご使用ください。

- 推定で使用するデータの設定を[オプション] - [ジョブ制御]にて設定します。（「オプション」（P. 244））
  設定により、処理速度と精度が変わります。
- [オプション]画面で[インク消費量計算を実施する]のチェックボックスがオンになっていて、すでにRIP/印刷されたジョブの場合は、RIPの結果を元にインク消費量が計算されているため、本機能は実行できません。

1 [ジョブ一覧]タブでジョブを選択します。

- 複数のジョブを選択して実行もできます。

2 [実行]タブの[インク消費量推定]をクリックします。

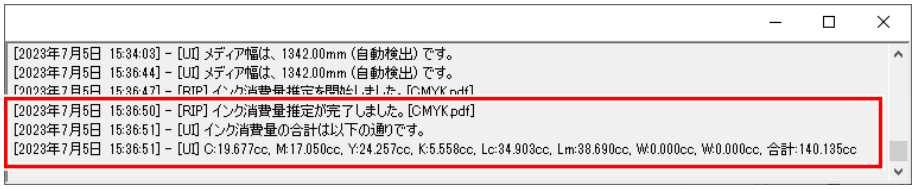
- インクセーブに対応しているプリンターでは、インクセーブの設定が表示されます。
  「インク量を削減して印刷する」（P. 71）
  この設定をすることで、インクセーブの設定によるインク量の変化を確認することができます。
- 処理中は進捗表示画面が表示されます。

3 処理終了後、以下の2つの方法で結果が表示されるので、内容を確認します。

- 各ジョブの[プロパティ]画面
  [実行結果]欄に[インク消費量（推定）]として、そのジョブの値が表示されます。



- [ログ]画面
  ログ画面に結果が表示されます。
  複数のジョブを選択して実行した場合、その合算値が表示されます。



2.2.11 版作成

選択したジョブから、特色インク専用のジョブを作成します。

版作成 - 機能

[版作成]では、以下の操作を行うことができます。

- 特色版ジョブを作成する
- 特色版ジョブを作成して、元のジョブと合成する
- 画像読み込み時に、自動で特色版ジョブを作成する



- RasterLink8では[版作成]で作成したジョブを特色版ジョブと言います。

● 条件

以下の場合には[版作成]を設定することができません。

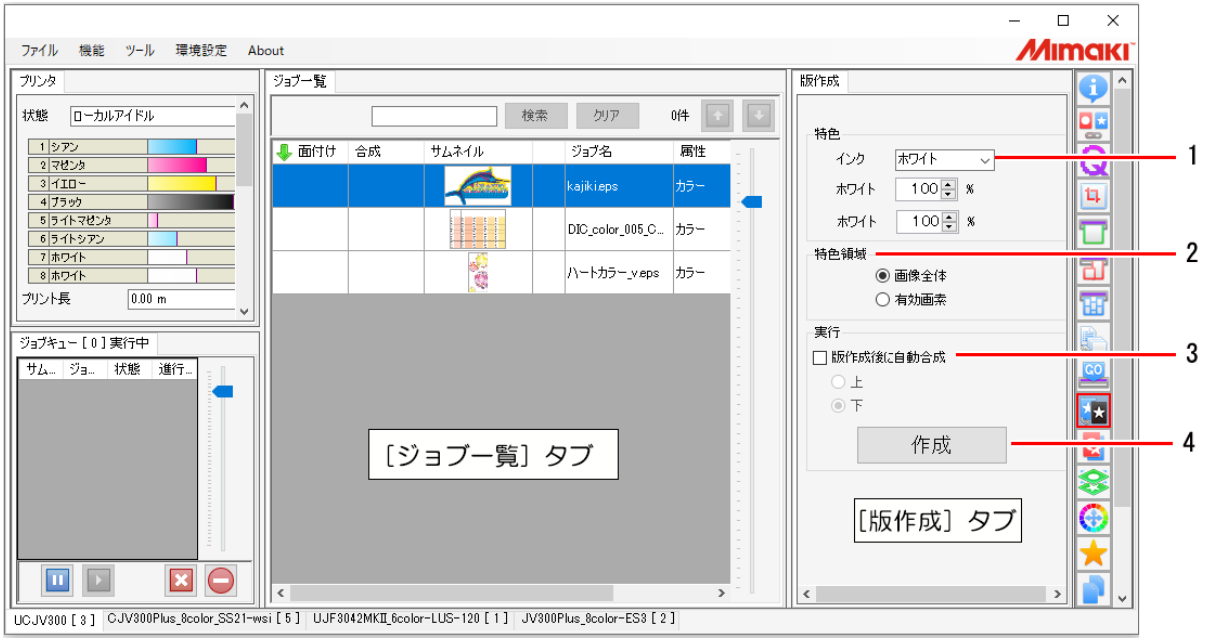
- プリンターに特色インクセットが設定されていないとき

以下の設定が行われているジョブは[版作成]を設定することができません。
[版作成]を設定する場合は、以下の設定を一度解除してください。

- [面付け]
- [分割印刷]
- [ステップ&リピート印刷]
- [合成]
- [治具配置印刷]
- 特色版ジョブ

版作成 - 画面構成

● [版作成]画面



1.[特色]

特色インクを設定します。

2.[特色領域]

特色インクを出力する領域を設定します。

3.[版作成後に自動合成]

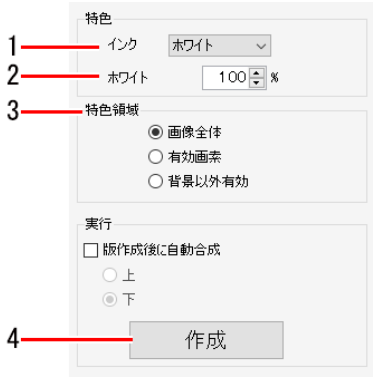
元のジョブと、特色版ジョブの合成を設定します。

4.[作成]

ボタンをクリックすると、特色版ジョブが作成されます。

版作成 - 操作

● 特色版ジョブを作成する



1 **[版作成]タブの[特色]にある[インク]リストから、特色インクを選択します。**

- 選択できる特色インクは、使用しているプリンターの特色インクセットによって異なります。

重要！
- 選択できる特色インクは、1種類です。同時に複数の特色インクを選択することはできません。

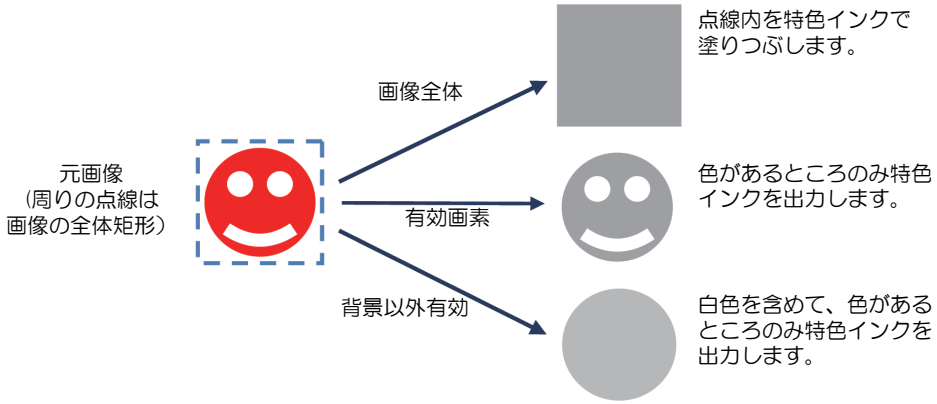
2 **インク濃度（%）を設定します。**

- 初期値は100%です。

- [版作成]で作成した特色版ジョブは、元画像の色濃度を無視して単色かつベタの特色データに変換されます。
- [版作成]では、特色版ジョブのインク濃度は、作成時に[特色版]で設定したインク濃度または☞「版作成で作成した特色版ジョブの設定を変更する」（P. 39）で設定したインク濃度になります。1つの特色版ジョブ内で特色インクの濃度を変化させることはできません。
- グラデーションを使用するなど、1つの特色版ジョブ内で特色インクの濃度を変化させたい場合には、特色用画像データを作成し、☞「フルカラーのジョブを単色で印刷する」（P. 39）で特色インクを設定してください。

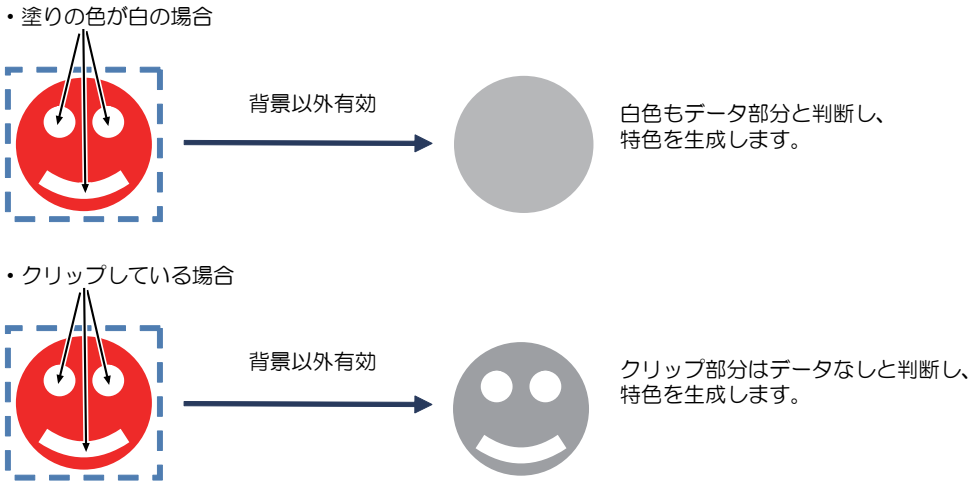
3 **[特色領域]を選択します。**

- [画像全体]：元画像の矩形全体を、特色インクで塗りつぶします。
- [有効画素]：元画像の色があるところのみ、特色インクを出力します。
- [背景以外有効]：白色を含めて、元画像のデータ部分に特色インクを出力します。



[背景以外有効]が適用される条件

- 画像データ形式がEPS,PS,PDFのいずれかであり、データ部に色（白を含む）が指定されている。

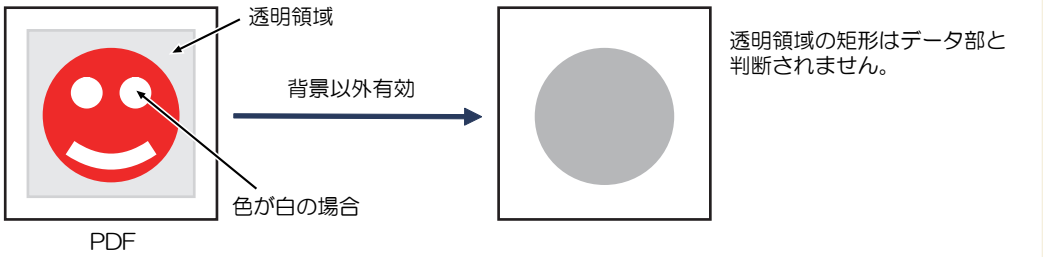


重要!

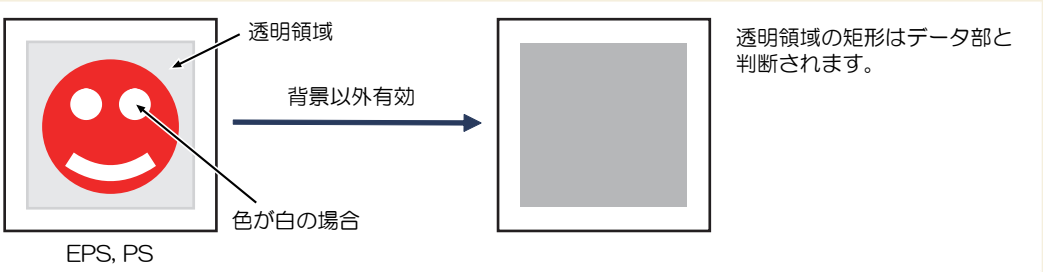
- 透明領域を含むTIFFデータを埋め込む場合は、画像をPDF形式で保存してください。EPSまたはPS形式で保存した場合、TIFFデータの矩形がデータ部と判断されて特色が生成されます。

透明領域を含むTIFFデータを画像に埋め込む場合

・画像全体をPDF形式で保存した場合



・画像全体をEPS, PS形式で保存した場合



- [背景以外有効]の設定を使わずに、図形の内部すべてを特色インクで塗りたいときは、デザインソフトで特色用データを作成し、☞「フルカラーのジョブを単色で印刷する」（P. 39）で特色インクを設定してください。



- デザインソフトとしてAdobe Illustratorを使用する場合、RasterLinkToolsを使用すると上のような特色用データを簡単に作成することができます。詳しくは、別冊「RasterLinkToolsガイド」の「画像のすべてに特色インクを印刷する」をご覧ください。
- 画像データ上に濃度が1%未満のオブジェクトがある場合、プレビューでは有効画素として認識されていないように見えても、印刷物では有効画素として認識された印刷結果になることがあります。
プレビューで有効画素として認識させるためには、オブジェクトの濃度が1%以上になるようにデザインソフトで設定してください。

4 [実行]にある[作成]をクリックします。

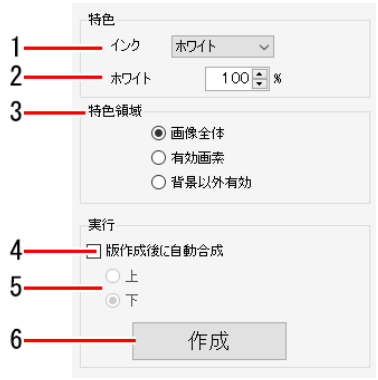
- 特色版ジョブが作成され、ジョブ一覧に追加されます。

- [ジョブ一覧]タブの[サムネイル]は、特色版ジョブに設定したインクやUVモードの設定により、以下のような色で表示されます。UVモードの設定については☞「UVの設定を変更する」（P. 40）をご覧ください。

サムネイル	属性
	クリア版(グロス調)
	クリア版(マット調)
	ホワイト

- クリアを選択して作成した特色版ジョブは、[属性]にクリア版(UVモード)と表示されます。

● 特色版ジョブを作成して、元のジョブと合成する



1 [版作成]タブの[特色]にある[インク]リストで、[特色インク]を選択します。

2 インク濃度（%）を設定します。

3 [特色領域]を選択します。

4 [版作成後に自動合成]チェックボックスをオンにします。

5 [実行]の項目を選択します。
[上]：元のジョブの上に、特色版ジョブを重ねて合成します。
[下]：元のジョブの下に、特色版ジョブを重ねて合成します。

6 [作成]をクリックします。

- 合成したジョブは「合成」☞「合成」（P. 142）を使用して、合成を解除することができます。
- 複数の特色版ジョブを作成し、それらを合成する場合（1つのジョブから、ホワイトとクリアの特色版ジョブを作成するときなど）は、合成したジョブから版作成できないため、[版作成後に自動合成]チェックボックスをオフにして特色版ジョブを作成し、「合成」☞「合成」（P. 142）を使用してください。

2.2.12 合成

複数のジョブを重ね合わせます。

合成 - 機能

[合成]では、以下の操作を行うことができます。

- 合成するジョブを選んで出力順を設定する
- プリント＆カットのジョブを選んで出力順を設定する
- ジョブを左右反転させて合成する
- 合成条件を設定する（フラットベッドプリンターの場合）
- 印刷後、メディアを引き戻してから重ねて印刷する*1
- 同じジョブ属性の版を重ねて印刷する（フラットベッドプリンターの場合）*1

*1. 操作できる機種が限定されます。

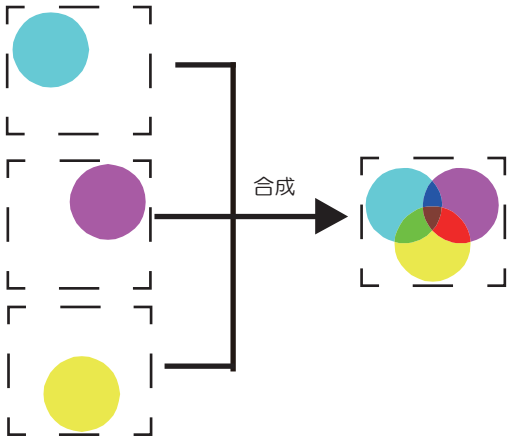
● 条件

ジョブの重ね方はプリンターの種類およびジョブの属性によって異なります。

● Roll to Roll プリンターの場合

- **カラー版ジョブ同士の合成**

すべてのジョブを重ね合わせて同時に印刷します。



- **カラー版ジョブと特色版ジョブの合成**

Roll to Roll プリンターは、機種によって設定できる印刷方法が異なります。

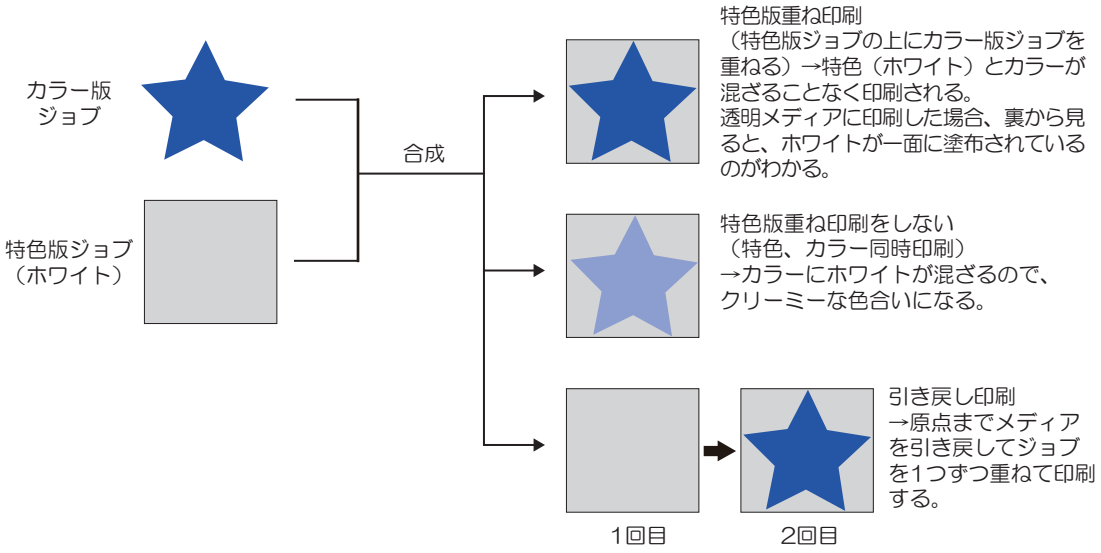
カラー版ジョブと特色版ジョブを合成した場合、以下の方法で印刷することができます。

機種	特色版重ね印刷	特色版重ね印刷しない	引き戻し印刷
UJV55-320 JV300 Plus JV330 CJV330	次の2種類の方法で印刷します。 • カラーと特色を同時に2層重ねて印刷 • カラー⇒特色⇒カラーの順番で3層重ねて印刷	カラーと特色を重ね合わせた画像データを作成し、同時に印刷します。	対応していません。
JV300	次の2種類の方法で印刷します。 • カラーと特色を同時に2層重ねて印刷 • カラーと特色を任意の順番で3層重ねて印刷		対応していません。
CJV300 CJV150 CJV300 Plus	次の2種類の方法で印刷します。 • カラーと特色を同時に2層重ねて印刷 • カラーと特色を任意の順番で3層重ねて印刷		任意のジョブを印刷し終えたら、メディアを引き戻して、残りのジョブを先に印刷したジョブに重ねて印刷します。
UJV200	次の2種類の方法で印刷します。 • カラーと特色を同時に2層重ねて印刷 • カラー⇒特色⇒カラー、ホワイト⇒カラー⇒クリアの順番で2層重ねて印刷		任意のジョブを印刷し終えたら、メディアを引き戻して、残りのジョブを先に印刷したジョブに重ねて印刷します。
UCJV300 UCJV330 UJ330H	次の4種類の方法で印刷します。 • カラーと特色を同時に2層重ねて印刷 • 以下の順番で 3 層重ねて印刷 カラー⇒特色⇒カラー 特色⇒カラー⇒特色 • 以下の順番で4層重ねて印刷(*) カラー⇒遮光⇒特色⇒カラー カラー⇒特色⇒遮光⇒カラー • カラー⇒特色⇒遮光⇒特色⇒カラーの順で5層重ねて印刷(*)		クリア(グロス調)を含む3層印刷の際に使用します。 詳細は「UCJV300/330,UJ330H,UJV200 クリアインク印刷ガイド」をご覧ください。

UJV100	カラーと特色を同時に 2層重ねて印刷	対応していません。	対応していません。
TxF150 TxF300 TxF330	次の方法で印刷します。 • カラー⇒特色	対応していません。	対応していません。
UJV100Plus	カラーと特色を同時に 2層重ねて印刷	対応していません。	任意のジョブを印刷し終えたら、メディアを引き戻して、残りのジョブを先に印刷したジョブに重ねて印刷します。 自動傾き補正をオンにすると、メディアを引き戻した時に傾きを補正して印刷できます。 ☞ P. 152
上記以外の Roll to Rollプリンター	対応していません。	カラーと特色を重ね合わせた画像データを作成し、同時に印刷します。	対応していません。

(*) 詳細については別冊「多層印刷ガイド」をご覧ください。

例）カラー版ジョブと特色版ジョブ（ホワイト）を合成した場合



● フラットベッドプリンターの場合

フラットベッドプリンターの場合、[合成] 機能で設定する「合成条件」によって、印刷方法が異なります☞「合成条件を設定する（フラットベッドプリンターの場合）」（P. 152）。

- デバイスプロファイルの異なるジョブ同士を[速度優先]で合成した時には、[品質優先]と同じ条件で合成されます。
- 解像度の異なるジョブ同士を[速度優先]で合成した時には、[品質優先]と同じ条件で合成されます。

- **カラー版ジョブ同士の合成**

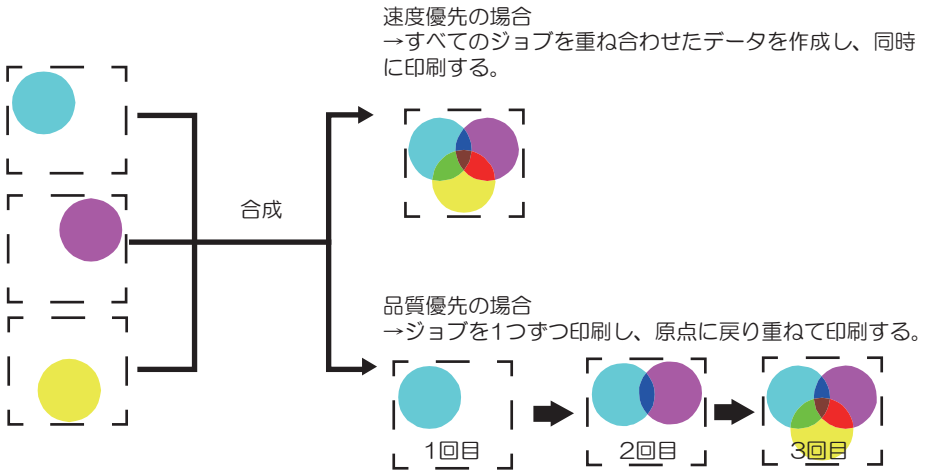
  カラー版ジョブ同士の合成をした場合、以下の方法で印刷することができます。

  [合成条件]が[速度優先]の場合

  すべてのジョブを重ね合わせたデータを作成し、同時に印刷します。

[合成条件]が[品質優先]の場合

ジョブを1つずつ印刷します。印刷が終わると原点に戻り、先に印刷したジョブの上に重ねて次のジョブを印刷します。



- **カラー版ジョブと特色版ジョブの合成**

  カラー版ジョブと特色版ジョブを合成した場合、以下の方法で印刷することができます。

  [合成条件]が[速度優先]の場合

  特色版重ね印刷機能を使用して、カラー版ジョブと特色版ジョブを同時に2層重ねて印刷します。

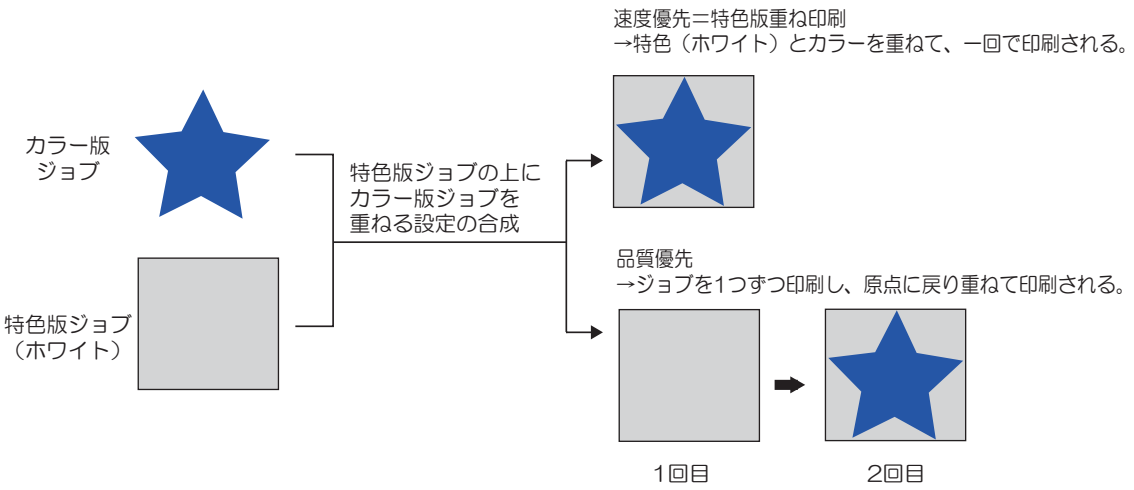
  [合成条件]が[品質優先]の場合

  ジョブを1つずつ印刷します。印刷が終わると原点に戻り、先に印刷したジョブの上に重ねて次のジョブを印刷します。

重要！

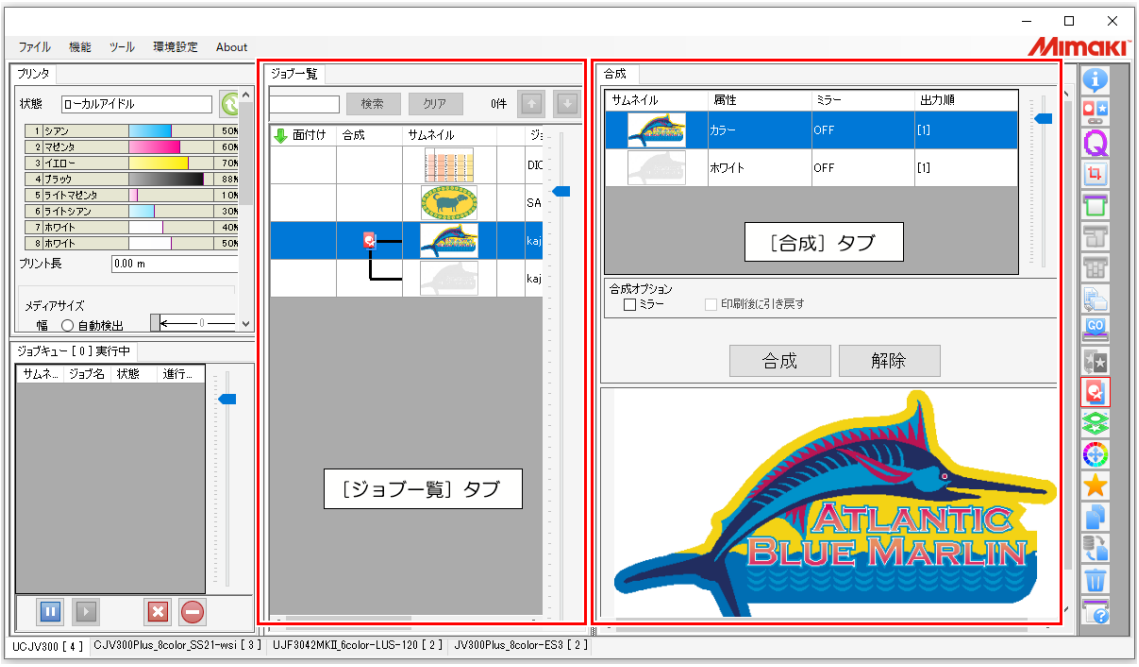
- フラットベッドプリンターでカラー版ジョブと特色版ジョブを合成した場合、必ず重ねて印刷されます。Roll to Rollプリンターのように、カラーと特色を同時に印刷することはできません。
- ライトシアン、ライトマゼンタを使用するインクセットの場合、[速度優先]を選択しても[品質優先]と同じ方法で印刷されます。（特色インクとライトインクがインラインに配置されている場合に限ります。テストプリントをしてご確認ください。）
- 特色版ジョブがクリアの場合、「UVモード」の設定によって、印刷方法が異なります。詳しくはプロパティの☞ P. 42をご覧ください。

例）カラー版ジョブと特色版ジョブ（ホワイト）を合成した場合



合成 - 画面構成

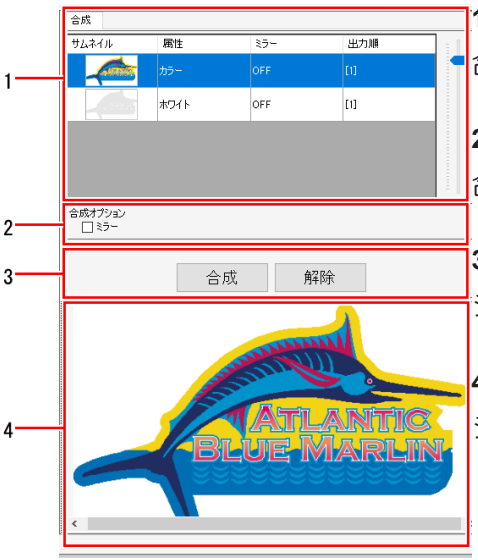
● [合成]画面



● [ジョブ一覧]タブ

合成されているジョブが表示されます。

● [合成]タブ



1.合成リスト

合成の対象となる複数のジョブが表示されます。

2.[合成オプション]

合成方法を設定します。

3.[合成] / [解除]

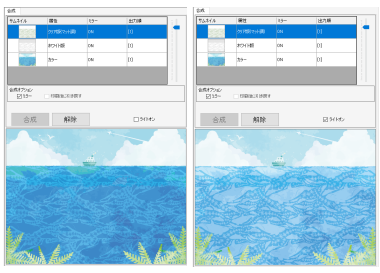
ジョブを合成または解除します。

4.合成プレビュー

ジョブを合成した状態のプレビューが表示されます。

- UCJV330の場合

  RasterLinkToolsにて多層印刷および透かし印刷のデータを作成し、RL出力したデータをホットフォルダー経由で読み込ませた場合、ライトのオン／オフ時のプレビューを確認できます。



ライト オフ　　ライト オン

合成 - 操作

● 合成するジョブを選んで出力順を設定する

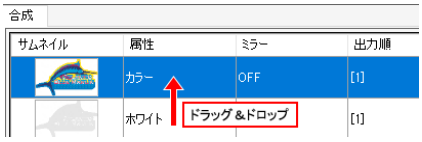
1 **[ジョブ一覧]ウィンドウで、合成して印刷するジョブを複数選択します。**

- 選択したジョブは、[合成]タブの合成リストに表示されます。



2 **[合成]タブの合成リストに表示されているジョブをドラッグ＆ドロップで並び替えます。**

- 合成リストの下から順番に印刷されます。



3 **[合成]タブの[合成]/[解除]にある[合成]をクリックします。**

- [ジョブ一覧]タブが更新され、選択したジョブが線で結ばれます。



- 合成後に合成リストでジョブの順番を変更した場合、再度[合成]をクリックする必要があります。

● プリント＆カットのジョブを選んで出力順を設定する

1 [ジョブ一覧]ウィンドウで、合成して印刷するジョブを複数選択します。

- 選択したジョブは、[合成]タブの合成リストに表示されます。



2 [合成]タブの合成リストに表示されているジョブをドラッグ＆ドロップで並び替えます。

- 合成リストの下から順番に印刷されます。



重要！ カットジョブの配置場所について

- カット属性のジョブは、合成リストの最上位か最下位に配置する必要があります。
- カットジョブは基本的に最上位に配置されますが、以下の機種では最下位にカットジョブを配置し、「カット＆プリント（カット後印刷）ジョブ」にすることができます。
  CJV150, CJV300, CJV300Plus, CJV330, CJV200



- ただし、カット＆プリントのジョブにトンボ検出を設定すると、カット時のトンボ検出に失敗しますのでご注意ください。

3 [合成]タブの[合成]/[解除]にある[合成]をクリックします。

- [ジョブ一覧]タブが更新され、選択したジョブが線で結ばれます。

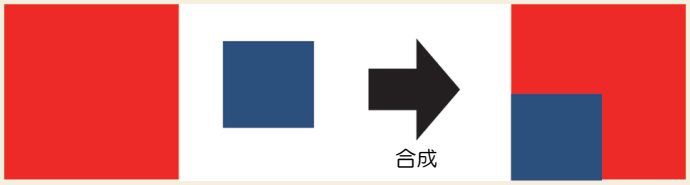


- Roll to Rollプリンターの場合、[出力順]の列に記載されている番号順にジョブが印刷されます（フラットベッドプリンターの場合は下から順に印刷されます）。
  例）特色版ジョブ（ホワイト）の出力順が1、カラー版ジョブの出力順が2の場合



ホワイトにカラーを重ねるように印刷されます。

重要！
- ジョブのサイズが異なる場合、最も大きいジョブの左下を基準に重ねて合成されます。



- デザインソフトで合成用の画像データを作成する場合、以下のどちらかの方法でデータを作成してください。
  ・縦横のサイズをそろえる
  ・左下を原点として位置を調整する。

重要！
- ジョブを合成すると、[ジョブ一覧]の一番上にあるジョブの設定がすべてのジョブに適用されます。対象の設定は以下になります。
  ・[スケール]
  ・[回転]
  ・[ミラー]
  ・[印刷条件]

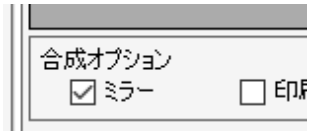
重要！
- 単色印刷を設定したジョブと、そのジョブから版作成したジョブを合成して印刷しないでください。正常に印刷されません。

● ジョブを左右反転させて合成する

1 合成リストで、左右反転させるジョブを選択します。

2 [合成オプション]の[ミラー]チェックボックスをオンにします。

- 選択したジョブが左右に反転します。



- [通常印刷]画面の[ミラー]と、[合成]画面の[ミラー]の効果の違い
[通常印刷]画面で[ミラー]を設定すると、合成したジョブすべてが左右に反転します。
[合成]画面で[ミラー]を設定すると、選択したジョブだけが左右反転します。

下記の合成リストで[通常印刷]画面と[合成]画面の[ミラー]を使用した場合、以下のようになります。



例1）[ミラー]を以下のように設定した場合
・[合成]画面のホワイト属性ジョブ：オン
・[通常印刷]画面：オフ



特色版ジョブ（ホワイト）のみ左右反転します。

例2）[ミラー]を以下のように設定した場合
・[合成]画面のホワイト属性ジョブ：オン
・[通常印刷]画面：オン



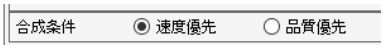
例1を左右反転した状態、つまりカラージョブのみ左右反転された状態になります。

- 透明メディアなどの、印刷した面とは反対から見る場合、合成後、通常印刷画面で[ミラー]の設定を行ってください。

3 [合成]をクリックします。

● 合成条件を設定する（フラットベッドプリンターの場合）

1 [合成]タブの[合成オプション]にある[合成条件]の項目を選択します。



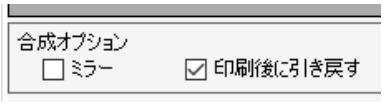
- [速度優先]
  特色版重ね印刷機能などを使用して、印刷時間を短縮させます。仕上がりを早くしたいときに有効です。
- [品質優先]
  ジョブを1つずつ印刷して、品質を優先します。仕上がりを綺麗にしたいときに有効です。

- [品質優先]を選択すると、ジョブは1つずつ印刷されます。そのため、ジョブごとに解像度を変更することによって、印刷の速度や品質を調整することができます。例えば、速度を優先したい特色版ジョブ（ホワイト）は低解像度、品質を優先したいカラー版ジョブは高解像度に設定して合成することができます。
  詳しくは☞「印刷条件」（P. 58）をご覧ください。

2 [合成]をクリックします。

● メディアを引き戻してから重ねて印刷する（CJV300、CJV150、CJV300 Plus, UCJV300, UCJV330, UJV100 Plusの場合）

1 [合成]ウィンドウの[合成オプション]にある[印刷後に引き戻す]チェックボックスをオンにします。

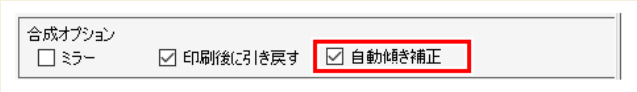


- 合成リストで選択したジョブまでを同時に印刷した後、印刷の原点までメディアを引き戻して残りのジョブを印刷します。
- カラー版ジョブと特色版ジョブを合成した場合などで、特色をよく乾燥させてからカラーを重ねて印刷したい場合に有効です。

重要！
- プリント＆カットジョブの場合、プリントとカットの間で必ず引き戻しを行います。
  [印刷後に引き戻す]チェックボックスをオフにすることはできません。

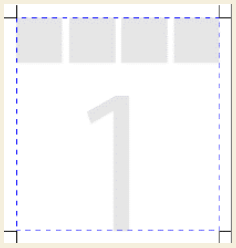
2 [合成]をクリックします。

自動傾き補正について（対象機種：UJV100Plus）
自動傾き補正は、[印刷後に引き戻す]のチェックがオンの場合に有効になります。
[自動傾き補正]のチェックをオンにすると、メディアの引き戻し後に画像データの傾きが自動で検出され、傾き補正がかけられた状態で印刷されます。
傾き検出用のトンボは最初に印刷する画像データに自動で付加されて印刷されます。

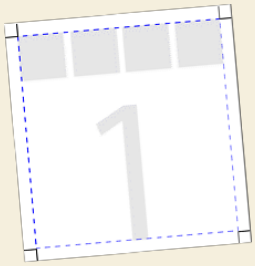


- 例：特色→カラーの印刷で、自動傾き補正をオンにした場合

(1) 特色版にトンボを付けて印刷します。



- メディアが引き戻されてトンボが検出され、傾きが計算されます。



(2) 特色版の印刷完了後、傾き角度を使ってカラー版をRIPします。



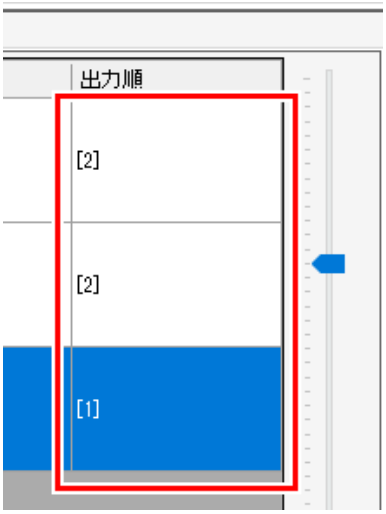
(3) カラー版を印刷します。

● 同じジョブ属性の版を重ねて印刷する（フラットベッドプリンターの場合）

1 [合成]ウィンドウで、同じ属性のジョブのうち下側のジョブを選択し、合成オプションで[印刷後に引き戻す]チェックボックスをオンにします。



- 出力順が変更されます。



- ホワイト版を別フィードで重ねて印刷することができます。

重要！ • 合成条件で[速度優先]が選択されているときに使用できます。

2 [合成]をクリックします。

● 合成を解除する

1 [ジョブ一覧]で、合成を解除するジョブを選択します。

2 [機能]メニューまたは機能アイコンから、[合成]（ ）をクリックします。

3 [合成]タブで[解除]をクリックします。

- 選択したジョブを含まれている合成が全て解除されます。

2.2.13 レイヤー設定

カラー版と特色インクを印刷するジョブの詳細設定を行います。

レイヤー設定 - 機能

[レイヤー設定]では、以下の操作を行うことができます。

- 特色版重ね印刷を設定する*1
- 特色版重ね印刷の品質を設定する*1
- 特色版の位置を調整する
- 特色版のサイズを調整する

*1. 操作できる機種が限定されます。

● 条件

以下の場合には[レイヤー設定]を使用することができます。

- 特色インクセットを設定しているとき

特色版重ね印刷対応機種では、特色版重ね印刷を設定することができます。

重要! 特色版重ね印刷とは、1回の印刷で、特色インク（ホワイト、シルバー、プライマー、クリア）をカラー版に重ねて印刷する機能です。以下の場合に使用することができます。

- 特色版とカラー版を「合成」☞「合成」（P. 142）したとき
- カラー画像の一部の色を特色に置換したとき

特色版重ね印刷対応機種

機種	対象インク
CJV150	ホワイト、シルバー
CJV300	ホワイト、シルバー
CJV300 Plus	ホワイト、シルバー
CJV330	ホワイト
JV300	ホワイト
JV300 Plus	ホワイト
JV330	ホワイト
JFX200EX	ホワイト、プライマー、クリア
UCJV300	ホワイト、クリア
UCJV330	ホワイト、クリア
UJV100	ホワイト、クリア
UJV200	ホワイト、クリア
UJF-3042MkII	ホワイト、プライマー、クリア
UJF-6042MkII	ホワイト、プライマー、クリア

機種	対象インク
UJF-7151	ホワイト、プライマー、クリア
UJV55-320	ホワイト
JFX600	ホワイト、プライマー、クリア
UJF-7151plusII	ホワイト、プライマー、クリア
UJF-7151plusII e	ホワイト、プライマー、クリア
UJF-3042MkII e	ホワイト、プライマー、クリア
UJF-6042MkII e	ホワイト、プライマー、クリア
TxF150	ホワイト
TxF300	ホワイト
TxF330	ホワイト
UJ330H	ホワイト、クリア
UJV100 Plus	ホワイト、クリア
UJV300DTF	ホワイト、クリア

レイヤー設定 - 画面構成

● [レイヤー設定]画面



● [ジョブ一覧]タブ

編集対象となるジョブが表示されます。

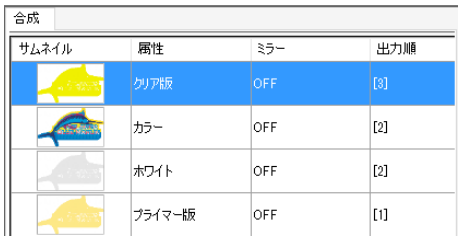
[合成]機能で、複数回に分けて印刷する設定にした場合、印刷ごとに[レイヤー設定]を行います。

同時に印刷されるジョブが表示されます。

[ジョブ一覧]タブの下部にある[ ]アイコンをクリックすると、ジョブを切り替えることができます。

例）UJF-6042MkIIで3回に分けて印刷する設定をした場合

[合成]画面の[合成]タブ



出力順

1回目：特色版ジョブ（プライマー）

2回目：特色版ジョブ（ホワイト）とカラー版ジョブ

3回目：特色版ジョブ（クリア）

[レイヤー設定]画面の[ジョブ一覧]タブ



1回目：
特色版ジョブ
（プライマー）

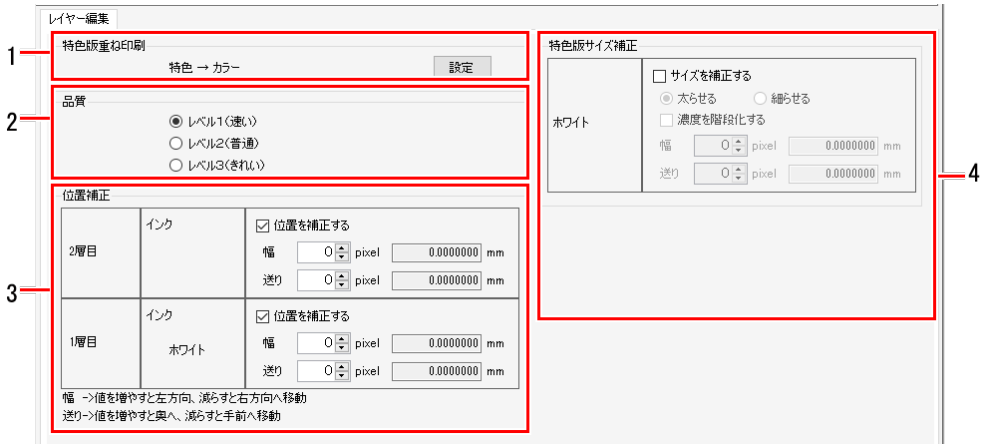
2回目：
特色版ジョブ
（ホワイト）
とカラー版ジョブ

3回目：
特色版ジョブ
（クリア）

● [レイヤー編集]タブ

特色版重ね印刷と特色版の各種設定を行います。

例）JV300 Plus、特色版ジョブ(ホワイト)とカラー版ジョブを合成した場合



- 機種、特色インクの種類、合成の有無により表示される内容が異なります。

1.[特色版重ね印刷]（特色版重ね印刷対応機種の場合）

特色版重ね印刷の設定をします。

2.[品質]（特色版重ね印刷対応機種の場合）

特色版重ね印刷の品質を設定します。

3.[位置補正]

特色版の位置を調整します。

4.[特色版サイズ補正]

特色版のサイズを調整します。

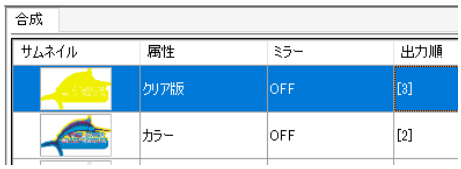
レイヤー設定 - 操作

● 特色版重ね印刷を設定する（特色版重ね印刷対応機種の場合）

1 [ジョブ一覧]タブで特色重ねを設定したいジョブを選択します。

2 [機能]メニューまたは機能アイコンから、[レイヤー設定]( )アイコンをクリックします。

3 [ジョブ一覧]タブでジョブを選択します。



4 [レイヤー編集]タブの[特色版重ね印刷]の項目を選択します。

- 特色版重ね印刷を使用する、しないを選択することができます。
- 使用する場合、印刷順を選択することができます。

● 特色版重ね印刷の品質を設定する（特色版重ね印刷対応機種の場合）

特色版重ね印刷の品質は、以下の場合に設定することができます。

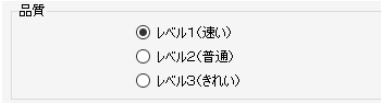
- 特色版重ね印刷の品質設定に対応している機種かつ、特色版重ね印刷を使用する設定を選択したとき

1 [ジョブ一覧]タブで特色重ねを設定したいジョブを選択します。

2 [機能]メニューまたは機能アイコンから、[レイヤー設定]( )アイコンをクリックします。

3 [レイヤー編集]タブの[品質]の項目を選択します。

- レベル1、レベル2、レベル3の順に画質は良くなりますが、印刷速度は遅くなります。

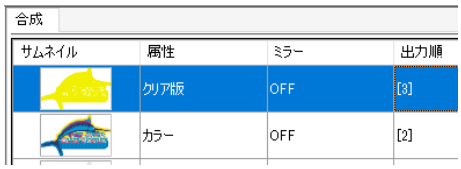


● 特色版の位置を調整する

1 [ジョブ一覧]タブで特色重ねを設定したいジョブを選択します。

2 [機能]メニューまたは機能アイコンから、[レイヤー設定]( )アイコンをクリックします。

3 [ジョブ一覧]タブで位置を調整したい特色版ジョブを選択します。

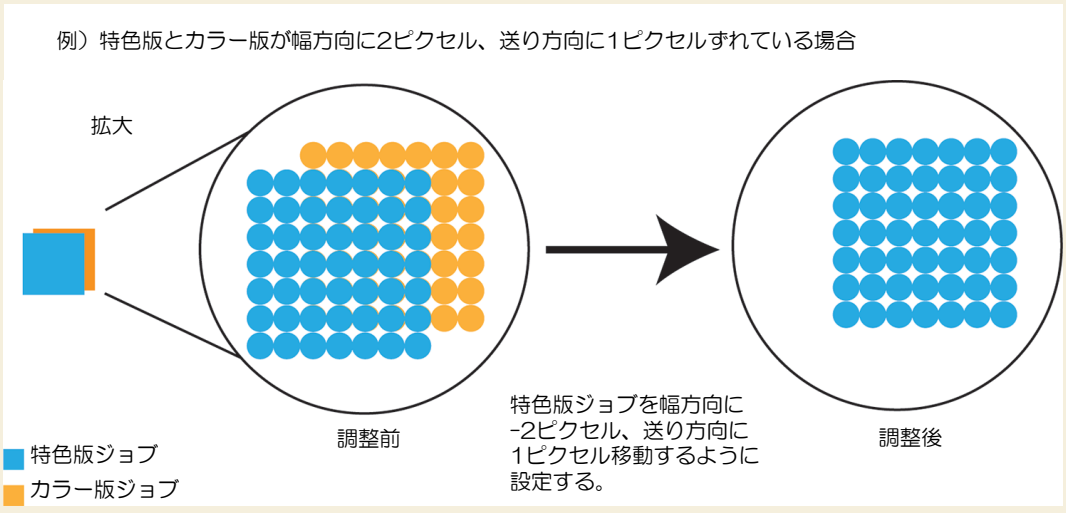


4 [レイヤー編集]タブの[位置補正]で特色印刷を印刷する層の[位置を補正する]チェックボックスをオンにします。

5 [幅]と[送り]にピクセル数（-99～99pixel）を入力します。

- 選択したジョブの特色版の位置が変更されます。

- [位置補正]は、特色版（ホワイト、クリアなど）とカラー版を重ねて印刷する際に若干ずれて印刷されてしまう場合にご使用ください。

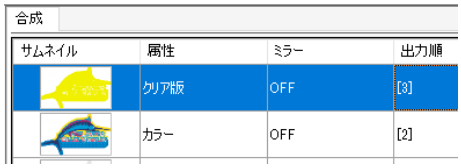


● 特色版のサイズを調整する

1 [ジョブ一覧]タブで特色重ねを設定したいジョブを選択します。

2 [機能]メニューまたは機能アイコンから、[レイヤー設定]( )アイコンをクリックします。

3 [ジョブ一覧]タブで特色インクを印刷するジョブを選択します。



4 [レイヤー編集]タブの[位置補正]で特色インクを印刷する層の[サイズを補正する]チェックボックスをオンにします。

5 項目を選択します。

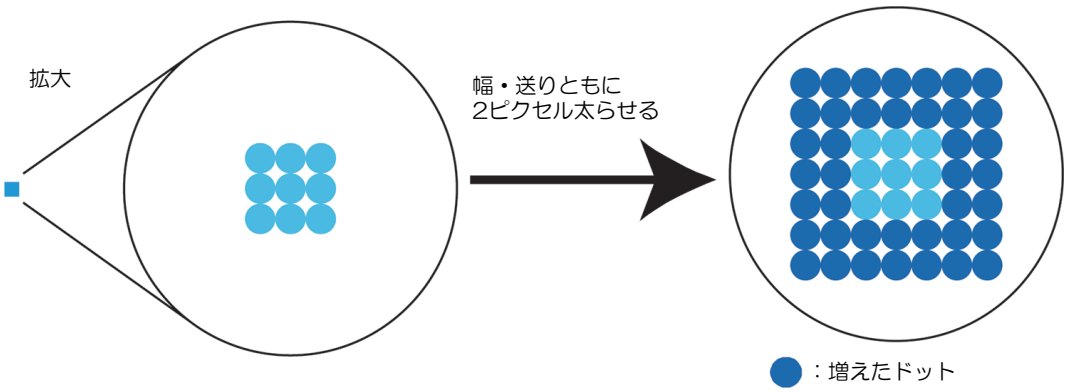
- [太らせる]または[細らせる]を選択することができます。

6 [幅]と[送り]にピクセル数を入力します。

- 選択したジョブの特色版のサイズが変更されます。

- サイズ設定方法は全機種共通です。
- [特色版サイズ補正]は、以下のような場合に有効です。
  - カラー版を覆うように、クリアインクを印刷したいとき
  - ベースに印刷したホワイトまたはプライマーインクがカラー版からはみ出るように印刷されるため、特色版（ホワイト、プライマー）を若干小さめに印刷したいとき

例）特色版ジョブを幅方向に2ピクセル、送り方向に2ピクセル太らせる場合



2.2.14 色置換設定

ジョブの色を別の色に置き換えます。



- RasterLink8ではジョブの特定の色を別の色に置き換えることを、色置換と言います。

色置換設定 - 機能

[色置換設定]では、以下の操作を行うことができます。

- スポットカラー、CMYKを色置換する
- グラデーションを色置換する
- 測色器を使用して色置換する
- カラーコレクションを使用する
- カラーコレクションから選択する
- カラーコレクションに登録する
- 置換後のLab値を基準色にしたカラーチャートを作成する

● 条件

画像データ

置換可能な元画像データは、以下の通りです。

カラーモード	CMYK
ファイル形式	ps、eps、pdf
オブジェクト	ベクターデータ

重要! ラスターデータの色を置換することはできません。

以下の効果を使用しているベクターデータの場合、色置換をしても正しく印刷できないことがあります。

- Adobe Illustratorでドロップシャドウ、透明、ぼかしのようなフィルター効果をかけて作成されたオブジェクト
- Adobe Illustratorでコンパチブルグラデーション＆グラデーションメッシュプリントのチェックをオンにして作成されたグラデーションオブジェクト

重要! 埋め込みプロファイルを含める設定で保存されたPDFファイルの場合、色置換を設定しても色置換されません。
該当するジョブでは、以下の警告メッセージが表示されます。
「埋め込みプロファイルを含んでいるジョブです。CMYK色置換、グラデーション色置換がされずに印刷される場合があります。」
PDFファイルでCMYK色置換またはグラデーション色置換をする場合は、埋め込みプロファイルを含まない設定で保存してください。

置換できる色

置換可能な色データは、以下の通りです。

- スポットカラー（特色とも呼ばれ、名前付きの特別な色で、メタリックや蛍光色など、CMYKの掛け合わせでは表現ができない色）
  注意事項については☞「スポットカラーを色置換する場合の注意事項」（P. 162）をご覧ください。

- CMYK（プロセスカラーとも呼ばれる）

重要！ • 元画像データの濃度は整数値で設定してください。

- グラデーション
  注意事項については☞「グラデーションを色置換する場合の注意事項」（P. 165）をご覧ください。

置換後の色

置換後の色として、以下を設定することができます。

インク色	プリンターのインク色に置換します。 濃度を0～100%で設定することができます。
L*a*b*値	L*（明度）、a*（赤-緑空間座標）、b*（青-黄色空間座標）に基づく色に置換します。 L*a*b*値はデバイスに依存しない色空間の座標値です。

重要！ • 印刷する機種やインクなどの条件や環境によっては、実際に印刷される色味が、インク色またはL*a*b値として設定された色味とは異なる場合があります。

カラーコレクションとの連携

- [カラーコレクション]とは、色置換情報をライブラリー化したものです。詳細については、☞「カラーコレクション」（P. 229）をご覧ください。
- [カラーコレクション]画面で[カラーコレクション]を使用するに設定している場合、画像を読み込んだ際に条件が合致すると、自動的に色置換されます。☞ P. 230

● スポットカラーを色置換する場合の注意事項

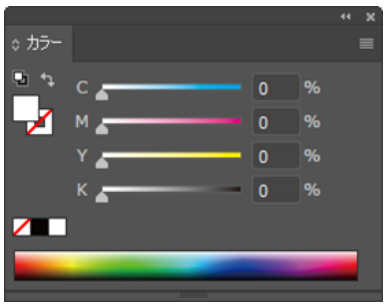
元画像データ内で、スポットカラーを設定し、その濃度を変えて使用しているときには、以下の点に注意してください。

- RasterLink8では、スポットカラーの濃度100%を基準に、置換後のインク濃度を設定します。100%以外の濃度については、自動的に計算されてインク濃度が設定されます。
  例）Adobe Illustratorで[Spot]（表示色C=100、M=0、Y=0、K=0）というスポットカラーが100%で塗られているところと、50%で塗られているところがある場合
  - RasterLink8でスポットカラーの[Spot]をインク濃度C=0、M=80、Y=20、K=0の色に置換すると、元画像データで[Spot]100%で塗られている部分のインク濃度はC=0、M=80、Y=20、K=0で印刷されます。
    元画像データで[Spot]50%で塗られている部分のインク濃度は自動的に計算された結果、C=0、M=40、Y=10、K=0で印刷されます。
- スポットカラー名は半角英数字で入力してください。半角英数字以外の文字を使用すると以下の問題が発生する場合があります。
  - RasterLink8に画像データが読み込めない。
  - スポットカラー名が文字化けして表示される。
  - 色置換を設定しても色置換されずに出力される。

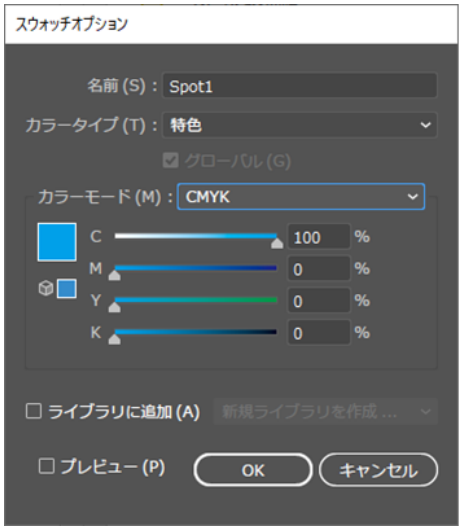
● 白のオブジェクトを色置換する場合の注意事項

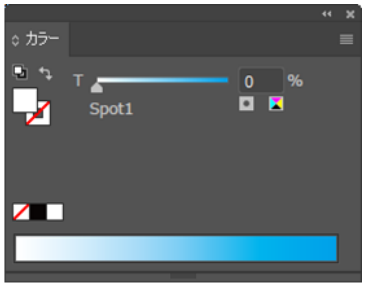
色置換対象オブジェクトには最低1%の濃度を設定してください。以下のような白のオブジェクトに対する色置換指定は意図しない色置換結果になるおそれがあります。

- C=0、M=0、Y=0、K=0のオブジェクト



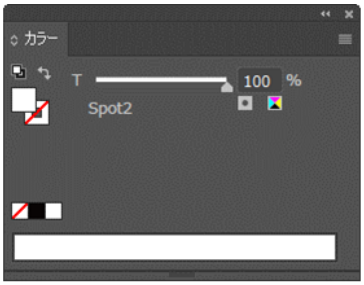
- スポットカラーの濃度を0%に設定したオブジェクト





- スポットカラーの色がC=0、M=0、Y=0、K=0のオブジェクト





Adobe Illustratorでスポットカラーを設定する方法

1 **Adobe Illustratorの[ファイル]メニューの[ドキュメントのカラーモード]で、[CMYKカラー]を選択します。**

- 画像データのカラーモードが[CMYK]になります。

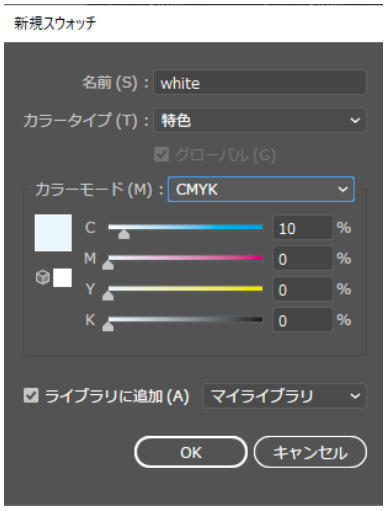
2 **[ウィンドウ]メニューの[スウォッチ]を選択します。**

- [スウォッチ]ウィンドウが表示されます。

3 **ウィンドウ右上のアイコンをクリックし、表示されたメニューから[新規スウォッチ]を選択します。**

- [新規スウォッチ]ウィンドウが開きます。

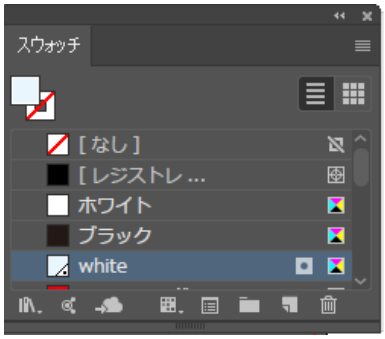
4 **以下の設定を行います。**



[名前]	:	スポットカラーの名前を入力します。
[カラータイプ]	:	[特色]を選択します。
[カラーモード]	:	[CMYK]を選択します。
[カラー]	:	表示色を設定します。 色置換されない場合、この色を元に印刷されます。

5 **[OK]をクリックします。**

- [スウォッチ]ウィンドウのリストにスポットカラーが登録されます。



6 **オブジェクトを作成します。**

7 **オブジェクトを選択します。**

8 **[カラー]ウィンドウの[線]または[塗り]のいずれかを選択します。**

9 [スウォッチ]ウィンドウから登録したスポットカラーを選択します。

- オブジェクトにスポットカラーが適用されます。

10 データをRasterLink8で読み込める形式で保存します。

● グラデーションを色置換する場合の注意事項

色置換できるグラデーションは、以下の4種類です。

最高濃度と最低濃度の範囲内でグラデーションを設定してください。

種類	最高濃度（%）				最低濃度（%）			
	C	M	Y	K	C	M	Y	K
シアン	100	1	1	1	0	1	1	1
マゼンタ	1	100	1	1	1	0	1	1
イエロー	1	1	100	1	1	1	0	1
ブラック	1	1	1	100	1	1	1	0



- グラデーションの最高濃度と最低濃度の間に中間点を設定して色を変更した場合には、色置換することはできません。
- クリッピングパスを多く含むグラデーションは、正しく色置換できない場合があります。
- グラデーションに含まれる色と同じ色を持つイラストも置換されます。

  例）最高濃度　C=100、M=1、Y=1、K=1
  最低濃度　C=0、M=1、Y=1、K=1

  C=50、M=1、Y=1、K=1のイラストがデータ中にある場合、このイラスト(ベクターデータ）も色置換されます。
- [色置換設定]画面で、グラデーション置換の設定できた場合でも、元画像データによっては、正しく置換されないことがあります。
  必ず、事前に縮小印刷して正しく色置換されているか確認してください。

色置換できる元画像データの条件については、色置換設定☞「条件」（P. 161）も合わせてご覧ください。

Adobe Illustratorでグラデーションを設定する方法

1 Adobe Illustratorの[ファイル]メニューの[ドキュメントのカラーモード]で、[CMYKカラー]を選択します。

- 画像データのカラーモードがCMYKになります。

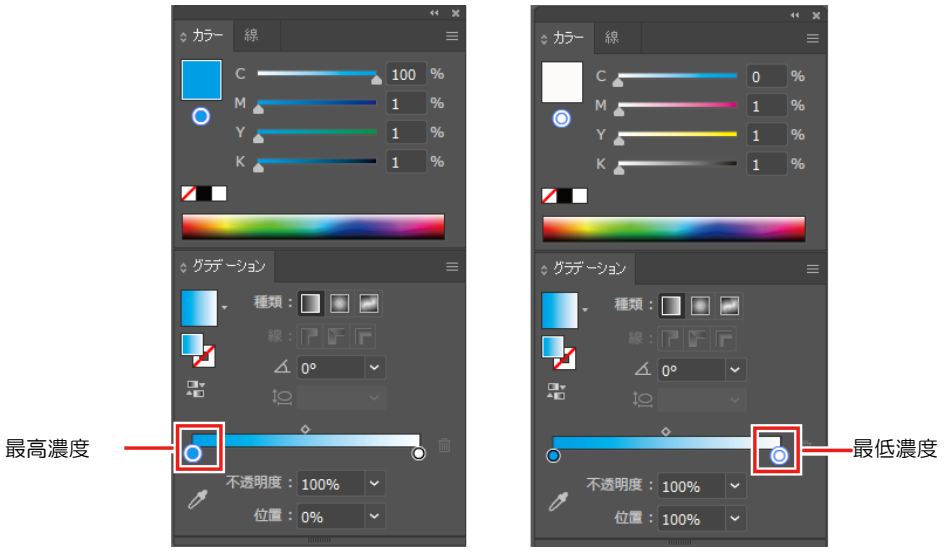
2 オブジェクトを作成します。

3 オブジェクトを選択します。

4 [ウィンドウ]メニューの[グラデーション]を選択します。

- [グラデーション]ウィンドウが表示されます。

5 最高濃度と最低濃度を設定します。

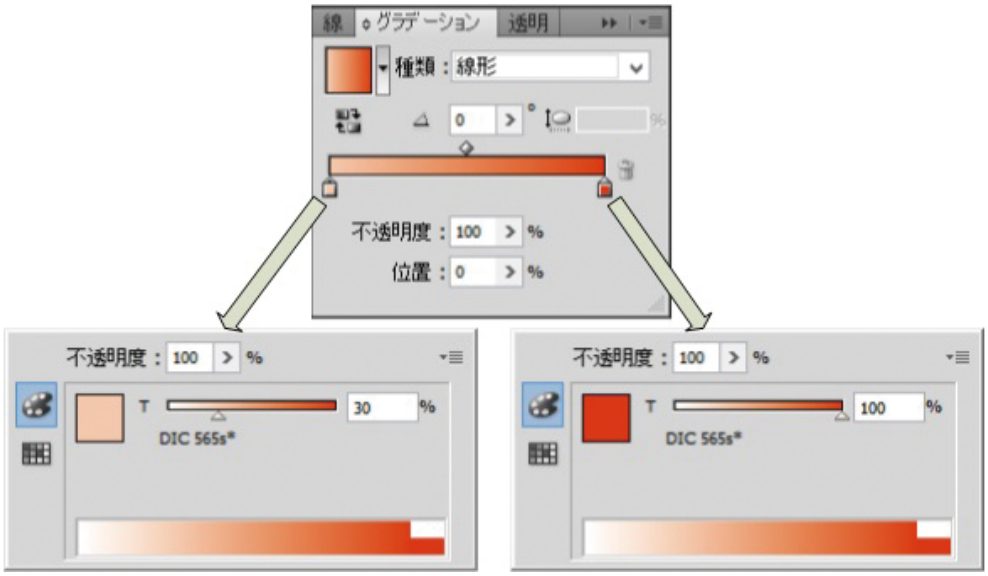


6 データをRasterLink8で読み込める形式で保存します。

● グラデーションで使用しているスポットカラーを色置換する場合

グラデーションで使用しているスポットカラーを色置換するには、以下のどちらかの条件を満たす必要があります。

1. PDFファイル
2. Adobe Illustratorの[プリント]メニューまたはEPSオプションにある[コンパチブルグラデーション&グラデーションメッシュプリント]をオフにして作成した画像ファイル

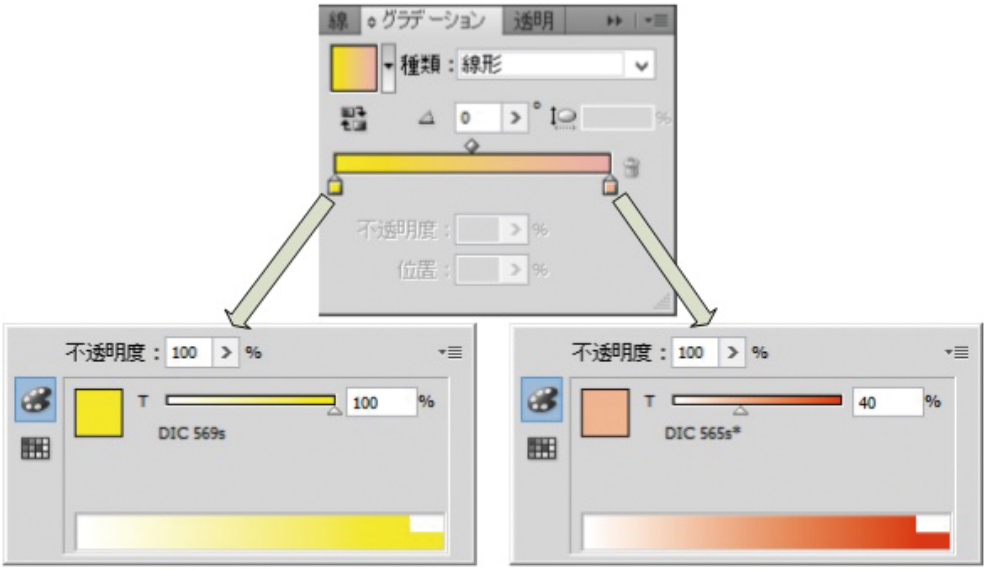


● グラデーションで異なるスポットカラーを指定している場合

EPSファイルで一つのグラデーションオブジェクトに複数のスポットカラーが指定されていると、色置換ができない場合があります。

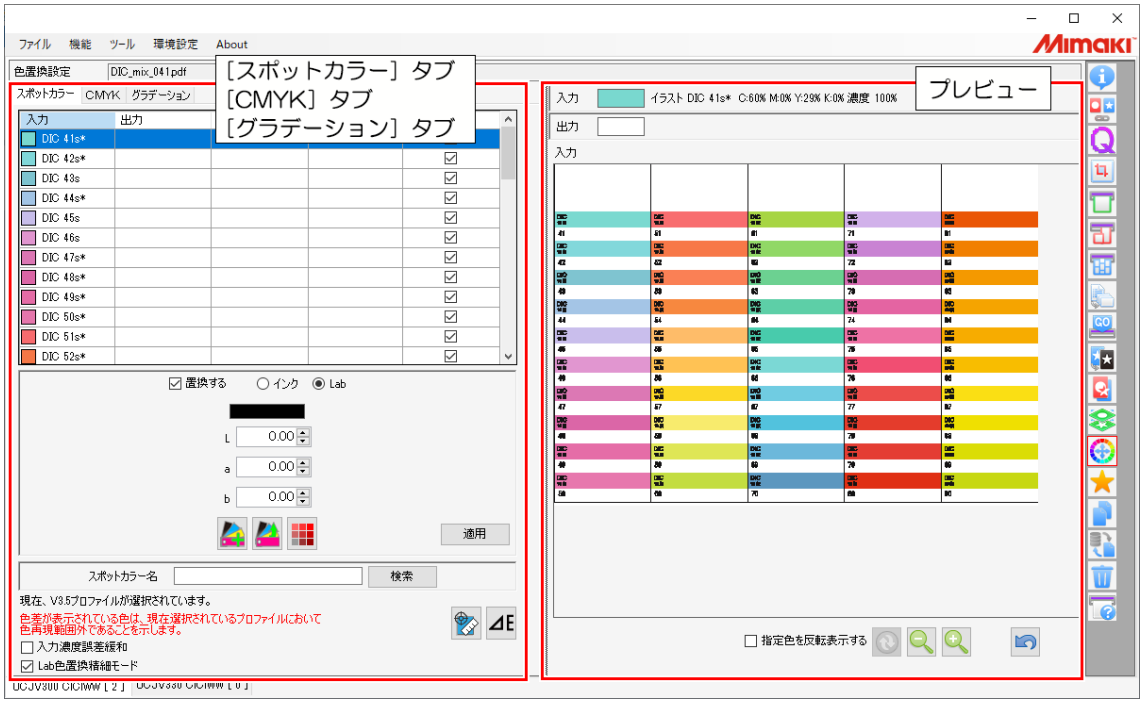
PDFファイルで保存し直してからお試しください。

重要！ ・ PDFファイルであっても、必ずしも動作を保証するものではありません。



色置換設定 - 画面構成

● [色置換設定]画面



● [スポットカラー]タブ、[CMYK]タブ、[グラデーション]タブ



1.入力/出力色一覧

元画像データの色情報が表示されます。タブを切り替えると、それぞれ色置換できる色の種類に対応した一覧に切り替わります。

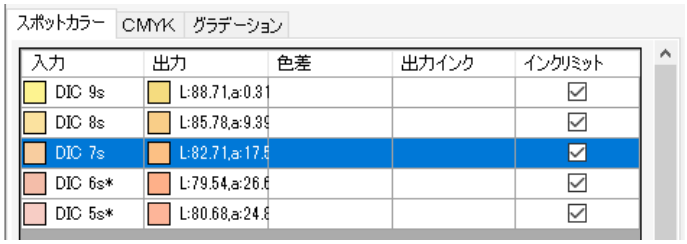
2.置換後の色

置換後の色を設定します。

3.[スポットカラー名]の検索

入力/出力色一覧に表示されているスポットカラー名を検索します。

● [スポットカラー]タブ



[入力] ：スポットカラー名とプレビューの色が表示されます。

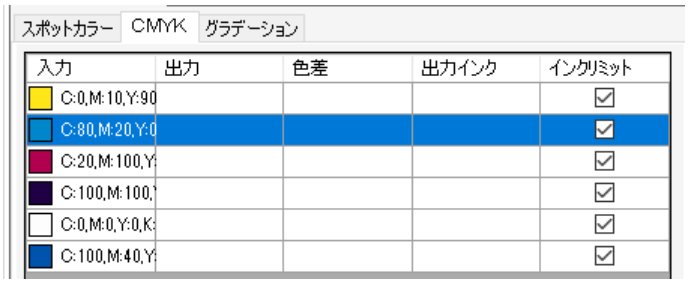
[出力] ：置換後の色とシミュレートされた印刷色が表示されます。

[インクリミット] ：印刷時、デバイスプロファイルのインクリミットを使用する場合にチェックボックスがオンで表示されます。

- 置換後の色が"インク"の場合、[置換後の色]欄で使用するか設定できます。
- 置換後の色が"Lab"の場合、必ずオンで表示されます。

- v3.5以上のデバイスプロファイルを選択している場合には、[ΔE]アイコンをクリックして、以下の情報を表示させることができます。
  色差：次の2つのL*a*b*値から算出した色差を表示します。
  (1)出力のL*a*b*値
  (2)[印刷条件]画面で選択しているデバイスプロファイルから算出したL*a*b*値
- ただし、出力のL*a*b*値が、選択しているデバイスプロファイルの色再現範囲内のとき、色差は表示されません。
  また、[出力インク][出力]でL*a*b*値を設定している場合、出力時のインクが表示されます。

● [CMYK]タブ



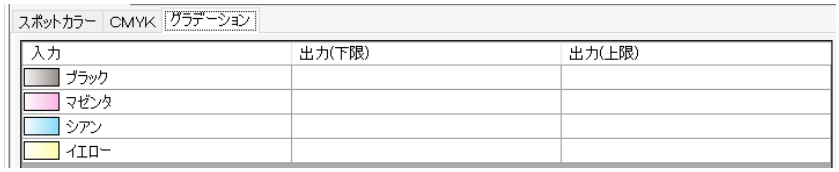
[入力] ：CMYK成分値と、プレビューの色が表示されます。

[出力] ：置換後の色とシミュレートされた印刷色が表示されます。

[インクリミット] ：オンにすると、デバイスプロファイル内のインクリミットが適用されます。

- [色差][出力インク]欄は[スポットカラー]タブと同様に、置換後の色がLab値の場合、[ΔE]アイコンをクリックすると表示されます。

● [グラデーション]タブ



[入力] ：グラデーションの種類が表示されます。☞ P. 165

[出力（下限）] ：置換後のグラデーションの下限値が表示されます。

[出力（上限）] ：置換後のグラデーションの上限値が表示されます。

● プレビュー



1.色情報

プレビューで、クリックした箇所の色の情報が表示されます。
[入力]：オブジェクト、カラーモード、元画像データの色の情報が表示されます。
[出力]：置換後の色の情報が表示されます。

- 色置換ができない箇所があった場合、プレビューで該当箇所をクリックしてください。[入力]の情報から置換できるかどうかを確認することができます。

2.[指定色を反転表示する]

チェックボックスをオンにすると、[スポットカラー]タブ、[CMYK]タブ、[グラデーション]タブの入力/出力色一覧で選択されている色の部分が反転表示されます。

色置換設定 - 操作

● スポットカラー、CMYKを色置換する

重要！ ・ 元画像データの設定については、☞「スポットカラーを色置換する場合の注意事項」（P. 162）をご覧ください。

1 [ジョブ一覧]タブで色置換したいジョブを選択します。

2 [機能]メニューまたは機能アイコンから、[色置換設定]()アイコンをクリックします。

3 [色置換設定]画面の[スポットカラー]タブまたは[CMYK]タブを選択します。

・ 画像データで使用されているスポットカラーまたはCMYKプロセスカラーが表示されます。



4 [リスト]から置換したいスポットカラーまたはCMYKプロセスカラーを選択します。

5 [置換後の色]で、[置換する]チェックボックスをオンにします。

6 [インク]または[Lab]を選択します。

7 置換後の色を設定します。





- [インク]を選択した場合は%で、[Lab]を選択した場合は各L*a*b*値を設定してください。

[プロファイルのインクリミットを適用]について
- [インク]を選択すると表示されます。
- オンにすると、デバイスプロファイルのインクリミットが適用されます。
- インクあふれを緩和させるために自動的に設定値よりも低い値に変換して印刷を行います（100%を設定しても、それよりも低い値で印刷を行います）。
- オフにすると、設定した色成分値通りに印刷を行いますが、インクあふれによるにじみなどの印刷不良がでやすくなります。できるだけオンにした状態でお使いください。
- 特色インクセットのインクが3スロット以上ある場合、自動的にオンになります。

[Lab色置換精細モード]について
- V3.5以上のプロファイルが選択された状態で[Lab]を選択すると当モードが表示されます。
- オンにすると、Ver3.1.0より前のバージョンに比べて数値の分解能が高くなり、より細かい数値を指定できます。

[入力濃度誤差緩和]について
- オンにすると、オフの時より入力濃度の検出誤差が緩和され、色置換される範囲が広がります。
  意図した箇所が色置換されない場合は、オンにしてお試しください。
  例) 入力濃度Cyan50%の箇所に色置換設定したが、Cyan49.5%の箇所が色置換されなかった場合　など

8 [適用]をクリックします。

重要！
- カラーインクと特色インクを同時に使用して色置換した場合、プリンターとレイヤー設定の特色重ね印刷☞「レイヤー設定 - 操作」（P. 158）の設定によって、以下のように印刷されます。

- 特色版重ね印刷しない：特色とカラーを同時に印刷します。特色とカラーインクが混ざったように見えます。
  カラー⇒特色：カラーを先に印刷し、その後、特色を重ねて印刷します。
  特色⇒カラー：特色を先に印刷し、その後、カラーを重ねて印刷します。

- 種類の異なる特色インクを同時に使用して色置換した場合については機種、設定により異なります。

● グラデーションを色置換する

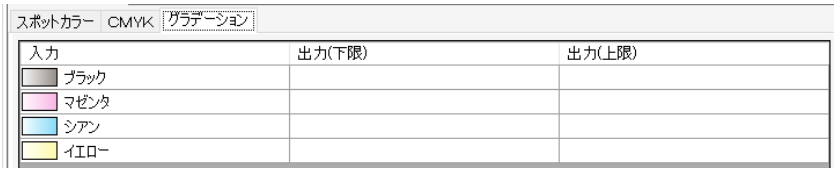
重要！
- 元画像データの設定については、☞「グラデーションを色置換する場合の注意事項」（P. 165）および☞「スポットカラーを色置換する場合の注意事項」（P. 162）をご覧ください。

1 [ジョブ一覧]タブで色置換したいジョブを選択します。

2 [機能]メニューまたは機能アイコンから、[色置換設定]( )アイコンをクリックします。

3 色置換設定]画面の[グラデーション]タブを選択します。

- 元画像データで使用されているグラデーションが表示されます。



4 別の色に置換したいグラデーションを選択します。

5 置換後の色で、[置換する]チェックボックスをオンにします。



6 [出力（下限）]で、置換後のグラデーションの最低濃度を設定します。

7 [出力（上限）]で、置換後のグラデーションの最高濃度を設定します。

8 [適用]をクリックします。

[入力濃度誤差緩和]について
- オンにすると、オフの時より入力濃度の検出誤差が緩和され、色置換される範囲が広がります。
  意図した箇所が色置換されない場合は、オンにしてお試しください。
  例) 入力濃度Cyan50%の箇所に色置換設定したが、Cyan49.5%の箇所が色置換されなかった場合　など

● 測色器を使用して色置換する

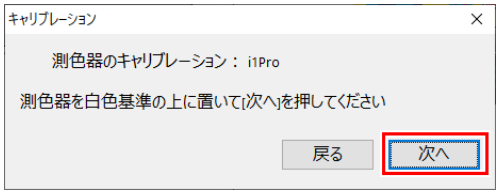
重要！ • [印刷条件]画面でv3.5 以上のデバイスプロファイルを選択している場合、測色器を使用することができます。

1 [ ]アイコンをクリックします。



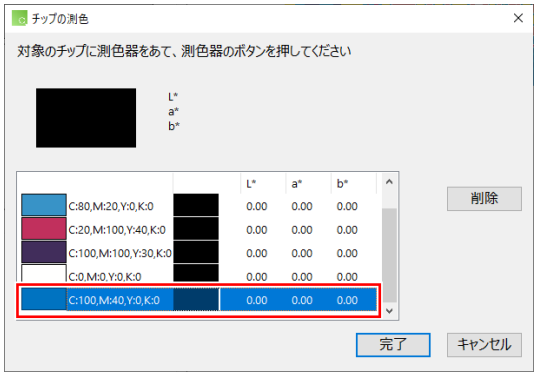
- キャブレーションダイアログが表示されます。

2 測色器を白色基準の上に置いて、[次へ]をクリックします。



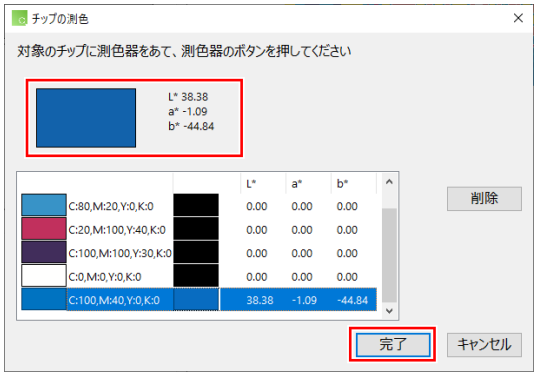
- 白色基準の測定が完了すると、測色の画面が表示されます。

3 リストから測色する色を選択します。



4 対象の色に測色器を当て、測色器のボタンをクリックします。

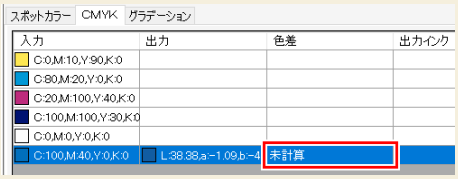
- 測色結果（L*a*b*値）が表示されます。
  続けて測色する場合は手順(3)、(4)を繰り返してください。



5 [完了]をクリックします。

- 測色したL*a*b*値が表示されます。

- 入力/出力色一覧の[色差]列に[未計算]と表示されている場合、[ΔE]アイコンをクリックしてください。色差と出力インクの情報が算出されて表示されます。



● カラーコレクションから選択する

カラーコレクションから色置換情報を選択し、ジョブに適用します。

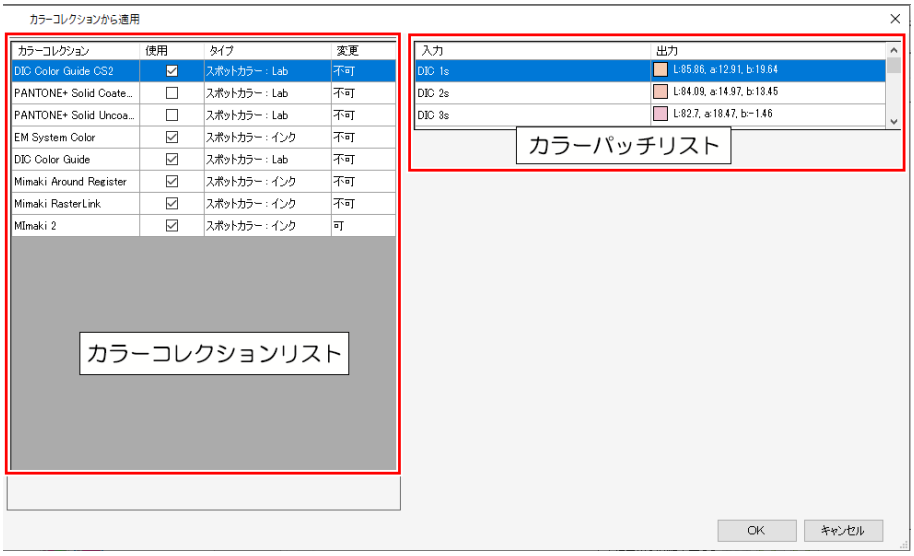
1 [ジョブ一覧]タブで色置換したいジョブを選択します。

2 [機能]メニューまたは機能アイコンから、[色置換設定]()アイコンをクリックします。

3 置換後の色で、[置換する]チェックボックスをオンにします。

4 [ ]アイコンをクリックします。

- [カラーコレクションから適用]ダイアログが表示されます。



5 [カラーコレクションリスト]から、使用するカラーコレクションを選択します。

6 [カラーパッチリスト]から、置換後の色に設定したい色を選択します。

7 [OK]をクリックします。

- 入力/出力色一覧の[出力]が更新されます。

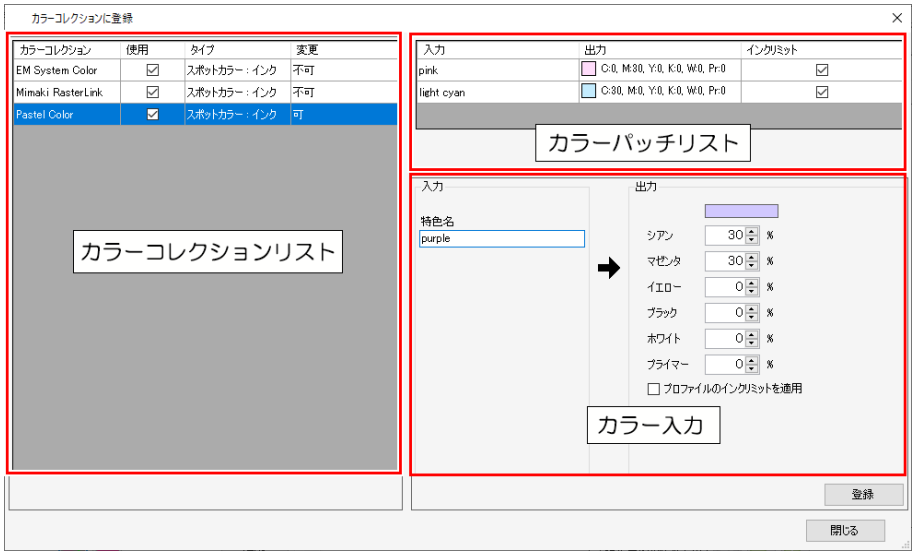
● カラーコレクションに登録する

カラーコレクションに色置換情報を登録します。

1 **[色置換設定]画面の入力、出力一覧で、色置換が設定されている色を選択します。**

2 **[ ]アイコンをクリックします。**

- [カラーコレクションに登録]ダイアログが表示されます。



3 **[カラーコレクションリスト]から、登録したいのカラーコレクションを選択します。**

4 **[カラー入力]に登録したい色情報が設定されているか確認します。**

5 **[登録]をクリックします。**

- [カラーパッチリスト]に色が登録されます。

色置換機能の制限事項

以下の機種／インクセットをお使いの場合、色置換機能に制限があります。

- 機種：UJF-6042MkII, UJF-6042MkIIe
- インクセット：CMYK+ClPWW

制限内容は以下になります。

- プライマーに色置換できません。
- クリアに色置換できません。

該当する機種／インクセットの場合は、単色置換または版生成の機能を使用してください。

また、"ClearTexture"の特色名を含む画像データを入力する場合、"Mimaki RasterLink"のカラーコレクションの[使用]チェックボックスをオフにしてから画像データを入力してください。

● 置換後の色を元にカラーチャートを印刷する

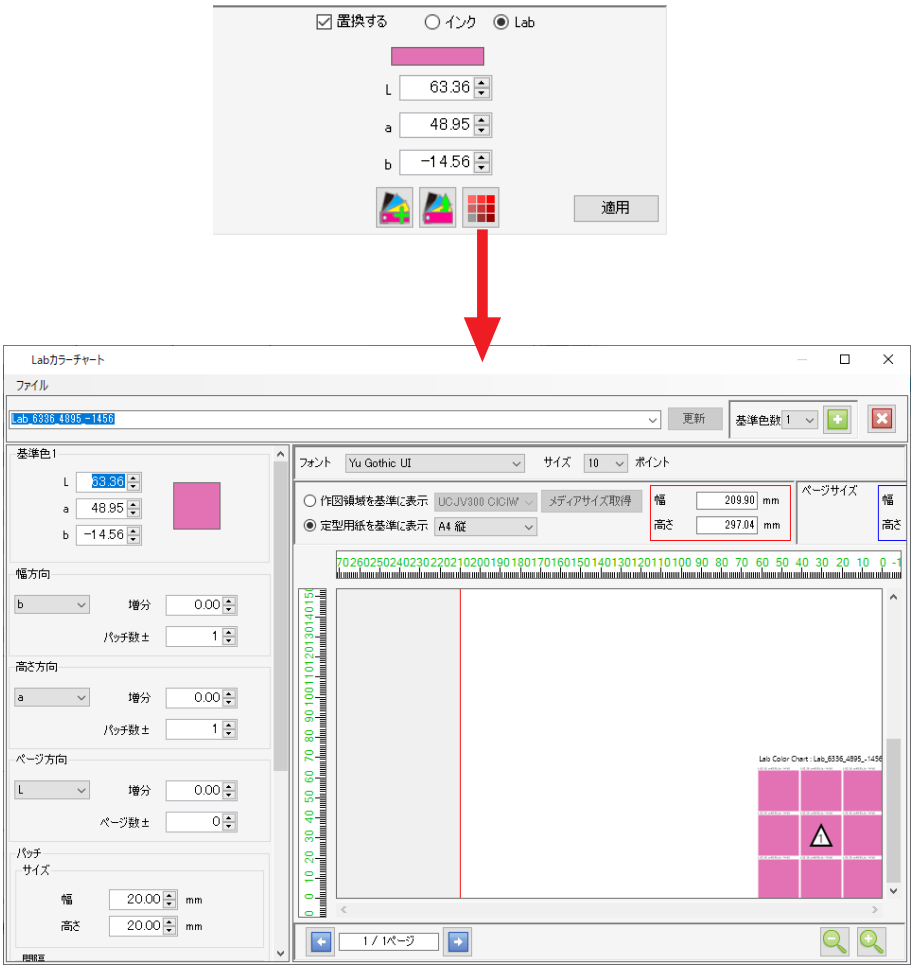
置換後の色がLabの場合、設定された色を基準色としたLabカラーチャートが作成できます。
色置換した画像を出力した後、色味を調整したい場合に便利です。
Labカラーチャートについては☞「Labカラーチャート」（P. 228）をご覧ください。

1 [リスト]から置換する色を選択します。

2 [置換後の色]で[置換する]のチェックボックスがオフの場合、オンにします。

3 "Lab"を選択し、置換後のLabを設定します。

4 [ ]アイコンをクリックします。



2.2.15 お気に入り設定

各機能の設定をお気に入りとして保存し、管理します。

お気に入り設定 - 機能

RasterLink8では、各種の設定をお気に入りとして保存できます。お気に入りとして保存（登録）した設定は、他の印刷用データにも適用できます。

機能ごとに、以下の条件をお気に入りとして設定することができます。

● [プロパティ]

- [ジョブ属性]
- [置換元の色]、[置換後の色]
  [ジョブ属性]が[単色印刷]の場合に表示されます。
- [UVモード]

UVモードの設定は、以下のジョブの場合にお気に入りとして設定することができます。
- [ジョブ属性]が[フルカラー印刷]で、かつCMYK色またはスポットカラーを特色インクに色置換していないジョブ
- [ジョブ属性]が[単色印刷]のジョブ

- [UVモード]（色置換）
  CMYK色またはスポットカラーを特色インクに色置換したジョブに登録し、使用するUVモードの設定
- [UVモード]（版作成）
  版作成したジョブ、または特色版ジョブを自動版作成したジョブに登録し、使用するUVモードの設定

設定方法や、適応方法については☞「お気に入り設定 - 操作」（P. 181）をご覧ください。

重要! 以下のジョブは、お気に入りへの設定を保存したり、お気に入りの設定を適用させることができません。
- [プロパティ]画面の[ジョブ属性]が[カットのみ]のジョブ
- 元画像がRGBカラーモードのジョブ

重要! 以下の項目は、お気に入りに保存できません。
- [ジョブ一覧]の[属性]が[カラー(グロス調)]の[プロパティ]

● [印刷条件]

印刷条件画面で設定できる条件のすべて

● [通常印刷]

- [スケール]
- [傾き補正]
- [ラベルを付加する]
- [回転]
- [中央合せ]
- [カット編集]
- [ミラー]
- [トンボ]

● [治具配置印刷]

- [治具配置印刷のオン/オフ]
- [回転]
- [治具名]
- [スケール]

[ミラー]

● **[分割印刷]**

- [スケール]
- [回転]
- [ミラー]
- [重ね代]
- [タイル番号を印刷]
- [カット線を印刷]
- [ラベルを付加する]

● **[ステップ&リピート印刷]**

- [スケール]
- [回転]
- [ミラー]
- [中央合せ]
- [タイプ]
- [ラベルを付加する]
- [トンボ目安線]

● **[治具印刷]**

- [Kebab印刷のオン/オフ]
- [スケール]
- [回転]
- [ミラー]

● **[版作成]**

- [版作成]
- [特色領域]
- [実行]
- [自動版作成]

● **[レイヤー設定]**

- [特色色置換レイヤー設定]
- [位置補正]

[特色版サイズ補正]

[特色色置換レイヤー設定]について
画像データを特色に色置換した時の特色版重ね印刷を、特色ごとにお気に入り登録できます。
登録できる特色版重ね印刷は以下の4つです。

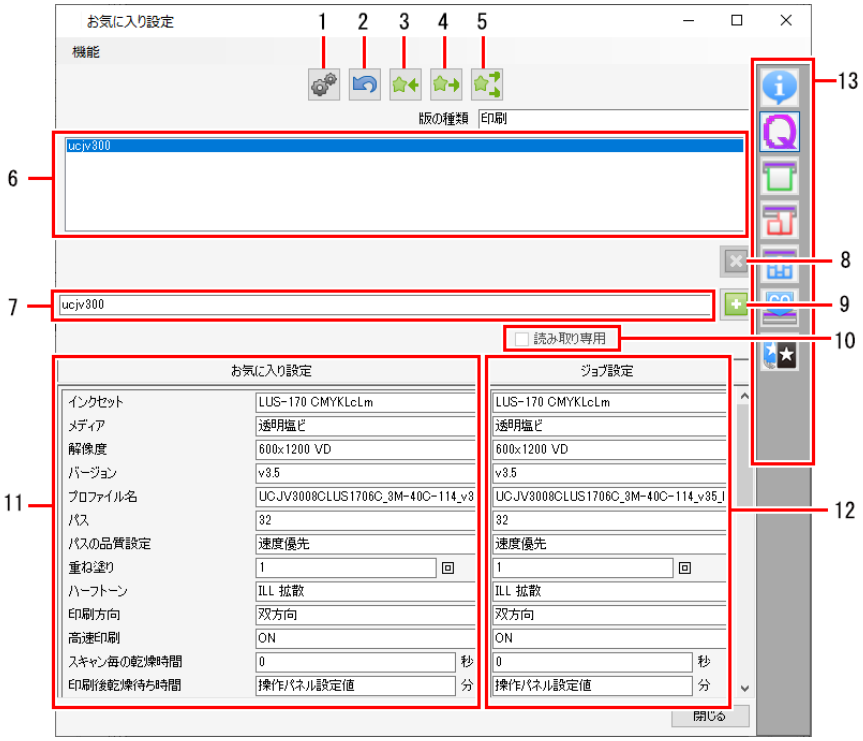
- 特色　→　カラー
- カラー　→　特色
- 重ね印刷しない
- デフォルト（RasterLink8のプログラムに従い、上記3つの設定のいずれかが初期値として登録されます）

● **[実行]**

- [印刷回数]

お気に入り設定 - 画面構成

● [お気に入り設定]



1	ホットフォルダーの作成、削除	ホットフォルダーとプリンタードライバーを作成、削除します。
2	取り消し	直前に保存した内容を取り消します。
3	保存	[ジョブ設定]に表示されている値をお気に入りに保存します。
4	適用	選択されている機能に対して、[お気に入り設定]に表示されている値を[ジョブ設定]に適用します。
5	すべて適用	すべての機能に対して、[お気に入り設定]に表示されている値を[ジョブ設定]に適用します。
6	リスト	お気に入りのリストが表示されます。
7	入力枠	新たに追加するお気に入りの名前を入力します。
8	削除	お気に入りを削除します。
9	新規追加	お気に入りを新たに追加します。
10	読み取り専用	チェックボックスをオンにすると、選択したお気に入りを読み取り専用にします。お気に入りの設定の変更や削除を防止したい場合に使用します。
11	お気に入り設定	選択されている機能の、お気に入りに設定されている項目と値が表示されます。
12	ジョブ設定	選択または編集中のジョブに設定されている項目と値が表示されます。
13	機能アイコン	アイコンをクリックすると、各機能のお気に入り設定に切り替わります。

お気に入り設定 - 操作

● お気に入りを新たに追加する

1 [機能]メニューまたは機能アイコンから、[お気に入り設定]をクリックします。

2 入力枠に、お気に入りの名前を入力します。

3 []アイコンをクリックします。

- 新たなお気に入りがリストに追加されます。

重要!
- プリンターを登録すると、プリンター名と同名のお気に入りが作成されます。
- 作成できるお気に入りの個数は、RasterLink8に登録されたプリンターの設定すべて合わせて100個までとなります。

● 現在の設定をお気に入りとして保存する

1 [機能]メニューまたは機能アイコンから、編集する機能をクリックします。

2 各種の設定を行います。

3 [機能]メニューまたは機能アイコンから、[お気に入り設定]をクリックします。

4 保存先のお気に入りを、リストから選択します。

- 選択したお気に入りの設定項目と値が[お気に入り設定]に表示されます。

5 手順1の機能アイコンをクリックします。

6 []アイコンをクリックします。

- 選択したお気に入りの[お気に入り設定]に、ジョブ設定が保存されます。
- 設定項目、設定値にお気に入りに設定されている項目と、その値が表示されます。

● お気に入りを呼び出して設定に適用する

1 任意のジョブを選択します。

2 [機能]メニューまたは機能アイコンから、[お気に入り設定]をクリックします。

3 適用元のお気に入りを、リストから選択します。

- お気に入りに設定されている項目と値が、[お気に入り設定]に表示されます。

4 設定を適用したい機能のアイコンをクリックします。

- [お気に入り設定]の値が正しいか確認してください。

5 [ ]アイコンをクリックします。

・ [お気に入り設定]に表示されている項目と値が、[ジョブ設定]に適用されます。

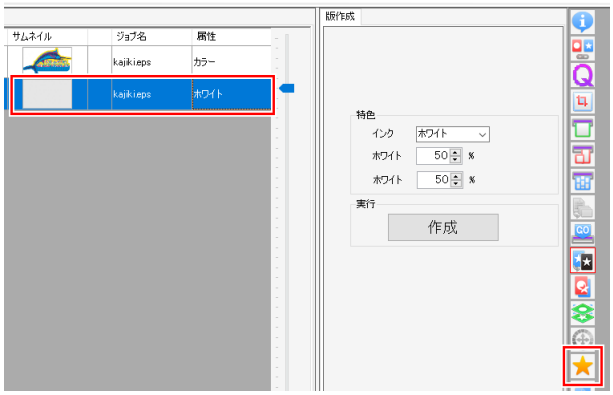
・ [ ]アイコンをクリックすると、選択したお気に入りの内容を、現在表示中の機能の設定だけでなく、すべての機能の設定に適用することができます。

● 画像読み込み時に、自動で特色版ジョブを作成する

1 自動版作成を行いたい条件で特色版を作成します。

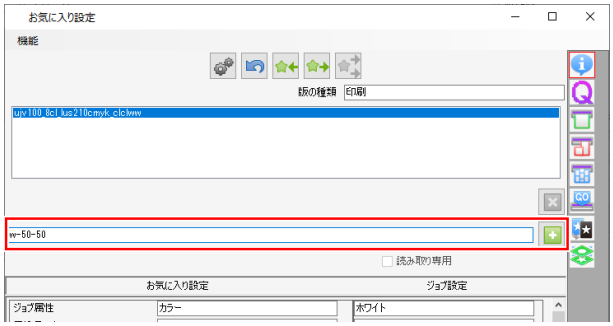


2 作成した特色版を[ジョブ一覧]タブで選択し、[お気に入り設定]アイコンをクリックします。



・ [お気に入り設定]画面が表示されます。

3 お気に入りを新規に作成します。

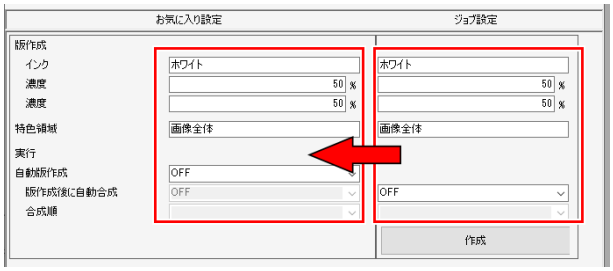


4 [お気に入り設定]画面の[版作成]アイコンをクリックします。

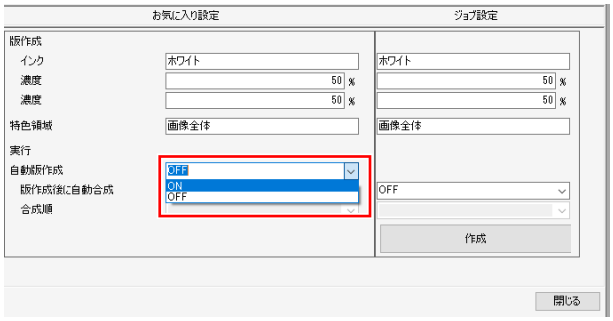


5 [ ]アイコンをクリックして現在の条件を保存します。

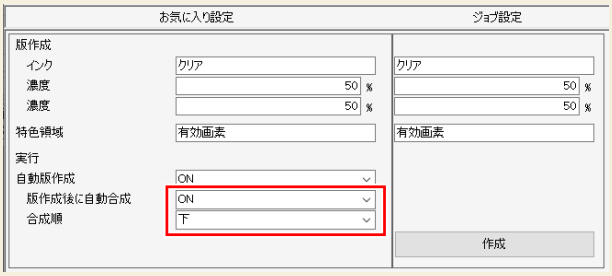
- ジョブで設定した条件（[版作成]、[特色領域]）がお気に入りに保存されます。



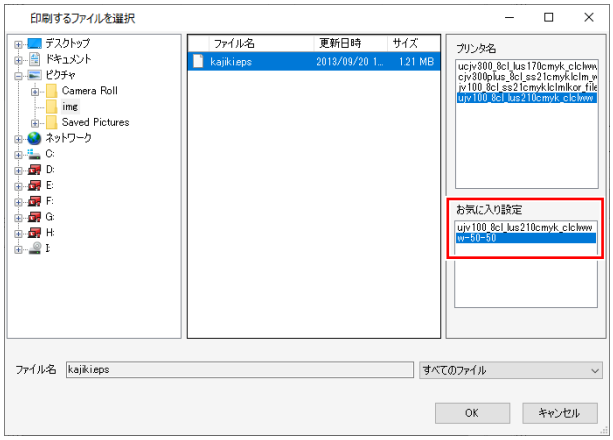
6 [自動版作成]を[ON]にします。



- 作成した特色版を合成したい場合は、[版作成後に自動合成]を[ON]にし、[合成順]を指定してください。



7 設定したお気に入りを選択して、画像データを読み込みます☞「お気に入り設定」（P. 178）。



- 読み込んだ画像データを元に、自動的に特色版ジョブが作成されます。

● お気に入りを削除する

1 [機能]メニューまたは機能アイコンから、[お気に入り設定]をクリックします。

2 削除したいお気に入りを、リストから選択します。

3 []アイコンをクリックします。

- 選択したお気に入りが削除されます。
- ホットフォルダーやプリンタードライバーが削除されます。

重要！ • プリンターを登録したときに作成されたお気に入りは、削除することができません。

● お気に入り設定からホットフォルダーとプリンタードライバーを作成する

1 [機能]メニューまたは機能アイコンから、[お気に入り設定]をクリックします。

2 [作成]をクリックします。

- ホットフォルダーが作成されます。
- ホットフォルダーは以下の場所にあります。
  "RasterLink8のインストールフォルダー￥Hot￥お気に入り名"
- 作成できるホットフォルダーの最大個数は30個です。

2.2.16 複製

元のジョブはそのままにしながら、一部だけ設定を変更したいジョブを作成する場合に有効です。

複製 - 機能

[複製]では、以下の操作を行うことができます。

- ジョブを複製する

複製 - 画面構成

● [複製]画面



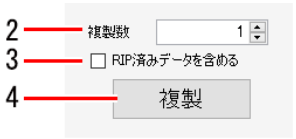
複製 - 操作

● ジョブを複製する

1 [ジョブ一覧]タブでジョブを選択します。



2 [複製]画面の[複製数]に、ジョブを複製する数を入力します。



3 [RIP済みデータを含める]チェックボックスをオンまたはオフにします。

- オンにすると、ジョブとRIP済みデータの両方が複製されます

4 [複製]をクリックします。

- 複製されたジョブの名称は、元のジョブと同じ名称になります。
  適宜、ジョブの[プロパティ]画面で名称を変更してください。☞「ジョブ名を変更する」（P. 38）

2.2.17 バックアップ

ジョブのバックアップファイルを作成します。

バックアップしたジョブをファイルから復元します。

バックアップ - 機能

[バックアップ]では、以下の操作を行うことができます。

- ジョブのバックアップを行う
- バックアップファイルからジョブを復元する（リストア）

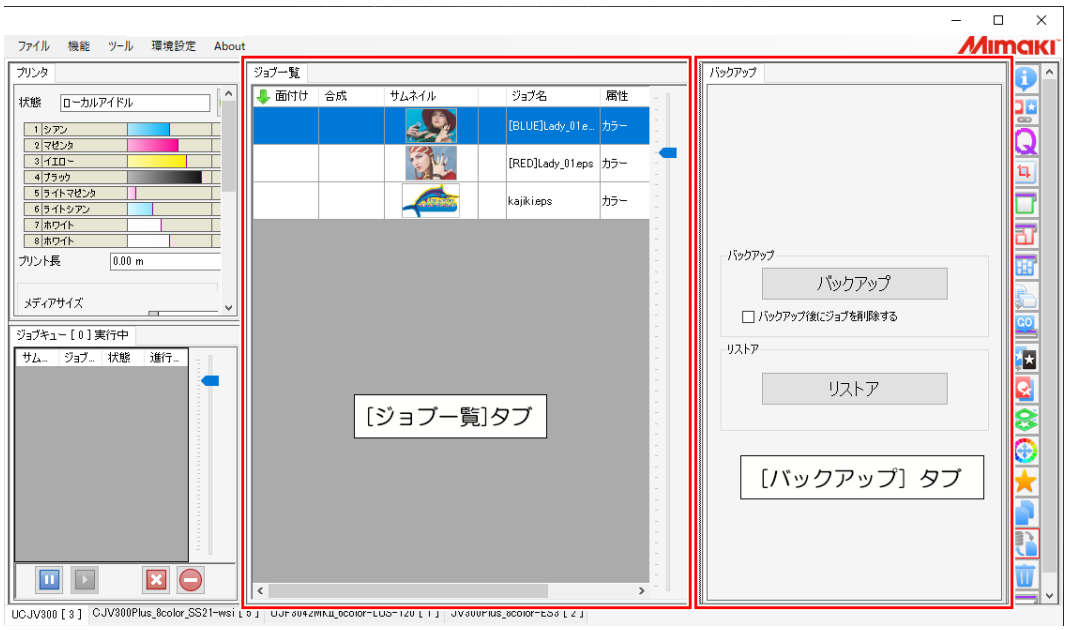
● 条件

以下の場合には、バックアップファイルからジョブを復元することができません。

- RasterLink6Plus以前のバックアップファイル
- バックアップファイルに登録されているプリンターまたは特色インクセットが、復元先のRasterLink8に登録されていないとき
- バックアップファイルで指定されているデバイスプロファイルや入力プロファイルが、復元先のRasterLink8にインストールされていないとき

バックアップ - 画面構成

● [バックアップ]画面



バックアップ - 操作

● ジョブのバックアップを行う

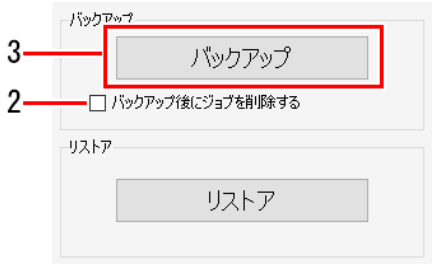
1 **[ジョブ一覧]タブでジョブを選択します。**

- 複数のジョブを選択した場合、それらは1つのバックアップファイルに保存されます。



2 **[バックアップ]タブの[バックアップ後にジョブを削除する]チェックボックスをオンまたはオフにします。**

- オンにすると、バックアップ後にジョブが削除されます。



3 **[バックアップ]をクリックします。**

- [保存するファイル名を指定]ダイアログが表示されます。

4 **任意の名前を付けて、[保存]をクリックします。**

- バックアップファイルが作成されます。

バックアップファイルには以下のデータが保存されます。

- 元画像データ
- ジョブの設定情報
- デバイスプロファイル
- 入力プロファイル
- 各種設定ファイル

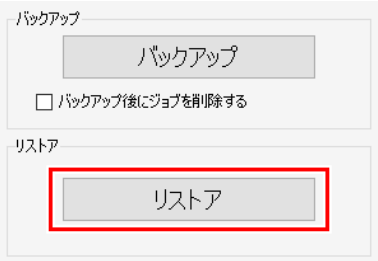
重要!

- カメラ連携している場合、カメラで撮影した際の位置情報や部数、回転、スケールの情報は保存されません。
- バックアップファイルにはRIP済みデータは保存されません。
- バックアップファイルからジョブを復元したときは、もう一度RIPを行ってください。

● バックアップファイルからジョブを復元する（リストア）

1 **[バックアップ]タブの[リストア]をクリックします。**

- [復元するファイル名を選択]ダイアログが表示されます。



2 **復元したいファイルを選択して[開く]をクリックします。**

- ジョブが復元されます。

重要！

- ジョブを復元する際、デバイスプロファイルや入力プロファイルがインストールされていない、というエラーが表示されることがあります。この場合、バックアップファイル内のデバイスプロファイルや入力プロファイルは、"インストールフォルダー¥Tmp"に保存されます。メッセージエリアに保存先の詳細が表示されます。
- その場合は、以下の手順で復元してください。
  (1)RasterLink8を終了させます。
  (2)Windowsのスタートメニューから[プロファイルマネージャー]を起動します。
  (3)必要なデバイスプロファイルや入力プロファイルをインストールします。
  (4)RasterLink8を再起動させます。
  (5)[バックアップ]タブの[リストア]をクリックします。
- RasterLink7のバックアップジョブファイルをリストアすることも可能です。

- [ファイル] - [リストア]を選択して、バックアップファイルからジョブを復元することもできます。

2.2.18 削除

ジョブを削除します。

削除 - 機能

[削除]では、以下の操作を行うことができます。

- ジョブやRIP済みデータを削除する

● 条件

以下の場合には、ジョブを削除することができません。

- [合成]や[面付け]を設定したジョブ群の一部だけを選択しているとき

- [合成]や[面付け]をしているジョブ群をすべて選択すると、ジョブ群をまとめて削除することができます。
- [合成]や[面付け]を解除すると、それぞれのジョブを個別に削除することができます。

削除 - 画面構成

● [削除]画面



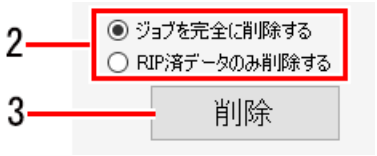
削除 - 操作

● ジョブやRIP済みデータを削除する

1 [ジョブ一覧]タブでジョブを選択します。



2 [削除]タブの項目を選択します。



- [ジョブを完全に削除する]：ジョブの情報をすべて削除します。
- [RIP済データのみ削除する]：選択したジョブのRIP済みデータを削除します。

3 [削除]をクリックします。

- ジョブやRIP済みデータが削除されます。

2.2.19 治具配置印刷

治具にジョブを配置して印刷します。



- 印刷対象（ボールペン、ケースなど）を固定するものを治具と言います。

治具配置印刷 - 機能

[治具配置印刷]では以下の操作を行うことができます。

- 治具テンプレートを編集する
- 治具の輪郭線を印刷する
- 治具印刷用のジョブを拡大、縮小させる
- 治具印刷用のジョブを回転させる
- 治具印刷用のジョブを左右に反転させる
- 治具印刷用のジョブをコピーする
- 治具定義ファイルをインポート・エクスポートする

● 条件

対象機種

フラットベッドプリンター、UJ330H

編集条件

ジョブの設定によっては、治具配置印刷を使用できない場合があります。

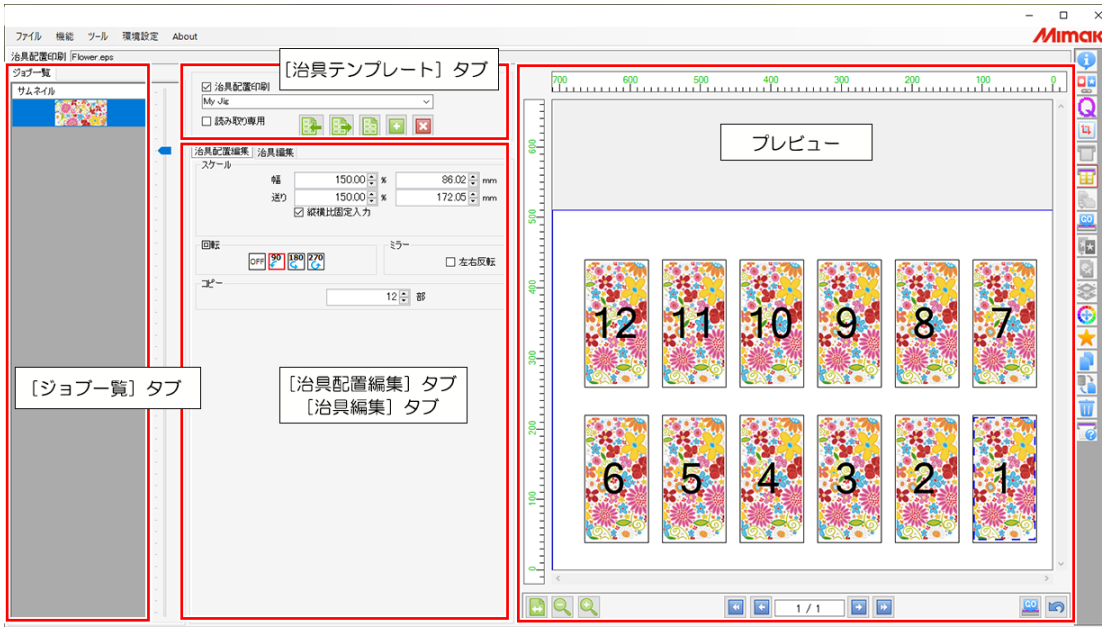
設定	治具配置
[合成]	○
[面付け]	○
[クリップ]	○
[分割印刷]	×
[ステップ&リピート]	×
[トリミング位置ロック]	×
[kebab印刷]	×
○:治具配置印刷を使用できます。 ×:治具配置印刷を使用できません。	

複数のジョブをまとめて治具に配置したい場合

複数のジョブを面付けしてから[治具配置印刷]の設定を行います。

治具配置印刷 - 画面構成

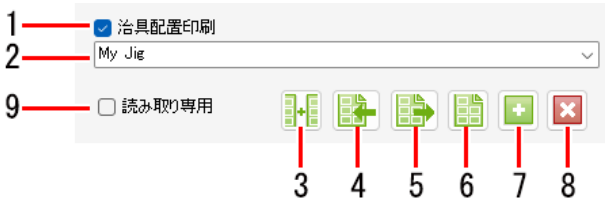
● [治具配置印刷]画面



● [ジョブ一覧]タブ

[治具配置印刷]の編集対象となるジョブを表示します。

● 治具テンプレート選択



1. **[治具配置印刷]**
   治具配置印刷を使用する/しないを選択します。

2. **治具テンプレート名**
   治具テンプレートを選択します。

3. **治具幅方向コピー**
   治具定義ファイル内の複数素材を1つのグループとして、幅方向にグループ単位でコピーした新たな治具定義ファイルを作成します。
   コピーした治具については[素材]の[サイズ]、[個数]、[間隔(ピッチ指定)]の値を変更することはできません。

4. **治具定義ファイルのインポート**
   治具テンプレートの定義ファイルをRasterLink8に読み込みます。

5. **治具定義ファイルのエクスポート**
   治具テンプレートの定義ファイルをxmlフォーマットのファイルに保存します。

6. **治具輪郭を印刷**
   治具の輪郭線を印刷します。

   UJ330Hで治具の輪郭線を印刷する方法については、当説明の最後部に記載の重要（UJ330Hをお使いの場合）をご覧ください。

7. **治具テンプレートの追加**
   新たな治具テンプレートを追加します。

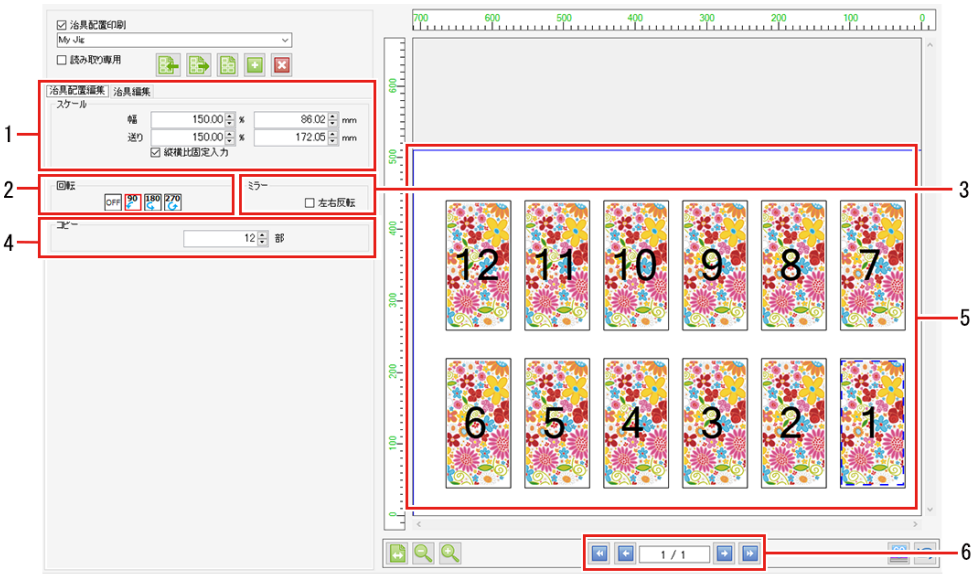
8. **治具テンプレートの削除**
   治具テンプレートを削除します。

9. **[読み取り専用]**
   読み取り専用/編集可能を選択します。

重要！ UJ330Hをお使いの場合

- 治具輪郭画像は、PDFに保存してお使いください（[治具輪郭を印刷]画面の[印刷]ボタンは使用できません）。
- 治具輪郭画像をRasterLink8に読み込んで印刷する場合、[リジッドメディア配置印刷]画面で[リジッドメディア編集]をオンに設定して印刷してください。
- [リジッドメディア編集]をオンに設定せずに印刷する場合、メディア右標準余白（マージン設定されている場合はマージン適用後の余白）分、幅方向に余白を付加して印刷されます。

● [治具配置編集]タブ、[治具編集]タブ、プレビュー



1. **[スケール]**
   ジョブのサイズを設定します。

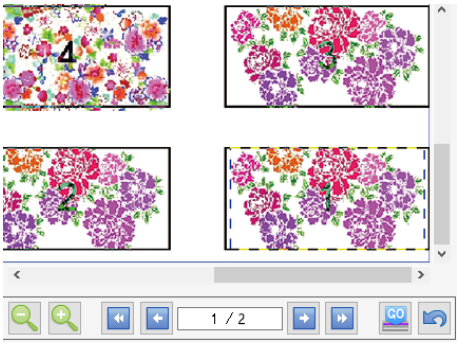
2. **[回転]**
   ジョブを回転します。

3. **[ミラー]**
   ジョブを左右に反転します。

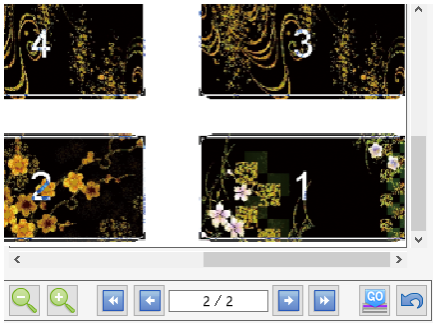
4. **[コピー]**
   ジョブのコピー部数を設定します。

5. **配置プレビュー**
   治具テンプレートにジョブを配置した状態が表示されます。

6. 盤面切り替え
   をクリックして、盤面を切り替えます。

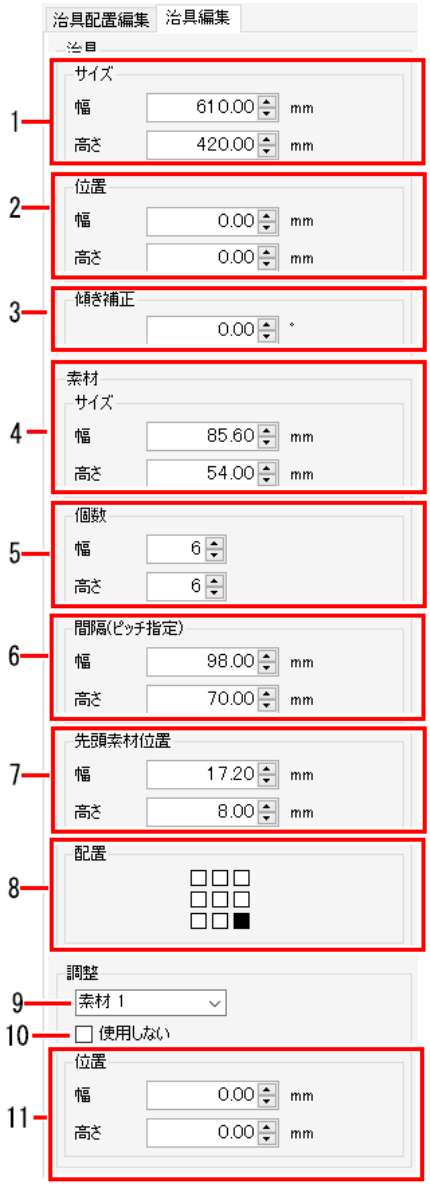


最初の盤面（1/2）



次の盤面（2/2）

● [治具編集]タブ



1.[サイズ]

治具全体のサイズを設定します。

2.[位置]

作図原点から、治具の右下までの距離を設定します。

3.[傾き補正]

治具の傾きを設定します。
[差込編集]と組み合わせて使用することはできません。
☞ 傾きを補正する

4.[サイズ]

素材1つの大きさを設定します。

5.[個数]

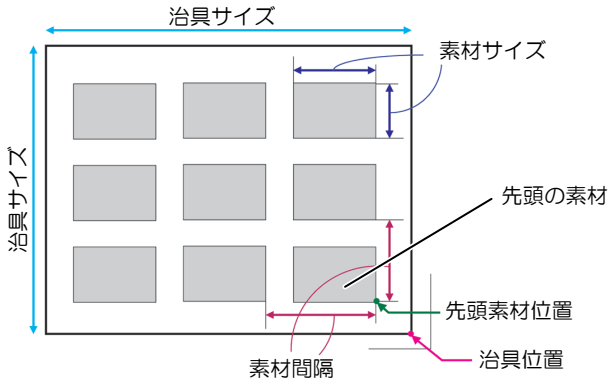
配置する素材の個数を設定します。

6.[間隔（ピッチ指定）]

素材の間隔を設定します。

7.[先頭素材位置]

治具の右下から、先頭の素材の右下までの距離（先頭素材位置）を設定します。



8.[配置]

素材のどの位置にジョブを配置するかの基準を設定します。



9.[素材]

調整する素材を選択します。

10.[使用しない]

素材を印刷に使用する/しないを選択します。

11.[位置]

素材位置を調整します。

治具配置印刷 - 操作

● 治具配置印刷の設定を開始する

1 **[治具配置印刷]画面の[治具配置印刷]チェックボックスをオンにします。**

- [治具配置印刷]機能の各種設定ができるようになります。

● 治具テンプレートを編集する

<u>治具テンプレートを新規作成する</u>



1 **治具テンプレート選択の入力枠内に、新しく設定する治具テンプレートの名称を入力します。**

2 **[ ]アイコンをクリックします。**

- [治具編集]タブが表示されます。

[治具] ： 治具全体のサイズ、作図原点の位置、傾きを設定することができます。傾きは治具の右下を支点とした角度（-45°～45°）で設定してください。

- 治具を傾けると、治具上の各素材も傾きます。
  テーブルに対して、傾いた状態を補正したい場合に、傾きを調整してください。
- 治具を傾けると、ジョブの輪郭や直接部分に若干のジャギー（ギザギザ）が発生します。
  特に解像度が低いラスターデータの場合、ジャギーが顕著に発生します。
  ラスターデータを傾ける場合は、印刷解像度に近い解像度でデータ作成してください。

[素材] ： 各素材のサイズ、個数、先頭素材位置、配置を設定することができます。
サイズは有効作図サイズ（最低25.4mm）、個数は99×99（総数9801個）まで、間隔はピッチ(幅は右隣の素材右端からの距離、高さは下隣の素材の下端からの距離）で設定します。

[調整] ： 対象とする素材を選択して、位置を微調整することができます。素材プルダウンメニューまたはプレビューで素材をクリックして選択してください。選択した素材は赤い枠付きでプレビューに表示されます。

<u>治具テンプレートを編集する</u>

1 **治具テンプレート選択のプルダウンメニューから、治具テンプレートを選択します。**

2 **[治具編集]タブを選択します。**

3 **治具の各種設定を行った後、[ ]アイコンをクリックします。**

- 治具テンプレートの設定が上書きされます。

重要！ • [作図領域全体]治具テンプレートは編集できません。

<u>治具テンプレートを削除する</u>

1 **治具テンプレート選択のプルダウンメニューから、治具テンプレートを選択します。**

2 [ ]アイコンをクリックします。

- 治具テンプレートが削除されます。

重要! • [作図領域全体]治具テンプレートは削除できません。

● 治具輪郭を印刷する

1 [ ]アイコンをクリックします。

- [治具輪郭を印刷]ダイアログが表示されます。

[お気に入り設定] ： 輪郭線を印刷する際に適用するお気に入りを選択します。
[線幅] ： 輪郭線の幅を設定します。
[カラー] ： 輪郭線の色を設定します。
[オフセット] ： 治具の矩形の描画方法を設定します。
（下図の赤枠は治具の矩形、黒線は印刷される輪郭線を意味します。）

オフセット	mm	描画設定	
指定	0の場合	治具の矩形を線の中心として輪郭線を印刷します。	
	0より大きい場合	治具の矩形の外側に輪郭線を印刷します。	
線幅の半分	設定なし	治具の矩形の外側に接するように輪郭線を印刷します。	

2 [印刷]をクリックします。

- 輪郭線が印刷されます。

3 [保存]をクリックします。

- PDFファイルが作成されます。

● 治具印刷用のジョブを拡大、縮小させる

1 [治具配置編集]タブの[スケール]にある[有効]チェックボックスをオンにします。

2 印刷するジョブの[幅]と[送り]を設定します。

- [幅]と[送り]は倍率（%）またはサイズで設定することができます。
- [縦横比固定入力]チェックボックスがオンの場合、元画像の縦横比を固定したまま、ジョブを拡大/縮小させることができます。

● 治具印刷用のジョブを回転させる

1 [治具配置編集]タブの[回転]から反時計回りに回転させる角度を選択します。

- 面付けジョブの場合は、[ジョブ一覧]のサムネイルまたは治具配置印刷のプレビュー画面で選択したジョブの設定が変更されます。

● 治具印刷用のジョブを左右に反転させる

1 [治具配置編集]タブの[ミラー]にある[左右反転]チェックボックスをオンにします。

- 面付けジョブの場合は、[ジョブ一覧]のサムネイルまたは治具配置印刷のプレビュー画面で選択したジョブの設定が変更されます。

● 治具印刷用のジョブをコピーする

1 [治具配置編集]タブの[コピー]で、コピーしたい部数を選択します。

- ジョブがコピーされて、自動的に配置されます。
- 面付けジョブの場合は、[ジョブ一覧]のサムネイルまたは治具配置印刷のプレビュー画面で選択したジョブの設定が変更されます。

● 印刷を実行する

1 プレビューの[]アイコンをクリックします。

- 前回、使用した[実行]と同じ設定でRIP、印刷が開始されます。
  設定については☞「実行」（P. 129）をご覧ください。

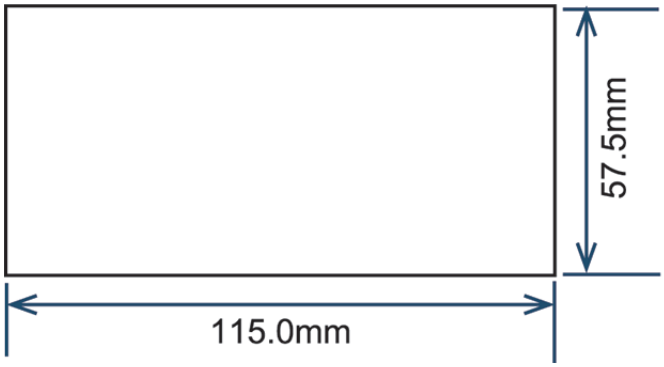
● 治具バーコード機能を使用する



- 治具バーコード機能については、別冊「治具バーコード機能ガイド」をご覧ください。

● 治具を使用した印刷手順

下図のような寸法の素材への印刷を例として説明します。

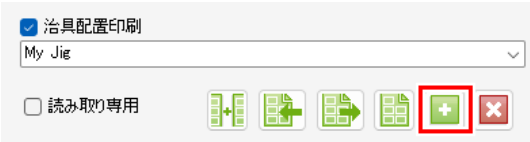


1 治具テンプレートを新規登録します。

(1) 印刷対象のジョブを選択し、[ ]アイコンをクリックして[治具配置印刷]画面を開きます。

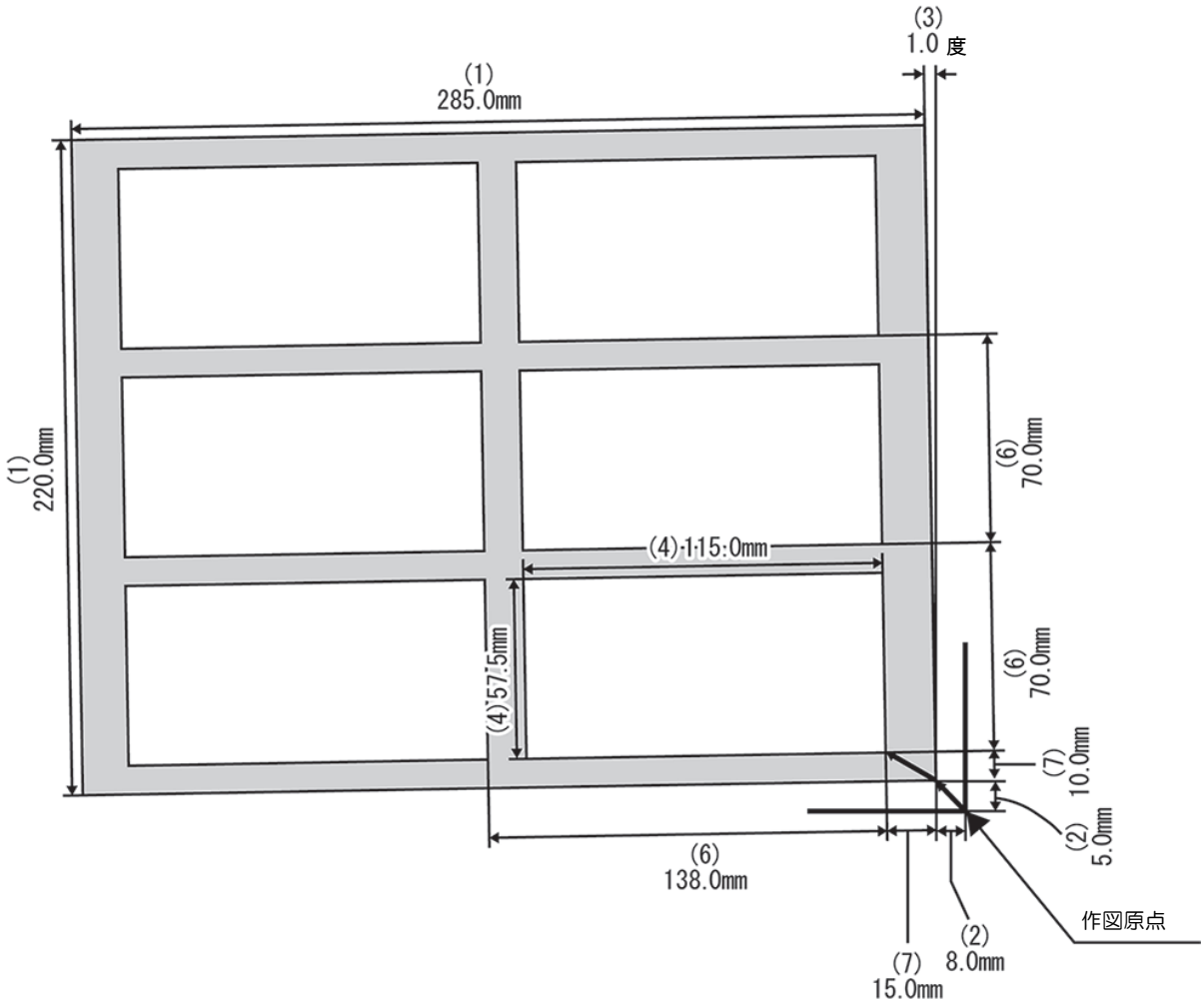
(2) 治具テンプレート名に適当な名称（ここでは「MyJig」）と入力し、[ ]アイコンをクリックします。

- 自動的に[治具編集]タブに切り替わります。

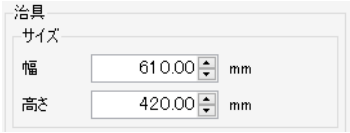


2 治具テンプレートを設定します。

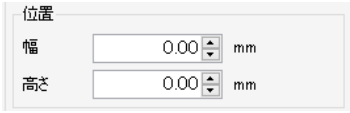
- プリンターに取りつけられた治具のサイズ情報を入力します。
  ここでは以下の寸法で作成され、取りつけられた治具を例として説明します。
  図中の番号は、その後の手順番号に対応しています。



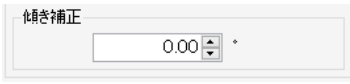
(1) 治具全体のサイズを入力します。



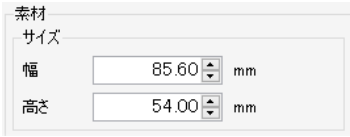
(2) 作図原点から、治具の右下までの距離を入力します。



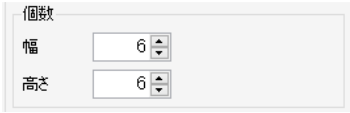
(3) テーブルに対して、治具の傾きの角度を入力します。反時計回りがプラスの値、時計回りがマイナスの値になります。



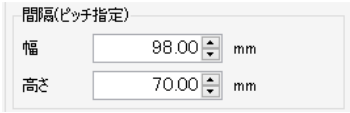
(4) 素材の大きさを入力します。



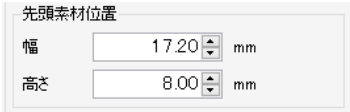
(5) 素材の幅方向、高さ方向それぞれの配置個数を入力します。



(6) 素材を並べるときの間隔をピッチで入力します。



(7) 治具の右下から、素材位置の右下までの距離を入力します。



(8) 素材サイズと画像サイズが一致しない場合に、ジョブを配置する基準を選択します。



重要! UJ330Hをお使いの場合

- 素材位置をプリントマージン領域内（右端、前端）に定義している場合、その素材に配置した画像はクリップされます。
- プリントマージン領域内に素材位置を定義しないようにご注意ください。

3 治具にジョブを配置します。

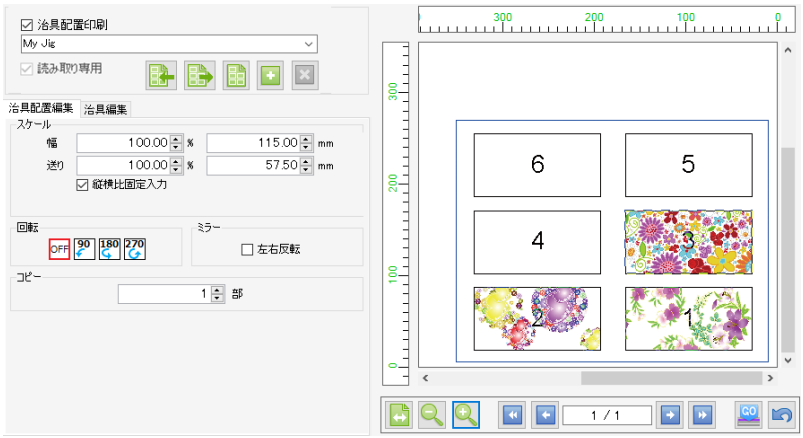
(1) ジョブの[ ]アイコンをクリックし、[ジョブ一覧]タブを表示します。

(2) 印刷するジョブを選択し、[治具配置印刷]画面を開きます。ここでは例として3 つのジョブを面付けしたものを選択します。

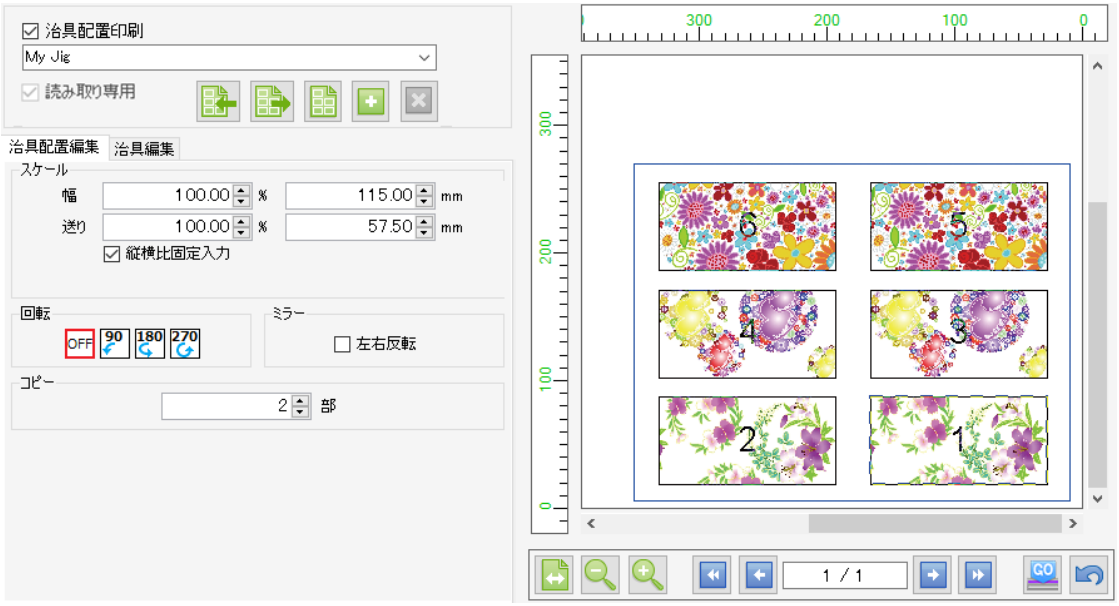


(3) 作成した治具テンプレート（MyJig）を選択します。

- プレビューに1つずつジョブが配置されます。



(4) 各ジョブを複数印刷する場合、プレビューでジョブを選択し、[コピー]で印刷部数を設定します。ここでは、各ジョブ2枚ずつ印刷するように設定します。



重要!
- 面付けしていない複数のジョブを選択している場合、[治具配置印刷]は選択できません。また、条件によって[治具配置印刷]が選択できない設定があります。詳しくは☞「条件」（P. 192）をご覧ください。
- 上のジョブから配置していきます。印刷順が重要な場合、RasterLink8に画像を読み込む順番に注意してください。
（ジョブ一覧の並び順は、画像を読み込んだ順にジョブ一覧の並び順が自動的に決まります。画像を読み込んだ後に、ジョブ一覧の並び順は変更できません。）

4 印刷します。

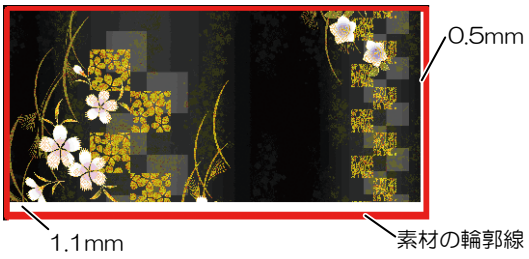
プレビューの下の[]アイコンをクリックして印刷します。

● 印刷がうまくいかないときの対処方法

印刷位置がずれてしまう場合

前回設定した治具テンプレートを呼び出して、もう一度印刷したにもかかわらず、印刷位置がずれてしまう場合、[治具編集]タブの[調整]を設定してください。
ここでは、3番目の素材の位置がずれた場合の説明をします。

1 素材に対してどれだけ印刷がずれたか、測定します。



2 [治具配置印刷]画面を開きます。

3 [治具編集]タブを開きます。

4 [調整]で[素材3]を選択し、以下のように[幅]と[高さ]を入力します。



5 もう一度印刷して、位置を確認します。

印刷に失敗した素材があった場合、そのジョブだけもう一度印刷する（ジョブが1つのみでコピーを設定していたとき）

1 失敗した個数をコピー数に設定します。

2 印刷します。

印刷に失敗した素材があった場合、そのジョブだけもう一度印刷する（面付けしていたとき）

1 面付けを解除します。

2 印刷に失敗したジョブだけをもう一度面付けします。

3 印刷します。

● 治具定義ファイルをRasterLink8にインポートする

☞「治具定義ファイルをエクスポートする」（P. 206）で作成した治具定義ファイルを読み込みます。

1 **[ ]アイコン（インポート）をクリックします。**

- ファイルの選択ダイアログが表示されます。

2 **治具定義ファイルを選択し、[OK]をクリックします。**

- 定義ファイルで設定された治具テンプレートが選択された状態になります。

重要！ 以下の場合は、選択した治具定義ファイルを読み込めません。

- 既に同じ名前の治具テンプレートがRasterLink8上にあるとき
- RasterLink8で表示しているプリンターのテーブルサイズより、選択した定義ファイルのサイズの方が大きいとき
- エクスポートした治具定義ファイル名を変更したとき

● 治具定義ファイルをエクスポートする

1 **エクスポートする治具テンプレートを選択します。**

2 **[ ]アイコン（エクスポート）をクリックします。**

- ファイルの保存ダイアログが表示されます。

3 **任意の名前をつけて、[保存]をクリックします。**

- ここでつけた名前が、治具定義ファイルをRasterLink8にインポートしたときの治具テンプレートの名前になります。

2.2.20 リジッドメディア配置印刷

リジッドメディアにジョブを配置して印刷します。

リジッドメディア配置印刷 - 機能

[リジッドメディア配置印刷]では、以下の操作を行うことができます。

- リジッドメディアの縦横のサイズを入力する
- リジッドメディア幅方向の個数を入力する
- ジョブを拡大縮小させる
- ジョブを回転させる
- ジョブを左右に反転させる
- ジョブをコピーする
- ジョブをクリップする
- ジョブの配置位置を設定する

● 条件

対象機種

UJ330H

編集条件

ジョブの設定によっては、リジッドメディア配置印刷を使用できない場合があります。

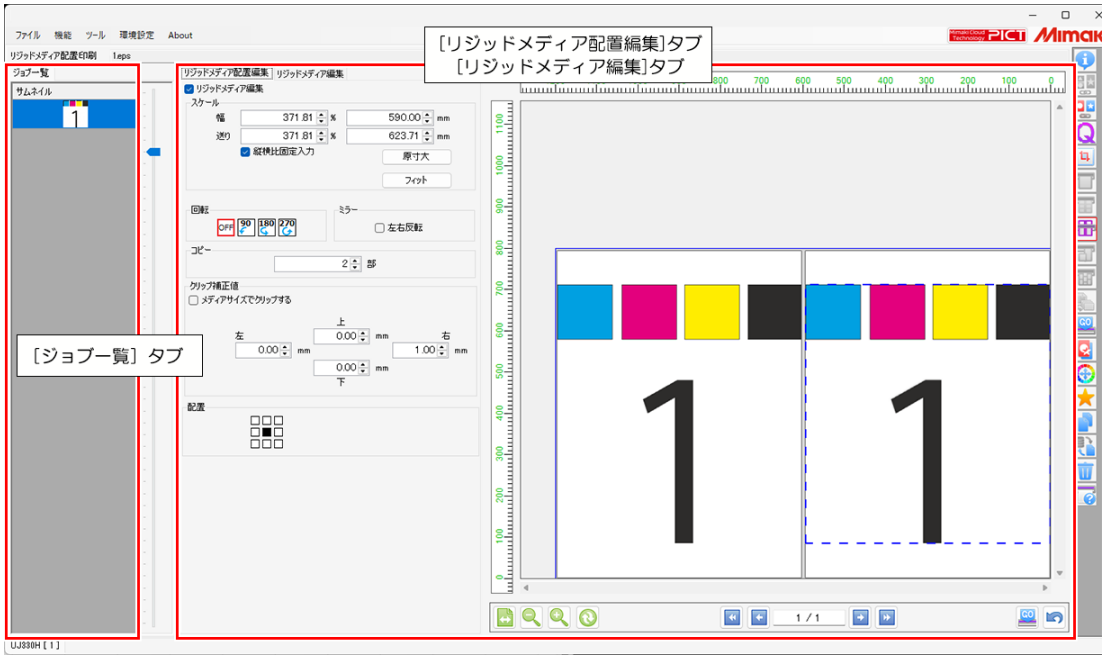
設定	リジッドメディア配置
[合成]	○
[面付け]	○
[クリップ]	○
[分割印刷]	×
[ステップ&リピート]	×
[印刷グループ]	×
○:リジッドメディア配置印刷を使用できます。 ×:リジッドメディア配置印刷を使用できません。	

複数のジョブをまとめてリジッドメディアに配置したい場合

複数のジョブを面付けしてからリジッドメディア配置印刷の設定を行います。

リジッドメディア配置印刷 - 画面構成

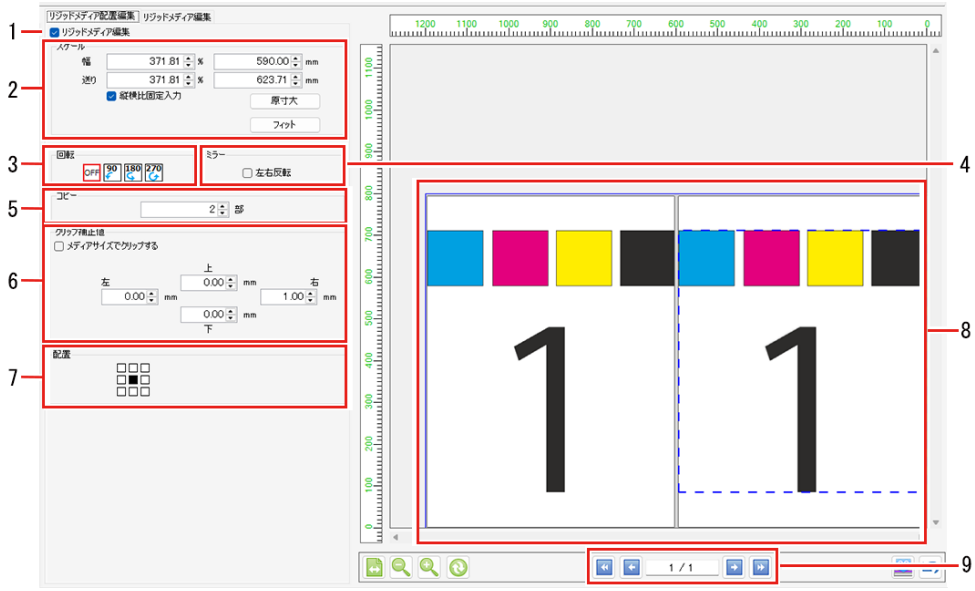
● [リジッドメディア配置編集]画面



● [ジョブ一覧]タブ

[リジッドメディア配置印刷]の編集対象となるジョブを表示します。

● [リジッドメディア配置編集]タブ



1. **[リジッドメディア編集]**
   リジッドメディア配置印刷をする／しないを選択します。

2. **[スケール]**
   ジョブのサイズを設定します。

3. **[回転]**
   ジョブを回転します。

4. **[ミラー]**
   ジョブを左右に反転します。

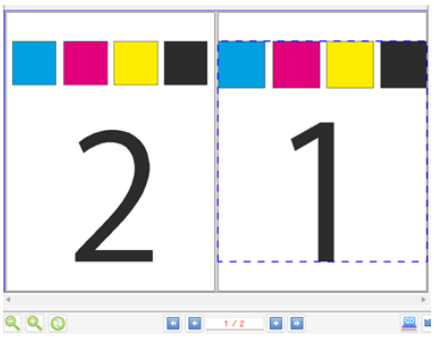
5. **[コピー]**
ジョブのコピー部数を設定します。

6. **[クリップ補正値]**
クリップ設定（）をしている場合、クリップ補正値は使用できません。
ジョブの上下左右からの切り取りサイズを設定します。

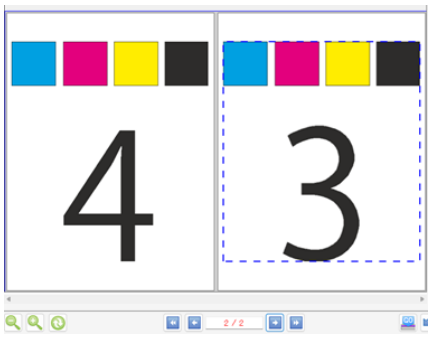
7. **[配置]**
ジョブをリジッドメディアのどの位置に配置するかの基準を設定します。

8. **配置プレビュー**
リジッドメディアにジョブを配置した状態が表示されます。

9. 盤面切り替え
をクリックして、盤面を切り替えます。

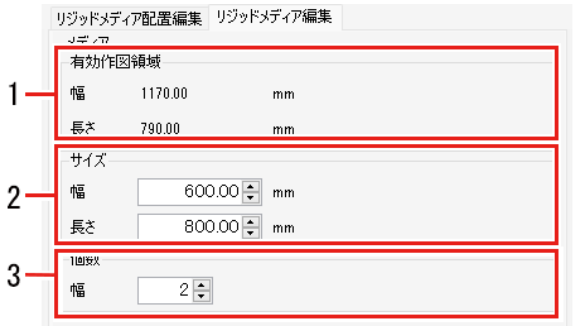


最初の盤面（1/2）



次の盤面（2/2）

● [リジッドメディア編集]タブ



1. **[有効作図領域]**
セットしたリジッドメディアに対して、実際に印刷できるサイズを表示します。

   • 幅

     リジッドメディア幅×幅個数ー（印刷無効左幅＋右幅）*1

   • 長さ

     リジッドメディア高さー（印刷無効上高さ＋下高さ）

   *1) 表示サイズにはリジッドメディア間の印刷無効エリアを含みます。

2. **[サイズ]**
リジッドメディアの縦横のサイズを入力します。

3. **[個数]**
リジッドメディア幅方向の個数を入力します。

• プリンター本体とオンライン接続している場合、プリンター本体に設定したリジッドメディアのサイズ、幅方向の個数が自動で設定されます。
そのため、特に必要がなければ手入力をする必要はありません。

リジッドメディア配置印刷 - 操作

重要！
- プリンター本体にリジッドメディアをセットし、本体パネルでリジッドメディアサイズ、幅方向の個数を設定しておいてください。（プリンター本体の取扱説明書「リジッドメディアをセットする」を参照）
  リジッドメディア配置印刷画面を表示するとプリンター本体からリジッドメディアの情報を取得し、自動で画面に適用されます。
- [リジッドメディア配置印刷]画面で編集中に、プリンター本体でリジッドメディアをセットし直した場合、またはサイズや幅方向の個数を設定し直した場合は、必ずプレビューの[]（更新）アイコンをクリックして、最新のサイズと幅方向の個数を取得してください。
  []（更新）アイコンをクリックせずに印刷すると、リジッドメディアのサイズや幅方向の個数が一致せず、正しい位置に印刷されない場合があります。
- リジッドメディアをセットしていない場合やリジッドメディアに印刷中の場合はプリンター本体からリジッドメディアの情報を取得できないため、画面には初期値として以下の値が設定されます。
  サイズ：幅102.33mm、長さ430mm
  個数：幅3個
  その際、[]（感嘆符付き更新）アイコンが表示されます。リジッドメディアをセット後に[]（更新）アイコンをクリックするか、またはサイズと個数を手入力してください。

1 **[リジッドメディア配置編集]画面の[リジッドメディア編集]チェックボックスをオンにします。**

- リジッドメディア配置印刷の各種設定ができるようになります。

● ジョブを拡大・縮小させる

1 **印刷するジョブの[幅]と[送り]を設定します。**

- [幅]と[送り]は倍率（%）またはサイズで設定することができます。
- [縦横比固定入力]チェックボックスがオンの場合、元画像の縦横比を固定したまま、ジョブを拡大/縮小させることができます。
- フィットをクリックすると、リジッドメディアのサイズに合わせて自動で拡大/縮小されます。

● ジョブを回転させる

1 **印刷するジョブの反時計回りに回転させる角度を選択します。**

- 面付けジョブの場合は、[ジョブ一覧]のサムネイルまたはリジッドメディア配置印刷のプレビュー画面で選択したジョブの設定が変更されます。

● ジョブを左右に反転させる

1 **印刷するジョブの[ミラー]チェックボックスをオンにします。**

- 面付けジョブの場合は、[ジョブ一覧]のサムネイルまたはリジッドメディア配置印刷のプレビュー画面で選択したジョブの設定が変更されます。

● ジョブをコピーする

1 印刷するジョブのコピーしたい部数を選択します。

- 面付けジョブの場合は、[ジョブ一覧]のサムネイルまたはリジッドメディア配置印刷のプレビュー画面で選択したジョブの設定が変更されます。

● 印刷を実行する

1 プレビューの[]アイコンをクリックします。

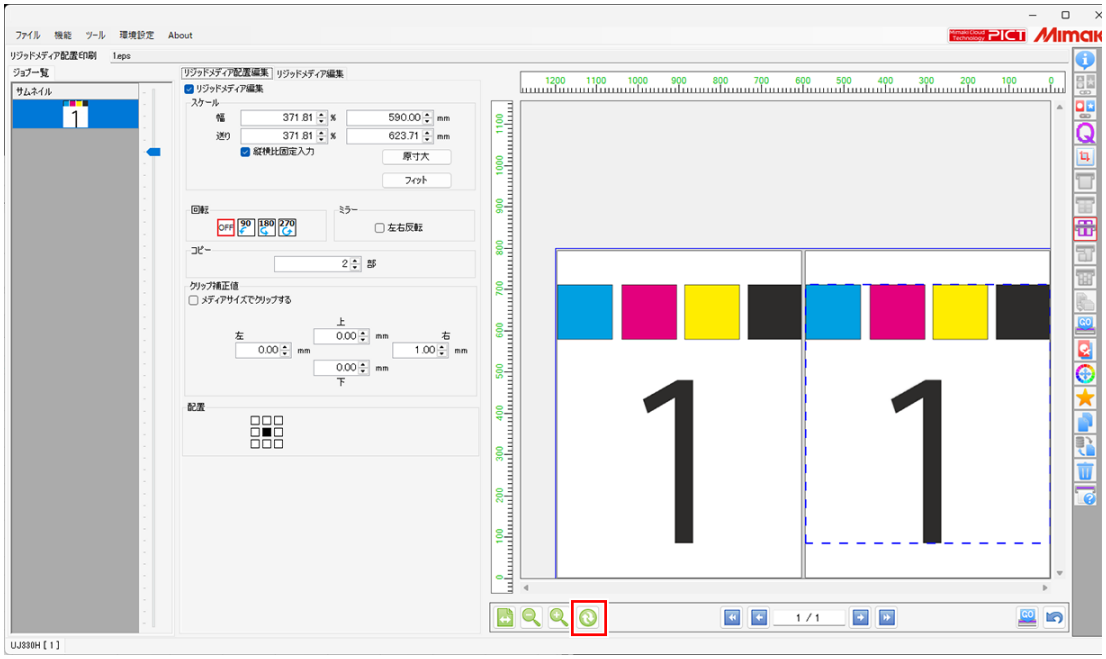
- 前回使用した[実行]と同じ設定でRIP、印刷が開始されます。
- 設定については ☞「実行」（P. 129）をご覧ください。

● 再印刷を実行する

1 プリンター本体にリジッドメディアをセットしてリジッドメディアのサイズ、幅方向の個数を設定します。（プリンター本体の取扱説明書「リジッドメディアをセットする」を参照）

2 印刷対象のジョブを選択し、[]（リジッドメディア配置印刷）アイコンをクリックします。

- [リジッドメディア配置印刷]画面が表示されます。
- 既に[リジッドメディア配置印刷]画面を開いている場合は、プレビューの[]（更新）アイコンをクリックしてください。



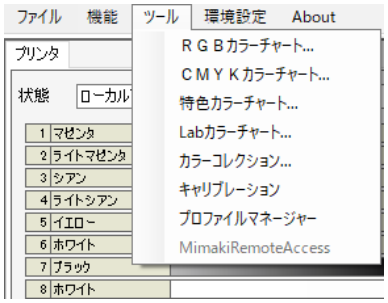
3 リジッドメディアについて各項目を設定します。

4 印刷を実行します。

2.3 ツール

ここでは各種カラーチャート、カラーコレクション、キャリブレーションについて説明します。

メイン画面上部の[ツール]メニューから選択します。



- RasterLink8では基準色を中心に、色成分を変化させた色見本を「カラーチャート」と言います。

2.3.1 RGBカラーチャート

[RGBカラーチャート]の機能、画面、操作は、[CMYKカラーチャート]と同様です。

「CMYKカラーチャート」の[CMYK]を[RGB]に読み替えてご覧ください。

2.3.2 CMYKカラーチャート

印刷したCMYKカラーチャートを元に、スプール前のCMYK画像の色をデザインソフトなどで変更することで、目的の色を出力できます。

印刷した色が目標の色とは異なる場合、その色を中心としたカラーチャートを作成すると目標の色を探しやすくなります。

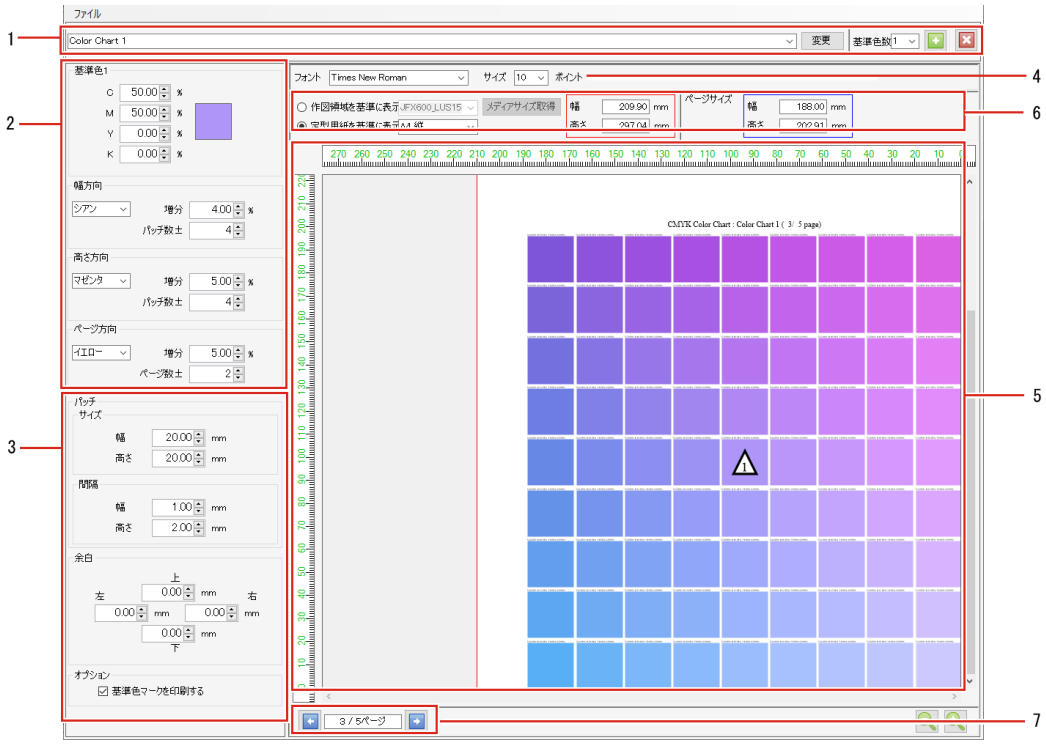
CMYKカラーチャート - 機能

[CMYKカラーチャート]では以下の操作を行うことができます。

- カラーチャートの定義ファイルを追加する
- カラーチャートの定義ファイルを編集する
- カラーチャートのPDFを作成する
- カラーチャートのPDFをジョブとして読み込む
- カラーチャートの定義ファイルを削除する

CMYKカラーチャート - 画面構成

[CMYKカラーチャート]画面



1.カラーチャート定義ファイル

チャート定義ファイルを追加、選択、削除、変更を保存します。

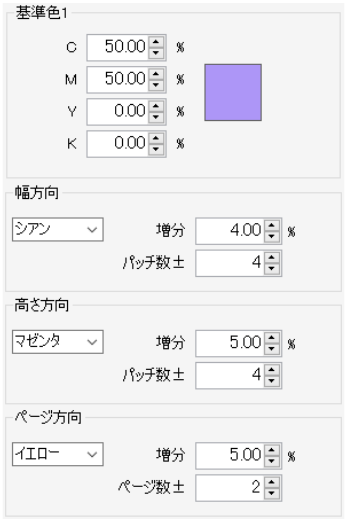
2.カラー設定

基準色と色成分の変化を設定します。

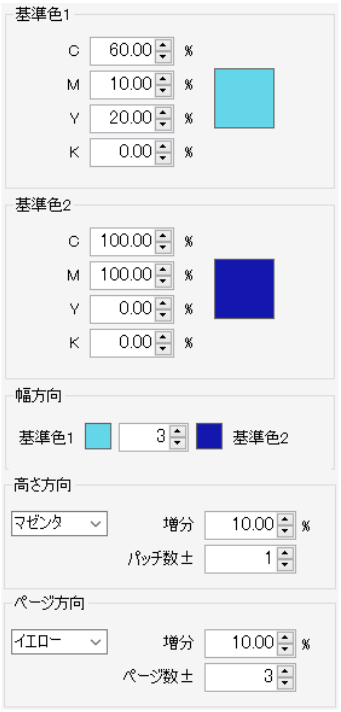
基準色の数は1,2,4の3パターンから選択できます。

基準色の個数によって、表示される項目が異なります。

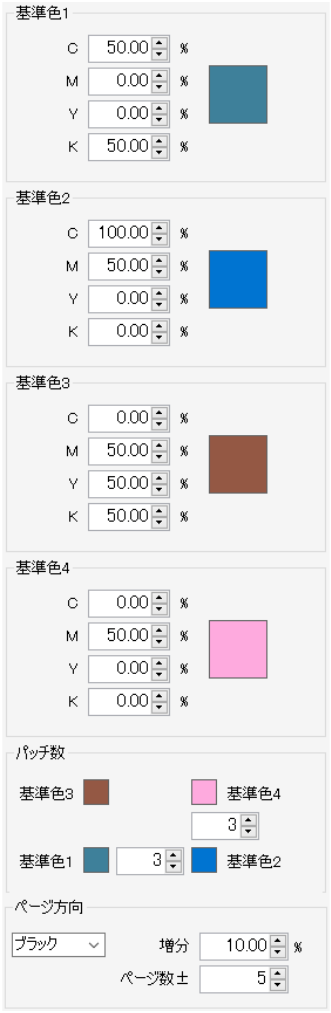
基準色が1つの場合



基準色が2つの場合



基準色が4つの場合



3.レイアウト設定

パッチ、余白、基準色マークの印刷を設定します。



- RasterLink8では、チャートプレビュー内の色の付いた四角形を「パッチ」と言います。

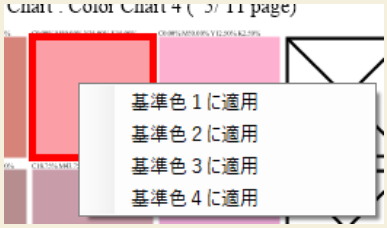
4.[フォント]

カラーチャートで使用する文字のフォントと各ページの見出しサイズを設定します。

5.チャートプレビュー

カラーチャートのプレビューが表示されます。

- パッチをクリックすると、そのパッチが選択され、画面最下部に色成分の濃度が表示されます。
- パッチを右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。
  選択した色を1から4の基準色に設定することができます。



6.プレビュー表示設定

チャートプレビューに表示する領域を設定します。

[作図領域を基準に表示]：選択したプリンターのメディアサイズを基準に表示します。

[定型用紙を基準に表示]：選択した定型サイズと向きを基準に表示します。

重要！
- ここで設定する領域はプレビュー上の表示領域であり、実際のページサイズとは異なります。
  実際は青で囲まれた[ページサイズ]の範囲でカラーチャートが作成されます。

7.ページ

[ページ方向]の[ページ数±]を1以上に設定した場合に生成されるページを切り替えます。

CMYKカラーチャート - 操作

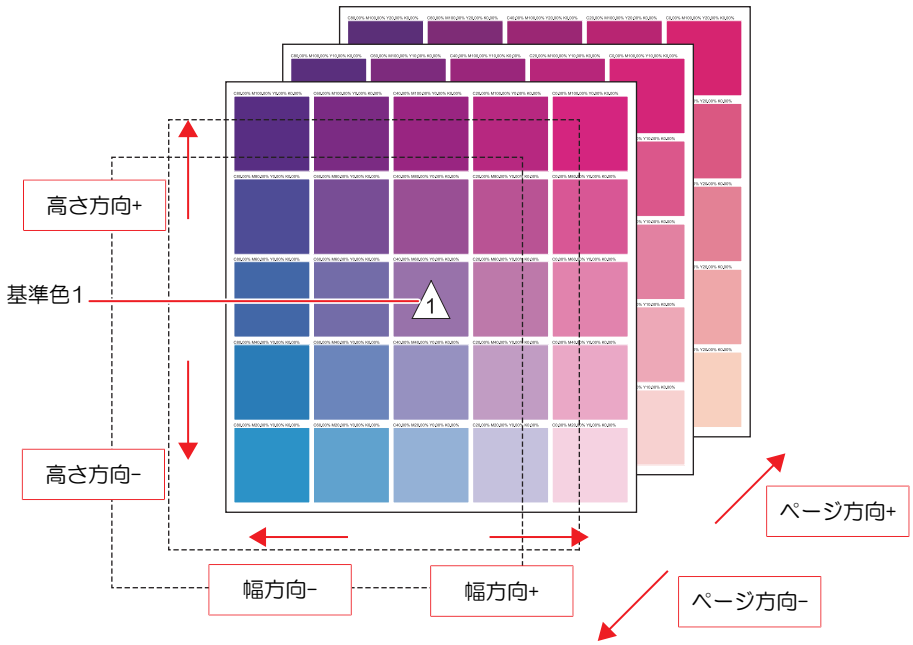
● カラーチャートの定義ファイルを追加する



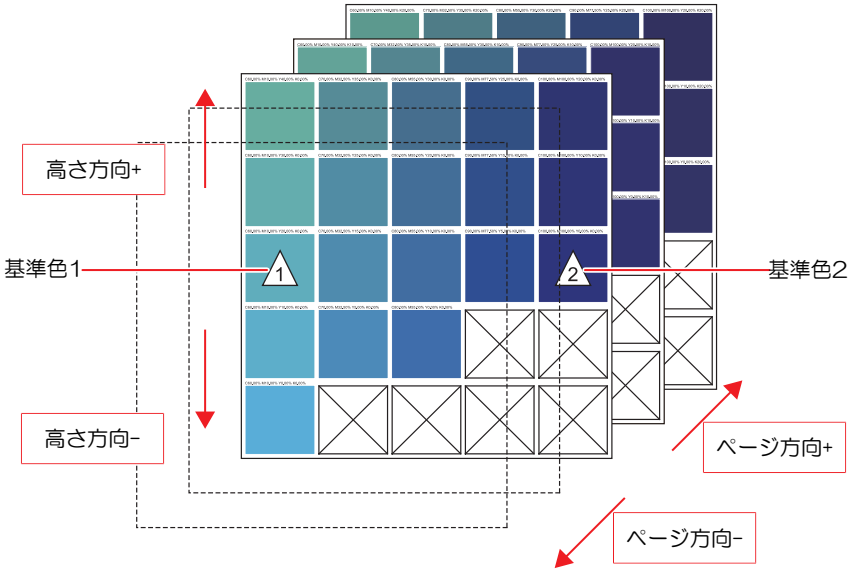
1 **[CMYKカラーチャート]画面のチャート名にある入力枠に、新規に作成するカラーチャートの定義ファイル名を入力します。**

2 **[基準色数]リストから、基準色の個数を選択して、[ ]アイコンをクリックします。**
基準色の個数によって、3パターンのチャートが作成されます。

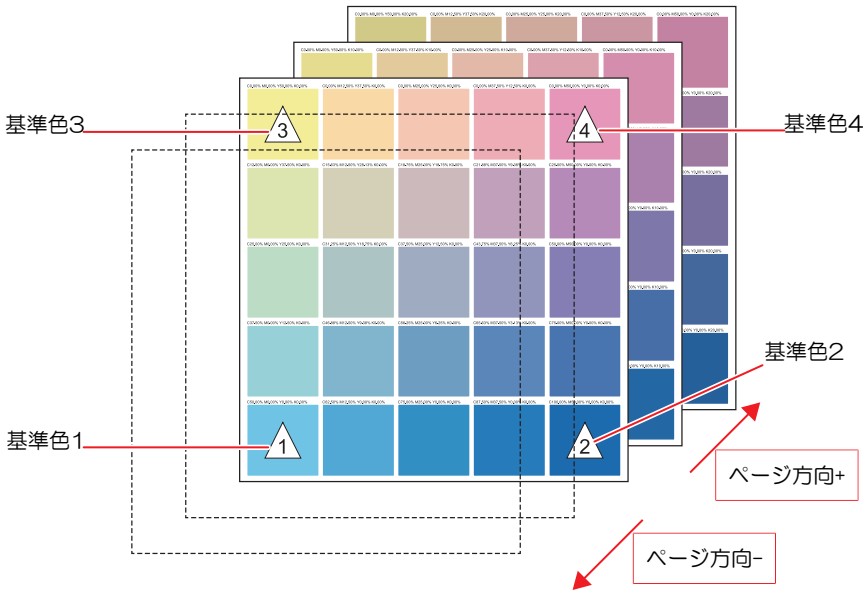
- [基準色数1] ： 1つの基準色を中心に、高さ、幅、ページの3方向の色成分（CMYK）を変化させたカラーチャートが作成されます。



- [基準色数2] ： 2つの基準色を幅方向で変化させます。さらに、高さ、ページの2方向の色成分（CMYK）を変化させたカラーチャートが作成されます。



- [基準色数4]　：4つの基準色を幅方向と高さ方向で変化させます。
さらに、ページ方向の色成分（CMYK）を変化させたカラーチャートが作成されます。



- 同名のカラーチャート定義ファイルがすでに存在する場合、上書きを確認するダイアログが表示されます。
上書きをすると、すべての値が変更されます。

● カラーチャートの定義ファイルを編集する

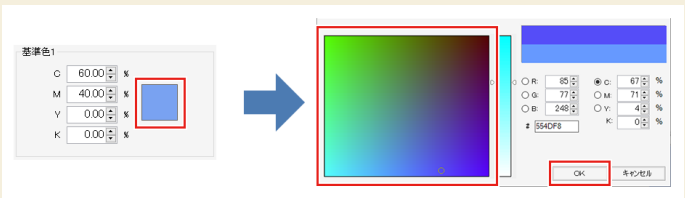


1 **[CMYKカラーチャート]画面のチャート定義ファイル名にあるプルダウンで、設定するカラーチャート名を選択します。**

2 **カラー設定の基準色入力枠で、CMYKの濃度を入力します。**

- 入力枠右の四角形の色が入力した色に変わります。

- 四角形をクリックすると、[カラー選択]ダイアログが表示されます。
表示されている色から、任意の色をクリックして基準色を設定することもできます。



3 [幅方向]のパッチ数入力枠に、数値を設定します。

- カラーチャートの幅方向のパッチ数が変更されます。



- 基準色数を1にした場合、幅方向で変化させる色成分(CMYK)と、増分（%）を設定します。

4 [高さ方向]のパッチ数入力枠に、数値を設定します。

- カラーチャートの高さ方向のパッチ数が変更されます。



- 基準色数を1または2にした場合、高さ方向で変化させる色成分(CMYK)と、増分（%）を設定します。

5 [ページ方向]のページ数入力枠に、数値を設定します。

- カラーチャートのページ数が変更されます。



- ページ方向で変化させる色成分(CMYK)と、増分（%）を設定します。

6 [パッチ]で、カラーチャートのパッチの各種設定を行います。



[サイズ] ：パッチ1つの大きさ（幅、高さ）を設定します。
[間隔] ：パッチの間隔（幅、高さ）を設定します。

7 [余白]で、カラーチャートのページ余白（上下左右）を設定します。

8 基準色マークを印刷したい場合は、[オプション]の[基準色マークを印刷する]チェックボックスをオンにします。

- オンにした場合、基準色に△印が付いたカラーチャートが印刷されます。



- チャートプレビューでは、[基準色マークを印刷する]の設定に関わらず、基準色に△印が表示されます。
- 各種設定を行ってから、[CMYKカラーチャート]画面の[変更]をクリックすると、カラーチャート定義ファイルが更新されます。

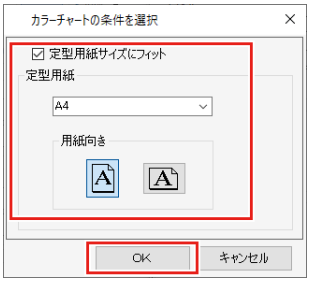
● カラーチャートのPDFを作成する

カラーチャートのPDFを作成します。

1 **[CMYKカラーチャート]画面の[ファイル] メニューから[PDFファイル作成]を選択します。**

- [カラーチャートの条件を選択]ダイアログが表示されます。

2 **PDFのサイズを指定し、[OK]をクリックします。**



- [名前を付けて保存]ダイアログが表示されます。

- [定型用紙サイズにフィット]チェックボックスをオンにすると、カラーチャートのPDF用紙サイズ、用紙の向きを選択することができます。

3 **ファイル名を入力して、[保存]をクリックします。**

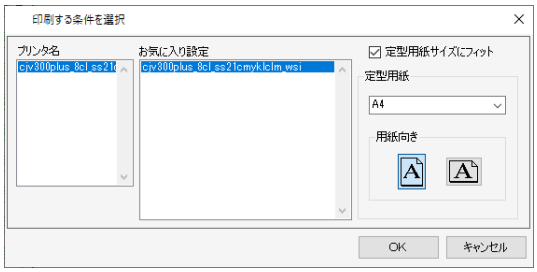
- カラーチャートのPDFが作成されます。

● カラーチャートのPDFをジョブとして読み込む

カラーチャートのPDFを自動的にジョブとして読み込みます。

1 [CMYKカラーチャート]画面の[ファイル]メニューから[ジョブ作成]を選択します。

- [印刷する条件を選択]ダイアログが表示されます。
  [定型用紙サイズにフィット]チェックボックスをオンにすると、CMYKカラーチャートのPDF用紙サイズ、用紙の向きを選択することができます。



2 [お気に入り設定]を1つ選択して、[OK]をクリックします。

- CMYKカラーチャートのPDFが、RasterLink8のジョブとして読み込まれます。

- 読み込まれたジョブは、一般的な複数ページのPDFを読み込んだジョブと同じです。

● カラーチャートの定義ファイルを削除する

1 [CMYKカラーチャート]画面のチャート名にあるプルダウンで、削除するカラーチャート名を選択します。

2 [ ]アイコンをクリックします。

- カラーチャート定義ファイルが削除されます。

2.3.3 特色カラーチャート

印刷した特色カラーチャートを元に、☞「色置換設定」（P. 161）で置換後の色としてインク濃度を指定します。

印刷した特色インクを含む色が目標の色とは異なる場合、その色を中心としたカラーチャートを作成すると目標の色を探しやすくなります。
特にホワイトやシルバーなどの特色インクを含む色を使用した色置換を行いたい場合の色味の確認として使用できます。

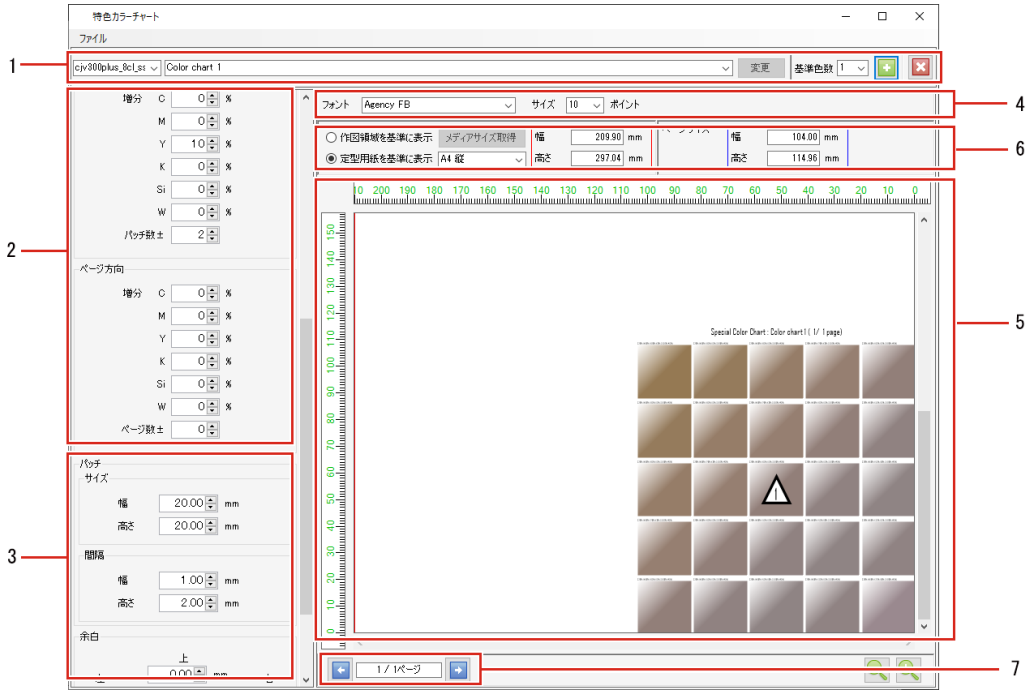
特色カラーチャート - 機能

[特色カラーチャート]では以下の操作を行うことができます。

- 特色カラーチャートの定義ファイルを追加する
- 特色カラーチャートの定義ファイルを編集する
- 特色カラーチャートのPDFをジョブとして読み込む
- 特色カラーチャートの定義ファイルを削除する

特色カラーチャート - 画面構成

● [特色カラーチャート]画面



1.カラーチャート定義ファイル

チャート定義ファイルを追加、選択、削除、変更を保存します。

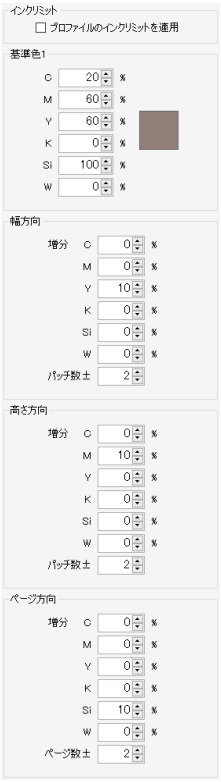
2.カラー設定

基準色と色成分の変化を設定します。

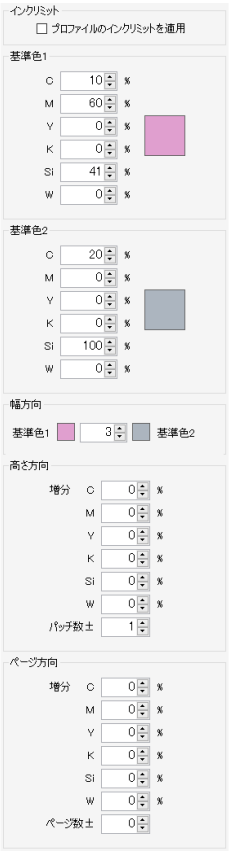
基準色の数は1,2,4の3パターンから選択できます。

基準色の個数によって、表示される項目が異なります。

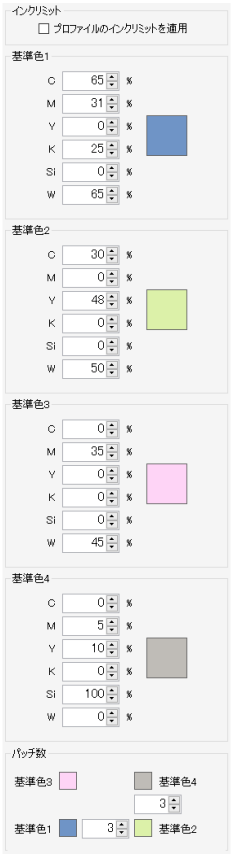
基準色が1つの場合



基準色が2つの場合



基準色が4つの場合



3.レイアウト設定

パッチ、余白、基準色マークの印刷を設定します。

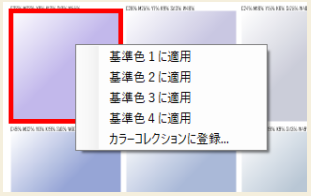
4.[フォント]

特色カラーチャートで使用する文字のフォントと各ページの見出しサイズを設定します。

5.チャートプレビュー

カラーチャートのプレビューが表示されます。

- パッチをクリックすると、そのパッチが選択され、画面最下部に色成分の濃度が表示されます。
- パッチを右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。
  選択した色を1から4の基準色に設定することができます。
  また、選択した色をカラーコレクションに登録することができます。



6.プレビュー表示設定

チャートプレビューに表示する領域を設定します。

[作図領域を基準に表示]：選択したプリンターのメディアサイズを基準に表示します。

[定型用紙を基準に表示]：選択した定型サイズと向きを基準に表示します。

重要！

- ここで設定する領域はプレビュー上の表示領域であり、実際のページサイズとは異なります。
  実際は青で囲まれた[ページサイズ]の範囲でカラーチャートが作成されます。

7.ページ

[ページ方向]の[ページ数±]を1以上に設定した場合に生成されるページを切り替えます。

特色カラーチャート - 操作

● 特色カラーチャートの定義ファイルを追加する



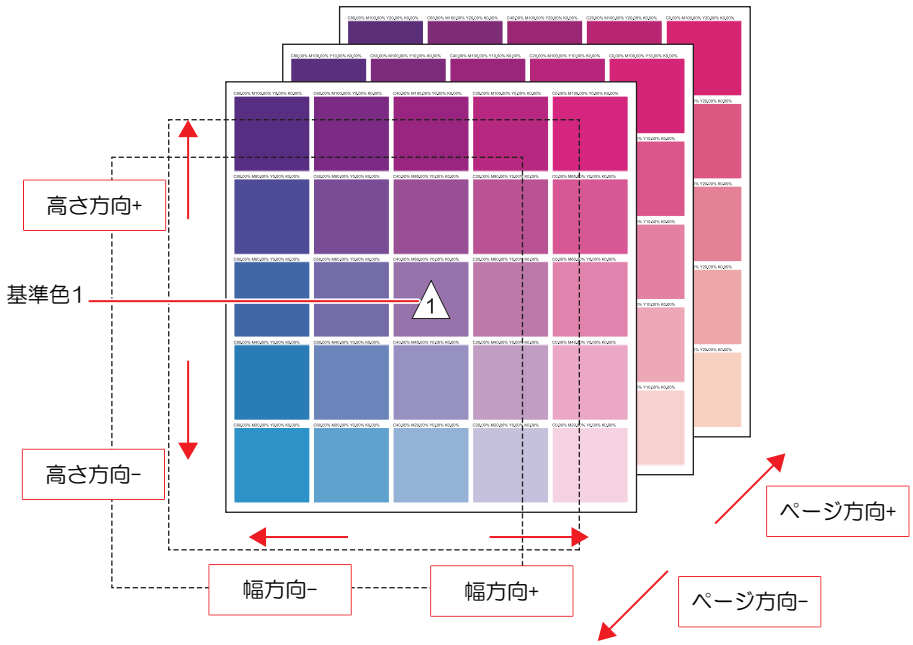
1 **[特色カラーチャート]画面のチャート名の左にあるプルダウンで、プリンターを選択します。**

- 選択したプリンターの特色インクを使って、カラーチャートを作成できます。

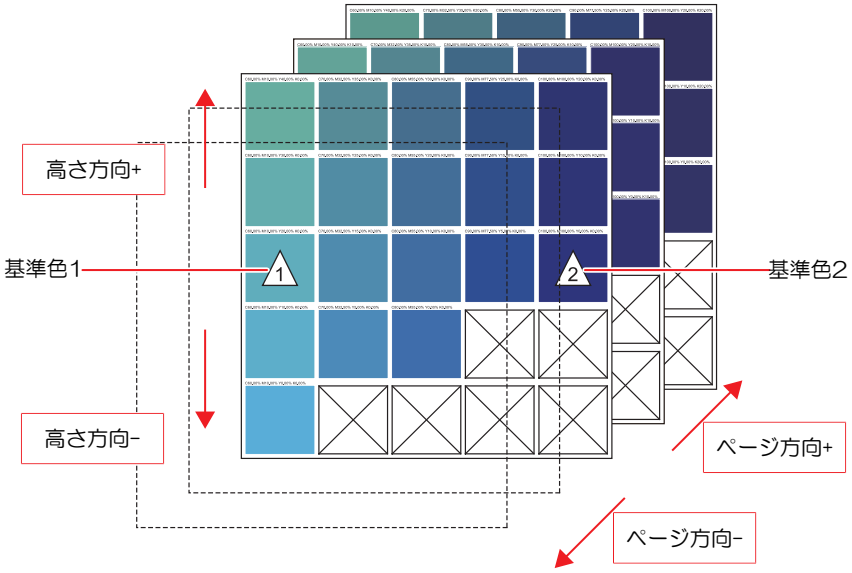
2 **右の入力枠に、新規に作成するカラーチャートの定義ファイル名を入力します。**

3 **[基準色数]リストから、基準色の個数を選択して、[ ]アイコンをクリックします。**
基準色の個数によって、3パターンのチャートが作成されます。

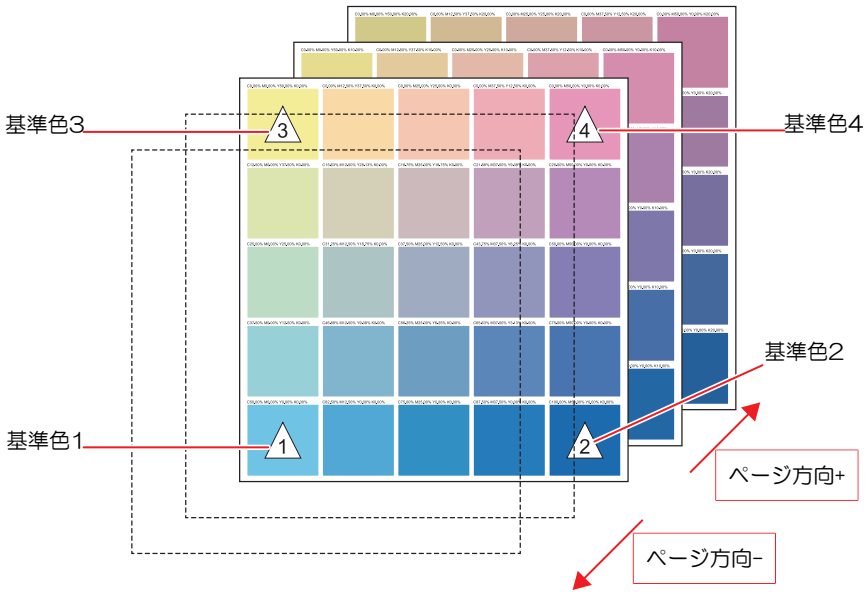
- [基準色数1] ： 1つの基準色を中心に、高さ、幅、ページの3方向の色成分を変化させた特色カラーチャートが作成されます。



- [基準色数2] ： 2つの基準色を幅方向で変化させます。さらに、高さ、ページの2方向の色成分を変化させた特色カラーチャートが作成されます。



- [基準色数4]　：4つの基準色を幅方向と高さ方向で変化させます。
さらに、ページ方向の色成分を変化させた特色カラーチャートが作成されます。



- 同名のカラーチャート定義ファイルがすでに存在する場合、上書きを確認するダイアログが表示されます。
上書きをすると、すべての値が変更されます。

● 特色カラーチャートの定義ファイルを編集する



1 **[特色カラーチャート]画面のチャート定義ファイル名にあるプルダウンで、設定するカラーチャート定義ファイル名を選択します。**

2 **[プロファイルのインクリミットを適用]チェックボックスをオンまたはオフにします。**



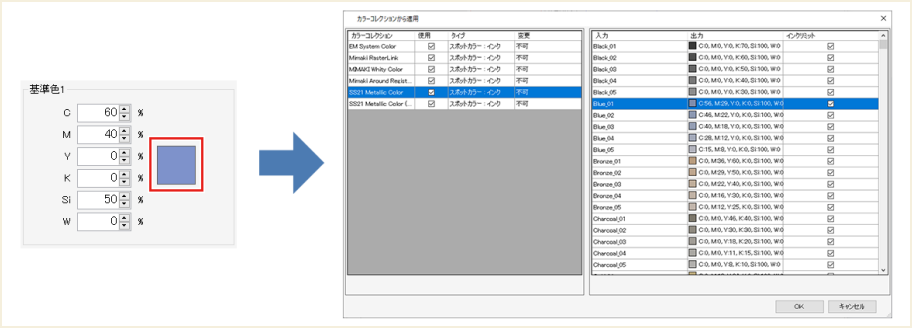
オンにすると、デバイスプロファイルで設定されているインクリミットが適用されます。
これによって、インクあふれを緩和することができます。

重要！
- インクセットに3スロット以上の特色インクがある場合、[プロファイルのインクリミットを適用]は常にオンになります。

3 カラー設定の基準色入力枠で、インクの濃度を入力します。

- 入力枠右の四角形の色が入力した色に変わります。

- 四角形をクリックすると、[カラーコレクション]ダイアログが表示されます。
  表示されているカラーコレクションから、任意の色をクリックして基準色を設定することもできます。



4 [幅方向]のパッチ数入力枠に、数値を設定します。

- カラーチャートの幅方向のパッチ数が変更されます。



- 基準色数を1にした場合、幅方向で変化させるインク濃度（%）を設定します。

5 [高さ方向]のパッチ数入力枠に、数値を設定します。

- カラーチャートの高さ方向のパッチ数が変更されます。



- 基準色数を1または2にした場合、高さ方向で変化させるインク濃度（%）を設定します。

6 [ページ方向]のページ数入力枠に、数値を設定します。

- カラーチャートのページ数が変更されます。



- ページ方向で変化させるインク濃度（%）を設定します。

7 **[パッチ]で、カラーチャートのパッチの各種設定を行います。**



[サイズ] ：パッチ1つの大きさ（幅、高さ）を設定します。
[間隔] ：パッチの間隔（幅、高さ）を設定します。

8 **[余白]で、カラーチャートのページ余白（上下左右）を設定します。**

9 **基準色マークを印刷したい場合は、[オプション]の[基準色マークを印刷する]チェックボックスをオンにします。**

- オンにした場合、基準色に△印が付いたカラーチャートが印刷されます。

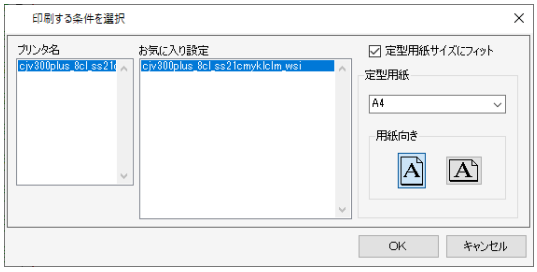
- チャートプレビューでは、[基準色マークを印刷する]の設定に関わらず、基準色に△印が表示されます。
- 各種設定を行ってから、[特色カラーチャート]画面の[変更]をクリックすると、カラーチャート定義ファイルが更新されます。

● 特色カラーチャートのPDFをジョブとして読み込む

特色カラーチャートのPDFを自動的にジョブとして読み込みます。

1 **[特色カラーチャート]画面の[ファイル]メニューから[ジョブ作成]を選択します。**

- [印刷する条件を選択]ダイアログが表示されます。
[定型用紙サイズにフィット]チェックボックスをオンにすると、特色カラーチャートのPDF用紙サイズ、用紙の向きを選択することができます。



2 **[お気に入り設定]を1つ選択して、[OK]をクリックします。**

- 特色カラーチャートのPDFが、RasterLink8のジョブとして読み込まれます。

- 読み込まれたジョブは、一般的な複数ページのPDFを読み込んだジョブと同じです。
- 読み込まれたジョブは、色置換画面にて色置換の設定がされています。

● 特色カラーチャートの定義ファイルを削除する

1 [特色カラーチャート]画面のチャート定義ファイル名にあるプルダウンで、特色カラーチャート定義ファイル名を選択します。

2 []アイコンをクリックします。

- 特色カラーチャート定義ファイルが削除されます。

2.3.4 Labカラーチャート

Labカラーチャートは、Lab値を元としたカラーチャートを作成、印刷、それを元に☞「色置換設定」（P. 161）の色置換後の色を指定することを助ける機能です。

機能、画面、操作は☞「特色カラーチャート」（P. 221）と同様です。各インク色を"Lab"に読み替えてお読みください。

2.3.5 カラーコレクション

カラーコレクションを設定して、自動的に色を置換します。

● カラーコレクションとは

カラーコレクションとは色置換☞「色置換設定」（P. 161）の置換情報をまとめたものです。

用途、置換元/置換後のカラー情報別にコレクションファイルを作成できます。

● カラーコレクション画面の表示

[ツール]メニューより[カラーコレクション]を開きます。

もしくは、色置換画面より  を押します。

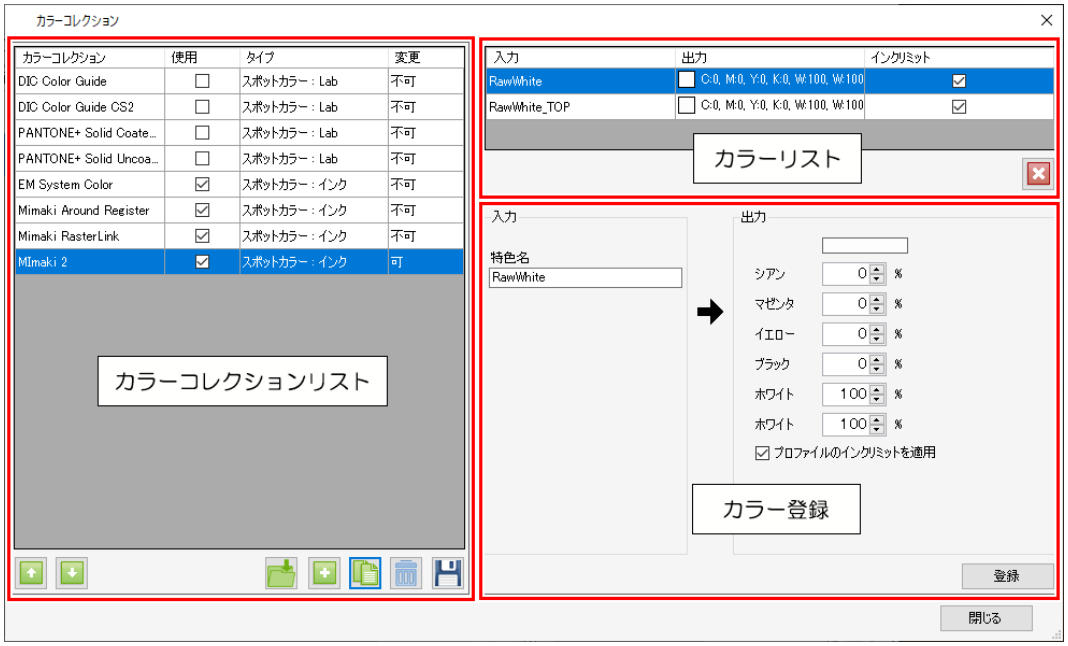
カラーコレクション - 機能

[カラーコレクション]では以下の操作を行うことができます。

- カラーコレクションの設定を確認する
- カラーコレクションを追加する
- カラーコレクションを編集する
- カラーコレクションを複製する
- カラーコレクションを削除する
- カラーコレクション（チャート）を印刷する
- Adobe Illustrator用のスウォッチファイルを作成する

カラーコレクション - 画面構成

● [カラーコレクション]画面



● カラーコレクションリスト

RasterLink8で表示しているプリンターで使用できるカラーコレクションの一覧が表示されます。

- **[カラーコレクション]**

  カラーコレクションファイル名が表示されます。

- **[使用]**

  オンにすると、元画像を読み込む際に、カラーコレクションの設定に従って自動的に色置換されます。

- **[タイプ]**

  カラーコレクションのタイプを表示します。

カラーコレクションのタイプ		置換される色
スポットカラー	インク	スポットカラーがプリンターのインクに置換されます。
	Lab	スポットカラーがLab値に変換されます。
CMYK	インク	CMYKプロセスカラーがインクに置換されます。
	Lab	CMYKプロセスカラーがLab値に変換されます。
グラデーション		グラデーションが設定するグラデーションに置換されます。

- **[変更]**

  カラーの変更が可能かどうかが表示されます

● プリセットのカラーコレクションについて

以下のカラーコレクションがプリセットされています。これらのカラーコレクションは変更不可です。

- **DICカラーガイド用スポットカラー**[*1]**（タイプ：Lab）**

カラーコレクション名	Adobe Illustrator バージョン
DIC Color Guide	8～CS対応
DIC Color Guide CS2	CS2～対応

- **PANTONE®カラー用スポットカラー**[*1]**（タイプ：Lab）**

カラーコレクション名	色数
PANTONE+ Solid Coated-V3	1867
PANTONE+ Solid Uncoated-V3	
PANTONE(R) Solid Coated-V4	2161
PANTONE(R) Solid Uncoated-V4	
PANTONE(R) Solid Coated-V5	2390
PANTONE(R) Solid Uncoated-V5	

- 特色インク（ホワイト、クリア、プライマー）のみに色置換できるスポットカラー[*2]（タイプ：インク）

カラーコレクション名	Adobe Illustrator 用スウォッチファイル	備考
Mimaki RasterLink	MIMAKI RasterLink Library	スウォッチファイルには「CutContour」が含まれます。

- ホワイトインクを使用したスポットカラー[*2]（タイプ：インク）

カラーコレクション名	Adobe Illustrator 用スウォッチファイル
Mimaki Whity Color	MIMAKI Whity Library 370

・ シルバーインクを使用したスポットカラー[*2]（タイプ：インク）

カラーコレクション名	Adobe Illustrator 用スウォッチファイル	使用可能環境
SS21 Metallic Color	MIMAKI Metallic Color Library	• SS21のシルバーインク使用時
SS21 Metallic Color (No Silver)		• SS21のシルバーインク使用時[*3]
Metallic Color (No Silver)		• MUH-100(シルバーインク)使用時[*3]
SS21 Metallic Orange Color	MIMAKI SS21Metallic Orange Color	• SS21のオレンジインクおよびシルバーインク使用時
SS21 Metallic Orange Color (No Silver)		• SS21のオレンジインクおよびシルバーインク使用時[*3]

・ 蛍光インク（蛍光イエロー、蛍光ピンク）を使用したスポットカラー[*2、*4]（タイプ：インク）

カラーコレクション名	Adobe Illustrator 用スウォッチファイル	使用可能環境
Artista Textile Color Collection	Artista Textile Color Collection	• 昇華転写インク411の蛍光イエローおよび蛍光ピンク使用時
MIMAKI UV Fluorescent (FyFp) Color	MIMAKI UV Fluorescent (FyFp) Library	• UV Fyインク Fpインク使用時

*1. 初期設定では、読み込んだ画像内にカラーコレクション内と同一カラー情報があった場合に、その出力データで自動的に色置換しない設定になっております。自動的に色置換したい場合、「使用」をONにしてください。☞「カラーコレクション - 画面構成」（P. 230）

*2. Adobe Illustrator用スウォッチファイルは以下のフォルダーに格納されています。
RasterLinkのインストールフォルダー/Swatch/Illustrator

*3. 置換後の色にシルバーインクは含まれません。シルバー版を別で作成する際に使用します。
詳細は別冊「メタリックカラー印刷ガイド」をご覧ください。

*4. カラーコレクションのスポットカラーを指定したカラーチャート(PDF)は弊社公式サイトに掲載されています。
https://japan.mimaki.com/topics/product/artista/atcc-download.html

● カラーリスト

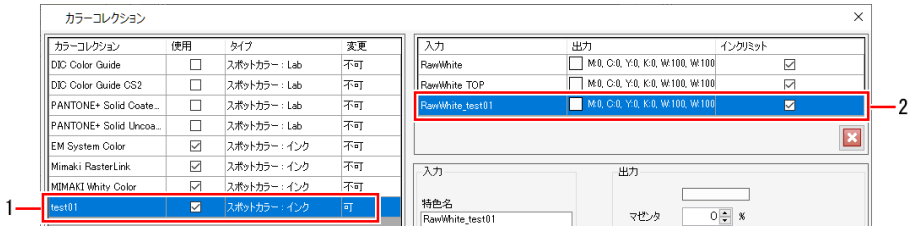
カラーコレクションリストで選択されているカラーコレクションファイルに登録されているカラーが表示されます。

● カラー登録

カラーコレクションリストで選択されているカラーコレクションファイルに、カラーの設定（置換前の色と置換後の色）の登録や編集をします☞「色置換設定 - 機能」（P. 161）参照。

カラーコレクション - 操作

● カラー登録の設定を確認する



1 [カラーコレクション]画面のカラーコレクションリストで、カラーコレクションファイルを選択します。

- カラーリストが表示されます。

2 カラーリストで、カラーを選択します。

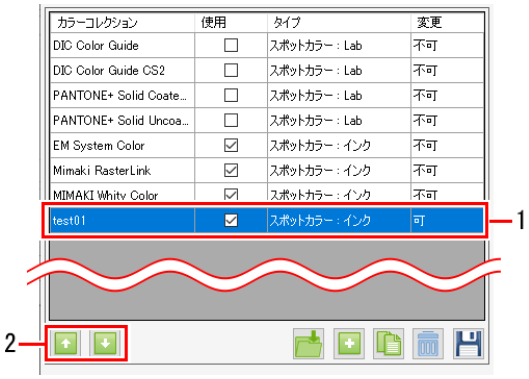
- カラー登録に置換前の色と置換後の色の設定が表示されます。

● カラーコレクションの設定に従って自動的に色を置換する

1 [カラーコレクション]画面のカラーコレクションリストで使用したいカラーコレクションを選択し、[使用]チェックボックスをオンにします。

2 [ ]アイコンをクリックして、カラーコ レクションを並び替えます。

- カラーコレクションの優先順位が変更されます。
- [使用]チェックボックスがオンのカラーコレクションが複数あり、その中に同じ条件があった場合、リストの上位のカラーコレクションが適用されます。



- カラーコレクションは、新たに画像を読み込んだ際に、自動的に適用されます。

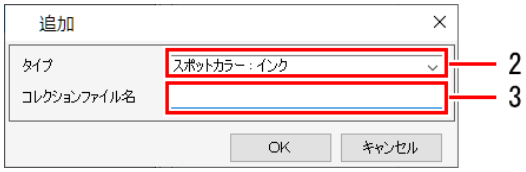
● カラーコレクションを追加する

1 [カラーコレクション]画面のカラーコレクションリストで、[ ]アイコンをクリックします。



- [追加]ダイアログが表示されます。

2 [追加]ダイアログの[タイプ]リストで、カラーコレクションのタイプを選択します。



3 [コレクションファイル名]に、カラーコレクションファイルの名称を入力します。

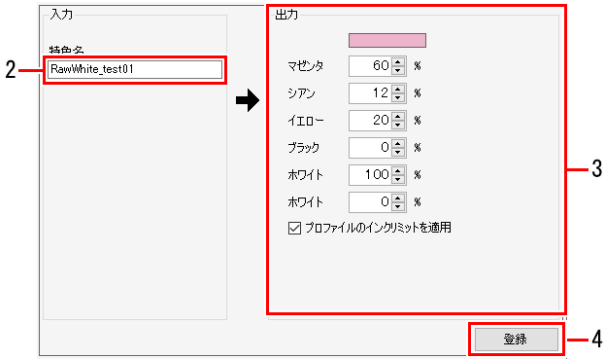
- カラーコレクションが追加されます。

● カラーコレクションを編集する

1 [カラーコレクション]画面のカラーコレクションリストで、カラーコレクションファイルを1つ選択します。



2 登録の[入力]に、置換前の色の情報を設定します。



- カラーコレクションのタイプによって、設定できる色の情報が異なります☞ P. 161参照。

3 登録の[出力]に、置換後の色の情報を設定します。

- カラーコレクションのタイプによって、設定できる色の情報が異なります☞ P. 161参照。

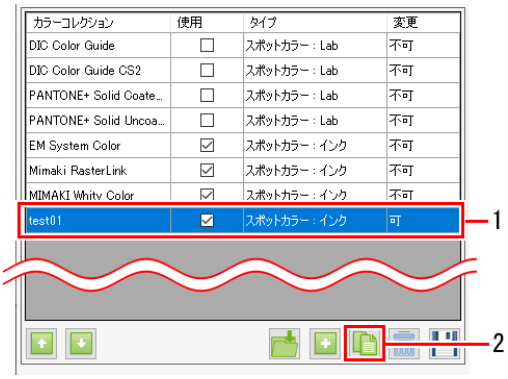
4 [登録]をクリックします。

- カラーリストに、カラーが追加されます。

- カラーを削除する場合は、カラーリストで削除したいカラーを選択して、[ ]アイコンをクリックします。

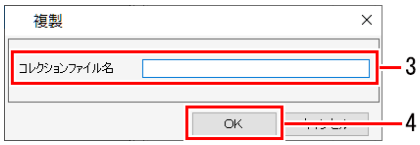
● カラーコレクションを複製する

1 [カラーコレクション]画面のカラーコレクションリストで、複製したいカラーコレクションを選択します。



2 []アイコンをクリックします。

3 [複製]ダイアログの[コレクションファイル名]に、カラーコレクションの名称を入力します。

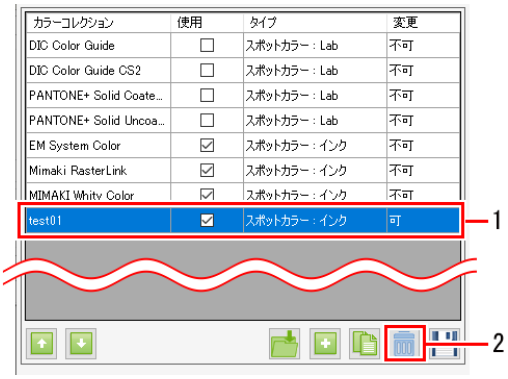


4 [OK]をクリックします。

- カラーコレクションが複製されます。

● カラーコレクションを削除する

1 [カラーコレクション]画面のカラーコレクションリストで、削除したいカラーコレクションを選択します。



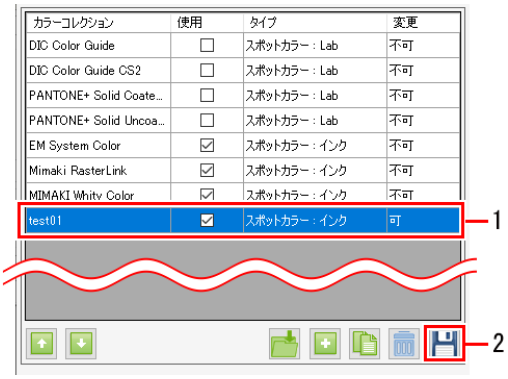
2 []アイコンをクリックします。

- [確認]ダイアログが表示されます。
- [はい]をクリックすると、カラーコレクションが削除されます。

重要！ ・ [変更]が[不可]のカラーコレクションは削除することができません。

● Adobe Illustrator用のスウォッチファイルを作成する

1 [カラーコレクション]画面のカラーコレクションリストで、スウォッチを作成したいカラーコレクションを選択します。

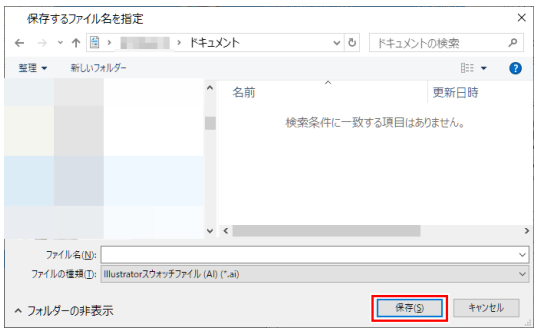


2 []アイコンをクリックします。

- [保存するファイル名を指定]ダイアログが表示されます。

3 [保存するファイル名を指定]ダイアログの[ファイル名]に、ファイル名を入力して[保存]をクリックします。

- Adobe Illustrator用のスウォッチファイルが作成されます。



重要! 以下の場合には、Adobe Illustrator用のスウォッチファイルを作成することができません。

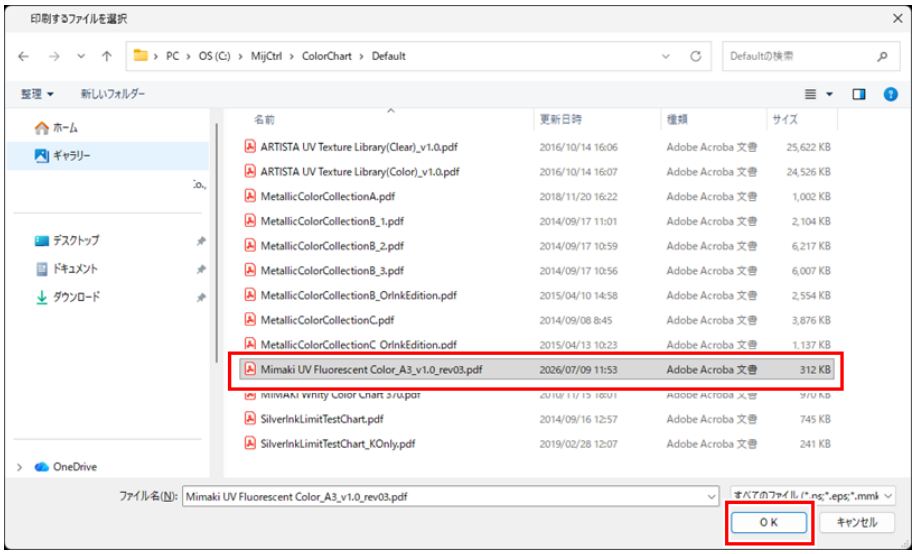
- [変更]が[不可]のカラーコレクション
- [タイプ]が[グラデーション]、[CMYK：インク]、[CMYK：Lab]のカラーコレクションファイル

● カラーコレクション（チャート）を印刷する

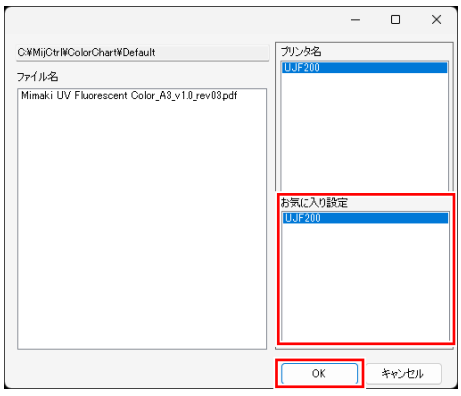
1 [カラーコレクション]画面のカラーコレクションリストで、スウォッチを作成したいカラーコレクションを選択し、ファイル開くアイコンをクリックします。



2 PDFファイルを選択して[OK]をクリックします。



3 お気に入りを選択して[OK]をクリックします。



2.3.6 エミュレーション

RasterLink8でエミュレーションを行うことができます。

使用方法については別冊「エミュレーションツールガイド」をご覧ください。

2.3.7 キャリブレーション

RasterLink8でキャリブレーションを行うことができます。

使用方法については別冊「キャリブレーションツールガイド」をご覧ください。

2.3.8 プロファイルマネージャー

RasterLink8からプロファイルマネージャーを起動し、プロファイルのインストール/アンインストール等を行えます。

詳細については別冊「プロファイルマネージャー　リファレンスガイド」をご覧ください。



- RasterLink8とプロファイルマネージャーは同時に起動でき、プロファイルマネージャーでプロファイルのインストール/アンインストールした結果がRasterLink8に即時に反映されます。

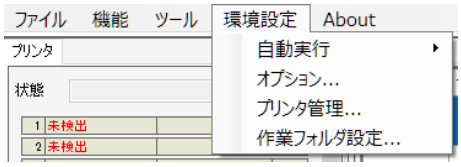
2.3.9 MimakiRemoteAccess

Mimaki Remote Access（以下、MRA）は、Mimaki製プリンタ／プロッタが設置された場所にいなくても、情報の取得やパネルの操作が可能なリモートアクセスツールです。

MRAが同じRasterLink8と同じパソコンにインストールされており、現在選択されているプリンターがMRAに対応している場合に起動できます。

2.4 環境設定

ここでは各種設定方法について説明します。
メイン画面上部の[環境設定]メニューから選択します。

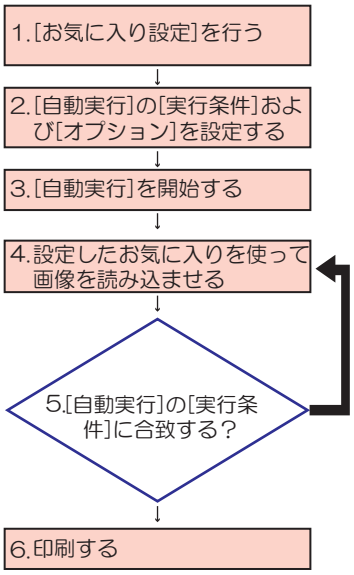


2.4.1 自動実行

画像データ読み込み時に自動的にRIPを開始し、出力する機能です。

自動実行 - 機能

[自動実行]は以下の流れで行われます。



1. [自動実行]で印刷する画像データに対して、お気に入りを設定します。
2. どのような条件で印刷を開始するか、またどのようなときに停止するかを設定します。
3. [自動実行]を開始します。
4. 1で設定したお気に入りと同名のホットフォルダー、またはプリンタードライバーに画像データを読み込ませます。
5. 2で設定した[自動実行]の[実行条件]に合致するまでジョブをためます。
6. [実行条件]に合致したら、自動的に印刷が開始されます。

重要! • [自動実行]の印刷待ち状態（背景色が水色）のジョブは、各種メニューから操作することができません。ジョブを操作する場合は、[自動実行]を停止してください。

● 条件

[自動実行]では以下の操作を行うことができません。

- [合成]
- [分割印刷]
- [ステップ&リピート印刷]
- [治具配置印刷]（フラットベッドプリンターの場合）
- FOTOBAマークの印刷
- 点字印刷
- FineCutでトンボを付加しているジョブ

自動実行 - 画面構成

● [環境設定]メニュー - [オプション]ダイアログ - [自動実行]タブ

[自動実行]タブの[実行条件]、[オプション]、[拡張機能]を設定します。



自動実行 - 操作

● お気に入りの設定を行う

1 **元画像データを読み込んだ場合に適用されるお気に入りを設定します。**

- お気に入りの設定方法は☞「お気に入り設定」（P. 178）を参照してください。



- 色置換は、カラーコレクションの設定が適用されます☞「カラーコレクション」（P. 229）。

● [自動実行]を開始する

1 **[環境設定] - [オプション]を選択します。**

- [オプション]ダイアログが表示されます。

2 **[オプション]ダイアログの[自動実行]タブを選択します。**

3 **[実行条件]の設定を行います。**

重要！ - 印刷待ち状態（背景色が水色）のジョブは編集できません。編集する場合は自動実行を停止してください。

- [面付けして印刷]：
以下のいずれかの条件に合致するまでジョブをため、面積最小の整列方法でジョブが面付けされ、印刷されます。

  ・[ジョブの個数]
  オンにした場合、指定した個数のジョブが読み込まれた時点で印刷が開始されます。

  ・[用紙の長さ(Roll to roll)]（Roll to Rollプリンターの場合）
  Roll to Roll プリンターの場合にオンにすると、読み込まれたジョブが面積最小で面付けされ、指定した長さに達すると印刷が開始されます。詳しくは☞ P. 242のヒントをご覧ください。

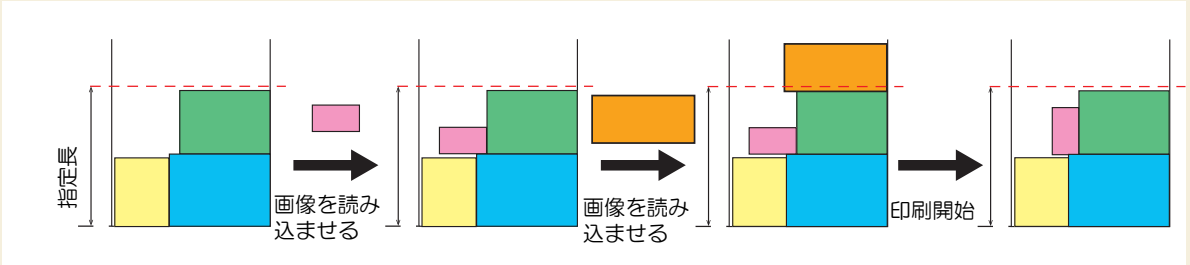
  ・[作図領域Full(Flatプリンタ)]
  フラットベッドプリンターの場合にオンにすると、読み込まれたジョブが面積最小で面付けされ、お気に入りに設定されている作図領域設定から超えた場合に印刷が開始されます。

  ・[余白指定]
  幅と送りの余白、および中央合せのオン/オフについての設定をプリンターごとに行います。

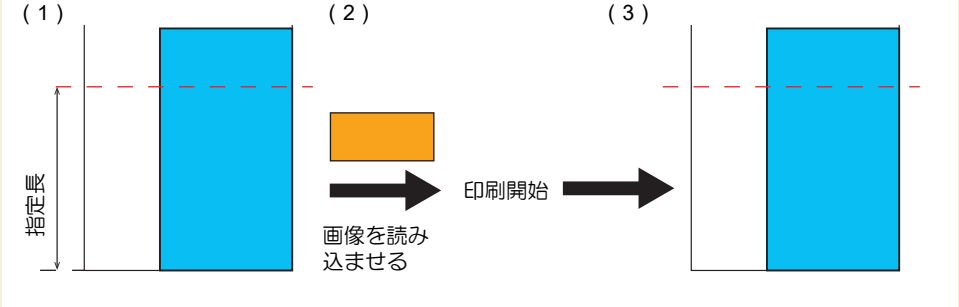
- [面付けせず、すぐに印刷]：
画像データが読み込まれた時点で、RIP＆印刷が実行されます。

[面付けして印刷]を選択した場合

- [実行条件]で[面付けして印刷]を選択し、[用紙の長さ]チェックボックスをオンにした場合、面付したジョブが印刷開始の条件は以下のようになります。



(1)画像データが読み込まれ、作成されたジョブが面積最小で面付けされます。
(2)指定長に達するまで、面付けが続けられます。
(3)指定長を超えました。
(4)指定長を超えたジョブを除いて、印刷が開始されます。
例)1個目に読み込んだ画像から作成されたジョブが指定長を超える場合、以下のようになります。



(1)指定長を超えました。
(2)次の画像が読み込まれます。
(3)2個目の画像から作成されたジョブが除かれて、1個目のジョブだけ印刷が開始されます。

重要! [面付けして印刷]を選択した場合、以下のように動作します。

- [ジョブの個数][用紙の長さ][作図領域Full]がすべてオフのときはRIPだけを自動的に行い、面付けおよび印刷は自動的に行われません。
  印刷する際は、[自動実行]を停止し、手動で[実行]メニューから印刷を実行してください。
- [面積最小]で面付けされますので、ジョブの大きさによっては、自動的に回転して面付けされます。
- 同一のプリンターに複数のお気に入りが設定されているとき、画像データを読み込む際に使用したお気に入り毎に面付けされ、印刷されます。
- 印刷ジョブとプリント＆カットジョブは、別々に面付けが行われます。

4 **[オプション]の設定を行います。**

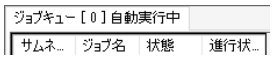
- [画像がメディアからはみ出したら自動実行を停止する]
  オンにすると、読み込んだ画像から作成されたジョブが作図可能範囲を超えるとき、自動実行が停止されます。
  ・Roll to Rollプリンターは、メディア幅を超える場合
  ・フラットベッドプリンターは、お気に入りに設定した作図領域を超える場合
- [エラー発生時にジョブキューを停止する]
  オンにすると、エラーが発生したとき、ジョブキューが自動的に停止されます。
  そのため、以後の画像データの読み込み、RIP、印刷処理が停止されます。
  エラーを確認後、ジョブキューを再開してください。☞「[ジョブキュー]タブ」（P. 131）
- [プリンタ設定]
  印刷後のデータに関する削除設定をプリンターごとに行います。
  詳細は☞「実行オプションで印刷後のデータに関する削除処理を設定します。」（P. 132）をご覧ください。

5 **[拡張機能]の設定を行います。**

- [メディア情報を定期的に取得する]：Simple POP を使用する際に使用します。詳細は Simple POP のマニュアルをご覧ください。

6 **[環境設定]メニューから[自動実行] - [開始]を選択します。**

- 自動実行が開始されます。
- 自動実行中は、「ジョブキュー」に[自動実行中]と表示されます。☞「[ジョブキュー]タブ」（P. 131）



7 **元画像データを読み込みます。**

- [実行条件]に合致したら、自動的に印刷が開始されます。

ジョブの読込方については、☞「印刷用データの読み込み」（P. 15）を参照してください。

重要！
- 印刷後は、ジョブの[実行]画面の☞「[印刷後にRIP済みデータを削除する]または[印刷後にジョブを削除する]」（P. 132）の設定が適用されます。

● 自動実行を停止する

1 **[環境設定]メニューから[自動実行] - [停止]を選択します。**

- 自動実行が停止されます。

重要！ RIPおよび印刷を中断する場合
- 「ジョブキューの停止」☞「[ジョブキュー]タブ」（P. 131）を実行してください。
  [自動実行]の[停止]を選択しただけでは、RIPおよび印刷は中断されません。

2.4.2 オプション

RasterLink8のパフォーマンスを設定します。

オプション - 機能

[オプション]では、以下の操作を行うことができます。

- ジョブ制御を設定する
- 表示を設定する
- ディスクを設定する
- 測色器を設定する
- 通信を設定する
- セキュリティを設定する

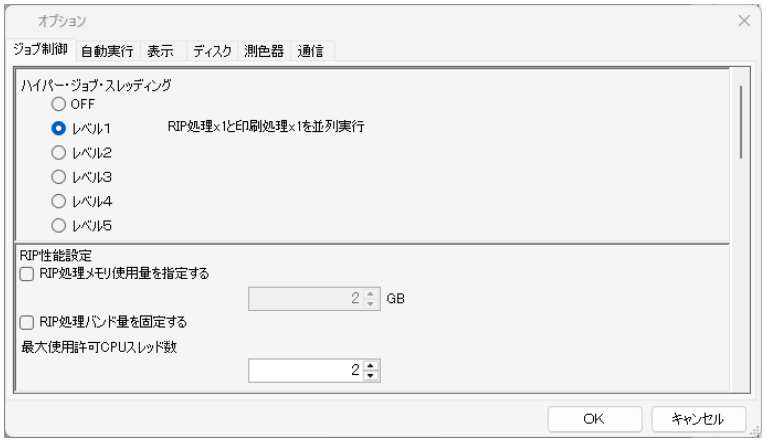
● 条件

[オプション]で変更した設定は、RasterLink8を再起動した後に適用されます。

オプション - 画面構成

● [環境設定] - [オプション]ダイアログ

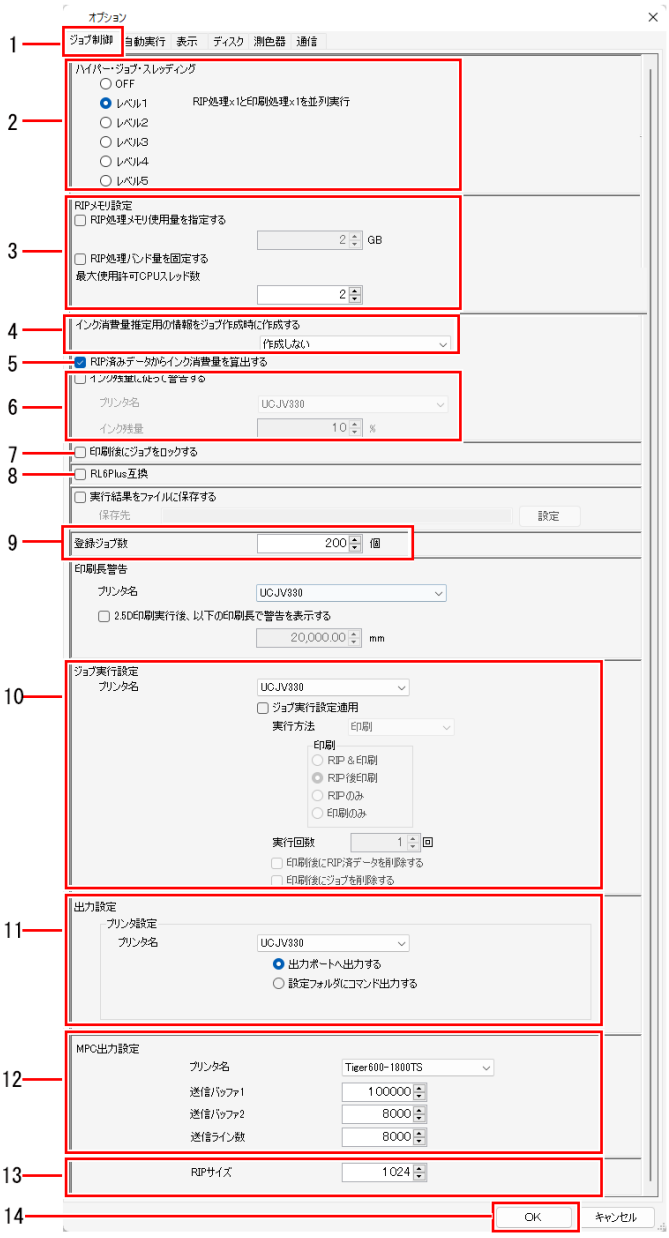
各種の環境設定を行います。



オプション - 操作

● ジョブ制御を設定する

1 [環境設定] - [オプション]ダイアログから、[ジョブ制御]タブを選択します。



2 [ハイパー・ジョブ・スレッディング]の項目を選択します。

- プリンター1台に対して複数のジョブを同時に処理するかどうかを設定します。

	並列で動作する処理と数量	並列で動作する処理と数量	並列で動作する処理と数量
[OFF]	画像データの読み込み処理×1	RIP処理×1	印刷処理×1
[レベル1]	画像データの読み込み処理×1	RIP処理×1 印刷処理×1	—
[レベル2]	画像データの読み込み処理×1 RIP処理×1 印刷処理×1	—	—
[レベル3]	画像データの読み込み処理×2 RIP処理×2 印刷処理×1	—	—
[レベル4]	画像データの読み込み処理×3 RIP処理×3 印刷処理×1	—	—
[レベル5]	画像データの読み込み処理×4 RIP処理×4 印刷処理×1	—	—

重要!
- 設定をレベル3以上にして同時に処理するRIP処理数を増やすと、RIP処理中のCPU使用率やメモリ使用量も増加します。
  レベル3以上でPostScriptエラーが発生した場合は、設定をレベル2以下にしてください。
  高解像度のラスター画像、透明オブジェクトやグラデーションオブジェクトを多用したデータは特にCPU使用率が上がり、メモリも多く使用される傾向があります。

3 必要に応じて[RIPメモリ設定]を指定します。

[RIP処理メモリ使用量を指定する] ：通常はオフでお使いください。オフの場合、自動で最適なメモリ量でRIP処理されます。画像データによっては、エラーが発生するレベルまでメモリを使う場合があります。このような場合、使用するメモリ量を設定することで正常にRIP処理できます。
設定値：1～4GByte

[RIP処理バンド量を固定する] ：通常はオフでお使いください。オフの場合、1度に処理する画像データのライン数（バンド量）を画像データに合わせて自動で計算し、最適なライン数で処理されます。画像データによっては、ライン数を固定したほうが早くRIP処理できる場合があります。RIP処理が遅く、画面がフリーズしたように見える場合、本設定をオンにすることでRIP処理を速くすることができます。

最大使用許可CPUスレッド数 ：RIP時に使用するCPUスレッド数を指定できます。
設定値：1～CPUスレッド数

4 **[インク消費量推定用の情報をジョブ作成時に作成する]を設定します。**

- ジョブを作成する際に、☞「インク消費量を推定する」（P. 134）で推定値を算出するために使用するデータを作成するか否かを設定します。

選択項目	ジョブ作成時間	推定処理	精度	備考
[作成する]	遅い	速い	悪い	
[自動判定]	遅い	中間	良い	ジョブの大きさやお気に入りの設定によりデータを作成するか判断します。
[作成しない]	普通	遅い	良い	データを作成しません。推定機能の実行時は、元の画像データを用いて算出します。

5 **[RIP済みデータからインク消費量を算出する]チェックボックスをオンまたはオフにします。**

- オンにすると、インク消費量を概算して、予測値が☞「プロパティ」（P. 36）に表示されます。

6 **[インク残量に従って警告する]チェックボックスをオンまたはオフにします。**

- 以下のいずれかを印刷実行した場合、算出値とインク残量を元に、その印刷がインク不足である警告が表示されます。
  ・[RIP済データからインク消費量を算出する]がオンになっておりインク消費量が印刷前に算出されている。
  ・事前に[インク消費量推定]を実施している。
- プリンタ名
  インク残量を変更するプリンターを選択します。
- インク残量
  警告するインク残量を変更できます。
  デフォルト値は機種により異なります。

7 **[印刷後にジョブをロックする]チェックボックスをオンまたはオフにします。**

- オンにすると、印刷後のジョブにロックマークが表示され、そのジョブの設定変更や削除ができなくなります。

8 **[RL6Plus互換]チェックボックスをオンまたはオフにします。**

- オンにすると、以下の項目でRasterLink6Plusと同様の処理を行います。
  ・フラットベッドプリンターを使用し、特色ジョブが連続する合成の場合、別の出力に分けて合成されます。
  ・特色使用時、初期値としてRasterLink6Plusと同様の特色版重ね印刷が設定されます。

9 **必要に応じて[登録ジョブ数]を変更します。**

- 初期値：200, 最大値：1000
  登録ジョブ数を増やすと、[ジョブ一覧]タブに表示される画像データの数を増やすことができます。ただし、RasterLink8が起動し、[ジョブ一覧]タブが表示されるまでの時間は長くなります。

10 **[ジョブ実行設定]の適用をオンまたはオフにします。**

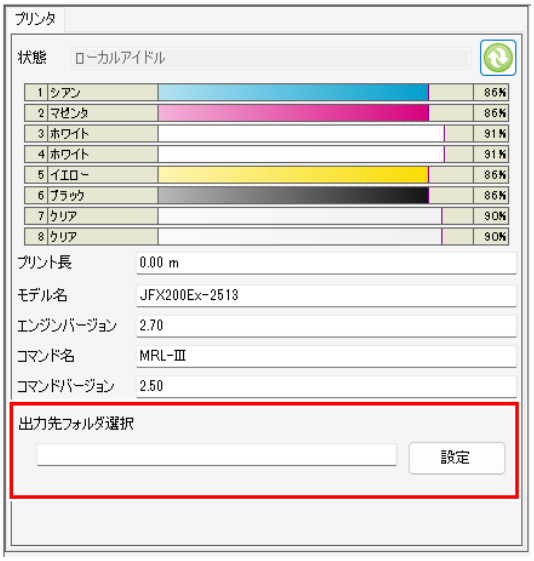
- オンにすると、オプション画面の設定が実行画面の初期値として表示されます。

11 必要に応じて[出力設定]を指定します。

- 通常は[出力ポートへ出力する]を選択してください。
  プリンター登録時に設定した出力ポートへ出力されます。
- その他の設定での出力はプリンター登録時の出力ポートとの組み合わせにより、以下のようになります。

出力設定	プリンタ登録時の出力ポート		
	USB2.0	Ethernet	ファイル
[出力ポートへ出力する]	USB2.0	Ethernet	ファイル
[設定フォルダにコマンドを出力する]	設定フォルダー	設定フォルダー	設定フォルダー
[設定フォルダにコマンドを出力し、出力ポートへ出力する]	設定フォルダー	設定フォルダー	設定フォルダー
	USB2.0	Ethernet	-

- コマンドは、日_時_ジョブ名.bin　の定型ファイル名で設定フォルダーに出力されます。
  例) 20240701_123001_テストジョブ.bin
- 設定フォルダーは、プリンターステータス画面の[出力フォルダ選択]で設定します。



重要! • JFX600-2531,JFX600-2513, Tiger600-1800TSをお使いの場合、[出力設定]は指定できません。

12 [MPC出力設定]を行います。

- この設定は、Tiger600をプリンター登録した場合に表示されます。
- 基本的には値を変更しないでお使いください。PCのスペックやネットワーク環境の影響で印刷中にキャリッジが停止するときは、値を増やしてお試しください。

13 [RIPサイズ]を設定します。

- 基本的には値を変更しないでお使いください。PCのスペックやネットワーク環境の影響で印刷中にキャリッジが停止するときは、値を増やしてお試しください。

14 [OK]をクリックします。

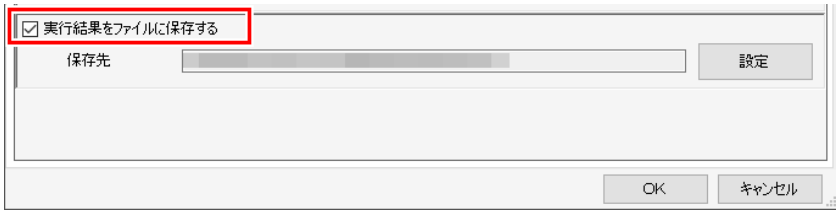
- 変更した設定は、RasterLink8再起動後に適用されます。

実行結果をファイルに保存する

チェックボックスをオンにして保存先を設定すると、印刷やカット完了時に実行結果がCSV形式で出力されます。

- ファイル出力の設定方法

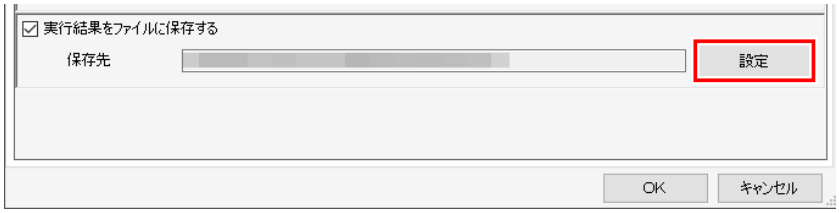
1 [実行結果をファイルに保存する]チェックボックスをオンにします。



- 初めて保存先を指定する場合は、ファイルの保存先選択ダイアログが自動で表示されます。
  その場合は手順3に進んでください。

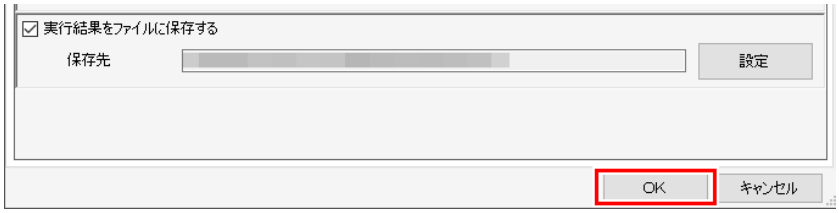
2 [設定]をクリックします。

- ファイルの保存先選択ダイアログが表示されます。



3 出力ファイルの保存先を選択し、[選択]をクリックします。

4 [OK]をクリックします。



- 出力される情報は以下の通りです。
  印刷の場合
  ファイル名,結果,インク消費量結果,RIP開始時間,RIP終了時間,印刷開始時間,印刷終了時間,実行回数,結果詳細

  カットの場合
  ファイル名,結果,インク消費量結果,カットパス作成開始時間,カットパス作成終了時間,カット開始時間,カット終了時間,実行回数,結果詳細

印刷長警告を表示する

特定のジョブを出力した後、累積印刷長が指定長に達したときに警告を表示します。以下のプリンターが登録されているときに表示され、設定できます。

プリンター：UCJV330

1 **設定するプリンターを[プリンタ名]から選択します。**

2 **[2.5D印刷実行後、以下の印刷長で警告を表示する]チェックボックスをオンまたはオフにします。**

- オンにした場合、印刷長を指定できます。

警告のタイミングについて

2.5D印刷したメディアを巻き取りし続けた場合、蛇行することがあり、これを警告するためのものです。

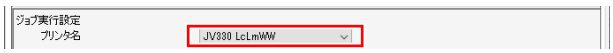
- RasterLink8起動後、該当のプリンターで2.5D印刷したその開始を0とし、以後、ジョブの種類に関係なく、指定長に達する印刷が開始される前に警告が表示されます。
- 警告表示した後は、再度2.5D印刷するとその開始を0として印刷長がカウントされます。
- RasterLink8を再起動すると、印刷長のカウンターは0になります。

各機能画面の[実行]アイコンの動作を設定する

[通常印刷]、[分割印刷]、[ステップ&リピート]の各機能画面に配置されている[実行]をクリックしたときの動作を設定します。

設定は登録されているプリンターごとに行います。

1 **設定したいプリンターを[プリンタ名]から選択します。**



2 **[ジョブ実行設定適用]チェックボックスをオンにします。**



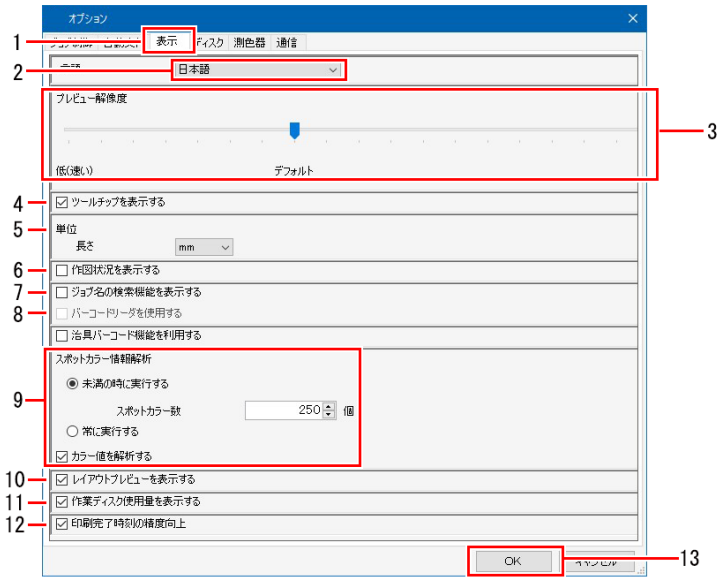
- オフの場合は、前回実行した時の条件で動作します。

3 **実行方法を設定します。**

- 設定の内容は☞「実行」（P. 129）と同様です。

● 表示を設定する

1 [環境設定] - [オプション]ダイアログから、[表示]タブを選択します。



2 [言語]のプルダウンから表示言語を選択します。

- RasterLink8の表示言語を設定します。

3 [プレビュー解像度]のスライダーを動かします。

- 右方向へ動かすと、[プレビュー]ウィンドウの表示解像度は高くなりますが、表示は遅くなります。
- 左方向へ動かすと、表示解像度は低くなりますが、表示は速くなります。

4 [ツールチップを表示する]チェックボックスをオンまたはオフにします。

- オンにすると、マウスポインターの位置の項目に対して、簡単な説明（ツールチップ）が表示されます。

5 [単位]を選択します。

- 長さの表示単位をmmまたはinchに設定します。

6 [作図状況を表示する]チェックボックスをオンまたはオフにします。

- オンにした状態でプリンターに接続すると、印刷時に作図状況が表示されます☞ P. 20。

7 [ジョブ名の検索機能を表示する]チェックボックスをオンまたはオフにします。

- オンにすると、ジョブ名検索入力ボックスが表示されます。
- ジョブ名検索入力ボックスでは、ジョブを検索することができます☞ 「ジョブ名検索」（P. 290）。

8 [バーコードリーダを使用する]チェックボックスをオンまたはオフにします。

- オンにすると、一般のバーコード変換ソフトなどで作成した、バーコード化した検索条件をRasterLink8に読み込ませることができます☞ 「バーコードリーダーで検索する」（P. 292）。

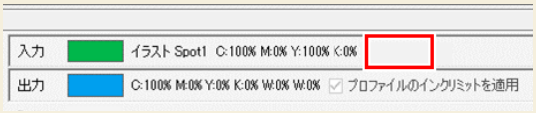
9 スポットカラーが設定されている画像データを読み込む際の動きを設定します。

[未満の時に実行する] ：画像データ中のスポットカラーの数が、設定値より少ない場合はスポットカラーの情報を解析します。
スポットカラーの数が設定値以上の場合は解析を行わないため、画像データの読み込みが速くなります。

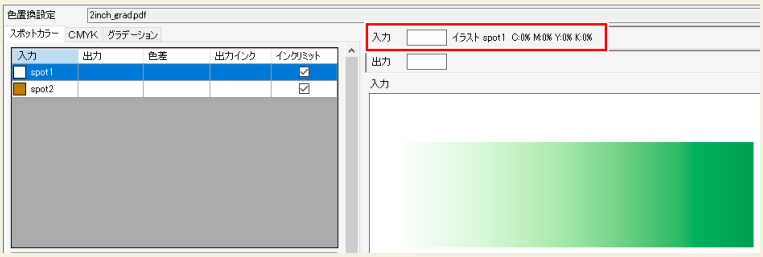
[常に実行する] ：画像データ中のスポットカラーの数に関係なく、常にスポットカラーの情報を解析します。

重要! [スポットカラー情報解析]を行わずに作成したジョブには、以下の制限が発生します。

- [色置換設定]画面で、色置換リストから選択したスポットカラーの濃度は表示されません。



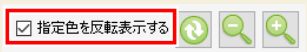
選択したスポットカラーがグラデーションオブジェクトの色として設定されている場合は、入力色がCMYKすべて0%として表示されます。



- プレビュー上でカーソルをスポットカラー指定された位置に合わせても、入出力情報は表示されません。



- 色置換リストのスポットカラーを選択し、[指定色を反転表示する]のチェックボックスをオンにしても、プレビュー上のスポットカラーの位置は反転表示されません。



- プレビュー上でスポットカラーの位置をクリックしても、色置換リストのスポットカラーは選択されません。
- 単色置換した場合、プレビュー上はスポットカラーが指定された位置は色がないと判断されます。実際の印刷は正常に行われます。

[カラー値を解析する] ：スポットカラーを指定したベクターオブジェクトを大量に含む画像データを読み込むと、エラーが発生することがあります。その場合はこの設定をオフにしてください。

10 **[レイアウトプレビューを表示する]を設定します。**

- オンにするとメイン画面にレイアウトプレビューが表示されます。☞ P. 19

11 **[作業ディスク使用量を表示する]を設定します。**

- オンにするとメイン画面に作業ディスク使用量が表示されます。☞ P. 19

12 **[印刷完了時刻の精度向上]を選択します。**

[プロパティ] - [実行結果] - [処理時間] - [印刷]の表示が以下のように変更されます。☞ P. 38

- オンにすると印刷開始から印刷完了までの時間が表示されます。
- オフにすると印刷開始からプリンターへデータ送信が完了するまでの時間が表示されます。

13 **[OK]をクリックします。**

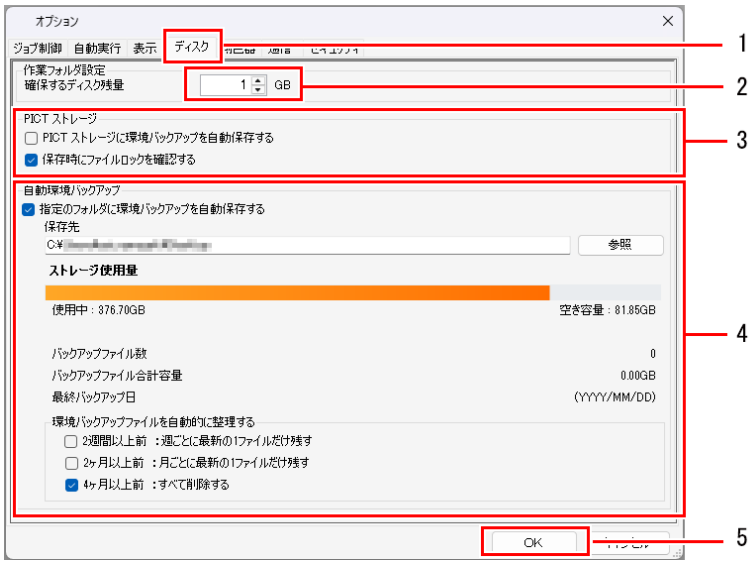
- 変更した設定は、RasterLink8再起動後に適用されます。



- 治具バーコード機能については、別冊「治具バーコード機能ガイド」をご覧ください。

● ディスクを設定する

1 **[環境設定] - [オプション]ダイアログから、[ディスク]タブを選択します。**



2 **[確保するディスク残量]に、数値を設定します。**

- 作業フォルダーがあるハードディスクの最低空き容量を設定します。
- ジョブの実行中に空き容量が設定した値を下回った場合、実行が中断されます。

3 PICTストレージを設定します。

- 設定がオンの場合、RasterLink8が終了する時に環境の変更を自動で検出し、環境バックアップを作成します。
- 作成した環境バックアップをPICTストレージに自動で保存します。

重要! • PICTストレージに環境バックアップを保存するには、PICTでクラウドストレージ連携を設定しておく必要があります。
クラウドストレージ連携の詳細については、別冊「PICT　オンラインヘルプ」をご覧ください。

4 自動環境バックアップを設定します。

- 選択した設定に従い、RasterLink8終了時に環境の変更を検知し自動で環境をバックアップします。
  ・PICTストレージに保存する
  ・指定のフォルダーに環境バックアップを保存する
  例）2026/7/1を現在として、環境バックアップファイルの整理対象

	日付	曜日	4ケ月以上前：すべて削除する	2ケ月以上前：月ごとに最新の1ファイルだけ残す	2週間以上前：週ごとに最新の1ファイルだけ残す
現在 ↑	2026/07/01	Wed	保存	保存	保存
	2026/06/30	Tue	保存	保存	保存
	2026/06/29	Mon	保存	保存	保存
	・ ・ ・				
	2026/06/09	Tue	保存	保存	保存
	2026/06/08	Mon	保存	保存	削除
	・ ・ ・				
	2026/06/02	Tue	保存	保存	保存
	2026/06/01	Mon	保存	保存	削除
	・ ・ ・				
	2026/04/05	Sun	保存	保存	保存
	2026/04/04	Sat	保存	削除	削除
	・ ・ ・				
	2026/04/01	Wed	保存	削除	削除
	2026/03/31	Mon	削除	保存	削除
過去	2026/03/30	Sun	削除	削除	保存

5 [OK]をクリックします。

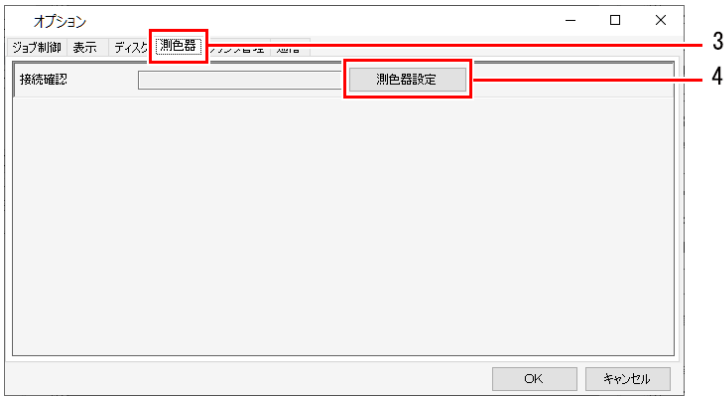
- 変更した設定は、RasterLink8再起動後に適用されます。

● 測色器を設定する

1 使用する測色器のドライバーをインストールします。

2 測色器をRIP-PCに接続します。

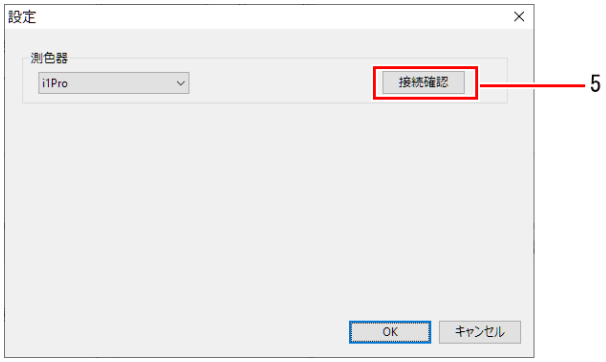
3 [環境設定] - [オプション]ダイアログから、[測色器]タブを選択します。



4 [測色器設定]をクリックします。

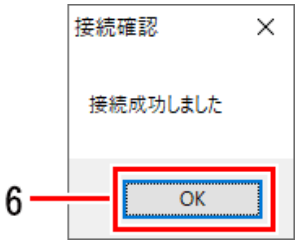
- [設定]ダイアログが表示されます。

5 PCに測色器を接続し、[接続確認]をクリックします。



- 接続が確認されると、[接続確認]ダイアログが表示されます。

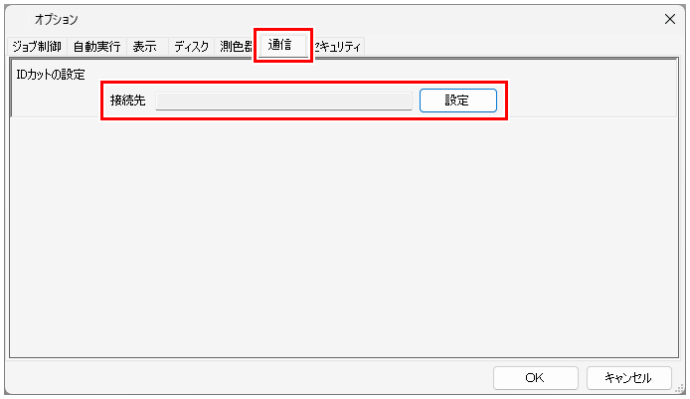
6 [OK]をクリックします。



- 変更した設定は、RasterLink8再起動後に適用されます。

● 通信を設定する

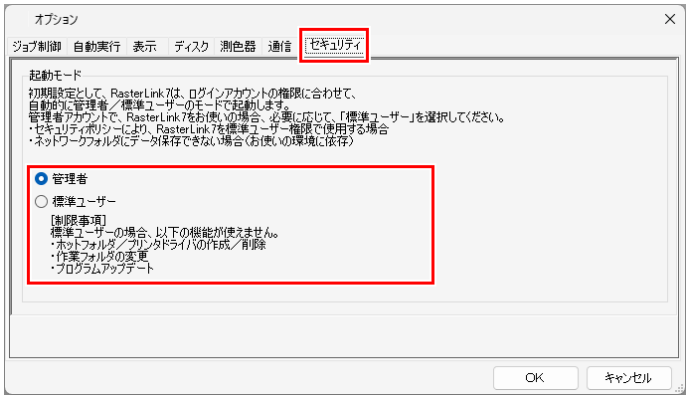
IDカットを実行する場合、CuttingLinkの接続情報を設定します。



詳細については、別冊「IDカットガイド」をご覧ください。

● セキュリティを設定する

RasterLink8を管理者権限のアカウントでお使いの場合に[標準ユーザー]を選択すると、次回は標準ユーザーの権限でRasterLink8が起動します。





- RasterLink8を起動しているユーザー権限がわからない場合は、RasterLink8画面左上のバージョン表記の右側をご覧ください。起動しているユーザー権限が表示されています。



以下のような制限がある場合などに、権限を変更してお使いください。

- セキュリティポリシーにより、RasterLink8を標準ユーザー権限で使用する必要がある場合
- ご使用環境の理由により、ネットワークフォルダーにデータを保存できない場合

重要! 標準ユーザーの場合は以下の機能が使えません。
使用したい場合は管理者に切り替えてお使いください。

- ホットフォルダーとプリンタードライバーの作成、削除
- 作業フォルダーの変更
- RasterLink8のアップデート

2.4.3 プリンタ管理

プリンターや機能アイコンを設定します。

プリンタ管理 - 機能

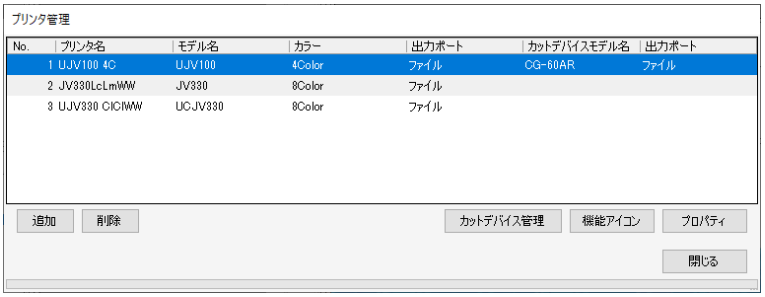
[プリンタ管理]では、以下の操作を行うことができます。

- プリンターを追加する
- プリンターの設定を確認、変更する
- プリンターにカットデバイスを紐づける
- 登録済みのプリンターを削除する
- 機能アイコンを設定する

プリンタ管理 - 画面構成

● [プリンタ管理]ダイアログ

プリンターの追加、削除、設定変更、カットデバイスの紐づけを行います。



プリンタ管理 - 操作

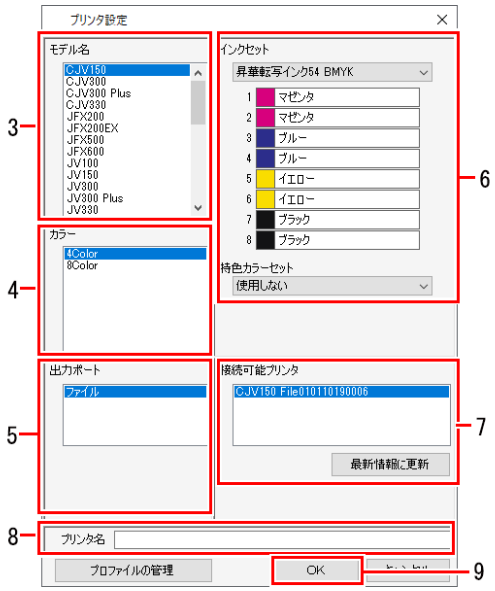
● プリンターを追加する

1 メニューから[環境設定] - [プリンタ管理]を選択します。

- [プリンタ管理]ダイアログが表示されます。

2 [追加]をクリックします。

- [プリンタ設定]ダイアログが表示されます。



3 プリンターのモデルを選択します。

4 プリンターのカラーを選択します。

5 出力するポートの種類を選択します。

6 プリンターにセットしているインクセット、特色カラーセットを選択します。

7 [出力ポート]で[USB2.0]または[Ethernet]を選択した場合は、[接続可能プリンタ]で接続するプリンターを選択します。

- [最新情報に更新]をクリックすると、[接続可能プリンタ]の情報が最新の状態に更新されます。

8 任意の名前を入力します。

- 登録するプリンターのデバイスプロファイルが1つ以上インストールされている必要があります。
  [OK]をクリックする前に、[プロファイルの管理]をクリックし、プロファイルマネージャーを起動して、プロファイルがインストールされていることを確認してください。

9 [OK]をクリックします。

- プリンターの追加、設定が適用されます。

● 登録済みのプリンターを削除する

1 メニューから[環境設定] - [プリンタ管理]を選択します。

- [プリンタ管理]ダイアログが表示されます。

2 削除するプリンターをクリックします。

3 [削除]をクリックします。

- 選択したプリンターがリストから削除されます。

重要! ・ プリンターを削除すると、そのプリンターに登録していたジョブも全て削除されます。

● 登録済みのプリンターの設定を確認、変更する

1 メニューから[環境設定] - [プリンタ管理]を選択します。

- [プリンタ管理]ダイアログが表示されます。

2 [プロパティ]をクリックします。

- [プリンタ設定]ダイアログが表示されます。

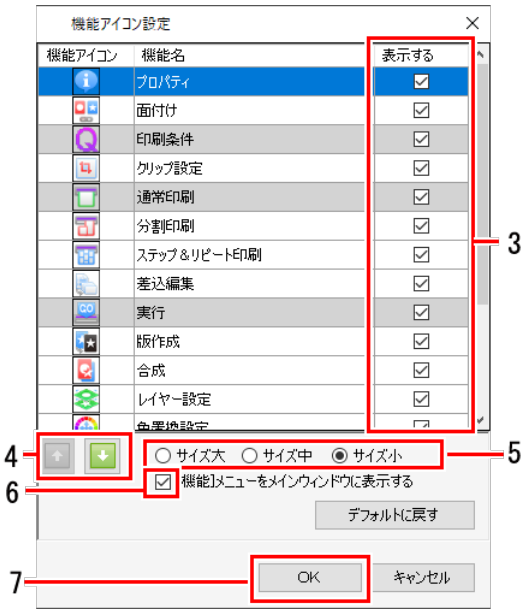
● 機能アイコンを設定する

1 メニューから[環境設定] - [プリンタ管理]を選択します。

- [プリンタ管理]ダイアログが表示されます。

2 対象のプリンターを選択し、[機能アイコン]をクリックします。

- [機能アイコン設定]ダイアログが表示されます。
- 選択したプリンターに対応している機能のアイコンだけが表示されます。



3 **[表示する]チェックボックスをオンにします。**

- オンにすると機能アイコンが表示され、オフにすると表示されません。
  ただし機能名の背景がグレーの場合、オフにすることはできません。

4 **機能を選択して、[]アイコンをクリックします。**

- 機能アイコンの表示順が変更されます。

5 **機能アイコンのサイズを選択します。**

6 **[機能]メニューをメインウィンドウに表示する]チェックボックスをオンまたはオフにします。**

- オンにするとメニューバーに[機能]が表示され、オフにすると表示されません。

7 **[OK]をクリックします。**

- 機能アイコンの設定が適用されます。



- [デフォルトに戻す]をクリックすると、初期設定に戻ります。

● カッティングデバイスの設定をする

登録したプリンターに対して、RasterLink8が対応しているカッティングデバイスを紐づけることができます。

紐づけたカッティングデバイスに対して、直接RasterLink8からデータを送信することができます。

紐付けの方法は別冊「RasterLink8　インストールガイド」をご覧ください。

2.4.4 作業フォルダ設定

作業フォルダーの場所を変更します。

作業フォルダ設定 - 機能

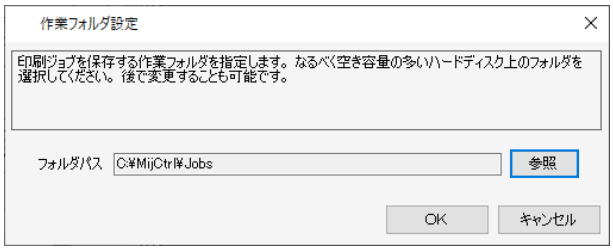
[作業フォルダ設定]では、以下の操作を行うことができます。

- 作業フォルダーの場所を別ディスクに変更する

作業フォルダ設定 - 画面構成

● [環境設定] - [作業フォルダ設定]ダイアログ

作業フォルダーの場所を変更します。



作業フォルダ設定 - 操作

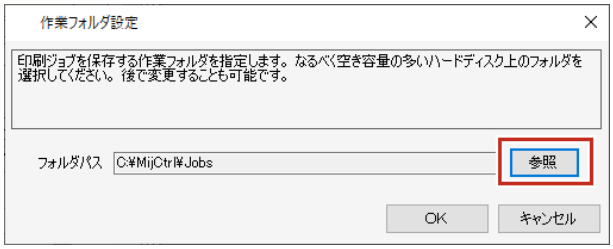
● 作業フォルダーの場所を別ディスクに変更する

1 メニューから[環境設定] - [作業フォルダ設定]を選択します。

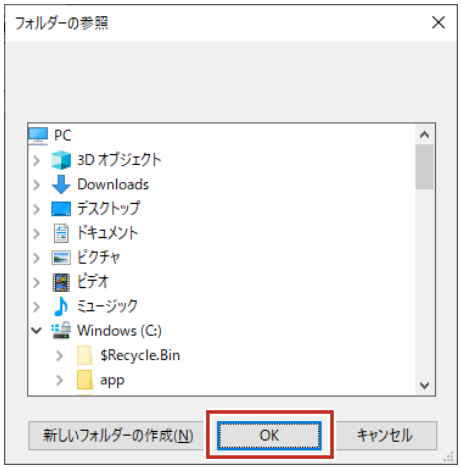
- [作業フォルダ設定]ダイアログが表示されます。

2 [作業フォルダ設定]ダイアログの[参照]をクリックします。

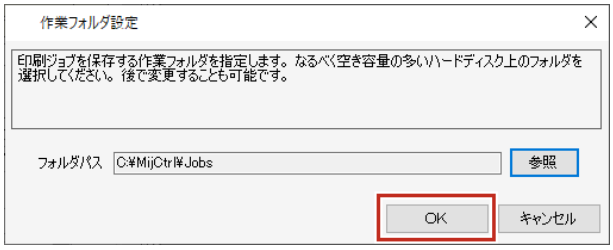
- フォルダーの参照ダイアログが表示されます。



3 使用したい作業フォルダーを選択し、[OK]をクリックします。



4 [作業フォルダ設定]ダイアログの[OK]をクリックします。



重要!
- 空き容量が十分あるディスク内のフォルダーを選択してください。
- 以下の場所は、作業フォルダーとして選択することができません。
  - ディスクのルートフォルダー
  - RasterLink8のインストールフォルダー

5 作業フォルダーの変更が完了すると、RasterLink8の終了確認ダイアログが表示されるので、[OK]をクリックします。

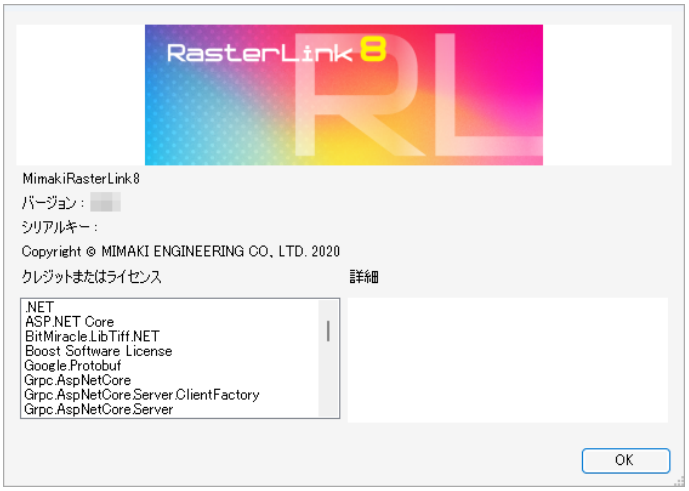


- 作業フォルダーの変更が完了するまで、RasterLink8は操作できません。
- RasterLink8は自動的に終了します。
- RasterLink8再起動後、変更した作業フォルダーが使用されます。

2.5 About

2.5.1 バージョン情報

メニューから[About]を選択すると、RasterLink8のライセンス認証に使用しているシリアルキーや各種情報が表示されます。



第 3 章　高度な操作



この章では...

機種ごとに用意された高度な印刷についての操作を説明します。

高度な操作の紹介.....268
操作の詳細.....269
　プリント＆カット 269
Twinロール印刷 279
多層印刷.....286
点字印刷.....288

3.1 高度な操作の紹介

RasterLink8を使用して、対象機種の高度な操作を行うことができます。

● プリント＆カット

プリント＆カット機およびカットデバイスへの出力を行います。

☞「プリント＆カット」（P. 269）

● Twinロール印刷

SJI-320UV、UJV55-320で、1台のプリンターに2本のロールメディアをセットして印刷します。

☞「Twinロール印刷」（P. 279）

● 多層印刷

UVインクの特長を活かし、印刷層を複数重ねて印刷する機能です。

☞「多層印刷」（P. 286）

● 点字印刷

作成した点字データ部分にRasterLinkToolsでスポットカラーを設定するだけで、簡単に点字を印刷できる機能です。

☞「点字印刷」（P. 288）



上記の他に以下のような印刷が行えます。

- 2.5D印刷
  UVインク搭載機にて、印刷層を重ねて印刷することりより、立体感を出す印刷が行えます。＜対象プリンター＞
  JFX200EX, JFX600, UJF-7151plusII, UJF-7151 plusII e, UCJV330, UJ330H, UJF200-6042, UJF200-3042
  詳しくは、各対象プリンターの「2.5 TextureMakerガイド」をご覧ください。
- Kebab印刷
  Kebabシステムを用いて、円筒の外周を印刷します。
  詳しくは、各Kebabシステムの取扱説明書をご覧ください。

3.2 操作の詳細

3.2.1 プリント&カット

プリント&カット - 概要

RasterLink8では、プリント&カット機やカッティングデバイスに対して、以下のような方法でカットデータを出力することができます。

プリント&カット機に直接出力

プリント&カット機(CJV/UCJVシリーズ)に対して、プリントデータとカットデータを直接出力します。
本章にて設定を説明します。

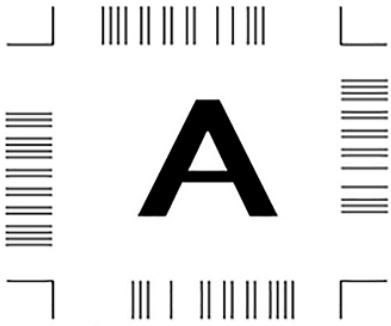
カッティングデバイスに直接出力

RasterLink8に登録したプリンターに対してカッティングデバイスを紐づけ、そのデバイスに対して直接カットデータを出力します。
本章にて設定を説明します。

CuttingLinkを経由してカッティングデバイスに出力

カットするデータを印刷する際、IDデータを一緒に印刷し、後でそのIDデータを元にカットする機能を「IDカット」と言います。
カットデータを管理し、IDデータと紐づけてカッティングデバイスへ出力するソフトウェアが「CuttingLink」です。

IDの印刷イメージ



● CuttingLinkを使用した出力方法

CuttingLinkを使用した出力は、以下の2通りの方法があります。

1. FineCutからカットデータを送信する

FineCutでしか設定できない条件等がある場合に、この方法を使用します。

出力の流れは以下になります。

1. FineCutでIDデータが付いたプリント＆カット用データを作成する。
2. FineCutにて各種出力設定をおこない、CuttingLinkに送信する。
3. 作成したデータをRasterLink8で印刷する。
4. 印刷したメディアをカットデバイスやプリント＆カット機にセットし、ID読み取り操作を行う。
5. CuttingLinkからカットデータを取得し、カットを行う。

詳しくは、別冊「IDカットガイド(FineCut使用版)」をご覧ください。

2. RasterLink8からカットデータを送信する

RasterLink8からの直接出力に対応していない場合にこの方法を使用します。また、プリント＆カット機においても、印刷後にラミネート等の後処理を行ってからカットを行うなど、プリンターからメディアを一度外した後にカットする場合に、再度カットデータを出力する必要がないため、選択ミス等を防ぐことができます。

出力の流れは以下になります。

1. RasterLink8でプリント＆カットジョブにIDデータを付け、[印刷後カット]を実行する。
   - 印刷データはプリンターへ、カットデータはCuttingLinkへ送信されます。
2. 印刷したメディアをカットデバイスやプリント＆カット機にセットし、ID読み取り操作を行う。
3. CuttingLinkからカットデータを取得し、カットを行う。

詳しくは、別冊「プリント＆カット機　IDカットガイド」をご覧ください。

プリント＆カット - 機能

プリント＆カット機およびカットデバイスへの出力を行います。

● 画像データ

ファイル形式	ps,eps,pdf
カットできるオブジェクト	ベクターデータ
カット対象となるパスの色	"CutContour"という名前を先頭に付けたスポットカラー

Adobe Illustratorでカット用のオブジェクトを作成する

- カット用のオブジェクトには、カットするパスにスポットカラーを設定してください。
- スポットカラーには、"CutContour"ではじまる名前を付けてください。
- "CutContour"の後に文字列（CutContourCut1、CutContourHalfなど）を続けることができます。これにより、カット条件を変えた複数のパスを作成することができます。

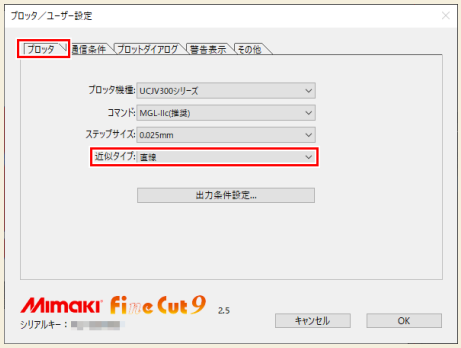
重要！ • "CutContour"の後の文字列は半角英数字にしてください。



イラストの周りに特色名が“CutContour”のパス(線)を、カット線として付ける

- RasterLinkToolsを使用するとAdobe Illustratorで簡単にカット用のオブジェクトを作成できます。詳しくは、別冊「RasterLinkToolsガイド」の「オブジェクトの外周にカットパスを作成する」をご覧ください。
- Adobe IIIlustratorでカット用オブジェクトを作成する際の注意事項として、☞「同じ場所を2回カットする、カットパスが認識されない」（P. 320）をご確認ください。

重要！ • FineCutでRasterLink用のカットデータを作成できる機能「RasterLink出力」を使用する場合、FineCutの[プロッタ/ユーザー設定]ダイアログの[プロッタ]タブで[近似タイプ]を"直線"にしてください。



● 他の機能との組み合わせ

プリント＆カットは、以下の設定と組み合わせることができます。

機能	組み合わせ可否
[面付け]*1	○
[クリップ設定]	×
[分割印刷]	×
[ステップ＆リピート印刷]	×
[版作成]	○
[合成]*2	○
[色置換設定]	○

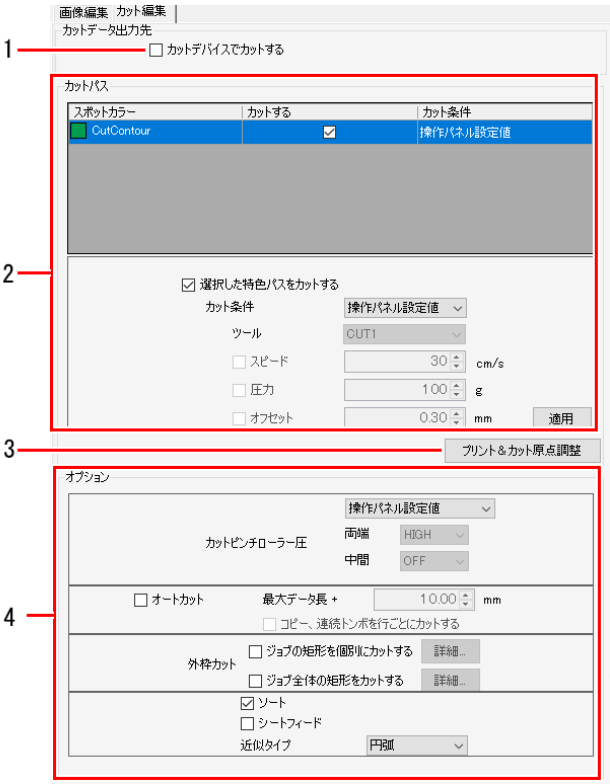
*1. プリント&カットジョブ同士の

*2. プリント＆カットとプリントジョブの組み合わせのみ

重要！ • 複数ページジョブのプリント＆カットジョブは対応していません。

プリント＆カット - 画面構成

● [通常印刷] - [カット編集]タブ



1.[カットデバイスでカットする]

プリンターにカッティングデバイスを紐づけている場合、オンにするとそのデバイスにデータが出力されます。

プリント＆カット機にカッティングデバイスを紐づけている場合、オンではカッティングデバイスに、オフではプリント＆カット機にカットデータが送信されます。

プリンターに紐づけている場合は常にオンとなり、操作はできません。

2.[カットパス]

カット方法を設定します。

3.[プリント＆カット原点調整]

調整パターンをプリント＆カットし、原点を調整します。

4.[オプション]

カットのオプションを設定します。

プリント＆カット - 操作

● プリント＆カットジョブを設定する

プリント＆カット用のデータを読み込み、各種設定を行います。

1 プリント＆カット用のデータを読み込みます。



- 1つのデータを読み込むと、自動的に2つの属性のジョブ（カットとカラー）が作成されます。
- 2つのジョブは自動的に合成されます。
- カットジョブの[サムネイル]にはカットを示す[ ]アイコンが表示されます。

2 プリント＆カット機にカッティングデバイスを紐づけている場合、[カットデバイスでカットする]を操作し、どちらにカットデータを出力するかを選択します。

- 出力の選択によって[カット編集]タブの[カットパス]、[オプション]の設定項目が変わります。

3 [通常印刷] - [カット編集]タブの[カットパス]に表示されているスポットカラーのリストから、カットするスポットカラーを1つ選択します。

- スポットカラーごとに異なるカット方法を設定することができます。

4 [選択した特色パスをカットする]チェックボックスをオンにします。（初期値はオンです）

- 選択したスポットカラーで作成されたパスがカットされます。

5 [カット条件]リストから、カット条件を選択します。

- [ユーザー定義]を選択すると、カット方法を設定できるようになります。

6 カット方法を設定します。

[ツール]	：	カッターを選択します。
[スピード]	：	カットのスピードを設定します。
[圧力]	：	カット刃の圧力を設定します。
[オフセット]	：	カット刃の中心位置を補正します。

- カット条件については、メディアおよびカッターによって適切な値が異なりますので、各機種の取扱説明書をご覧ください。

7 [オプション]でカットのオプションを設定します。

- [ソート]
  オンにすると、カット時間を短縮するために最適なカット順に並びます。
- [シートフィード]
  オンにすると、カット前にメディアをフィードさせて、ジョブのカットが可能かを確認します。
- [近似タイプ]
  曲線をカットする方法を選択します。

  [直線]　：曲線を短い直線に近似させてカットします。
  品質は落ちますが、スピードは速くなります。

  [円弧]　：曲線を小さな円弧に近似させてカットします。
  スピードは遅くなりますが、品質は上がります。

出力先がプリント＆カット機の場合

- カットピンチローラー圧
  カット時のピンチローラーの圧力を設定します。
- [オートカット]
  オンにすると、カット終了後、自動的にメディアを裁断します。

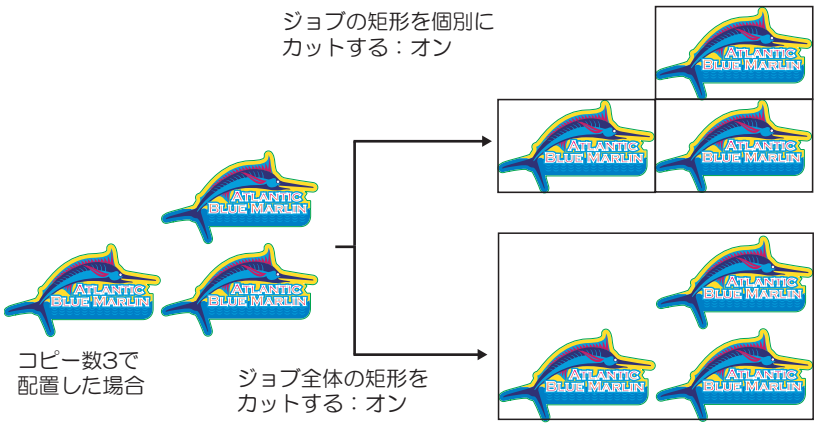
  [最大データ長 +]　：ジョブの終端から裁断する位置までの長さを設定します。

  [コピー、連続トンボを行ごとにカットする]　：オンにすると、コピー配置されているジョブを1行印刷するごとに裁断します。
- [外枠カット]
  ジョブの境界矩形またはジョブ全体の矩形をカットします。

  [ジョブの矩形を個別にカットする]　：オンにすると、ジョブごとに矩形をカットします。

  [ジョブ全体の矩形をカットする]　：オンにすると、ジョブ全体の矩形をカットします。

  [詳細]をクリックすると、カット条件を設定することができます。



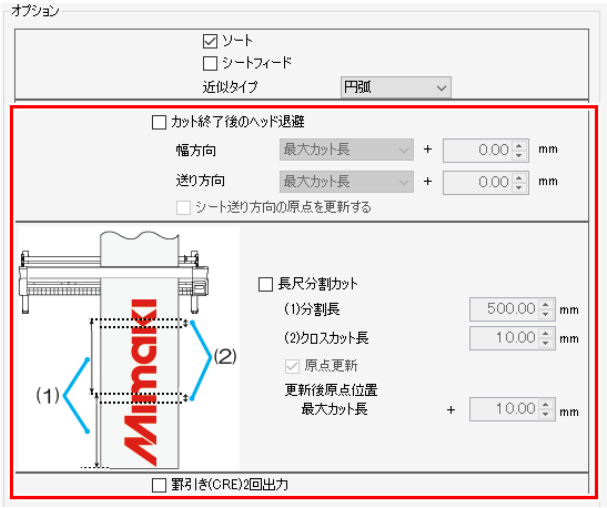
- [印刷後ヒーター温度](ヒーター搭載機のみ)
  [ヒータオフ]チェックボックスをオンにすると、カット時のヒーターがオフになります。

- メディアによっては、ヒーターの熱でゆがみが生じ、カット精度が低下します。
  このような場合には、ヒーターをオフにしてください。

出力先がカットデバイスの場合

カットデバイスごとに設定内容が異なります。

◆ CG-AR



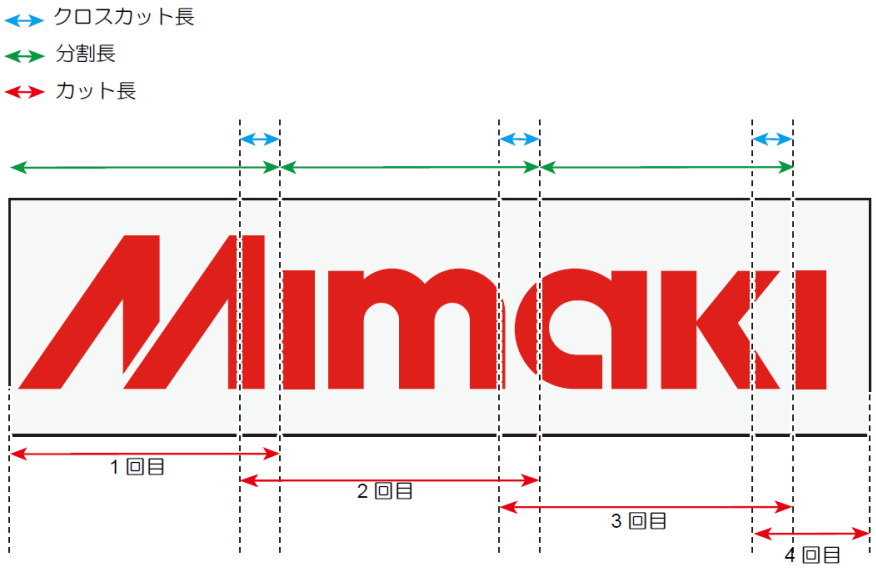
- カット終了後のヘッド退避
  カット終了後のヘッド位置を設定します。基準の位置([最大カット長]または[現在の原点]から選択)から見た位置を設定します。[シート送り方向の原点を更新する]をオンにすると、ヘッド退避後の位置を原点に設定します。同じシートで連続出力する場合にオンにすることで、前回カット位置に重ねてカットするミスを防ぐことができます。



- [長尺分割カット]のチェックがオンの場合
  [カット終了後のヘッド退避]のオプションは無効となり、[長尺分割カット]の[原点更新]に設定されている値でヘッド退避されます。
- [通常印刷]で2部以上コピーを設定し、かつ[個別トンボ]を選択している場合
  [カット終了後のヘッド退避]のオプションは無効となり、[カット終了後のヘッド退避]は行われません。

- 長尺分割カット
  送り方向にカットを分割する設定を行います。分割カットすることで、シートの蛇行によるカットずれを抑えることができます。
  以下の図のように、デザインを分割して1回目から順番にカットされます。各分割エリア毎に、シートフィードを行います。

項目	説明	範囲	初期値
分割長(mm)	X方向の分割長さ	100～5000 (ピッチ1mm)	500
クロスカット長(mm)	切り残しをなくすため、重複してカットする範囲の長さ	0～50 (ピッチ1mm)	10
原点更新	オンにすると、長尺分割カット完了後に原点が更新されます。	オン/オフ	オン
更新後原点位置(mm)	原点更新後の位置 X方向の最大カット長以上限定	0～51000 (ピッチ1mm)	10



オプションの設定によって以下のように動作します。

- [ソート]のチェックがオンの場合
  分割前のデザインを基準にソートされます。
- [シートフィード]のチェックがオンの場合
  最初に全体をフィードしてから、1回目のカットが開始されます。分割エリア毎のフィードは行われません。
- [長尺分割カット]のチェックがオンの場合
  [カット終了後のヘッド退避]のオプションは無効となり、[長尺分割カット]の[原点更新]に設定されている値でヘッド退避されます。

重要! [長尺分割カット]と[画像編集]画面の[トンボ]は同時に有効にすることはできませんのでご注意ください。

- [長尺分割カット]をオンにすると、トンボの設定は自動的にオフになります。
- トンボの設定をオンにすると、[長尺分割カット]は自動的にオフになります。

- 罫引き(CRE)2回出力
  カットパスに対して、ツールでCRE(罫引き)を選択している場合、そのカットパスが2回出力されます。1回の罫引きで筋がつかない場合にオンにします。

◆ CG-FXIIPlus



- [オートカット]
  オンにすると、カット終了後、自動的にメディアを裁断します。

[最大データ長 +] ：ジョブの終端から裁断する位置までの長さを設定します。

[コピー、連続トンボを行ごとにカットする] ：オンにすると、コピー配置されているジョブを1行印刷するごとに裁断します。

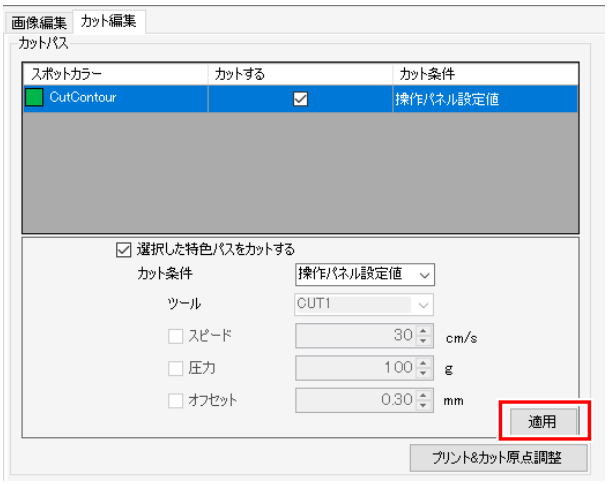
- カット終了後のヘッド退避
  カット終了後のヘッド位置を設定します。基準の位置([最大カット長]または[現在の原点]から選択)から見た位置を設定します。[シート送り方向の原点を更新する]をオンにすると、ヘッド退避後の位置を原点に設定します。同じシートで連続出力する場合にオンにすることで、前回カット位置に重ねてカットするミスを防ぐことができます。



- [通常印刷]で2部以上コピーを設定し、かつ[個別トンボ]を選択している場合
  [カット終了後のヘッド退避]のオプションは無効となり、[カット終了後のヘッド退避]は行われません。

8 [適用]をクリックします。

- 設定が適用されます。



9 [実行]メニューを選択して、プリント＆カットを実行します。



- 詳しくは、☞「実行」（P. 129）をご覧ください。

重要！

- 複数の画像（ジョブ）を連続してカットすることはできません。
  連続でカットする場合はIDカットをお使いください。
- RasterLink8からカット出力する時は、必ず現在カット中の画像（ジョブ）のカットが終わった後にカット出力してください。
  カット完了前に次のカットジョブを出力すると正常にカットできません。

● プリント＆カット原点調整（CJV300, CJV150, CJV300 Plus, UCJV300, CJV330, UCJV330）

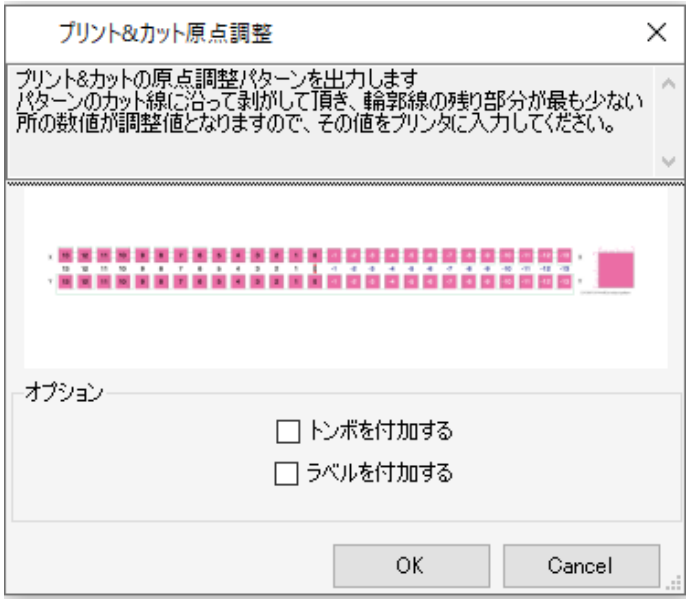
調整パターンをプリント＆カットし、プリントとカットの原点を調整します。

1 [ジョブ一覧]タブでジョブを選択します。

2 [印刷条件]画面で、プリント＆カットの原点調整を実行したい印刷条件に設定します。

3 **[通常印刷] - [カット編集]タブで、[プリント＆カット原点調整]をクリックします。**

- [プリント＆カット原点調整]ダイアログが表示されます。



4 **トンボとラベルを設定します。**

- [トンボを付加する]オンにすると、トンボを付加して印刷します。
- [ラベルを付加する]オンにすると、調整パターンの左上に解像度、パス数、波形の情報を付加して印刷します。

5 **[OK]をクリックします。**

- 調整パターンのプリント＆カットが開始されます。

6 **プリント＆カットした調整パターンを確認し、プリンターの入力画面でXとYの調整値を入力します。**

重要!
- プリント＆カット原点調整後に解像度、パスを変更した場合、もう一度プリント＆カット原点調整を実行する必要があります。
- 調整パターンのプリント＆カット完了後、プリント＆カット原点調整用のジョブはジョブ一覧から自動で削除されます。
- 調整パターンのプリント＆カット中にデータクリアを実行した、またはエラーが発生した場合は、プリント＆カット原点調整用のジョブは自動で削除されません。
  このときは、ジョブを手動で削除してください。

3.2.2 Twinロール印刷

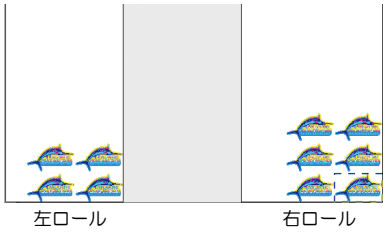
Twinロール印刷 - 機能

SJI-320UV、UJV55-320で、一度に2本のロールメディアをセットして印刷します。

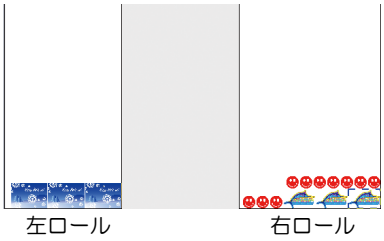
- RasterLink8では、一度に2本のロールメディアをセットして印刷することをTwinロール印刷と言います。

以下の3種類の方法でTwinロール印刷を行うことができます。

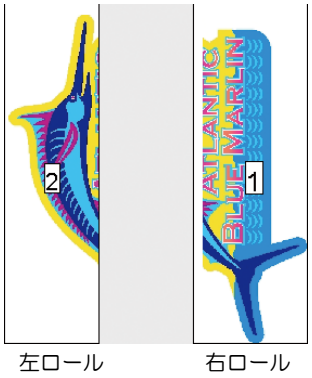
- ジョブをコピーして2本のロールに印刷する（操作について☞「ジョブをコピーして2本のロールに印刷する」（P. 280））



- 複数のジョブを面付けして2本のロールに印刷する（操作について☞「複数のジョブを面付けして2本のロールに印刷する」（P. 282））



- ジョブを分割して2本のロールに印刷する（操作について☞「ジョブを分割して2本のロールに印刷する」（P. 283））



● 条件

機種

SIJ-320UV、UJV55-320に、2本のロールメディアをセットした後、プリンターステータスを取得できる場合のみTwinロール印刷を行うことができます。

ジョブ

以下の条件のジョブは、Twinロール印刷を行うことができません。

- [ステップ&リピート印刷]が有効になっているジョブ

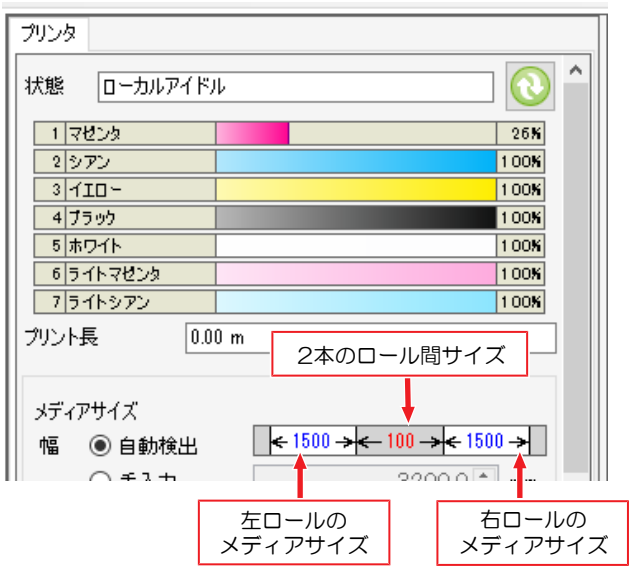
トンボ

以下の設定のジョブはTwinロール印刷を行う際に、トンボを印刷できません。

- [通常印刷]でコピーを設定し、かつ[個々に移動する]を選択しているとき
- [通常印刷]で、[FOTOBAマークを印刷する]チェックボックスをオンにしているとき
- [面付け]が設定されているとき

Twinロール印刷 - 画面構成

プリンターステータスの取得状況は、[プリンタ]タブで確認できます。



Twinロール印刷 - 操作

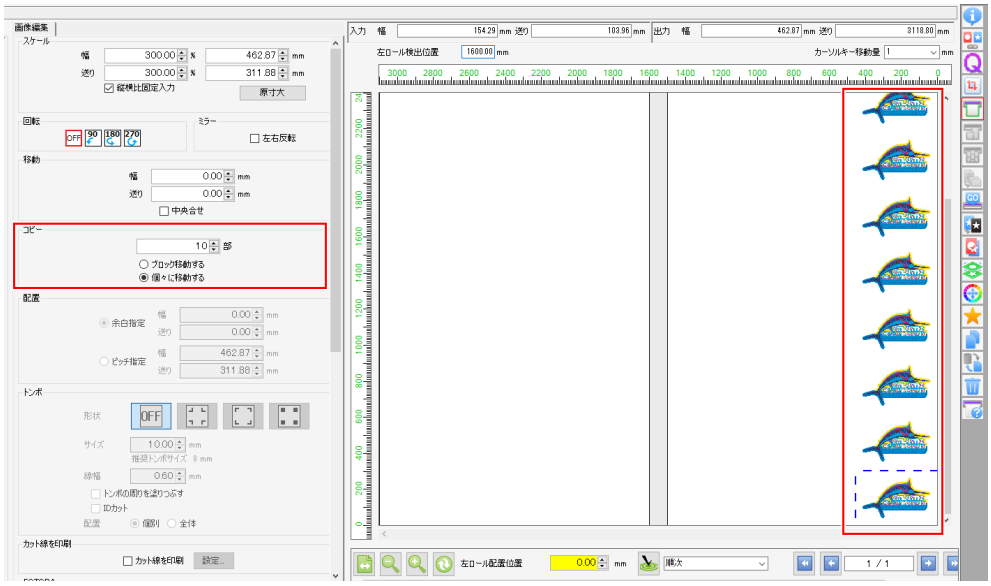
● ジョブをコピーして2本のロールに印刷する

1 [ジョブ一覧]タブで、ジョブを1つ選択します。

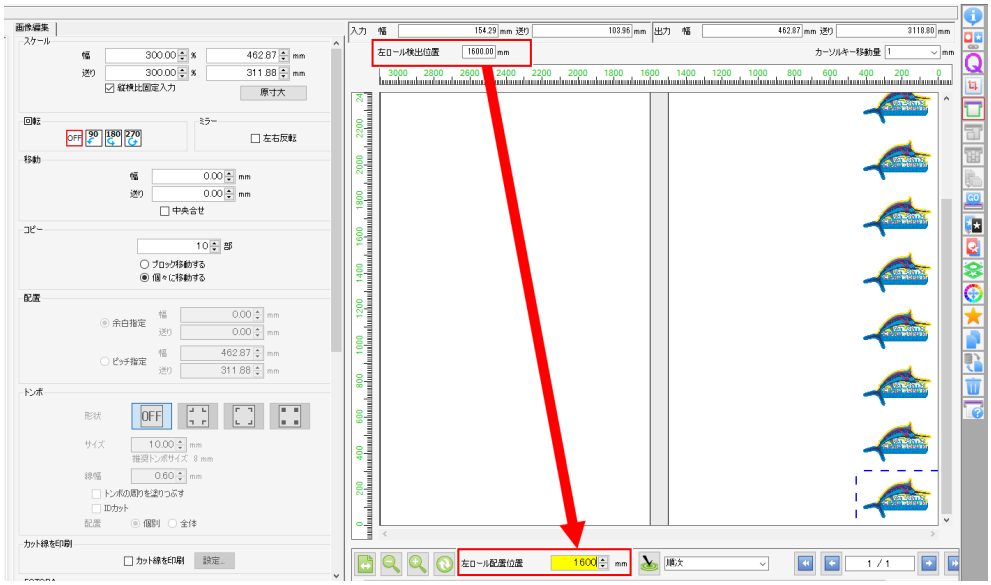
2 [通常印刷]を選択します。

3 [画像編集]タブの[コピー]で、コピー数を設定します。

- 右ロールにコピーされたジョブが配置されます。



4 [左ロール検出位置]を参照して、左ロールの印刷原点を[左ロール配置位置]に入力します。



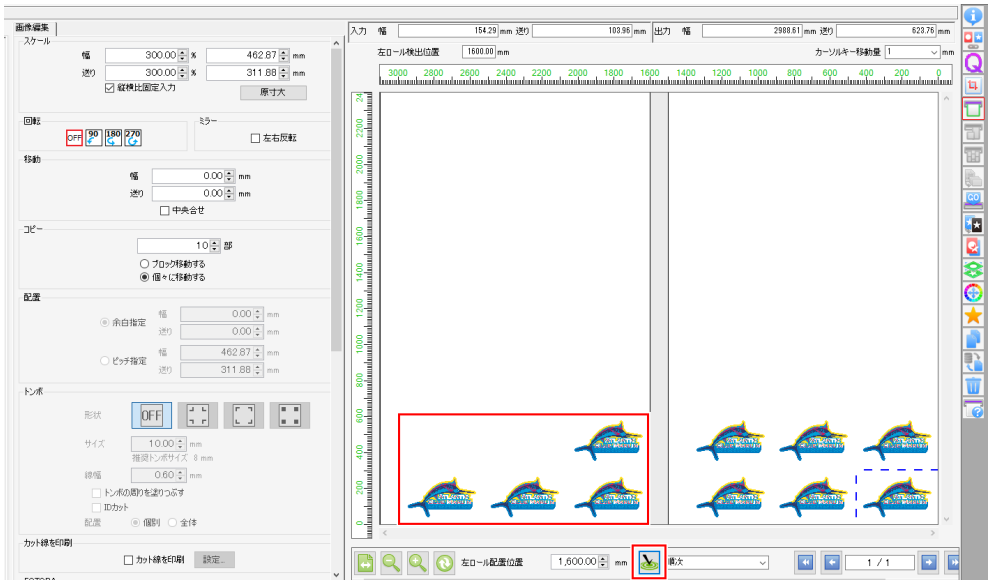
重要！
- [左ロール配置位置]には、[左ロール検出位置]に表示されている以上の数値を入力してください。

5 []アイコンをクリックします。

6 [画像編集]タブの[コピー]で、[個々に移動する]が選択されていることを確認します。

7 []アイコンをクリックします。

- 左ロールにコピーされたジョブが配置されます。



8 [実行]から、印刷を実行します。

- 詳しくは、☞「実行」（P. 129）をご覧ください。

● 複数のジョブを面付けして2本のロールに印刷する

1 [ジョブ一覧]タブで、複数のジョブを選択します。

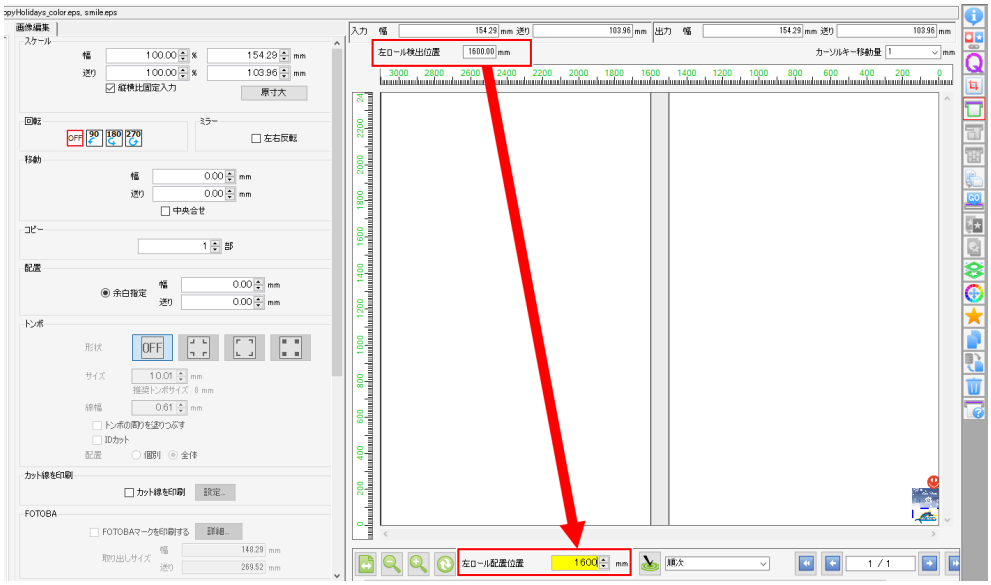
2 [面付け]を選択します。

3 [面付け]をクリックします。

- 複数のジョブが面付けされます
  詳しくは、「面付け」（P. 52）をご覧ください。

4 [通常印刷]を選択します。

5 [左ロール検出位置]を参照して、左ロールの印刷原点を[左ロール配置位置]に入力します。



重要！
- [左ロール配置位置]には、[左ロール検出位置]に表示されている以上の数値を入力してください。

6 []アイコンをクリックします。

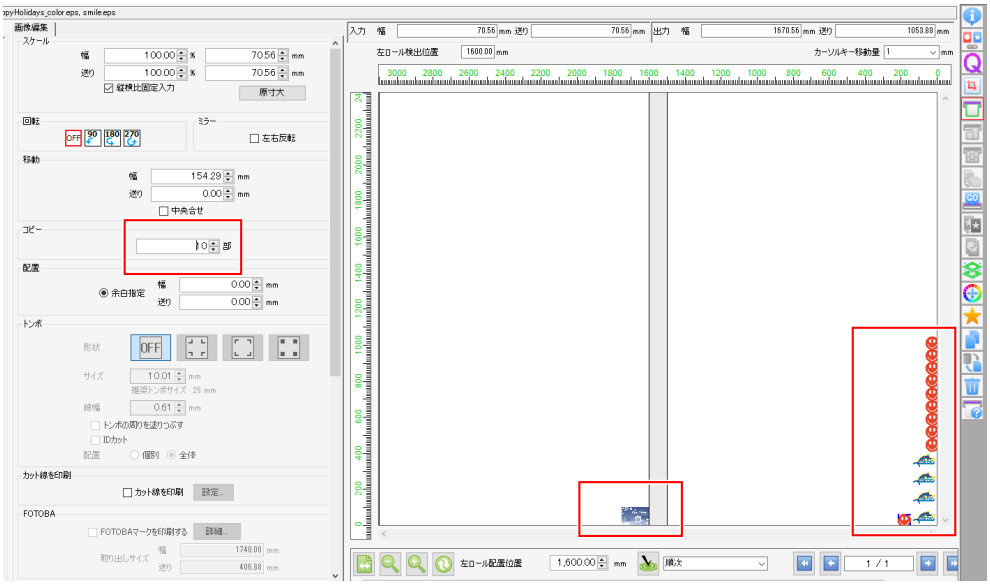
- ジョブ一覧の奇数番目のジョブが右ロールに、偶数番目のジョブが左ロールに配置されます。



7 [ジョブ一覧]タブで、コピーしたいジョブを選択します。

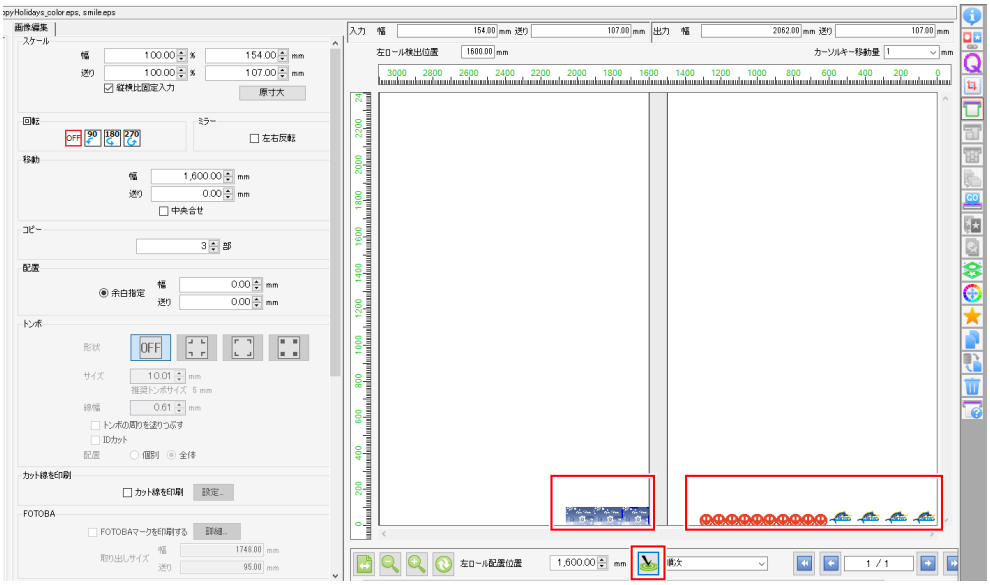
8 [画像編集]タブの[コピー]で、コピー数を設定します。

- 左右のロールにコピーされたジョブが配置されます。
- この時点では、ジョブが重なって配置されます。



9 []アイコンをクリックします。

- ジョブの重なりが解消されます。



10 [実行]から、印刷を実行します。

- 詳しくは、☞「実行」（P. 129）をご覧ください。

● ジョブを分割して2本のロールに印刷する

1 [ジョブ一覧]タブで、ジョブを1つ選択します。

2 [分割印刷]を選択します。

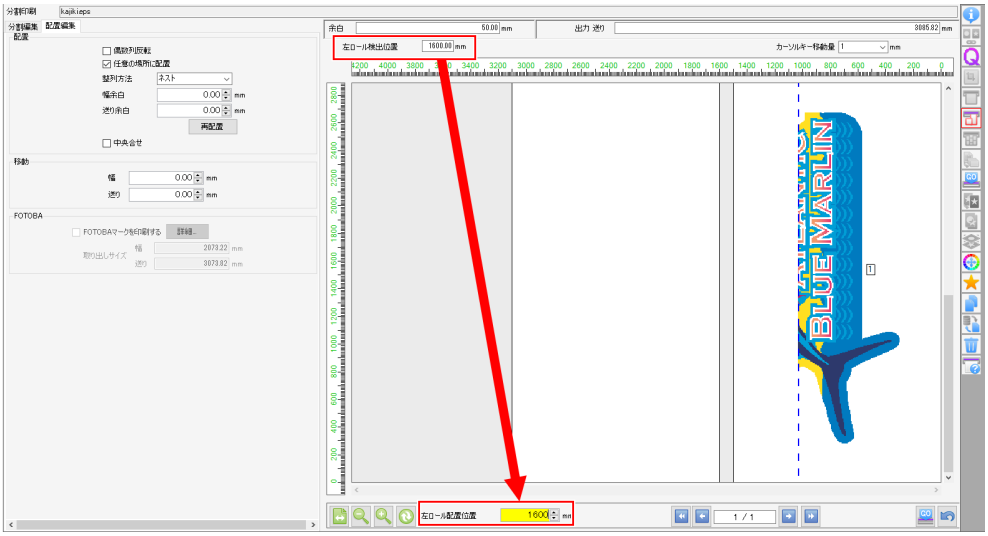
3 [分割編集]タブで、[タイリング編集]チェックボックスをオンにします。



4 [配置編集]タブで、[任意の場所に配置]チェックボックスをオンにし、[整列方法]リストから[ネスト]を選択します。



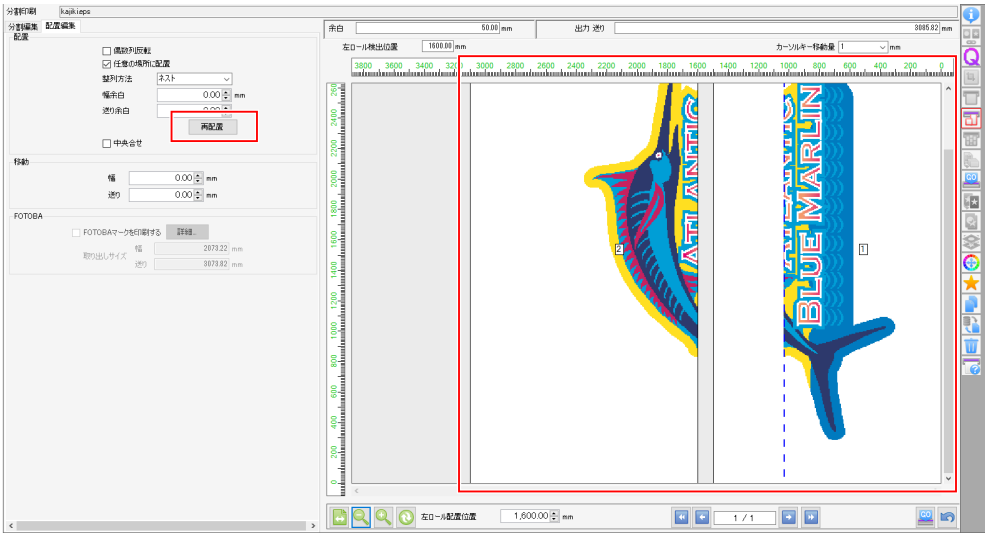
5 [左ロール検出位置]を参照して、左ロールの印刷原点を[左ロール配置位置]に入力します。



重要! • [左ロール配置位置]には、[左ロール検出位置]に表示されている以上の数値を入力してください。

6 [再配置]をクリックします。

- ジョブ一覧の奇数番目のタイルが右ロールに、偶数番目のタイルが左ロールに配置されます。



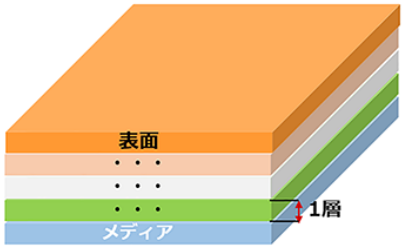
7 [実行]から、印刷を実行します。

- 詳しくは、「実行」（P. 129）をご覧ください。

3.2.3 多層印刷

多層印刷 - 機能

UVインクの特長を活かし、印刷層を複数層に重ねて印刷する機能です。
1層だけでは表現できなかった新しい印刷が可能になります。



※最高5層までをサポート

● 条件

対象機種：UCJV300, UCJV330

● 4層印刷 - Day&Night

ジョブを4層に重ねて印刷します。
光を裏側から当てたときと当てないときで、異なる見え方を表現することができます。



メディアの裏側から光を当てると背景のジョブが透けて表面に現れます。

● 5層印刷

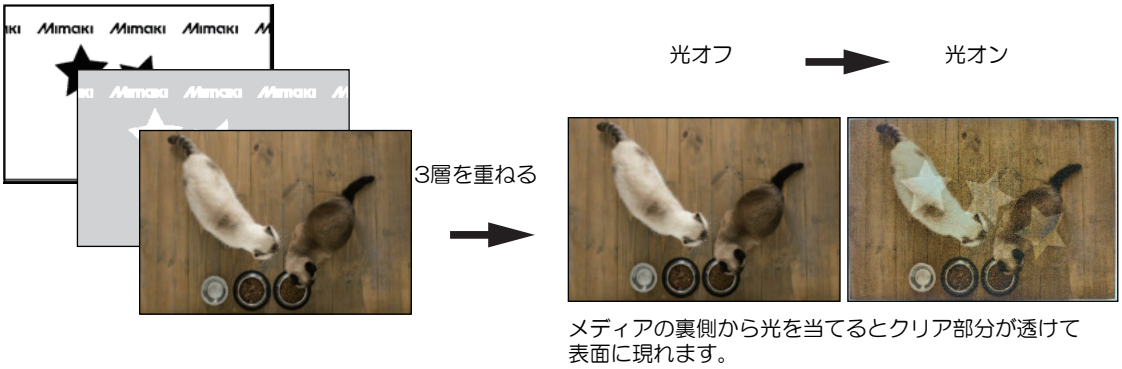
ジョブを5層に重ねて印刷します。
1枚のメディアの表と裏で異なる見え方を表現することができます。



表と裏で異なる見え方を表現することができます。

● 3層印刷 - 透かし印刷(UCJV330)

ジョブを3層に重ねて印刷します。
「カラー版＋ホワイトインク版＋クリアインク版」の3層を重ねて印刷することで、絵の裏側から光を当てた際、クリアインクの印刷領域が透けて表に見えるような表現（以下「透かし印刷」と言います）が行えます。



メディアの裏側から光を当てるとクリア部分が透けて表面に現れます。

多層印刷の詳細については、各対象プリンターの「多層印刷ガイド」をご覧ください。

3.2.4 点字印刷

点字印刷 - 機能

作成した点字データ部分にRasterLinkToolsでスポットカラーを設定するだけで、簡単に点字を印刷できる機能です。

印刷回数の設定をせずに、カラー版ジョブに重ねて点字が印刷できます。

点字印刷の詳細については、別冊「点字印刷ガイド」をご覧ください。

第 4 章　便利な機能



この章では...

知っていると便利な機能について説明します。

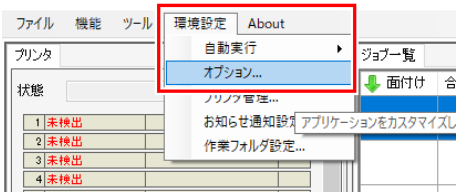
ジョブ名検索 290
　ジョブ名の検索機能を表示する..... 290
　ジョブを検索する 291
　バーコードリーダーで検索する..... 292
FAQページリンク 294
　プリンターのFAQページを表示する 294
環境バックアップ・リストア.....296

4.1 ジョブ名検索

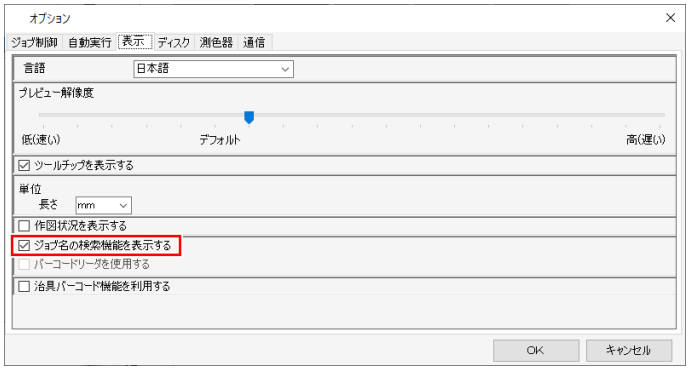
目的のジョブを名前で検索することができます。
登録ジョブ数が多くなったときに便利です。

4.1.1 ジョブ名の検索機能を表示する

1 [環境設定] - [オプション] - [表示]タブを選択します。

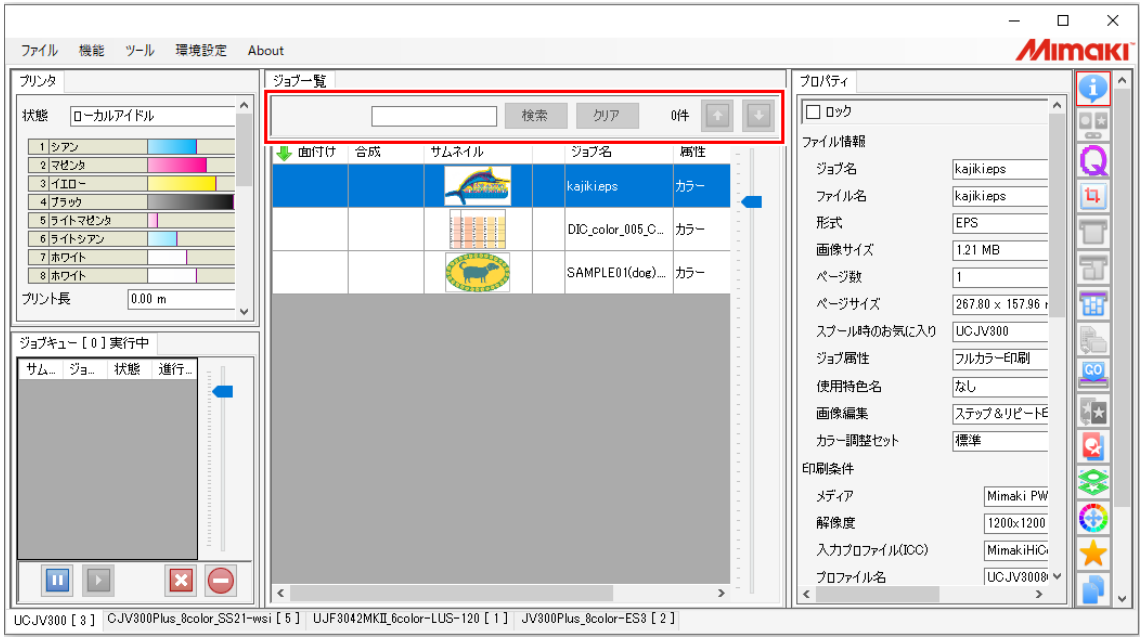


2 [ジョブ名の検索機能を表示する]チェックボックスをオンにします。



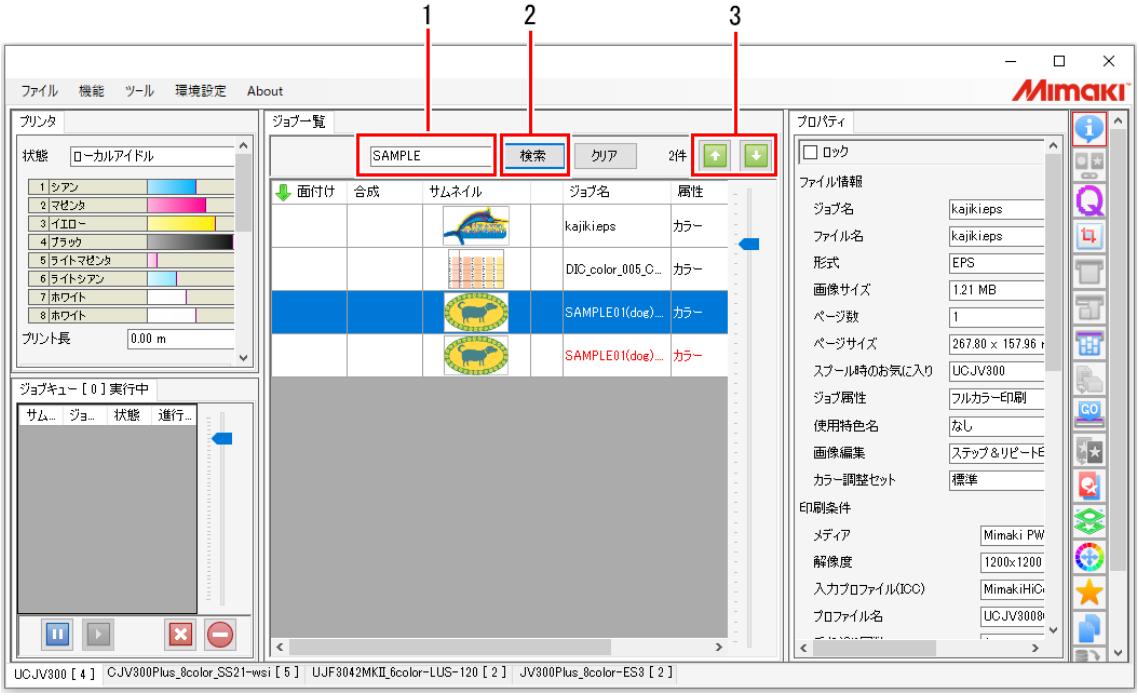
3 RasterLink8を再起動します。

- ジョブ名検索が表示されます。



4.1.2 ジョブを検索する

ジョブを名前で検索します。



1 ジョブ名入力欄に、検索したいジョブの名前の一部を入力します。

- 前方一致検索、大文字、小文字を区別して検索します。

2 [検索]をクリックします。

- 検索条件に一致するジョブ名が赤字に変わります。
- 検索条件と一致しないジョブ名は黒字で表示され、選択できなくなります。
- [クリア]をクリックすると、検索が解除されます。

3 [ ]アイコンをクリックして、目的のジョブを選択します。

4.1.3 バーコードリーダーで検索する

ジョブの検索条件をバーコードリーダーで読み取り、検索します。

重要! 対応しているバーコードリーダーの仕様は以下の通りです。

- COM/RS232Cインターフェイスを備えていること。
- 1次元バーコードを読み取ることができること。
- キーボード終端文字に"ENTER"コードを設定できること。
- 推奨製品：株式会社アイテックス　ITL-3000/3000Plus
- バーコード種別：CODE39またはCODE128

日本語などの2バイト文字を使用する場合は、QRコードおよびQRコードを読み取れるバーコードリーダーが必要になります。

重要! • 本機能がオンになっているRasterLink6PlusとRasterLink8を同時に起動していると、本機能が動かないことがあります。
この場合、RasterLink6Plusを終了するか、RasterLink6Plusで本機能をオフにしてください。

1 PCにバーコードリーダーを接続します。

重要! • バーコードリーダーを接続する前に、RasterLink8がインストールされているPCにバーコードリーダーのドライバーをインストールしておいてください。

2 ジョブの検索条件をバーコード化します。

- バーコード変換ソフトを使用してください。



3 作成したバーコードを作業指示書などに印刷します。

4 RasterLink8で、[環境設定] - [オプション] - [表示]タブを選択します。



5 [バーコードリーダを使用する]チェックボックスをオンにします。

6 [シリアルポート]から接続されているバーコードリーダーを選択します。

7 [OK]をクリックします。

8 バーコードリーダーでバーコードを読み取ります。

- RasterLink8でジョブが検索されます。



4.2 FAQページリンク

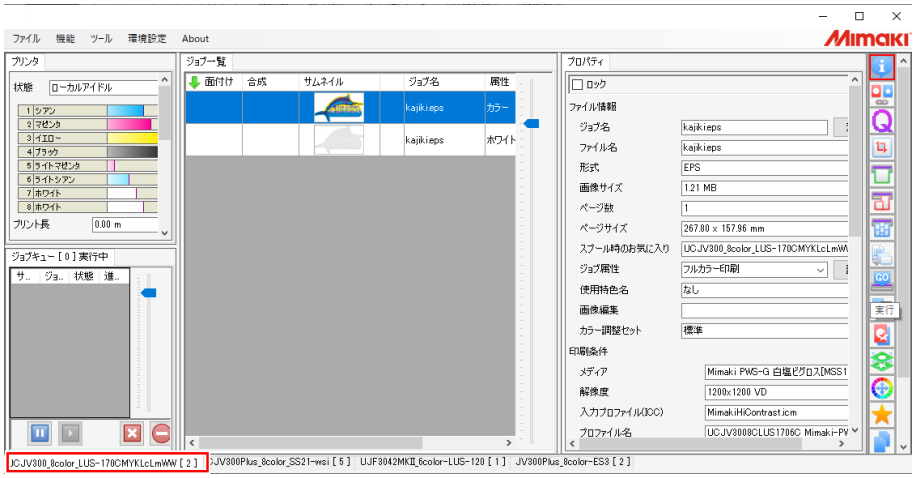
RasterLink8の使用中にわからないことがある場合、FAQページで確認することができます。

- FAQとは、Frequently Asked Questionsの略語で、よくある質問とその回答を集めたものを言います。

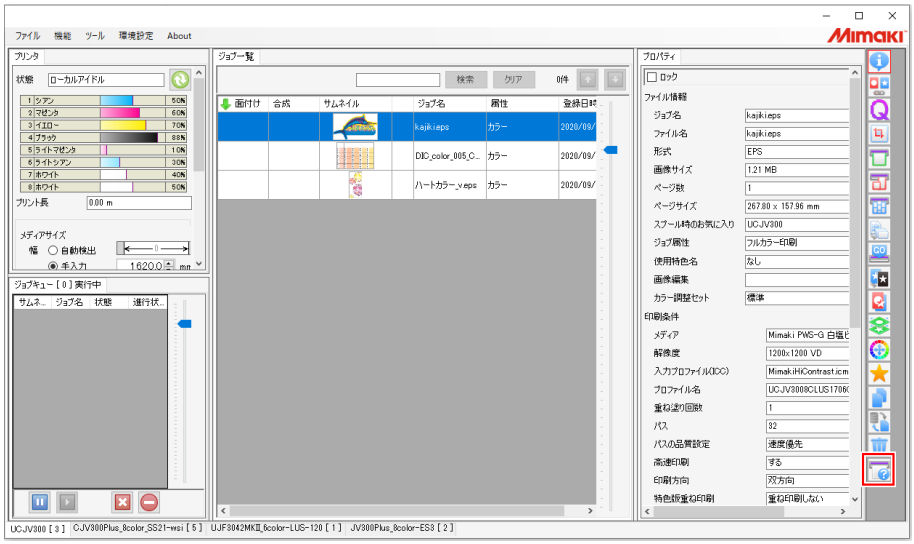
4.2.1 プリンターのFAQページを表示する

プリンターの使用中にわからないことがある場合、プリンターの[ ]アイコンをクリックすると、WEBブラウザーで各プリンターの「よくあるご質問」ページが表示されます。

1 画面のプリンター切り替えで、プリンターを選択します。



2 [ ]アイコンをクリックします。

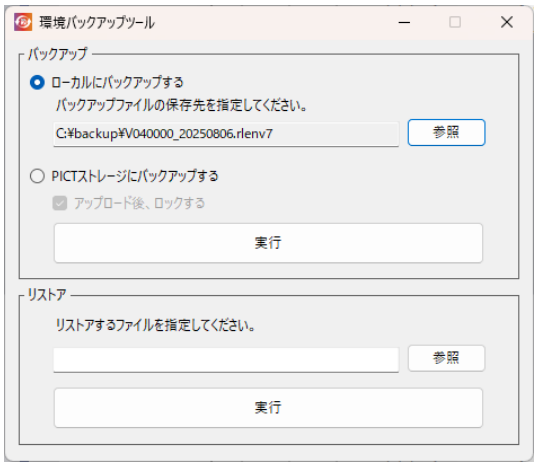


- 選択中のプリンターの「よくあるご質問」がWEBブラウザーで表示されます。



4.3 環境バックアップ・リストア

RasterLink8の以下の設定を1つのファイルにバックアップし、他の環境にリストアすることができます。



● バックアップ・リストアされる設定の一覧

- 登録されているデバイス情報
- お気に入り
- プリンター／ホットフォルダー情報
- すべてのプリセットファイル
- カラー調整
- カラーマッチング
- デバイス調整
- 作図領域
- 治具配置
- プロファイル
- デバイスプロファイル
- 入力プロファイル
- キャリブレーションツールで作成したキャリブレーション情報
- RasterLink8のオプション情報

重要! 本機能ではジョブのバックアップ・リストアは行われません。

- ジョブのバックアップを行う場合は、RasterLink8のバックアップ機能（☞ P. 187）を使用してください。
- ジョブのリストアを行う方法はリストア先によって異なります。

(1) 同じ機種にリストアする場合
→ RasterLink8のリストア機能（☞ P. 187）を使用してください。

(2) 後継機種にリストアする場合
→ ジョブ移行ツールを使用してください。

- ジョブ移行ツールではRasterLink6PlusのバックアップジョブファイルをRasterLink8に移行することもできます。
- ツールの詳細については別冊「ジョブ移行ツールガイド」をご覧ください。

● バックアップ

1 **RasterLink8本体、プロファイルマネージャーが起動している場合はこれらを終了します。**

2 スタートメニューから**[Mimaki RasterLink8] - [環境バックアップ]**をクリックします。

- [環境バックアップツール]ダイアログが表示されます。

3 保存先を選択します。



[ローカルにバックアップする]の場合

- 環境バックアップファイルの保存先となるファイル名を指定します。
- [参照]をクリックすると、[名前を付けて保存]ダイアログが表示されます。

重要! 環境バックアップファイルについて

- ファイルの拡張子は「*.rlenv8」です。
- ファイルは十分な空き容量があるディスクに保存してください。

- RasterLink7の環境バックアップをリストアすることも可能です。

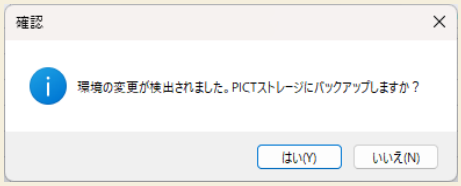
[PICTストレージにバックアップする]の場合

重要! PICTストレージについて

- PICTストレージに保存できる環境バックアップファイルには上限があります。
  上限を超える場合、保存日付の古いファイルを自動で削除し、新しい環境バックアップファイルを保存します。
- [アップロード後、ロックする]を選択すると、上限を超えた場合に削除対象から除外することができます。

- RasterLink8終了時に、本節の冒頭に記載の☞ バックアップ・リストアされる設定の一覧のいずれかの設定変更が検出されると、PICTストレージにバックアップするか確認するメッセージダイアログが表示されます。
  ダイアログは以下の順で表示されます。

(1) バックアップをするかどうかの確認

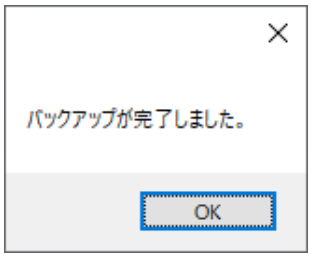


(2) ロックをするかどうかの確認



4 [実行]をクリックします。

- バックアップが終了すると以下のメッセージ画面が表示され、バックアップファイルが保存されます。



● リストア

重要! リストアする前に必ずお読みください。

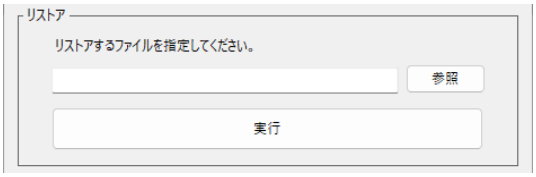
- **すでにリストア先にデバイスが登録されている場合、すべてのデバイスおよびジョブが削除された後、バックアップファイルの内容がリストアされます。**
  リストア先にある既存のデータが必要な場合、リストアする前に環境バックアップツールおよびRasterLink8のバックアップ機能でジョブのバックアップを作成してください。

1 **RasterLink8本体、プロファイルマネージャーが起動している場合はこれらを終了します。**

2 **スタートメニューから[Mimaki RasterLink8] - [環境バックアップ]をクリックします。**

- [環境バックアップツール]ダイアログが表示されます。

3 **環境バックアップファイルを選択します。**

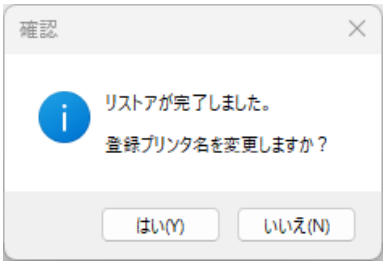


- [参照]をクリックすると、[リストアファイルパス]ダイアログが表示されます。
- リストアする環境バックアップファイルを選択し、[開く]をクリックします。

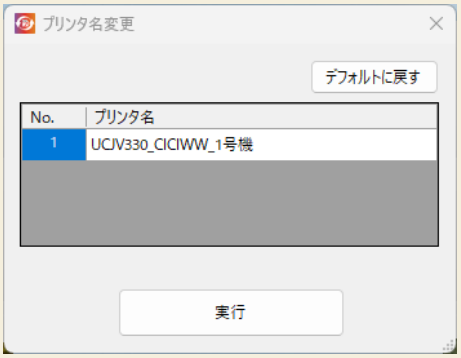
- サブスクプランを購入している場合、PICTストレージから環境バックアップファイルをダウンロードし、リストアファイルパスとして指定するとこれをリストアすることができます。

4 [実行]をクリックします。

- リストアの進捗ダイアログが表示されます。
- リストアが終了すると以下のメッセージが表示されます。



- 上記のダイアログで[はい]を選択すると、[プリンタ名変更]ダイアログが表示され、プリンター名を変更することができます。
  [デフォルトに戻す]をクリックすると元のプリンター名に戻ります。



- RasterLink8を起動し、環境がリストアされていることを確認してください。

第 5 章　こんなときには



この章では...

トラブルが起きたときの解消方法や、やり方がわからないときの操作方法などを説明します。

エラーメッセージの対処方法.....304

インストールPCについて.....312

ツールを使用する際、インターネットに接続できない..... 312

RasterLink8の画面表示で不具合が発生する..... 312

RasterLink8が起動しない 312

デザインソフトでの注意事項.....313

Adobe Illustratorについて..... 313

Macintoshについて.....324

ホットフォルダーを使用する際の注意事項..... 324

デザインソフトから印刷する場合の読込速度改善方法.....324

その他.....325

グラデーションオブジェクトを含む画像のRIP速度改善方法 325

クリア、プライマー搭載プリンターで印刷がスジ状になる場合の改善方法 326

合成はできるが出力できない 326

蛍光インクで滲みが発生する場合の改善方法.....326

5.1 エラーメッセージの対処方法

エラーメッセージ	表示条件（原因）	対処方法
実行モジュールをロードできませんでした。［実行モジュール名］	RasterLink8の実行に必要なファイルが破損しています。	RasterLink8を再インストールしてください。
プロファイル情報を取得できませんでした。	起動時に、データベースファイル（Profile\Profile.mdb）から、プリンター属性情報、インストール済みプロファイル情報を取得できませんでした。	プロファイルデータベースファイルが破損している可能性があります。RasterLink8を再インストールしてください。
RGB入力プロファイルを最低1つはインストールしてください。	ProfileManagerでRGB入力プロファイルを全てアンインストールされた状態でRasterLink8を起動しました。	ProfileManagerでRGB入力プロファイルをインストールしてください。
CMYK入力プロファイルを最低1つはインストールしてください。	ProfileManagerでCMYK入力プロファイルを全てアンインストールされた状態でRasterLink8を起動しました。	ProfileManagerでCMYK入力プロファイルをインストールしてください。
フルカラーデバイスプロファイルを最低1つはインストールしてください。 [プリンタ名:インクセット名]	[プリンタ管理]でプリンターを追加する際、指定された[インクセット]用のデバイスプロファイルが一つもインストールされていないため、プリンターを登録できませんでした。	ProfileManagerで、指定プリンター、指定インクセットのデバイスプロファイルをインストールしてください。
	プリンター登録後、プリンター登録時の[インクセット]用のデバイスプロファイルがProfileMangerですべて削除された状態でRasterLink8を起動しました。	
データベースにインクセット情報が定義されていません。 [インクセット識別名]	[プリンタ管理]でプリンターを追加する際、[モデル]および[カラー]の指定誤りにより、インクセット情報を判断できませんでした。	[プリンタ管理]でプリンター追加時に、[モデル]および[カラー]のリストから、実際に接続しているプリンターと一致するものを選択してください。
お気に入り[お気に入り名]に設定されたデバイスプロファイルが見つかりません。お気に入りを初期化しました。お気に入りの設定を確認してください。	お気に入りに関連付けられているデバイスプロファイルをProfileManagerで削除した状態でRasterLink8を起動しました。	RasterLink8が自動的に[お気に入り設定]のデバイスプロファイル指定を更新しました。お気に入り設定を見直してください。
ジョブ[ジョブ名]に設定されたデバイスプロファイルが見つかりません。ジョブの設定を初期化しました。印刷条件を確認してください。	ジョブに関連付けられているデバイスプロファイルをProfileManagerで削除した状態でRasterLink8を起動しました。	RasterLink8が自動的にジョブのデバイスプロファイル指定を更新しました。印刷条件を見直してください。
接続可能プリンタが指定されていません。	[プリンタ管理]で、プリンターと接続していない状態でプリンター登録しようとしました。	プリンターとの接続状態を確認してください。

エラーメッセージ	表示条件（原因）	対処方法
そのプリンタ名は既に使用されています。	[プリンタ管理]で複数のプリンターを登録する際に、既に登録済みの[プリンタ名]を指定しました。	[プリンタ管理]で登録されていな[プリンタ名]、[コントロールパネル] - [ハードウェアとサウンド] - [デバイスとプリンター]に登録されていない[プリンタ名]を入力してください。
その接続可能プリンタは、既に他のプリンタ (プリンタ名) に関連付けられています。	[プリンタ管理]で複数のプリンターを登録する際に、既に登録済のプリンターで指定されている[接続可能プリンタ]を指定しました。	1台のプリンターに対して、[プリンタ管理]で複数のプリンターを登録することはできません。
プリンタのインク構成が変更されています。プリンタを登録し直してください。	プリンターのインクセットや装着インクを変更した後で、[プリンタ管理]-[プロパティ]で[OK]をクリックしました。	登録済みのプリンターに対して、後で[インクセット]情報を変更できません。[プリンタ管理]で旧登録プリンターを削除後、新規にプリンターを追加してください。
複数のプリンタで[マシンメイショウ]が重複しています。プリンタの操作パネルで、ユニークな[マシンメイショウ]を設定してください。	[プリンタ管理]で複数のプリンタを登録する際に、既に登録済のプリンターと[マシン メイショウ]が一致していたため、プリンターを登録できませんでした。	USB2.0で2台以上のプリンターを接続する場合は、それぞれのプリンターの操作パネルでユニークな[マシンメイショウ]を設定してください。
Print Spoolerを停止できませんでした。 Print Spoolerを開始できませんでした。	ホットフォルダーを作成または削除する時、WindowsのPrint Spoolerサービスを停止または開始できませんでした。	WindowsのPrint Spoolerサービスを停止、開始できない状態です。ウイルス対策ソフトでサービスプログラムの停止、開始がブロックされている可能性があります。ウイルス対策ソフトを一時的にアンインストールするか、ウイルス検出機能を一時的に無効化してください。
プリンタドライバを作成できません。[プリンタドライバ名] プリンタを作成できません。[プリンタ名] プリンタドライバを削除できません。[プリンタドライバ名] プリンタを削除できません。[プリンタ名]	ホットフォルダーを作成または削除するときに、ホットフォルダーに対応するプリンタードライバーを作成または削除できませんでした。	他社製プリンターが影響している可能性があります。[コントロールパネル] - [ハードウェアとサウンド] - [デバイスとプリンター]で、他社製プリンターを削除してください。
	RasterLink8をアンインストールするときに、プリンタードライバーを削除できませんでした。	RasterLink8アンインストール時に本エラーが発生した場合は、PC再起動後に[コントロールパネル] - [ハードウェアとサウンド] - [デバイスとプリンター]で、RasterLink8が作成したプリンターを削除してください。
ファイル名に禁則文字が含まれています。 ファイル名を変更してください。	ファイル名に問題があるため、読み込みができませんでした。	句読点や括弧等の禁則文字を取り除いてください。

エラーメッセージ	表示条件（原因）	対処方法
ファイル名が長すぎます。	[ファイル]-[開く]メニューまたはドラッグ＆ドロップでファイルを読み込むとき、対象ファイルのフルパスが長く、ファイルにアクセスできませんでした。	Windowsで扱えるファイルのパスは255byteまでです。特にネットワークドライブではパス名が長くなりがちです。いったんローカルハードディスクやUSBメモリーにコピーしてからRasterLink8に読み込ませてください。
ジョブの最大登録数[***]を超えました。これ以上ジョブを登録できません。不要なジョブを削除してください。	[ファイル]-[開く]またはドラッグアンドドロップでファイルを読み込むとき、登録可能なジョブ数の上限値(***ジョブ)に達しました。	不要なジョブを削除してください。
ファイル形式を判断できません。	サポートしていない形式のファイルを読み込みました。	アプリケーションの[ファイル]-[印刷]メニューからプリンタードライバー出力してください。
画像サイズ情報を取得できません。	読み込んだファイルの画像サイズ（用紙サイズ）が判断できませんでした。	アプリケーションの[ファイル]-[印刷]メニューからプリンタードライバー出力してください。
ファイルを移動できません。[移動元]⇒[移動先]	クライアントPCからホットフォルダーにファイルをコピーしたときに発生する場合があります。	クライアントPCがコピーしたファイルを解放しないために発生する現象です。クライアントPCを再起動してください。
PostScriptエラー	ファイル読み込み時、またはRIP処理時に、RIPコアがエラーを検出したため。	アプリケーションの[ファイル]-[印刷]メニューからプリンタードライバー出力してください。
		[VMerror]、[limitcheck]が発生する場合は、入力画像データが複雑すぎます。ベクターオブジェクトをラスタライズするなどして、データを単純化してください。グラデーションオブジェクトを含む場合は、[コンパチブルグラデーション]を[OFF]に、グラデーションメッシュを含む場合は、[グラデーションメッシュプリント]を[ON]にして試してください。
		ハイパー・ジョブ・スレッディングをレベル3以上に設定している場合はRIP処理中のメモリ使用量が増加したことが原因でエラーになっている可能性があります。設定をレベル2以下に下げてお試しください。
		PDFファイル読み込み時に[invalidaccess]が発生する場合は、PDFファイルがパスワードで保護されています。PDFファイルのパスワード保護を解除してPDFファイルを保存し直してください。

エラーメッセージ	表示条件（原因）	対処方法
メモリが極端に不足しているため操作を続行できません。	利用可能なメモリーが極端に少ない状態になりました。	RasterLink8を再起動してください。
		[環境設定]-[オプション]-[表示]-[プレビュー解像度]を下げてください。
メディア幅が0のためレイアウトプレビューは表示できません。[プリンタステータス]-[メディア]でメディア幅を確認してください。	プリンターにメディアが装着されていない、または[メディアサイズ]が[手入力：0mm]設定されている状態で、レイアウトプレビュー画面に切り替えました。	プリンターにメディアを装着し、プリンターステータスを再取得してください。
		[メディア幅]を入力する場合は、有効なサイズを指定してください。
ジョブが作図範囲外に配置されています。	ジョブが作図範囲から完全にはみ出されて配置されています。	ジョブを作図範囲内に配置してください。
ジョブが作図範囲からはみだして配置されています。	ジョブの一部が作図範囲から食み出されて配置されています。食み出した領域は印刷されません。	はみ出しに問題がある場合は、ジョブが作図範囲に完全に収まるように配置してください。
印刷タイルが指定されていません。	[分割印刷]画面で、印刷対象のタイルが1つも設定されていません。	[分割編集]-[印刷タイル]で、タイルを1つ以上設定してください。
上端のタイルが小さすぎます。 左端のタイルが小さすぎます。 サイズの小さすぎるタイルが存在します。	[分割印刷]画面で、分割サイズが最小値を下回るタイルが存在しています。	分割サイズが1inch（25.4mm）より大きくなるように分割設定を見直してください。
重ね代より小さいタイルが存在します。	[分割印刷]画面で、分割サイズが重ね代サイズを下回るタイルが存在しているため。	分割サイズが重ね代より大きくなるように設定してください。
選択ジョブの解像度が異なります。	[面付け]画面で、解像度、ドットタイプ（ND/VD）の異なる複数のジョブを面付けしようとしました。	[印刷条件]画面で、面付け対象のジョブの解像度、ドットタイプを一致させてください。
選択ジョブの多層印刷タイプが異なります。	[面付け]画面で、多層印刷タイプが異なる複数のジョブを面付けしようとしました。	[レイヤー]画面で、面付け対象のジョブの多層印刷タイプを一致させてください。
選択ジョブの印刷条件が異なります。 面付けすると、[先頭のジョブ名]の印刷条件に合わせられます。 よろしいですか?	[面付け]画面で、面付け可能な複数のジョブを面付けしようとしたが、面付けすると印刷条件が変更されます。	印刷条件を変更したくない場合は[いいえ]を選択してください。
面付/合成ジョブの一部を削除できません。一部を削除する場合は、面付/合成を解除してから削除を実行してください。	[削除]画面で、面付けされた複数のジョブのうちの一部のジョブ、または合成された複数のジョブのうちの一部のジョブを削除しようとしました。	面付けまたは合成を解除してからジョブを削除してください。
RIP コアが予期せず終了しました。[PREVIEW]	ファイルの読込み時にエラーが発生しました。	再度、ファイルを読込んでください。

エラーメッセージ	表示条件（原因）	対処方法
RIP コアが予期せず終了しました。RasterLink8 を再起動してください。[RIP]	RIP 処理中にエラーが発生しました。	RasterLink8を再起動してください。
USB2:ポートが開けません（W）。 <エラー詳細> USB2:ポートが開けません（U）。<エラー詳細>	プリンターと接続できません。	プリンターの電源が入っていること、プリンターとPCがUSB2.0ケーブル接続されていることを確認してください。
USB2：プリンタで[データクリア]機能が実行されました。	作図中に、操作パネルの[DATACLEAR]をクリックしました。	データクリアにより印刷は中断されました。続きから印刷することはできません。再印刷が必要な場合は、最初から印刷実行してください。
	作図中に、メディアエンドを検出しました。	以下の方法を実施してください。 (1)3m以下のUSBケーブルを使用する (2)USBハブを使用する (3)USBのインターフェイスを増設して使用する
	プリンタに作図データ転送中のUSBの通信状態が不良の場合、勝手にデータクリアされることがあります。	
DRV：出力中にエラーが発生しました(W)。<エラー詳細> DRV：出力中にエラーが発生しました(O)。<エラー詳細>	プリンタに作図データ転送中にUSBの通信障害が発生しました。	以下のような非推奨環境での使用により発生しやすい現象です。 • intel純正Chipset搭載PCを使用していない。 • USBケーブルをリピータケーブルで延長している。 • USBケーブルの品質が悪い(別売のミマキ推奨ケーブルの使用を推奨します)。
		推奨環境で使用している場合は、以下の方法を実施してください。 (1)3m以下のUSBケーブルを使用する (2)USBハブを使用する (3)USBのインターフェイスを増設して使用する
USB2：Hi-Speedモードで接続できません。PCのUSBポート、使用しているUSBケーブルやUSBハブがUSB2.0規格に準拠しているか確認してください。	プリンターとのUSB接続において、USB2.0のHi-Speedモードで接続できませんでした。	USB2.0接続環境を確認してください。
プリンタステータスからインク消費量計算に必要な情報を取得できません。	プリンターと接続していない状態で、RIPを実行しました。ミマキ製プリンターの一部製品では、インク消費量の計算にプリンター接続が必要になります。	プリンターとの接続状態を確認してください。
		インク消費量を計算する必要がない場合は、[環境設定]-[オプション]-[ジョブ制御]で[インク消費量を算出する]をオフにしてください。

エラーメッセージ	表示条件（原因）	対処方法
メディア幅が0のため印刷できません。	プリンターにメディアが装着されていない、または[メディアサイズ]が[手入力：0mm]に設定されている状態で、印刷を実行しました。	プリンターにメディアを装着し、プリンターステータスを再取得してください。 [メディア幅]を入力する場合は、有効なサイズを設定してください。
プリンタステータスから多層印刷に必要な情報が取得できません。プリンタとの接続状態を確認してください。	プリンターと接続していない状態で、3層印刷ジョブのRIPを実行しました。	プリンターとの接続状態を確認してください。
ファイルを読込むことができません。ファイルが破損しているか、またはファイル形式が正しくありません。	RIP処理時に、入力ファイルの異常を検出しました。	入力ファイルを再作成してください。 アルファチャネルTIFFファイルを読込んだ時もこのエラーが発生します。アルファチャネルを除去してください。
リストア可能なプリンタ（プリンタモデル名）が登録されていません。	[バックアップ]画面でバックアップジョブファイルを復元する時に、バックアップしたジョブのプリンターと同一のプリンターを登録していないため、ジョブをリストアできませんでした。	[プリンタ管理]で、バックアップしたジョブのプリンターと同一条件のプリンターを追加してください。
新しいバージョンのRasterLink8でバックアップされているため復元できません。RasterLink8を[バージョン番号]以上にバージョンアップしてください。	[バックアップ]画面でバックアップジョブファイルを復元するときに、インストールされているRasterLink8より新しいバージョンのRasterLink8でバックアップしたジョブをリストアしようとしました。	新しいバージョンのRasterLink8で作成したバックアップジョブファイルを、古いバージョンのRasterLink8でリストアすることはできません。 まず、RasterLink8を指定のバージョン以降にバージョンアップしてください。
プロファイルがインストールされていないためジョブを復元できません。RasterLink8を終了し、ProfileManagerで以下のプロファイルをインストールした後、再度ジョブをリストアしてください。	[バックアップ]画面でバックアップジョブファイルを復元する時に、バックアップジョブが使用しているプロファイルをインストールしていないので、ジョブをリストアできませんでした。	メッセージに従い、RasterLink8終了後にProfileManagerで指定のプロファイルをインストールしてください。
作業ドライブ（ドライブ名）の空き容量が設定値（##GB）を下回っています。 不要なジョブまたはRIP済データを削除してください。	HDDの空き容量が、設定値（[環境設定]-[オプション]-[ディスク]-[確保するディスク残量]）を下回りました。	不要なジョブを削除してハードディスクの残量を確保してください。
待機中でないジョブに対しては操作できません。	実行中のジョブに対して、実行完了前にもう一度実行設定しました。	ジョブの実行が完了するまでお待ちください。
ロックされているジョブに対しては操作できません。	ロックされているジョブに対して、属性変更、面付け、版作成、合成、削除のいずれかを操作しました。	[プロパティ]でロックを解除してから操作してください。

エラーメッセージ	表示条件（原因）	対処方法
ロックされているジョブが含まれているため、変更は保存されません。	ロックされているジョブを選択して編集画面を開きました。編集画面での変更は、画面切り替え時に保存されません。	ジョブの設定を変更する場合は、[プロパティ]でロックを解除してください。
現在設定している印刷条件はプロファイルの推奨印刷条件（推奨作図モード）ではありません。このまま印刷を続行すると印刷品質が低下する恐れがあります。	印刷条件(パス数、重ね塗り、印刷方向、高速印刷)がプロファイルの推奨印刷条件でなく、プロファイル内のUV照射値が取得できない場合に表示されます。	• 推奨印刷条件で印刷を行ってください。 • プリンターのUVモードの設定を【ホスト】以外に設定してください。
		[はい]を選択すると印刷を中断します。
		[いいえ]を選択すると印刷が継続し、プリンターUV照射設定で印刷します。
印刷ページ範囲の指定方法が適切ではありません。	ページ指定で、適切でない文字列の指定や、入力ページの上限が総ページを上回って指定をしました。	"-"は2か所で使用しない、"-"","以外の文字は使用しない、入力ページの上限が総ページ数を上回らない、などに注意してページ設定を行ってください。
デバイスプロファイルのカラーセットが異なるジョブは合成できません	カラーセットの異なるジョブを合成しました。カラーセットが異なるジョブの合成はできません。	同じカラーセットのデバイスプロファイルに変更してください。
デバイスプロファイルの異なるジョブを[速度優先]で合成することはできません。 [品質優先]で合成します。	デバイスプロファイルの異なるジョブを[速度優先]で合成することはできません。[品質優先]と同じ条件で合成しました。	[速度優先]と同じ条件で合成する場合には、合成するすべてのジョブに同じプロファイルを適用し、再度[速度優先]で合成してください。
解像度の異なるジョブを[速度優先]で合成することはできません。 [品質優先]で合成します。	解像度の異なるジョブを[速度優先]で合成することはできません。[品質優先]と同じ条件で合成しました。	[速度優先]と同じ条件で合成する場合には、合成するすべてのジョブを同じ解像度に設定し、再度[速度優先]で合成してください。
サーバーがビジー状態の為、データベースに接続できません。ご迷惑をお掛けしますが、時間をおいてから再度実行してください。	サーバーメンテナンス中にライセンス認証を実行しました。	お手数ですが、時間をおいてからもう一度実行してください。
ライセンスの再認証が必要です。	ライセンス認証をしていない可能性があります。	取扱説明書に従い、ライセンス認証を解除したあと再度、ライセンス認証を実行してください。
ライセンス認証した時とPCの構成が異なります。	LANケーブル接続でライセンス認証を行ったが、無線LAN接続でRasterLink8を起動した場合	1. ライセンス認証時の状態に戻してから起動する。 ネットワークの接続方法（LANケーブル接続、無線LAN接続）マザーボードを以前のものに戻す。 2. ライセンス認証解除を実行し、もう一度ライセンス認証後、RasterLink8を起動する。
	無線LAN接続でライセンス認証を行ったが、LANケーブル接続でRasterLink8を起動した場合	
	パソコンの構成を変更したため（マザーボードを交換した等）。	

エラーメッセージ	表示条件（原因）	対処方法
		インターネットに接続していない場合は、代理ライセンス認証解除を行います。
認証中にエラーが発生しました。	以下のネットワーク接続すると、エラーが発生する場合があります。 • PPP接続のネットワークアダプター（例：USB型データ通信端末など） • USB接続のネットワークアダプター（例：USB無線LANアダプターなど）	PPP接続のネットワークアダプター、USB接続のネットワークアダプターは使用せず、LANケーブルで接続し、ライセンス認証を実行してください。
入力したシリアルキーは別のPCで使用されています。	一度認証したシリアルキーを、ライセンス認証解除せずに、再認証した場合、このエラーが発生します。（例えば、すでにライセンス認証済みのPCが存在しており、別のPCにRasterLink8をインストールし、ライセンス認証を実行した場合）	ライセンス認証済みのPCで、ライセンス認証解除を実行し、新しいPCのライセンス認証を実行してください。
オーバーフローエラーが発生しました。	RasterLinkToolsで輪郭抽出する画像サイズが大きすぎる場合に発生します。	輪郭抽出できない場合、画像サイズを小さくしてください。
パラメータファイルの破損により予期せぬ問題が発生しました。 Mimaki RasterLink8を再起動してください。	ジョブファイルの一部が破損しています。	"MijCtrl\Jobs\番号"フォルダー配下の"S01"から始まるフォルダーをすべて削除してください。
	環境情報の設定ファイルが破損しています。	RasterLink8を再インストールしてください。
MimakiDriverが使用できない状態またはインストールされていないためRasterLink8が起動できません。 MimakiDriverがインストールされていない場合はv5.0.0以降をインストールしてください。 インストールされている場合はPCを再起動後、RasterLink8を起動してください。	MimakiDriverが起動していないときに発生します。	以下の方法を上から順にお試しください。 1. MimakiDriverをインストールして再起動する。 2. スタートアップのunitMDC.exeを有効にする。 3. 以下のファイルをダブルクリックして手動で起動する。“C:\Program Files\Mimaki\MimakiDeviceController\unitMDC.exe”

5.2 インストールPCについて

5.2.1 ツールを使用する際、インターネットに接続できない

ファイアーウォール機能が付いたセキュリティソフトウェアをご使用の場合、ライセンス認証、プログラムアップデートやプロファイルアップデートの各ツールのネットワーク（インターネット）への接続を遮断する場合があります。多くのセキュリティソフトウェアでは、そのソフトウェアが初めてネットワークに接続するときに、接続を許可するか確認をします。

ライセンス認証、プログラムアップデート、プロファイルアップデートの初回起動時に接続を許可するかの確認が表示された場合は、必ず許可をしてください。

もし、誤って不許可にしてしまった場合は、お使いのセキュリティソフトウェアのマニュアルをご覧の上、以下のファイルのネットワーク接続を許可してください。

- RasterLink8のインストールドライブ\RsLink8thWeb\Bin\AppWebcLicense.exe
- RasterLink8のインストールドライブ\RsLink8thWeb\Bin\AppWebcNotify.exe
- RasterLink8のインストールドライブ\RsLink8thWeb\Bin\AppWebcProfile.exe
- RasterLink8のインストールドライブ\RsLink8thWeb\Bin\AppWebcProgram.exe

5.2.2 RasterLink8の画面表示で不具合が発生する

RasterLink8の画面表示に、以下のような不具合が発生する場合があります。

- タブを切り替えると、前のタブの表示が一部残ってしまう。
- プレビューが乱れる。
- RasterLink8を長時間起動させると、画面表示がおかしくなり、PCがフリーズする。

このような現象が起こった場合、以下の内容を確認してください。

- グラフィックボードのドライバーを最新バージョンにアップデートする。
  グラフィックボードのドライバーの更新方法については、お使いのPCまたはグラフィックボードのマニュアルをご覧ください。

5.2.3 RasterLink8が起動しない

デスクトップ上のRasterLink8のアイコンをダブルクリックしても、RasterLink8が起動しない場合があります。

このような現象が起こった場合、以下の内容を確認してください。

- Windowsのスタート画面からRasterLink8を起動する。

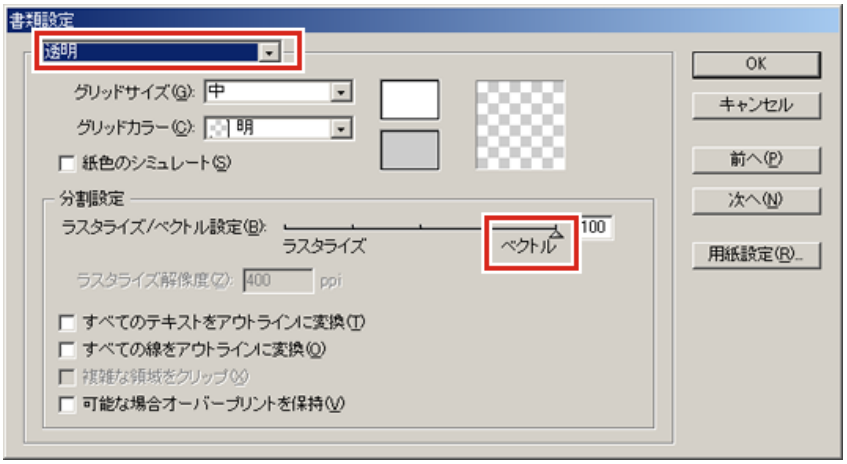
5.3 デザインソフトでの注意事項

5.3.1 Adobe Illustratorについて

透明効果とドロップシャドウ

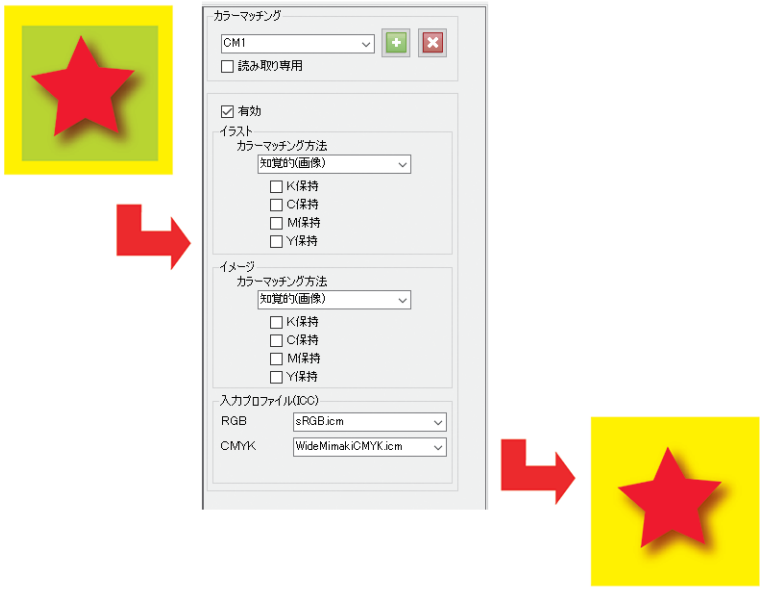
透明効果を適用したデータは、RasterLink8で拡大して印刷した場合、ジャギー（斜め線が階段状になる）が目立つことがあります。

このような現象が起こった場合、Adobe Illustratorの[書類設定]の項目を以下のように設定してください。



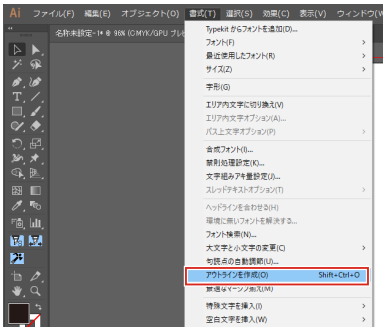
ドロップシャドウコマンドを使用した場合、ドロップシャドウをかけたオブジェクトの周りの色が地の色と異なります。

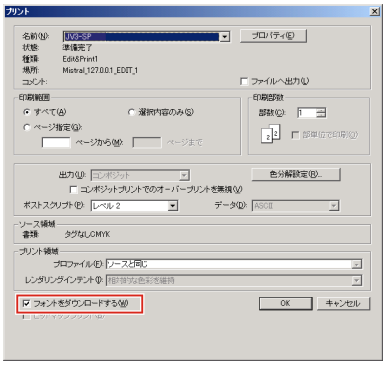
RasterLink8の[イラスト]と[イメージ]の[カラーマッチング方法]を同じ設定にしてください。



文字に不具合が発生する

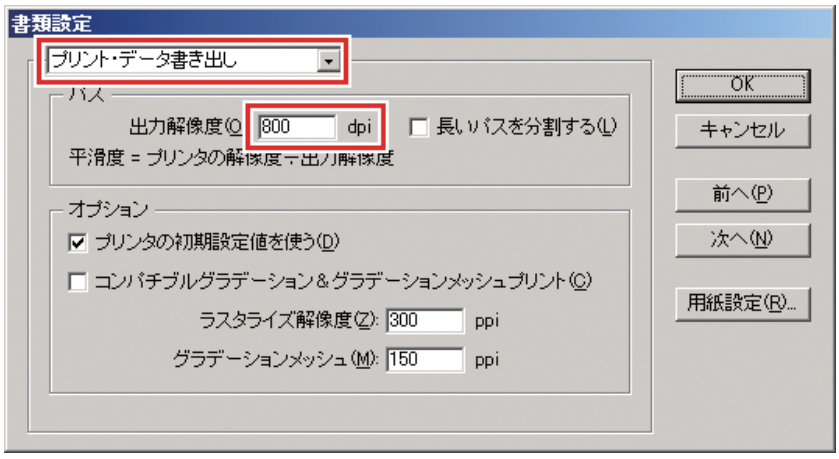
文字が作図できない、斜体になる、文字の周囲のオブジェクトの一部が作図できない場合は、使用しているフォントのアウトラインを作成してください。
プリンタードライバーを使用して印刷する場合は、[フォントをダウンロードする]のチェックボックスをオンにしてください。





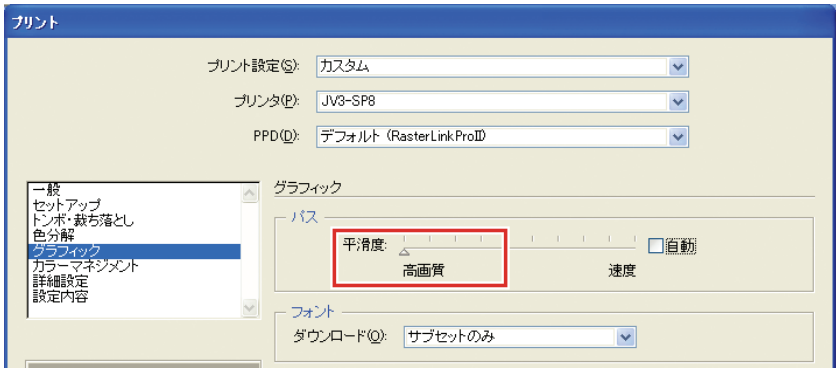
円や文字が多角形になる

Adobe Illustratorのパスの出力解像度が低いか、RasterLink8で設定したスケール値が高すぎる場合、円や文字が多角形になります。（RasterLink8側でスケール値を1000%に設定しているなど）
Adobe Illustratorのパスの出力解像度のデフォルト値は、800dpiです。Adobe Illustratorのパスの出力解像度を上げるか、RasterLink8側でのスケール値を下げてください。



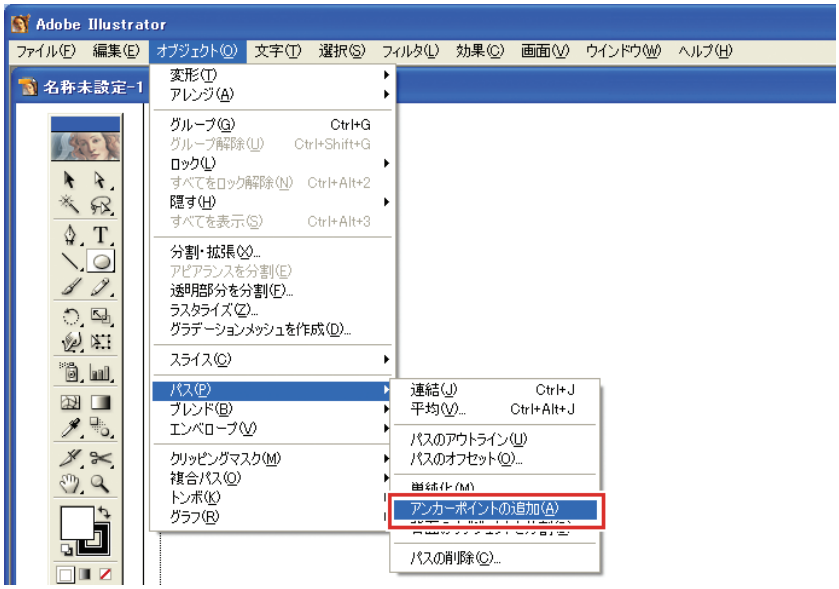
Adobe Illustratorのパスの出力解像度を上げる場合は、次の計算式によって解像度を求めてください。これより大きな値を設定しても効果はありません。

epsファイルに保存する場合、パスの出力解像度の設定項目がありません。Adobe Illustratorからプリンタードライバーを使用して、[グラフィック]の[平滑度]を[高画質]に設定し出力してください。



RasterLink8でスケール値を上げていない場合や、Adobe Illustratorのパスの出力解像度を上げても円や文字が多角形に印刷される場合があります。

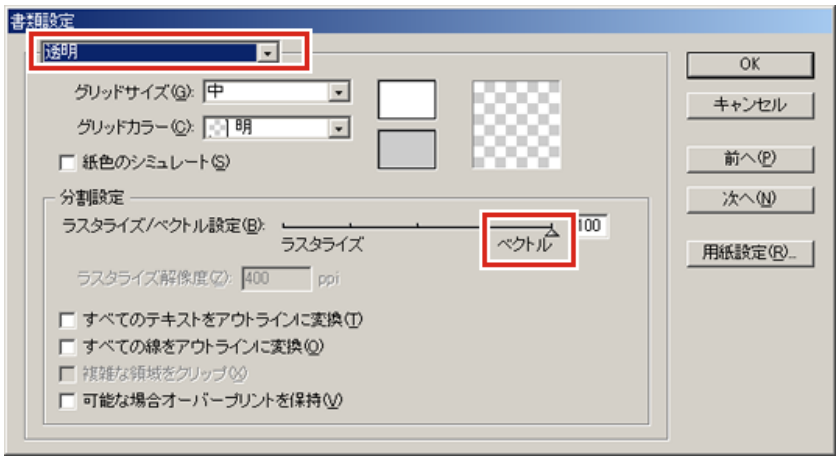
このような現象が起こった場合、Adobe Illustrator上で対象オブジェクトを選択し、[アンカーポイントの追加]を1～3回実行して、1つの曲線分を短くしてください。



透明効果を適用した文字などにジャギーが発生する

RasterLink8側で拡大作図した場合、透明効果を適用した文字などにジャギーが発生することがあります。

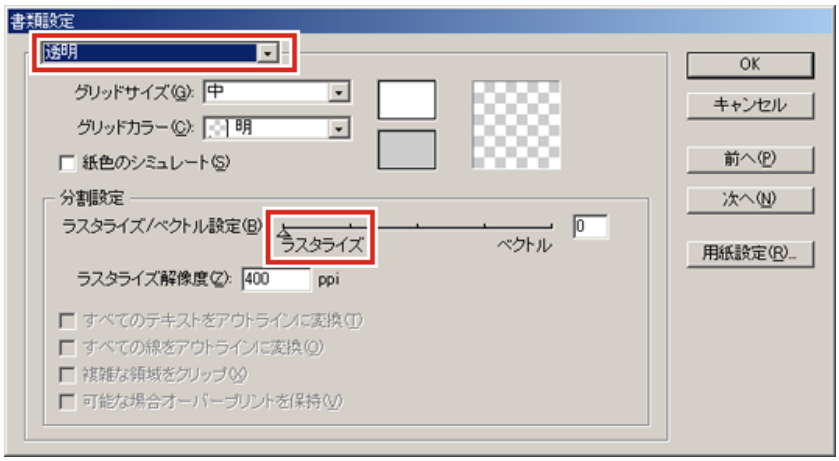
このような現象が起こった場合、Adobe Illustratorの[書類設定]の項目を以下のように設定してください。



作図されない部分があったり、余分な線が作図されたりする

透明効果を適用した複雑なオブジェクトや写真に、作図されない矩形部分があったり、不要な線が作図されたりする場合があります。

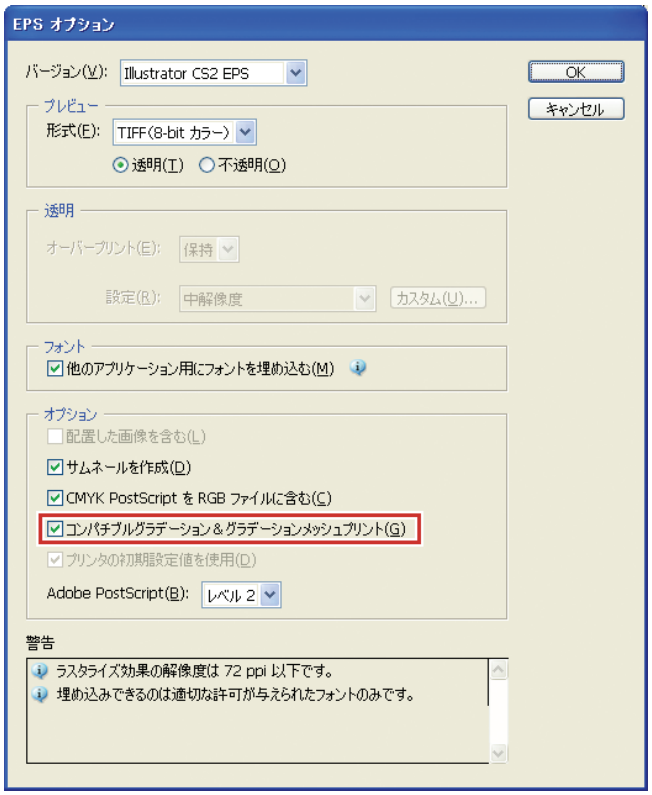
このような現象が起こった場合、Adobe Illustratorの[書類設定]の項目を以下のように設定してください。



グラデーションの印刷の不具合が発生する

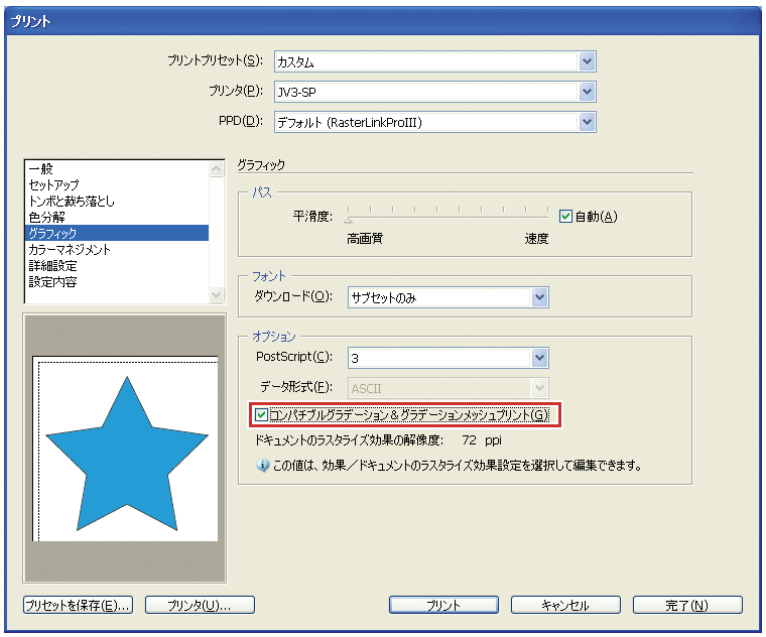
● epsで保存する場合

eps保存時の[EPSオプション]の項目を、以下のように設定してください。



● 印刷する場合

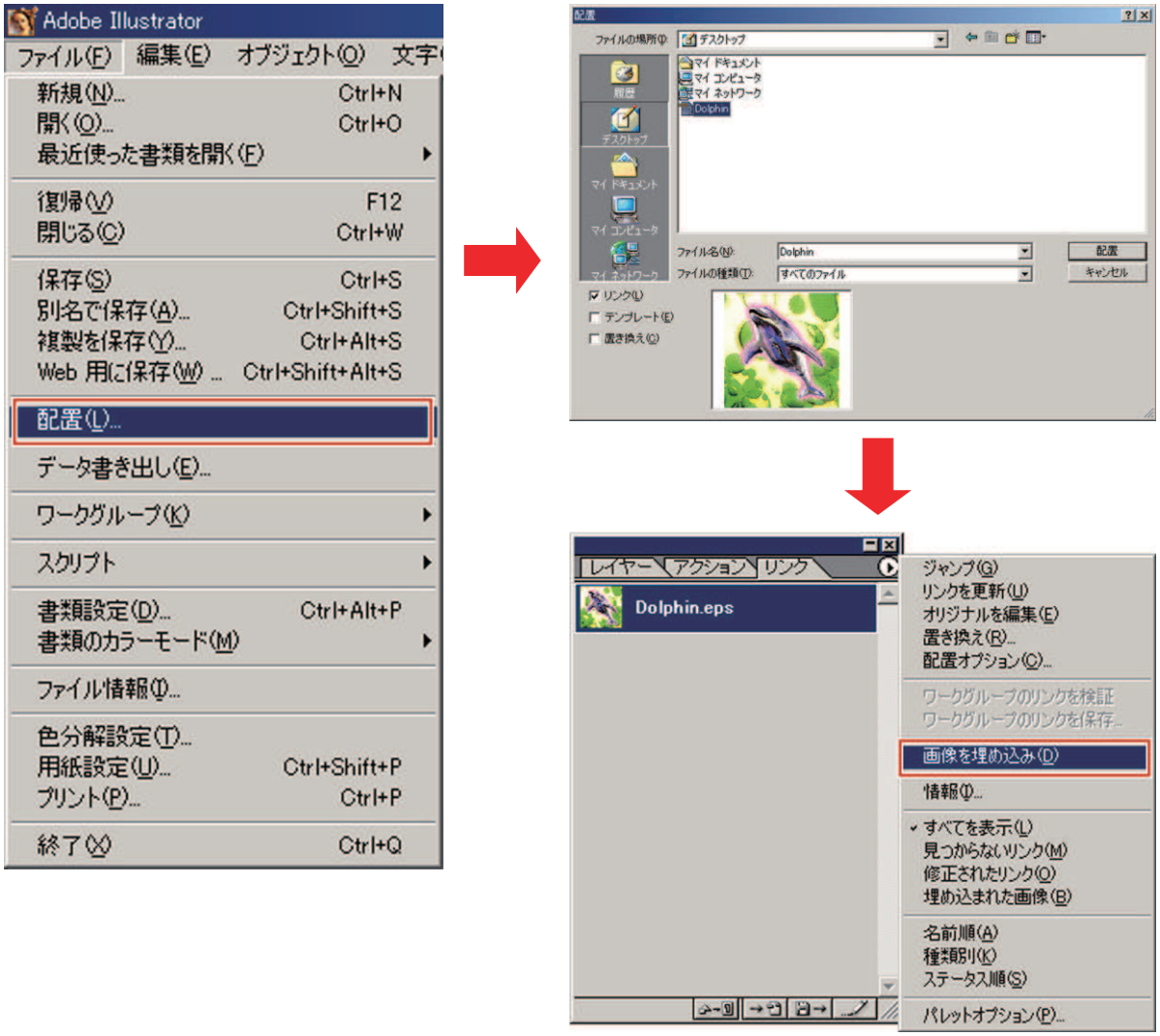
プリンタードライバー出力時の[プリント]の項目を、以下のように設定してください。



重要! ・ グラデーション置換をするデータの場合、[コンパチブルグラデーション＆グラデーションメッシュプリント]のチェックボックスをオンにしないでください。色置換ができなくなります。

配置画像が抜ける、RIPが開始しない

Adobe Illustratorで作成したデータに、配置したリンク画像がある場合、Adobe Illustratorで画像を埋め込んでください。



画像周辺部がかける

周辺部に矩形オブジェクトを細線で配置するような場合、線が細くなったり、全く印刷されなかったりすることがあります。
これは、Adobe Illustratorがeps保存時に、画像全体のサイズを整数のPoint単位に四捨五入してクリップするために発生する現象です。
Adobe Illustratorでは、画像周辺にダミーオブジェクトを配置してeps保存するか、プリンタードライバーの出力で、大きめのPostScriptカスタムページサイズを設定してください。

デザインソフト上の画像サイズと、RasterLink8上の画像サイズが異なる

デザインソフトで作成した画像のサイズと、RasterLink8に表示される画像サイズは完全には一致しません。これにはいくつかの要因があります。

- **PostScript言語における画像サイズの扱い方による制限**

  デザインソフトでは通常、mmやinchの単位でサイズを設定しますが、PostScript言語ではPoint（1/72inch）単位で数値を扱います。
  画像オブジェクトのサイズは実数のPointで扱われますが、epsファイル保存時の全体サイズやプリンタードライバー出力時のPostScriptカスタムページサイズは、最終的に整数のPointに変換されます。このため、最大で1Point（0.353mm）の変換誤差が生じます。

- **線幅の影響**

  Adobe Illustratorの[情報]ウィンドウに表示されるオブジェクトのサイズには、線幅が含まれません。実際のオブジェクトのサイズは線幅を考慮したサイズになります。

- **特定のデザインソフトにおけるサイズ計算方法の影響**

  前述の☞「画像周辺部がかける」（P. 318）のように、デザインソフト独自のサイズ計算方法による影響が発生します。

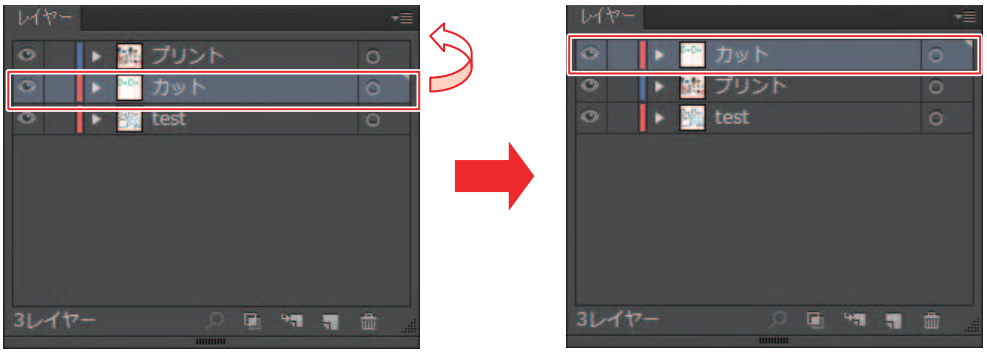
以上の理由によって、原寸出力する場合でも1Point程度の誤差が生ずるため、RasterLink8で拡大・縮小する場合、誤差も大きくなります（1Pointの誤差がある場合、1000%拡大すると誤差が3.5mmになります）。
出力サイズの精度を重視する場合、誤差を小さくするために以下の点に留意してください。

- なるべく原寸出力する
- 拡大・縮小する場合、%で設定する（mmやinchで数値設定しない）

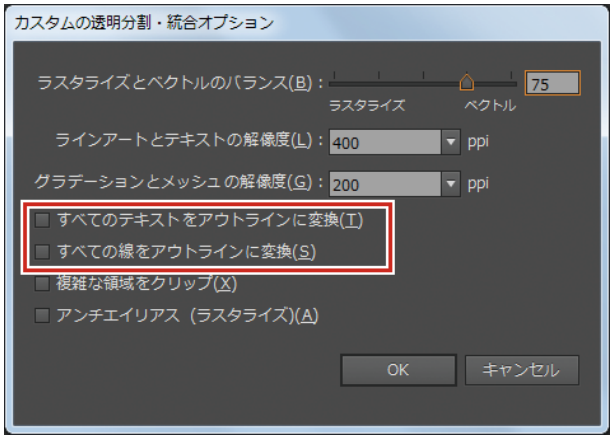
同じ場所を2回カットする、カットパスが認識されない

透明効果を適用したデータは、RasterLink8でプリント＆カットを実行すると、カットデータを2回カットする場合や、カットパスが認識されない場合があります。
この場合、Adobe Illustratorで以下のように設定してください。

1 プリントデータとカットデータを別レイヤーに分け、カットデータのレイヤーを一番上に移動する



2 [ファイル] - [ドキュメント設定] - [紙色のシミュレート] - [カスタム]をクリックし、[すべてのテキストをアウトラインに変換]および[すべての線をアウトラインに変換]のチェックボックスをオフにする



- 本設定は、[オブジェクト] - [透明部分を分割・統合]から設定することもできます。

- 上記手順でも改善されない場合はAdobe Illustrator のファイル保存機能からPDF1.4 以降のPDFフォーマットで保存してください。

パターンオブジェクトがずれて印刷される

Illustratorで作成したパターンオブジェクトを印刷すると、Illustratorの画面表示に対してパターンオブジェクトがずれて印刷されることがあります。
ずれ具合は印刷解像度によって異なります。
またフラットベッドプリンターで距離補正を指定している場合は、補正値によっても異なります。

- Illustratorでの画面表示



- RasterLink8で幅方向距離補正を指定した場合の印刷結果



[印刷条件] - [作図品質] - [RIPコア設定] - [パターンオブジェクトをTilingType:2（歪みなし）でレンダリングする]の設定をオンにしてください。

または、以下の手順でパターンオブジェクトに分割・拡張を設定してください。

1 **Illustratorでパターンオブジェクトを選択します。**

2 **[オブジェクト] - [分割・拡張]を選択します。**



- [分割・拡張]ダイアログが表示されます。

3 [OK]をクリックします。



白色のオブジェクトが印刷されないことがある

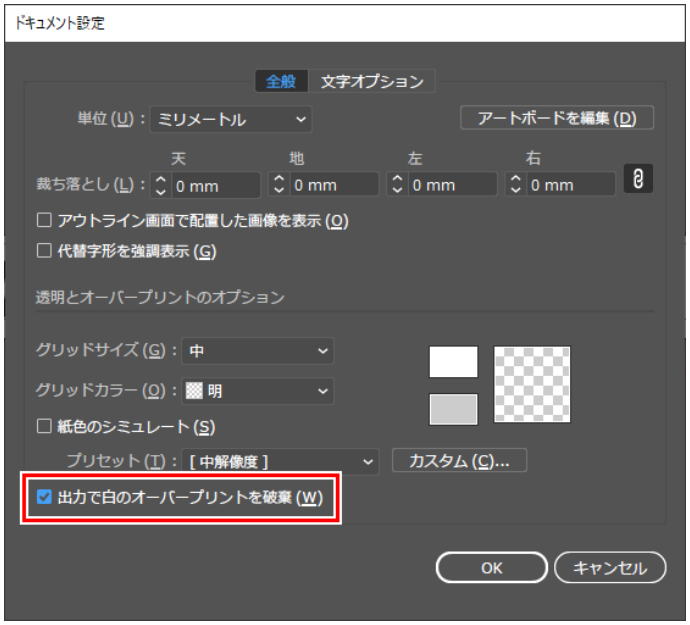
白色のオブジェクトの場合、[属性]パネルで[塗りにオーバープリント]のチェックボックスをオンに設定していると、白色のオブジェクトが印刷されないことがあります。



色　：CMYK（0,0,0,0）
属性：[塗りにオーバープリント]をオン

このような条件の場合、白色のオブジェクトが印刷されないことがある。

その場合は、[ファイル]メニューの[ドキュメント設定]で[出力で白のオーバープリントを破棄]のチェックボックスをオンにしてください。



画像データ読み込み時に自動的に特色に色置換され、意図しない重ね印刷の条件で印刷されることがある

スポットカラーチャンネルを使ったPSD/TIFFデータを埋込み画像として使用した場合、画像データの読み込み時に特色名を誤認識し、特色の色置換が自動で設定されることがあります。

その場合、意図しない重ね印刷の条件で印刷されることがあるため、画像にスポットカラーチャンネルを設定しないようにしてください。

または、スポットカラーチャンネルで使用する特色名のカラーコレクションをオフに設定してください。

5.4 Macintoshについて

5.4.1 ホットフォルダーを使用する際の注意事項

ファイルコピー中のエラー

コピーを中断したファイルは、ほとんどの場合は無視されるか、読み込みエラーになりますが、不完全な状態のファイルが読み込まれ、RasterLink8が誤動作することがあります。できるだけファイルのコピー操作を中断しないでください。

5.4.2 デザインソフトから印刷する場合の読込速度改善方法

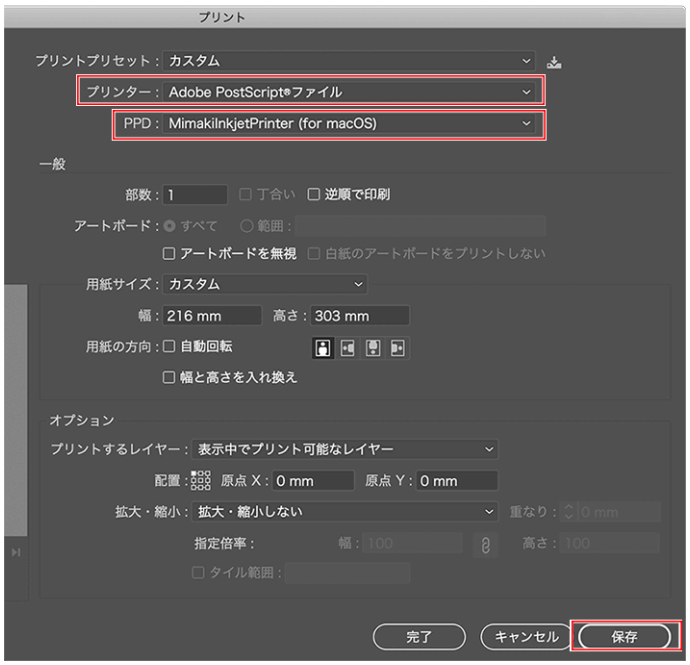
デザインソフトによっては、印刷時に出力先をホットフォルダーに変更することで、読み込み速度が改善されます。以下の方法をお試しください。

以下の手順で、デザインソフトからホットフォルダーに読み込むことができます。
ただし、ファイルによっては読み込めないときがあります。この問題が発生した場合は、[プリント]画面でRasterLink8で登録しているプリンターを[プリンター]に設定してください。

1 デザインソフトから[ファイル] - [プリント]メニューを開きます。

2 [プリンタ]にRasterLink8用のプリンターを設定します。

- [プリンター]で[Adobe PostScript® ファイル]を選択します。
- [PPD]で[MimakiInkjetPrinter (for macOS)]を選択します。



3 [保存]をクリックします。

4 出力先にRasterLink8のホットフォルダーを設定します。

5 [保存]をクリックします。

5.5 その他

5.5.1 グラデーションオブジェクトを含む画像のRIP速度改善方法

画像内に、複雑なグラデーションメッシュオブジェクトや、多くのグラデーションオブジェクトが存在する場合、RIP処理に時間がかかります。このような場合、Adobe Illustratorの設定を変更することでRIP速度を改善できます。
通常は、[コンパチブルグラデーション＆グラデーションメッシュプリント]のチェックボックスをオフにすることをお勧めします。
RIP速度が改善しない場合は、以下の方法をお試しください。

グラデーションメッシュが多用されている、または大きなグラデーションオブジェクトが存在する

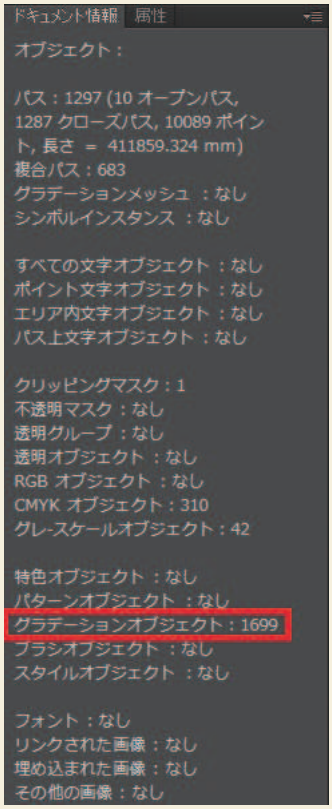
Adobe Illustratorの設定で[コンパチブルグラデーション＆グラデーションメッシュプリント]のチェックボックスをオンにしてください。

塗りや線にグラデーションが多用されている、または大きなグラデーションオブジェクトが存在する

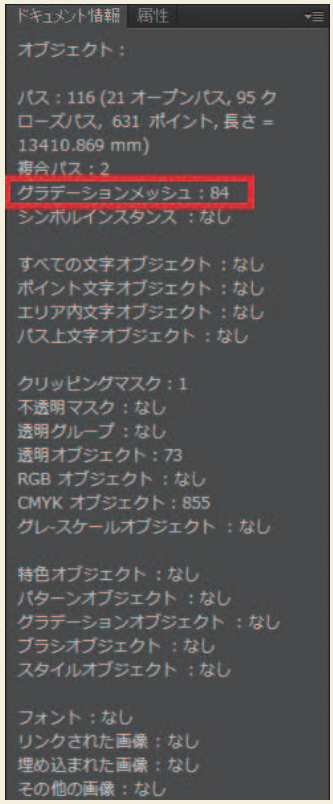
Adobe Illustratorの設定で[コンパチブルグラデーション＆グラデーションメッシュプリント]のチェックボックスをオフにしてください。

- [コンパチブルグラデーション＆グラデーションメッシュプリント]の設定の有無は、グラデーションオブジェクトと、グラデーションメッシュオブジェクトのどちらか一方に対してのみ効果があります。Adobe Illustratorの[ドキュメント情報]ウィンドウで、どちらが多用されているかで設定を変更してください。

グラデーションオブジェクトが多用されている



グラデーションメッシュオブジェクトが多用されている



5.5.2 クリア、プライマー搭載プリンターで印刷がスジ状になる場合の改善方法

クリアまたはプライマーを1本搭載しているプリンターで印刷すると、クリアまたはプライマーがスジ状に印刷されることがあります。

その場合、RasterLink8の印刷条件画面でパス数の値を1段階上げてください。
症状が改善されることがあります。

5.5.3 合成はできるが出力できない

以下の場合、合成は可能ですが出力はできません。出力したい場合は"品質優先"で再合成してから出力してください。

- UJF-6042MkII e CMYKClPWW：カラー → クリア

5.5.4 蛍光インクで滲みが発生する場合の改善方法

印刷条件や画像によっては、蛍光インクと他色の滲みが目立つ場合があります。

滲みが気になる場合は、印刷条件画面でパスの数を上げる、またはカラー調整でインクリミットを下げてください。

第 6 章　付録



この章では...

条件付きの対応表などを記載します。

お使いのプリンターで設定できる印刷条件は？ 328
お使いのカットデバイスで設定できる条件は？ 331
機能アイコンを選択できない場合の条件早見表 332
特殊条件 338
デバイスプロファイルの種類について 339
汎用プロファイル 339
デバイスプロファイルのバージョン 339
v3プロファイルのメディア名の種類について 340

6.1 お使いのプリンターで設定できる印刷条件は？

印刷条件の設定についての機種ごとの対応表です。

該当機種の行で、チェックがついている箇所が対応しています。

● 対応表について

表の設定項目番号は、以下の設定項目に対応しています。

1. スキャン毎の乾燥時間
2. 印刷後乾燥待ち時間
3. 印刷後カットする
4. 印刷前余白／印刷後余白／終端余白Feed
5. ヒーターOFF
6. 吸着ファン
7. 天井ファン
8. プリントピンチローラー圧
9. 作図時間予測
10. カラーパターン印刷
11. 印刷時に使用するヘッドユニット選択（複数ユニット機）
12. ホワイトを高濃度で印刷する
13. ホワイトを推奨濃度で印刷する
14. プライマーを推奨濃度で印刷する
15. クリアを推奨濃度で印刷する
16. 送り方向距離補正
17. 幅方向距離補正
18. 幅方向距離補正（自動補正）
19. エッジ最適化
20. メディア厚み
21. インクセーブ
22. ラミフィット

● 対応表

機種／設定項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
JV100	✔		✔	✔	✔	✔	✔		✔	✔	✔								✔			
UJV100			✔	✔		✔			✔	✔	✔		✔									
TS100	✔		✔	✔		✔	✔		✔	✔	✔											

機種／設定項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
UCJV300			✔	✔		✔		✔	✔	✔			✔									
JV300Plus	✔		✔	✔	✔	✔	✔		✔	✔	✔											
JV300	✔		✔	✔	✔	✔	✔		✔	✔	✔											
JV150	✔		✔	✔	✔	✔			✔	✔												
JV200	✔		✔	✔	✔	✔			✔	✔									✔		✔	
CJV300Plus	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔											
CJV300	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔											
CJV150	✔	✔	✔	✔	✔	✔		✔	✔	✔												
CJV200	✔	✔	✔	✔	✔	✔		✔	✔										✔		✔	
UJF-3042MkII									✔				✔	✔		✔						
UJF-6042MkII									✔				✔	✔		✔						
UJF-7151plus									✔			✔		✔		✔						
UJF-3042MkII e									✔			✔	✔	✔		✔			✔	✔		
UJF-6042MkII e									✔			✔	✔	✔		✔			✔	✔		
UJF-7151plusII									✔			✔	✔	✔		✔			✔	✔		
UJF-7151plusII e									✔			✔	✔	✔		✔			✔	✔	✔	
JFX200-2513									✔					✔		✔	✔					
JFX200-1213EX									✔				✔	✔	✔	✔	✔	✔				
JFX500									✔					✔		✔	✔					
JFX200EX									✔				✔		✔	✔	✔	✔				
JFX600									✔				✔	✔		✔	✔	✔			✔	
JV330	✔		✔	✔	✔	✔	✔		✔	✔	✔								✔		✔	
CJV330	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔								✔		✔	
Tiger600-1800TS									✔													
TS200			✔	✔		✔			✔	✔											✔	
TS330	✔		✔	✔	✔	✔	✔		✔	✔	✔											
TS330-DS	✔			✔	✔	✔			✔	✔	✔										✔	
SWJ-320EA	✔	✔		✔		✔			✔	✔												
SIJ-320UV	✔	✔		✔		✔			✔	✔												
UJV55				✔					✔	✔		✔										

機種／設定項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
TS55	✔	✔		✔	✔	✔			✔	✔												
TxF150	✔		✔	✔	✔	✔			✔	✔			✔						✔			
TxF300	✔		✔	✔	✔	✔			✔	✔			✔						✔			
Tx330	✔	✔		✔	✔	✔	✔		✔	✔	✔										✔	
Tx330-Hybrid	✔	✔		✔	✔	✔	✔		✔	✔											✔	
TxF330	✔			✔	✔	✔			✔	✔			✔						✔		✔	
UCJV330			✔	✔		✔		✔	✔	✔	✔		✔						✔		✔	✔
UJV100Plus			✔	✔		✔			✔	✔	✔		✔						✔		✔	
UJV200			✔	✔	✔	✔			✔				✔						✔		✔	✔
UJV300DTF-75				✔		✔			✔				✔									
UJ330H				✔		✔			✔	✔	✔		✔			✔ *1	✔ *1		✔		✔	✔
UJF200-3042									✔			✔	✔	✔	✔	✔	✔		✔	✔		
UJF200-6042									✔			✔	✔	✔	✔	✔	✔		✔	✔		

*1. リジッド（ボード）素材に印刷する際に使用してください。

6.2 お使いのカットデバイスで設定できる条件は？

カットデバイス毎に設定できる項目などの対応表です。

該当カットデバイスの列で、チェックが付いている項目が対応しています。

条件	条件詳細	CG-ARシリーズ	CG-FX II Plusシリーズ
カット条件	オートカット		✔
	ソート	✔	✔
	シートフィード	✔	✔
	近似タイプ	✔	✔
	印刷後ヘッド退避	✔	✔
	長尺分割カット	✔	
	罫引き2回出力	✔	
出力	中間トンボ対応	✔	
	連続出力		
読み取り可能なトンボ種	タイプ1	✔	✔
	タイプ2	✔	✔
	セイホウケイトンボ		
	ゼロマージントンボ		

6.3 機能アイコンを選択できない場合の条件早見表

機能アイコンを選択できない場合の条件早見表です。

チェックマークがついている設定／条件を有効にしている場合、該当する機能アイコンが選択できません。

アイコンの説明についての詳細は☞ 「機能アイコン一覧」（P. 34）をご覧ください。

● 表1について

左から順に以下の機能をアイコンで表示しています。

1. 印刷グループ
2. 面付け
3. 印刷条件
4. クリップ設定
5. 通常印刷
6. 治具配置印刷
7. 分割印刷
8. ステップ＆リピート印刷
9. 差込印刷
10. 実行
11. 版作成
12. リジッドメディア配置印刷

● 表1

設定／条件	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
トンボ設定						✔	✔	✔	✔*2			
作図領域定義						✔						
分割トンボ		✔		✔		✔	✔	✔			✔	✔
印刷情報ラベル						✔						
トリミング位置ロック		✔				✔	✔	✔				
カット線印刷						✔		✔				
コピー数2以上							✔	✔				
ミラー									✔			

設定／条件	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
PDF/EPS/PS形式以外									✔			
クリップ設定									✔			
合成+コピー数2以上									✔			
傾き補正									✔			
XYスリッター	✔	✔				✔	✔	✔				✔
実行中ジョブ	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔
合成ジョブ							✔	✔			✔	
面付けジョブ	✔						✔	✔			✔	
治具配置印刷ジョブ					✔		✔	✔			✔	✔
分割印刷ジョブ		✔		✔	✔	✔		✔			✔	✔
ステップ&リピートジョブ	✔	✔			✔	✔	✔		✔		✔	✔
プリント&カットジョブ				✔		✔	✔	✔				✔
Kebab印刷ジョブ	✔				✔	✔	✔	✔				✔
RL出力+トンボジョブ		✔		✔		✔	✔	✔	✔			
複数ページジョブ							✔	✔	✔			
カットジョブ							✔		✔		✔	
点字ジョブ（準拠）		✔	✔	✔		✔	✔	✔	✔		✔	
点字ジョブ（高速／標準）		✔	✔	✔			✔	✔	✔		✔	
単色印刷ジョブ(特色)									✔			
グロス調印刷ジョブ[1]												
差込印刷ジョブ				✔			✔	✔				
合成+差込印刷ジョブ												
合成+色置換ジョブ									✔			
2.5D印刷ジョブ				✔			✔	✔	✔		✔	
合成+2.5D印刷ジョブ				✔			✔	✔	✔			
余白なしマルチモード							✔	✔				

設定／条件	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
合成＋自動傾き補正ジョブ						✔	✔	✔	✔		✔	
FOTOBAマーク						✔						✔
OptiScoutジョブ	✔	✔		✔		✔	✔	✔	✔			✔
メディアサイズでクリップするジョブ				✔					✔			

*1. 機種に依存

*2. ゼロマージントンボの場合

● 面付けジョブと印刷グループジョブの設定項目について

それぞれのジョブで使用可能な設定の一覧です。

- **画像編集画面の設定**

設定	面付けジョブ	印刷グループジョブ
スケール	✔	✔
回転	✔	✔
傾き補正	✔	印刷可能、編集不可能
ミラー	✔	✔
移動	✔	✔
中央合せ	✔	✔
コピー	✔	✔
作図領域	✔	
配置	✔	✔
トンボ	✔	
カット線印刷	✔	
FOTOBA	✔	✔
XYスリッター	✔	
印刷情報ラベル	✔	印刷可能、編集不可能
印刷順序変更		✔
全体コピー		✔

設定	面付けジョブ	印刷グループジョブ
偶数列反転コピー		✔

- 再配置の設定

設定	面付けジョブ	印刷グループジョブ
順次	✔	✔
順次（回転維持）	✔	✔
面積最小	✔	✔
回転しない	✔	✔
面積最小（回転維持）	✔	✔
治具		✔*1

*1. フラットベットプリンタ使用時

- 面付け／印刷グループ設定後の機能設定

設定	面付けジョブ	印刷グループジョブ
通常印刷設定	✔	
印刷グループ	-	-
面付け	-	-
治具配置印刷	✔	
トリミング	✔	印刷可能、編集不可能
印刷条件	✔	✔
合成		
ステップ&リピート		
Kebab	✔	

● 表2について

左から順に以下の機能をアイコンで表示しています。

1. 合成
2. レイヤー設定
3. 色置換設定
4. お気に入り設定
5. プロパティ
6. 複製
7. バックアップ
8. 削除
9. PrintFAQ
10. Kebab印刷

● 表2

設定／条件	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
トンボ設定										✔
作図領域定義										✔
分割トンボ	✔	✔								✔
印刷情報ラベル										✔
トリミング位置ロック										✔
カット線印刷										✔
コピー数2以上										
ミラー										
PDF/EPS/PS形式以外										
クリップ設定										
合成+コピー数2以上										
傾き補正										
XYスリッター										
実行中ジョブ	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔
合成ジョブ										
面付けジョブ	✔									

設定／条件	1 	2 	3 	4 	5 	6 	7 	8 	9 	10 
治具配置印刷ジョブ	✔	✔								✔
分割印刷ジョブ	✔	✔								✔
ステップ&リピートジョブ										✔
プリント&カットジョブ										✔
Kebab印刷ジョブ										
RL出力+トンボジョブ										✔
複数ページジョブ										
カットジョブ			✔							✔
点字ジョブ（準拠）			✔							✔
点字ジョブ（高速／標準）			✔							✔
単色印刷ジョブ(特色)			✔							
グロス調印刷ジョブ*1										✔
差込印刷ジョブ	✔									
合成+差込印刷ジョブ			✔							
合成+色置換ジョブ										
2.5D印刷ジョブ			✔							✔
合成+2.5D印刷ジョブ										✔
余白なしマルチモード										
合成＋自動傾き補正ジョブ										✔
FOTOBAマーク										✔
OptiScoutジョブ										✔
メディアサイズでクリップするジョブ										

*1. 機種に依存

6.4 特殊条件

● 下地クリア、下地プライマー、高速プライマー

一部のメディアにおいて、メディアに直接カラー版を印刷するとドットが滲んでしまい、細線や小文字がぼやけてしまうことがあります。

そのような場合は、カラー版の下に下地印刷用のプライマー版もしくはクリア版を印刷することで滲みのないシャープな文字や細線を印刷できます。

下地プライマー/高速プライマーはプライマーとしての効果もあり、高速プライマーはより短時間で出力ができます。



- 高速プライマーの対応機種はUJF-7151plusIIeのみです。

● LD1、LD2、LD3 (LD = Long Distance Mode)

ヘッドから印刷部分まで距離があるメディアにお使いいただけます。

重要!

- ヘッドから印刷部分までの距離にはヘッドギャップも含みます。

ヘッドから印刷部分までの距離

- 4.0mm以下の場合：LD1
- 6.0mm以下の場合：LD2
- 10.0mm以下の場合：LD3

重要!

- 通常モードに比べてインクミスト発生量が多くなる傾向にあります。ギャップが広がると、インク滴がメディアに到着できずミスト化します。
- 印刷終了後のクリーニングの実施やノズル面周辺の清掃実施を常時お願いします。
- LDモードを使用する場合、色味が変化したり画質が低下する場合があります。

6.5 デバイスプロファイルの種類について

ここでは、RasterLinkシリーズで使用するデバイスプロファイルについて説明します。

デバイスプロファイルは、プリンター機器、インクセット、メディア等の色材と、解像度、パス数等の印刷条件の組み合わせで提供されます。

6.5.1 汎用プロファイル

汎用で使用するプロファイルです。

プロファイルの名称に"一般"がついています。

例）光沢塩ビ　一般

6.5.2 デバイスプロファイルのバージョン

RasterLinkシリーズで使用できるデバイスプロファイルのバージョンには2種類あります。

● v2プロファイル

拡張子が".cot"のプロファイルです。

RasterLink5以前のRIPソフトウェアでご使用いただけます。

v2の対応プロファイル作成ソフト

- Mimaki Profile Master II

● v3プロファイル

拡張子が".icc"のプロファイルです。

基本的にRasterLink6以降のRIPソフトウェアでご使用いただけますが、バージョンによりRasterLink5でも対応しているプロファイルがあります。

v3.xの対応プロファイル作成ソフト

- v3～v3.4
  - Mimaki Profile Master II
- v3.5
  - Mimaki Profile Master 3

6.5.3 v3プロファイルのメディア名の種類について

v3プロファイルには、コンセプトの違い及びバージョンの違いにより種類の異なるデバイスプロファイルが用意されています。

メディア名の末尾の記号により種類が分類されます。

● v3.xプロファイル

デバイスプロファイルにはバージョンがあり、メディア名の末尾に"v3.x"と付加されています。

末尾に"v3.x"と付加されていない場合は、すべてv3.3以降のプロファイルです。

RasterLinkのバージョンによるv3プロファイルの対応バージョン

- RasterLink5

  v3とv3.1には対応していますが、v3.2以降には対応していません。

- RasterLink6以降

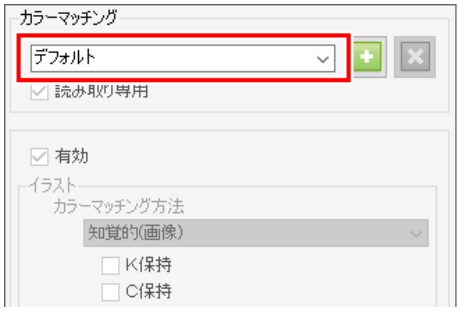
  すべてのv3バージョンに対応しています。

RasterLinkのカラーマッチング機能での推奨値

プロファイルのバージョンごとにRasterLinkの[カラーマッチング]機能での推奨値が異なります。

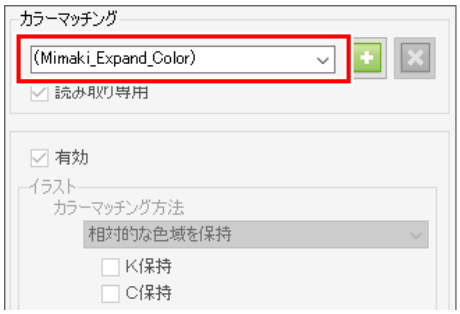
- **v3～v3.4のプロファイル**

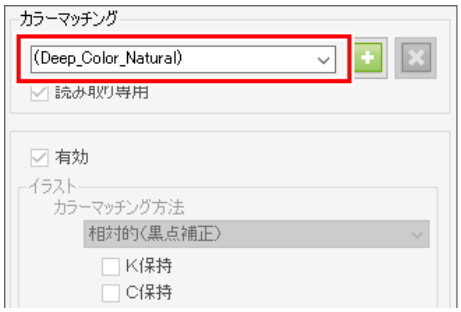
  このプロファイルは、"デフォルト"を推奨しています。



- **v3.5以降のプロファイル**

  このプロファイルは、"Mimaki_Expand_Color"または"Deep_Color_Natural"を推奨しています。





“_D”～"LD"

ファイル名付加文字	説明
“_D”	濃度重視をコンセプトに全体濃度を上げるように設計されたプロファイルです。 • 例：白塩ビ光沢[441]_D v3
"-S"または"_s"	インク消費量軽減をコンセプトに濃度を抑えるように設計されたプロファイルです。 • 例：Mimaki 白塩ビG[SPC706] -S
"Quality"	画質向上をコンセプトにドット感の隙間を埋めるように設計されたプロファイルです。 • 例：Mimaki 白塩ビG[SPC706] Quality
"sp"	画質向上をコンセプトにドット感の隙間を埋めるように設計されたプロファイルです。 Sドットを多く使用し、写真画像に対して滑らかな表現を実現します。 • 例：Mimaki 白塩ビG[SPC706] v3.5sp
"br"	色ムラ抑制をコンセプトに設計されたプロファイルです。 Lドットを多く使用し、色ムラ（双方向ムラ・スジムラ等）を出にくくしています。 ベタ画像が多いデータに適しています。 • 例：Mimaki 白塩ビG[SPC706] v3.5br
"nr"	黒い斑点などのノイズを低減するように設計されたプロファイルです。 • 例：転写紙 一般_nr
"White", "WonC", "ConW"	白（White）インクを使用したプロファイルです。 表記により印字方法が変わります。
	• (White on Color), (WonC) カラー→白の順で印字する場合に最適化したプロファイルです。 – 例：SABIC LEXAN8010Film(White on Color) – 例：Mimaki 電飾透明LX[MSL140](WonC)
	• (Color on White), (ConW) 白→カラーの順で印字する場合に最適化したプロファイルです。 – 例：SABIC LEXAN8010Film(Color on White) – 例：Mimaki 電飾透明LX[MSL140](ConW)
	• (withWhite) 印字の順番に関係なく白(White)インクを使用する環境に最適化したプロファイルです。 – 例：Mitsubishi AcryliteEX001(withWhite)
"LD"	（メディア名の先頭に付加） LDモード使用時の環境に最適化されたプロファイルです。 • 例：LD1 UV-ペット v3.5 LDモードに関しては取扱説明書をよくご確認の上、ご使用ください。

"G"～"ff"

ファイル名付加文字	説明
"G"	グレーバランス調整を施したプロファイルです。 RasterLinkの[カラーマッチング]機能の"グレーバランス"に最適化されています。 Gプロファイルには数種類のパターンがあります。
	• v3G [カラーマッチング]機能の"グレーバランス"に最適化した調整を施したプロファイルです。 – 例：JC4k-トロピカル v3G
	• v3G-1 v3Gより青味を抑えた調整を施したプロファイルです。 – 例：JC4k-トロピカル v3G-1
	• v3GDK DeepBlackインクに最適化したプロファイルです。 – 例：JC4k-トロピカル v3GDK
	• v3GBL ブルー、ライトブルーインク（Ver.2）に最適化したプロファイルです。 – 例：JC2K-トロピカル v3GBL
	• v3GBB ブリリアントブルーインク（Ver.2）に最適化したプロファイルです。 – 例：JC4k-トロピカル v3GBB
	• v3GBB-1 v3GBBより青味を抑えた調整を施したプロファイルです。 – 例：JC4k-トロピカル v3GBB-1
	• v3GKT 転写紙専用のブラックインクを使用したプロファイルです。 – 例：JC4k-トロピカル v3GKT
"DK"	DeepBlackインクを使用した環境に最適化されたプロファイルです。 • 例：Coldenhove Jetcol HTR3000 DK
"ff"	細かい線の表現を重視したプロファイルです。 • 例：転写紙一般_ff

各プロファイルの説明は以上になります。

その他、特記事項がある場合はダウンロードページの各プロファイルの備考欄に記載されていますのでご確認ください。

RasterLink8　リファレンスガイド

2026年10月

発行者　株式会社ミマキエンジニアリング

発行所　株式会社ミマキエンジニアリング

〒389-0512

長野県東御市滋野乙2182-3

D204016-10-05102026



© MIMAKI ENGINEERING CO., LTD.2026

HK
SW : 1.0.0